



Mac OS X Server ユーザの管理

バージョン 10.3 以降用



🍏 Apple Computer, Inc.

© 2003 Apple Computer, Inc. All rights reserved.

Mac OS X Server ソフトウェアの正規ライセンス製品の
使用許諾を受けたお客様、またはかかるお客様の許諾を得
た者は、本ソフトウェアの使用を学習する目的で本書を
複製することができます。本書のいかなる部分も、本書
のコピーの販売または有償のサポートサービスなどの商
用目的で、複製または譲渡することは禁じられています。

本書には正確な情報を記載するように努めました。ただ
し、誤植や制作上の誤記がないことを保証するものでは
ありません。

キーボードから入力可能な Apple ロゴについても、これ
を Apple Computer, Inc. からの書面による許諾なしに商
業的な目的で利用すると、連邦および州の商標法および
不正競争防止法違反となる場合があります。

Apple、Apple ロゴ、AppleShare、AppleTalk、
FireWire、iBook、Keychain、LaserWriter、Mac、Mac
OS、Macintosh、PowerBook、および QuickTime は、
米国その他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商
標です。AirMac、Extensions Manager、Finder、およ
び SuperDrive は、Apple Computer, Inc. の商標です。

Adobe、PostScript は、アドビシステムズ社の商標です。

Java および Java ベースの商標とロゴは、米国およびそ
他の国における Sun Microsystems, Inc. の登録商標です。

PowerPC は International Business Machines
Corporation の商標であり、所定のライセンス契約の下
で使用しているものです。

UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンス
している米国その他の国における登録商標です。

J034-2345/09-20-03

目次

序章	15	このマニュアルの使いかた
	16	このマニュアルを使う
	16	日常行う管理作業についてヘルプを参照する
	16	関連書類
	17	ユーザ管理に関するその他の情報
	18	サーバとネットワークの管理を始めたばかりの方の場合
	18	経験豊富なサーバ管理者の場合
第 1 章	19	ユーザ管理の概要
	19	ユーザ管理用のツール
	19	ワークグループマネージャ
	21	サーバ管理
	22	Macintosh マネージャ
	22	NetBoot
	23	ネットワークインストール
	24	ユーザアカウント
	24	ユーザと管理されたユーザ
	24	管理者
	25	ゲストユーザ
	26	グループ、プライマリグループ、およびワークグループ
	26	コンピュータアカウント
	27	ユーザの環境
	28	認証
	29	パスワードの検証
	30	情報へのアクセス制御
第 2 章	31	ユーザ管理を始める前に
	31	設定の概要
	36	ユーザ管理の方法を計画する
	37	ワークグループマネージャを操作する
	39	管理者を指定する
	39	ユーザアカウントを設定する
	40	グループアカウントを設定する

- 40 アカウントを効率的に操作する
- 40 複数のアカウントを同時に編集する
- 40 プリセットを使用する
- 41 アカウント情報を読み込む／書き出す
- 41 ワークグループマネージャでアカウントを検索する
- 41 ローカルディレクトリドメイン内のアカウントのリストを表示する
- 42 検索バスディレクトリドメインにアカウントのリストを表示する
- 42 利用可能なディレクトリドメインのアカウントのリストを表示する
- 43 アカウントのリストをリフレッシュする
- 43 リスト内の特定のアカウントを検索する
- 43 ユーザとグループのリストを並べ替える
- 43 環境設定を効率的に管理する
- 43 Macintosh マネージャを効率的に使用する
- 43 ファイルをバックアップおよび復元する
- 44 パスワードサーバをバックアップする
- 44 ルートおよび管理者のユーザアカウントをバックアップする

第 3 章

- 45 **モバイルクライアントのユーザ管理**
- 45 モバイルクライアントを設定する
- 45 ポータブルコンピュータを設定する
- 46 モバイルアカウントを使用する
- 46 モバイルアカウントを作成する
- 47 モバイルアカウントを削除する
- 47 モバイルアカウントのユーザ環境
- 47 モバイルクライアントを管理する
- 48 不明な Mac OS X ポータブルコンピュータ
- 48 複数のローカルユーザが使用する Mac OS X ポータブルコンピュータ
- 49 プライマリローカルユーザだけが使用する Mac OS X ポータブルコンピュータ
- 49 Mac OS 9 ポータブルコンピュータを管理する
- 50 ワイヤレスサービスを使用する

第 4 章

- 51 **ユーザアカウントを設定する**
- 51 ユーザアカウントを管理する
- 51 ユーザアカウントの保管場所
- 52 定義済みのユーザアカウント
- 53 Mac OS X Server のユーザアカウントを作成する
- 53 読み出し／書き込み LDAPv3 ユーザアカウントを作成する
- 54 ユーザアカウント情報を編集する
- 54 複数のユーザを同時に編集する
- 55 ユーザアカウント用のプリセットを作成する
- 55 プリセットを使用して新規アカウントを作成する
- 56 プリセット名を変更する
- 56 プリセットを変更する

56	プリセットを削除する
57	読み出し専用のユーザアカウントを操作する
57	ユーザの基本設定を操作する
57	ユーザ名を定義する
58	ユーザ名（ショートネーム）を定義する
59	変わらないショートネームを選ぶ
59	ユーザ名の重複を避ける
61	ショートネームの重複を避ける
62	ユーザIDを定義する
63	パスワードを定義する
63	サーバ用の管理者権限を割り当てる
63	ディレクトリドメイン用の管理者権限を割り当てる
64	ユーザの詳細設定を操作する
64	ログイン設定を定義する
65	パスワード検証方式を定義する
65	キーワードのマスターリストを作成する
66	ユーザアカウントにキーワードを適用する
66	コメントを編集する
67	ユーザのグループ設定を操作する
67	ユーザのプライマリグループを定義する
67	ユーザをグループに追加する
68	グループからユーザを取り除く
68	ユーザの所属グループを確認する
69	ユーザのホーム設定を操作する
69	ユーザのメール設定を操作する
69	ユーザのメールサービスを使用不可にする
69	メールサービスアカウントオプションを使用可能にする
70	ユーザのメールを転送する
71	ユーザのプリント設定を操作する
71	割り当てが適用されるプリントキューにユーザがアクセスできないようにする
71	割り当てが適用されるプリントキューにユーザがアクセスできるようにする
72	特定のキューに対するユーザのプリント割り当てを削除する
72	ユーザのプリント割り当てを再設定する
73	Windows ユーザ用の設定を選択する
73	ゲストユーザを定義する
74	ユーザアカウントを削除する
74	ユーザアカウントを使用不可にする
第 5 章	75 グループアカウントを設定する
	75 グループアカウントについて
	75 グループアカウントを管理する
	75 グループアカウントの保管場所
	76 定義済みのグループアカウント

- 76 Mac OS X Server のグループアカウントを作成する
- 77 読み出し/書き込み LDAPv3 グループアカウントを作成する
- 78 グループアカウント用のプリセットを作成する
- 78 グループアカウント情報を編集する
- 79 読み出し専用のグループアカウントを操作する
- 79 グループのメンバー設定を操作する
- 79 ユーザをグループに追加する
- 80 グループからユーザを取り除く
- 80 グループに名前を付ける
- 81 グループ ID を定義する
- 81 グループフォルダ設定を操作する
- 82 グループフォルダを指定しない
- 82 グループフォルダを既存の共有ポイントに作成する
- 84 グループフォルダを新しい共有ポイントに作成する
- 85 既存の共有ポイントのサブフォルダにグループフォルダを作成する
- 87 グループアカウントを削除する

第 6 章

- 89 **コンピュータアカウントを設定する**
- 89 コンピュータアカウントについて
- 90 コンピュータアカウントを作成する
- 90 コンピュータアカウント用のプリセットを作成する
- 91 コンピュータアカウントのプリセットを使用する
- 92 既存のコンピュータアカウントにコンピュータを追加する
- 92 コンピュータに関する情報を編集する
- 93 コンピュータを別のコンピュータアカウントに移動する
- 93 コンピュータアカウントからコンピュータを個別に削除する
- 93 コンピュータアカウントを削除する
- 94 コンピュータアカウントを検索する
- 94 ゲストコンピュータを管理する
- 96 アクセス設定を操作する
- 96 コンピュータへのアクセスを制限する
- 96 すべてのユーザがコンピュータを利用できるようにする
- 97 ローカルユーザアカウントを使用する

第 7 章

- 99 **ホームディレクトリを設定する**
- 99 ホームディレクトリについて
- 100 ホームディレクトリを複数のサーバに分散する
- 101 ホームディレクトリを指定しない
- 101 ローカルユーザのホームディレクトリを作成する
- 103 ネットワークホームディレクトリを変更する
- 104 カスタムホームディレクトリを作成する
- 106 自動マウント可能な AFP 共有ポイントをホームディレクトリに設定する
- 107 自動マウント可能な NFS 共有ポイントをホームディレクトリに設定する

- 109 ディスク割り当てを設定する
- 109 プリセットを使用してデフォルトのホームディレクトリを定義する
- 109 ホームディレクトリを移動する
- 109 ホームディレクトリを削除する

第 8 章

- 111 **クライアント管理の概要**
- 111 クライアント管理について
- 112 アクセス権を制御する
- 112 環境設定の管理について
- 114 環境設定管理のオプション
- 115 クライアント管理の例

第 9 章

- 117 **Mac OS X の環境設定の管理**
- 117 ワークグループマネージャが Mac OS X の環境設定に従って動作する仕組み
- 118 環境設定を管理する
 - 118 環境設定のキャッシュについて
 - 119 管理された環境設定のキャッシュを一定の間隔で更新する
 - 119 管理された環境設定のキャッシュを手動で更新する
- 120 ユーザの環境設定を管理する
- 120 グループの環境設定を管理する
- 121 コンピュータの環境設定を管理する
- 122 複数のレコードの環境設定を編集する
- 122 特定の環境設定の管理を停止する
- 123 アプリケーションへのアクセスを管理する
 - 123 許可されたアプリケーションのリストを作成する
 - 123 ユーザがローカルボリューム上のアプリケーションを開けないようにする
- 124 ヘルパーアプリケーションへのアプリケーションのアクセスを管理する
- 125 UNIX ツールの操作を制御する
- 125 Classic の環境設定を管理する
 - 126 Classic の起動オプションを選択する
 - 126 Classic のシステムフォルダを選ぶ
 - 127 再起動時の特別な操作を許可する
 - 128 Classic のアップルメニュー項目へのアクセス権を制御する
 - 129 Classic のスリープ設定を調整する
 - 129 常に同じ Classic ユーザ環境設定を提供する
- 130 Dock 環境設定を管理する
 - 130 ユーザの Dock を制御する
 - 131 グループフォルダに簡単にアクセスできるようにする
 - 131 ユーザの Dock に項目を追加する
 - 132 ユーザが別の Dock 項目を追加できないようにする
- 133 省エネルギー環境設定を管理する
 - 133 デスクトップコンピュータのスリープおよびスリープ解除設定を使用する
 - 134 ポータブルコンピュータの省エネルギー設定を操作する

- 135 バッテリーの状況を表示する
- 136 自動的な起動、システム終了、またはスリープを予約する
- 137 Finder の環境設定を管理する
- 137 常にディスクとサーバがユーザのデスクトップに表示されないようにする
- 138 Finder ウィンドウの動作を制御する
- 138 ファイル拡張子を表示する
- 139 ユーザ環境を選択する
- 140 ユーザがゴミ箱を空にするときに警告メッセージを表示しない
- 140 iDisk へのユーザアクセスを制御する
- 140 リモートサーバへのユーザアクセスを制御する
- 141 フォルダへのユーザアクセスを制御する
- 141 ユーザがディスクを取り出せないようにする
- 142 Finder のディスクを作成コマンドを隠す
- 142 再起動およびシステム終了コマンドをアップルメニューから取り除く
- 143 デスクトップ項目の外観とアイコンの配置条件を調整する
- 143 Finder ウィンドウの内容の外観を調整する
- 144 インターネットの環境設定を管理する
- 145 メール環境設定を設定する
- 145 Web ブラウザの環境設定を設定する
- 146 ログインの環境設定を管理する
- 147 ユーザのログイン方法を決定する
- 148 クライアントコンピュータ上で同時に複数のユーザを許可する
- 148 ユーザがパスワードを思い出せるようにする
- 149 アイドル状態のユーザの自動ログアウトを使用可能にする
- 149 ログイン時にコンピュータを再起動またはシステム終了できないようにする
- 150 ユーザのログイン後に自動的に項目を開く
- 151 ユーザのネットワークホームディレクトリにアクセスする
- 151 グループ共有ポイントに簡単にアクセスできるようにする
- 152 メディアアクセスの環境設定を管理する
- 152 CD および DVD へのアクセスを制御する
- 153 記録可能ディスクの使用を制御する
- 153 ハードドライブおよびディスクへのアクセスを制御する
- 154 ユーザのログアウト時にメディアを自動的に取り出す
- 155 モバイルアカウント環境設定を管理する
- 155 プリントの環境設定を管理する
- 155 ユーザがプリンタを利用できるようにする
- 156 ユーザがプリンタリストを変更できないようにする
- 156 コンピュータに接続されたプリンタへのアクセスを制限する
- 157 デフォルトプリンタを設定する
- 158 プリンタへのアクセスを制限する
- 158 システム環境設定へのアクセスを管理する
- 159 ユニバーサルアクセスの環境設定を管理する
- 159 ユーザの表示設定を調整する

- 160 視覚的な警告を設定する
- 161 キーボードの反応速度を調整する
- 162 マウスとポインタの反応速度を調整する
- 162 ユニバーサルアクセスのショートカットを使用可能にする
- 163 特別な操作方法を必要とするユーザ用の装置を使用可能にする

第 10 章

- 165 **Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する**
- 165 Macintosh マネージャについて
- 166 ユーザの環境
- 168 設定する前に
 - 171 アップデートパッケージを使用する
 - 171 Macintosh マネージャのサーバおよびクライアント用の言語を選ぶ
 - 171 Apple ファイルサービスの言語スクリプトを変更する
- 172 Macintosh マネージャの内側
 - 172 Macintosh マネージャのセキュリティ
 - 172 Macintosh マネージャ共有ポイントについて
 - 173 共有ポイント名に特殊文字を使用する
 - 173 Multi-User 項目フォルダ
 - 174 Macintosh マネージャがディレクトリサービス进行操作する仕組み
 - 175 Macintosh マネージャがホームディレクトリ进行操作する仕組み
 - 175 Macintosh マネージャが環境設定に従って動作する仕組み
 - 176 Macintosh マネージャと NetBoot を一緒に使用する
- 177 管理された Mac OS 9 クライアントを設定する
- 178 Macintosh マネージャに管理者としてログインする
- 179 Macintosh マネージャの環境設定を操作する
- 179 ユーザアカウントを読み込む
 - 180 ユーザの設定にひな形を適用する
 - 180 すべてのユーザを読み込む
 - 180 1 人または複数のユーザを読み込む
 - 181 ユーザ情報をテキストファイルにまとめる
 - 182 テキストファイルからユーザのリストを読み込む
 - 182 特定の読み込まれたユーザを検索する
 - 182 読み込まれていないユーザに簡単にアクセスを提供する
 - 183 読み込まれていない Mac OS X Server のユーザにアクセス権を与える
 - 184 ゲストユーザアカウントを設定する
- 185 管理者を指定する
 - 186 Macintosh マネージャの管理者を作成する
 - 186 ワークグループ管理者を作成する
 - 187 Macintosh マネージャの管理者のパスワードを変更する
- 187 ユーザ設定を操作する
 - 187 ユーザの基本設定を変更する
 - 187 ユーザに複数のログインを許可する
 - 188 ユーザにシステムアクセスを許可する

188	詳細設定を変更する
188	ユーザのディスク容量を制限する
189	ユーザの情報を Mac OS X Server から更新する
189	ワークグループを設定する
190	ワークグループ環境の種類
190	ワークグループを作成する
191	ひな形を使ってワークグループ設定を適用する
191	ワークグループを既存のワークグループから作成する
191	既存のワークグループを変更する
192	項目設定を使用する
192	Finder ワークグループの項目にショートカットを設定する
193	パネルまたは制限付き Finder ワークグループが項目を利用できるようにする
194	個々のユーザが項目を利用できるようにする
194	アクセス権の設定を使用する
194	システムフォルダとアプリケーションフォルダを保護する
194	ユーザのデスクトップを保護する
194	アプリケーションによってファイルが変更されないようにする
195	FireWire ディスクにアクセスできないようにする
195	ユーザにオーディオ CD の使用を許可する
195	ユーザにスクリーンショットの撮影を許可する
196	ユーザにディスクからアプリケーションを開くことを許可する
196	リムーバブルメディアのアクセス権を設定する
196	メニュー項目のアクセス権を設定する
197	Macintosh マネージャで情報を共有する
198	ワークグループフォルダのアクセス権を選択する
198	ワークグループの共有フォルダを設定する
198	提出フォルダを設定する
199	ボリューム設定を使用する
199	AFP サーバに接続する
199	サーバボリュームへのアクセスを提供する
200	プリンタ設定を使用する
200	ワークグループでプリンタを使用できるようにする
201	デフォルトプリンタを設定する
201	プリンタへのアクセスを制限する
202	プリント割り当てを設定する
202	ユーザがプリントの割り当てを超えることを許可する
202	システムアクセスプリンタを設定する
203	オプション設定を使用する
203	グループの書類を保存する場所を選ぶ
204	起動時に項目を開く
205	ユーザのログイン時にメールを確認する
205	ワークグループ用のログインメッセージを作成する
205	コンピュータリストを設定する

205	コンピュータリストを作成する
206	「その他のコンピュータ」アカウントを設定する
206	コンピュータリストを複製する
206	コンピュータリストのひな形を作成する
207	コンピュータへのログインを使用不可にする
207	コンピュータのワークグループ設定を使用する
207	コンピュータへのアクセスを制御する
208	コントロール設定を使用する
208	ネットワークのトラフィックを最小限に抑えるよう、自動的にコンピュータを切断する
209	コンピュータの時計をサーバに合わせる
209	特定のハードディスク名を使用する
209	管理されているユーザのメールアドレスを作成する
210	コンピュータのセキュリティ設定を使用する
210	ユーザがログアウトを忘れた場合でもコンピュータを安全な状態に保つ
210	すべての CD および DVD へのアクセスを許可する
211	特定の CD または DVD へのアクセスを許可する
211	アプリケーション用のコンピュータのセキュリティ設定を選ぶ
211	特定のアプリケーションをほかのアプリケーションから開けるようにする
212	ユーザにオフラインでの作業を許可する
212	別の Macintosh マネージャサーバに切り替える
213	ユーザにアプリケーションの強制終了を許可する
213	ユーザが機能拡張を無効にできるようにする
214	コンピュータのログイン設定を使用する
214	ユーザのログイン方法を選ぶ
214	コンピュータ用のログインメッセージを作成する
214	パネル名を変更する
215	ポータブルコンピュータを管理する
215	ネットワークユーザのポータブルコンピュータ
215	ローカルユーザのポータブルコンピュータ
215	ユーザにコンピュータをチェックアウトさせる
216	ワイヤレスサービスを使用する
216	グローバルなセキュリティ設定を使用する
216	Macintosh マネージャのレポートを使用する
217	レポートの項目数を設定する
217	管理プログラムを安全に保つ
217	Kerberos を使ってログイン情報を検証する
218	ユーザのパスワードを管理する
218	管理者にユーザアカウントへのアクセスを許可する
218	グローバル CD-ROM 設定を使用する
219	環境設定を管理する
219	Initial Preferences を使用する
220	Forced Preferences を使用する
221	Mac OS 9 アプリケーションの環境設定を Classic 環境で共有する

- 222 その他の情報
- 223 問題を解決する
 - 223 オンラインヘルプと Tech Info Library
 - 223 アカウントの問題を解決する
 - 223 ワークグループマネージャを使ってアカウントを変更できない
 - 223 パスワードサーバユーザのパスワードを変更できない
 - 224 ユーザのパスワードの検証方法をオープンディレクトリを使った検証方法に変更できない
 - 224 パスワードサーバユーザを NetInfo マネージャで認証できない
 - 224 ユーザがログインまたは認証されない
 - 225 サーバ管理者のアクセス権を割り当てることができない
 - 225 パスワードサーバを使ってパスワードが検証されるユーザがログインできない
 - 225 ユーザが自分のホームディレクトリにアクセスできない
 - 225 共有 NetInfo ドメイン内の Mac OS X ユーザがログインできない
 - 225 Kerberos ユーザがログインまたは認証できない
 - 226 環境設定の管理の問題を解決する
 - 226 デフォルトの Web 設定を適用できない
 - 226 デフォルトのメール設定を適用できない
 - 226 ユーザがログインしたときにワークグループのリストが表示されない
 - 227 ユーザがファイルを開けない
 - 227 ユーザがプリンタリストにプリンタを追加できない
 - 227 ユーザが追加したログイン項目が開かない
 - 228 ユーザが Dock に配置した項目が表示されない
 - 228 Dock に ? マークが表示される
 - 228 予期しないエラーに関するメッセージが表示される
 - 229 Macintosh マネージャの問題を解決する
 - 229 管理者パスワードを忘れてしまった
 - 229 管理者が、ログイン後に Finder に移動できない
 - 229 項目パネルに白紙のアイコンが表示される
 - 229 マルチユーザコントロールパネル内のローカルユーザが選択できない
 - 229 一部のプリンタが使用可能なプリンタのリストに表示されない
 - 229 ユーザが Macintosh マネージャサーバにログインできない
 - 230 ユーザが日本語のコンピュータにゲストとしてログインできない
 - 230 クライアントコンピュータがサーバに接続できない
 - 230 AppleTalk リストにサーバが表示されない
 - 230 ユーザのコンピュータが操作不能になる
 - 230 ユーザが自分のホームディレクトリにアクセスできない
 - 230 ユーザが共有ファイルにアクセスできない
 - 231 共有ワークグループ書類がパネル環境に表示されない
 - 231 アプリケーションが正しく動作しない、または開かない
 - 231 ユーザがアプリケーション間でドラッグ & ドロップできない
 - 231 ユーザが Web ページからファイルを開くことができない
 - 231 ユーザによっては正しいアプリケーションが開かないことがある

付録	233	アカウント情報を読み込む／書き出す
	233	読み込み可能なものについて
	233	Macintosh マネージャの情報を読み込む／書き出す
	234	ワークグループマネージャを使用してユーザとグループを読み込む
	235	ワークグループマネージャを使用してユーザとグループを書き出す
	235	dsimport を使用してユーザとグループを読み込む
	236	Mac OS X Server 10.1 以前で作成された XML ファイルを使用する
	237	AppleShare IP 6.3 で作成した XML を使用する
	238	文字区切りファイルを使用する
	238	レコード記述を書く
用語集	239	
索引	249	

このマニュアルの使いかた

このマニュアルでは、「ワークグループマネージャ」と「Macintosh マネージャ」を使って、クライアントのホームディレクトリ、アカウント、環境設定、および設定を管理する方法について説明します。

このマニュアルは、次のように構成されています。

- 第 1 章「ユーザ管理の概要」では、ユーザ管理の重要な概念について説明してから、ユーザ管理ツールを紹介し、さらにユーザ管理と関連するトピックの参照先を挙げていきます。
- 第 2 章「ユーザ管理を始める前に」では、アカウントおよび管理された環境設定を設定および管理するときに、作業効率を向上させる機能やそのためのヒントについて説明します。
- 第 3 章「モバイルクライアントのユーザ管理」では、ポータブルコンピュータを管理するときの考慮事項について説明します。
- 第 4 章「ユーザアカウントを設定する」では、「ワークグループマネージャ」を使ってユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントを設定する方法について説明します。
- 第 7 章「ホームディレクトリを設定する」では、Macintosh およびクライアントのホームディレクトリを作成およびカスタマイズする方法について説明します。
- 第 8 章「クライアント管理の概要」では、ユーザの作業環境をカスタマイズする方法やユーザにネットワークリソースへのアクセス権を与える方法など、クライアント管理ツールとその概念について説明します。
- 第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」では、「ワークグループマネージャ」の環境設定モジュールを使って、Mac OS X を使用するユーザ、グループ、およびコンピュータのアクセス権と設定を制御する方法について説明します。
- 第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」では、「Macintosh マネージャ」を使って、Mac OS 9.1 を使用するユーザ、グループ、コンピュータのアクセス権と設定を制御する方法について説明します。
- 第 11 章「問題を解決する」では、アカウントの作成、ホームディレクトリの管理、環境設定の管理、またはクライアントの設定に関連する問題、および管理されたクライアントで発生する問題の解決に役立つ情報を紹介します。
- 付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」では、外部ファイルに対してアカウント情報を読み込む／書き込むときに必要な情報について説明します。
- 用語集には、このマニュアルで使用されている用語の定義が記載されています。

このマニュアルを使う

最初の章をよく読んで、ユーザ管理の基本的な概念と管理ツールの機能を理解してください。この章では、Mac OS X Server の一連のマニュアルの中で、関連するマニュアルについても紹介します。さらに、ユーザ管理、「ワークグループマネージャ」、および「Macintosh マネージャ」に関する Web サイトおよびその他の参照資料についても紹介します。

このマニュアルは、基本的なユーザ管理の手順に基づいて構成されています。

- ユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントを設定する
- ホームディレクトリを設定する
- クライアントコンピュータを設定する
- Mac OS X クライアントの環境設定を管理する
- Mac OS 9 クライアントのアカウントと環境設定を設定および管理する

ユーザおよびクライアントデータの設定、保守、および管理方法を計画するときには、第 2 章「ユーザ管理を始める前に」を読むことをお勧めします。

日常行う管理作業についてヘルプを参照する

アカウントの操作、環境設定の変更、新しいホームディレクトリの設定、またはその他の日常の管理作業を行うときは、「ワークグループマネージャ」や「Macintosh マネージャ」から利用可能なオンラインヘルプを使用して、ステップバイステップ形式の手順説明を検索できます。このマニュアルにはすべての管理作業の説明が記載されていますが、サーバを操作しながらオンラインヘルプを使って情報を取得する方が便利な場合もあります。

関連書類

このガイドは、ほかのサーバ管理ガイドの内容に言及しています。ユーザ管理に特に関連するガイドの名前を以下の表に紹介します。Mac OS X Server ソフトウェア CD にはこれらのガイドの英語版が収録されています。日本語版のガイドは、Mac OS X Server の Web サイトからダウンロードすることもできます。

www.apple.co.jp/macosex/server

Mac OS X Server のマニュアル	内容
Mac OS X Server コマンドライン管理 バージョン 10.3 以降用	コマンドラインインタフェースを使って Mac OS X Server を操作する方法
Mac OS X Server お使いになる前に バージョン 10.3 以降用	Mac OS X Server の機能とサービスの概要

Mac OS X Server のマニュアル	内容
Mac OS X Server ファイルサービスの管理 バージョン 10.3 以降用	データを保管したり、取得したり、複数のユーザが利用できるように、共有およびその他のファイルサービスを設定する方法
Mac OS X Server メールサービスの管理 バージョン 10.3 以降用	ユーザが利用するメールサービスを設定および管理する方法
Mac OS X Server システムの移行について バージョン 10.3 以降用	Mac OS X Server および「Macintosh マネージャ」などの関連アプリケーションを使用するために、データを転送したりクライアントを更新するときに役立つ情報
Mac OS X Server ネットワークサービスの管理 バージョン 10.3 以降用	DHCP などのサービスを設定および使用するための情報
Mac OS X Server オープンディレクトリの管理 バージョン 10.3 以降用	統合されたディレクトリサービスを設定および管理する方法
Mac OS X Server システムイメージの管理 バージョン 10.3 以降用	NetBoot やネットワークインストールなどのツールを使って、システムイメージやリソースパッケージを作成および配布する方法
Mac OS X Server プリントサービスの管理 バージョン 10.3 以降用	ネットワークプリントサービスを設定および管理する方法
Mac OS X Server QuickTime Streaming Server の管理 バージョン 10.3 以降用	オーディオメディアとビジュアルメディアにリアルタイムにアクセスするための情報
Mac OS X Server Webテクノロジーの管理 バージョン 10.3 以降用	Mac OS X Server を使って Web サイトを設定、運用、および監視する方法
Mac OS X Server Windows サービスの管理 バージョン 10.3 以降用	Windows マシンをネットワークに統合する方法

ユーザ管理に関するその他の情報

サーバ管理者の経験歴にかかわらず、アップルが提供する各種のカスタムトレーニングコースを受講することによって、幅広い知識を身に付けることができます。詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

www.apple.co.jp/macosex/server/

サーバとネットワークの管理を始めたばかりの方の場合

詳しくは、次の Web サイトを参照してください。

www.apple.co.jp/macosex/server

オンラインディスカッショングループに参加すると、同じ立場の人と知り合うことができます。発生した問題の多くは、ほかのサーバ管理者によってすでに解決されている可能性があります。アップルが提供しているリストを探るときは、次の Web サイトを参照してください。

www.lists.apple.com

AppleCare サポートサイトのディスカッションボードでも情報を参照できます。

discussions.info.apple.co.jp/

次の参考書籍を入手することを検討してください。これらには、予備知識、基本概念の説明、およびネットワークを最大限に活用するためのアイデアが記載されています。

- 「Teach Yourself Networking Visually」 Paul Whitehead / Ruth Maran 著 (IDG Books Worldwide 社発行、1998 年)。
- 「Internet and Intranet Engineering」 Daniel Minoli 著 (McGraw-Hill 社発行、1997 年)。

さらに、NetworkMagazine.com では、次の Web サイトで多くのオンラインチュートリアルを提供しています。

www.networkmagazine.com

経験豊富なサーバ管理者の場合

すでにネットワーク管理に関する知識があり、「Mac OS X Server」、Linux、UNIX、または同等のオペレーティングシステムを使用した経験がある場合は、次の参考書籍が役に立ちます。

- 「Mac OS X Server」に関連したトピックを説明している O'Reilly & Associates 社発行の各種の書籍。「Internet Core Protocols: The Definitive Reference, DNS and BIND」や「TCP/IP Network Administration」などがあります。より詳しい情報については、「Apache: The Definitive Guide」、「Writing Apache Modules with Perl and C」、「Web Performance Tuning」、および「Web Security & Commerce」を参照してください。これらも、O'Reilly and Associates 社の発行です。次の O'Reilly & Associates 社の Web サイトを参照してください。

www.ora.com

- Apache について詳しくは、Apache の Web サイトを参照してください。
www.apache.or.jp

ユーザ管理は、ネットワークアクセス用のアカウントの設定やホームディレクトリの作成から、ユーザ、グループ、およびコンピュータの環境設定や設定を管理してユーザの環境を調整する作業まで、さまざまな作業で構成されます。この章では、ユーザ管理の主な概念を紹介してから、アカウントおよびアクセス権の管理に使用するアプリケーションについて説明します。

ユーザ管理用のツール

Mac OS X Server には、ユーザ管理用のツールおよびアプリケーションとして、「ワークグループマネージャ」、「サーバ管理」、NetBoot、ネットワークインストールなどがあります。

ワークグループマネージャ

「ワークグループマネージャ」は、Macintosh クライアントを包括的に管理するための機能を豊富に備えている、強力なツールです。「ワークグループマネージャ」は、サーバから直接操作できるだけでなく、サーバ以外のクライアントコンピュータにインストールして Mac OS X Server ソフトウェアを使わないで操作することもできます。ネットワーク管理者は、「ワークグループマネージャ」を使用することにより、Mac OS X ワークステーションの管理、ソフトウェアおよびリムーバブルメディアへのアクセスの制御、および教室の初心者からオフィスの上級者まで、さまざまなレベルのユーザに対する一貫性のある独自の環境の提供を、集中的に行うことができます。Mac OS X Server はユーザの書類と初期設定をホームディレクトリに保存するため、ユーザはネットワーク上のどの Mac からでも自分のファイルにアクセスできます。「ワークグループマネージャ」ではユーザアカウントを作成でき、リソースに簡単かつ効率的にアクセスできるようにグループを設定できます。アカウント設定と管理された環境設定を使用して、必要とする管理制御レベルに合うように、柔軟性を調節することもできます。

「ワークグループマネージャ」を Mac OS X Server のほかのサービスと組み合わせて使用すると、次の操作を実行できます。

- メールやファイル共有などのサービスを使って、ユーザを相互に接続できます。
- プリンタやコンピュータなどのシステムリソースを共有できます。ユーザがどこからでも同じようにリソースを利用できたり、ディスク容量とプリンタの使用量が常に公平に割り当てられるようにすることができます。
- Web サイトやビデオのストリーミングなどのインターネットサービスを運用できます。
- デスクトップのリソースや個人用ファイルなど、ネットワークユーザの作業環境をカスタマイズできます。

「ワークグループマネージャ」を使ってユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントを管理する方法について詳しくは、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

環境設定の管理

Mac OS X Server の「ワークグループマネージャ」を使って、Mac OS X クライアントの作業環境を調整できます。個々のユーザ、ユーザのグループ、およびコンピュータに環境設定を定義することによって、Macintosh ユーザは、どのコンピュータにログインしても、常に同じ外観でデスクトップ、アプリケーション、およびネットワークを使用できます。Mac OS X ユーザに定義された環境設定は、ユーザのアカウントに保管されます。

Mac OS 9 のクライアントを管理するときは、「Macintosh マネージャ」を使用します。詳しくは、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。Mac OS 9 ユーザに定義する環境設定は、「Macintosh マネージャ」を使って保存します。

クライアント管理のツールと概念について詳しくは、第 8 章「クライアント管理の概要」を参照してください。

ホームディレクトリ

ユーザのホームディレクトリの場所はユーザアカウントに保管されています。ホームディレクトリとは、ユーザのファイルと環境設定が保存されるフォルダのことです。ほかのユーザは、ユーザのホームディレクトリを表示してその「パブリック」フォルダ内のファイルを読み込むことはできませんが、デフォルトではホームディレクトリ内のほかのフォルダにはアクセスできません。

ネットワーク上のディレクトリドメインにユーザを作成するときは、ネットワーク上のユーザのホームディレクトリの場所を指定します。この場所はユーザアカウントに保存され、ログインウィンドウや Mac OS X の管理されたユーザサービスなどのさまざまなサービスがこの場所を使用します。ホームディレクトリの場所を使用する操作の例を次に示します。

- ユーザのホームディレクトリは、ユーザが「Finder」ウィンドウの「ホーム」をクリックするか、「Finder」の「移動」メニューから「ホーム」を選んだときに表示されます。
- ホームディレクトリがネットワークの場所（「/ネットワーク/Servers」など）に自動的にマウントされるように設定されている場合、そのホームディレクトリはユーザがログインしたコンピュータの「Finder」に表示されます。

- Mac OS X ユーザのシステム環境設定と管理されたユーザ設定は、ホームディレクトリから取得され、ログイン時に作業環境を設定するために使用されます。

モバイルアカウントを設定して、ホームディレクトリの同期を利用することもできます。オフラインで作業するときにはローカルホームディレクトリにアクセスし、ネットワークに接続しているときにはネットワークホームディレクトリとデータを同期することができます。モバイルアカウントについて詳しくは、第3章「モバイルクライアントのユーザ管理」を参照してください。

メール設定

Mac OS X Server メールサービスのアカウントを作成するには、ユーザのアカウントのメール設定を設定します。作成したメールアカウントは、メール設定に指定されたユーザ名、パスワード、メールサービス、およびメールプロトコルを使用して、メールクライアントを設定するだけで使用できます。

メールアカウント設定を使用して、特定の Mac OS X Server で実行中のメールサービスへのユーザのアクセスを許可したり禁止します。使用しているメールアカウントが 10.3 より前のバージョンの Mac OS X を使用しているサーバのアカウントの場合には、自動メッセージ着信通知の処理方法など、アカウントの特性を管理することもできます。

Mac OS X のメールサービスの設定について詳しくは、メールサービス管理ガイドを参照してください。

リソースの利用

ディスク、プリント、およびメール割り当ては、ユーザアカウントに保管できます。メールおよびディスクの割り当ては、ユーザのメールまたはファイルに使用できる領域（メガバイト単位）を制限します。

プリント割り当ては、ユーザが Mac OS X Server プリントサービスを使用してプリントできるページの数を制限します。また、プリント割り当てを使用して、ユーザのプリントサービスへのアクセスを不可にすることもできます。ユーザのプリント設定を行うときは、プリントサーバも設定する必要があります。詳しくは、プリントサービス管理ガイドを参照してください。

サーバ管理

「サーバ管理」アプリケーションでは、ユーザ管理に役立つさまざまなツールやサービスにアクセスできます。Mac OS X Server ソフトウェアをインストールして、ディレクトリサービスの設定とネットワークの確立が終了したら、「ワークグループマネージャ」を使ってアカウントの作成および管理を開始します。アカウントとホームディレクトリを設定したら、「サーバ管理」を使って必要なサービスを追加して、メースサービスを提供したり、Web サイトを管理したり、プリンタを共有したり、ユーザがフォルダやファイルを共有できるように設定します。

「サーバ管理」ツールの使いかたについて詳しくは、次の表に示すマニュアルを参照してください。

実行したい操作	関連する項目	参照するマニュアル
アクセス権を共有ポイント内のフォルダやファイルに割り当てる	ファイル共有	Mac OS X Server ファイルサービスの管理 バージョン 10.3 以降用
複数のユーザの間でプリンタを共有する	プリントサービス	Mac OS X Server プリントサービスの管理 バージョン 10.3 以降用
Web サイトまたは WebDAV を使用できるようにサーバを設定する	Web サービス	Mac OS X Server Webテクノロジーの管理 バージョン 10.3 以降用
ユーザにメールサービスを提供する	メールサービス	Mac OS X Server メールサービスの管理 バージョン 10.3 以降用
マルチメディアをサーバからリアルタイムにブロードキャストする	QuickTime ストリーミングサービス	Mac OS X Server QuickTime Streaming Server の管理 バージョン 10.3 以降用
複数のクライアントコンピュータに同じオペレーティングシステムとアプリケーションフォルダを提供する	NetBoot	Mac OS X Server システムイメージの管理 バージョン 10.3 以降用
ネットワーク経由でアプリケーションをインストールする	ネットワークインストール	Mac OS X Server システムイメージの管理 バージョン 10.3 以降用
複数の Mac OS X Server または Mac OS X コンピュータの間で情報を共有する	ディレクトリサービス	Mac OS X Server オープンディレクトリの管理 バージョン 10.3 以降用

Macintosh マネージャ

「Macintosh マネージャ」を使用すると、Mac OS 9 クライアントコンピュータのクライアント管理ができます。「Macintosh マネージャ」は、ローカル（サーバ上）またはリモート（Mac OS X Server と同じネットワーク上にある Mac OS 9 コンピュータまたは Mac OS X コンピュータ）から使用できます。

詳しくは、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

NetBoot

NetBoot では、Mac OS 9 コンピュータおよび Mac OS X コンピュータを、ネットワークベースのシステムイメージから起動できます。これにより、部署、教室、および個人のシステム、さらに Web サーバやアプリケーションサーバを、ネットワークを介してすばやく簡単に設定できます。NetBoot イメージを更新すると、NetBoot を使用するすべてのコンピュータで新しい設定がすぐに利用できるようになります。

Macintosh クライアントは、クライアントコンピュータのディスクドライブからではなく Mac OS X Server 上のシステムディスクイメージから起動できます。NetBoot ディスクイメージは複数設定できるので、Mac OS 9 または Mac OS X でクライアントを起動したり、クライアントのグループに応じてカスタマイズした Macintosh 環境を設定できます。

NetBoot を使用することにより、ネットワークベースの大規模な Macintosh システムを運用する際に通常行う管理作業を簡素化し、サポートの必要性を軽減できます。NetBoot は、多数のクライアントコンピュータを同じ設定にする必要のある組織で便利です。たとえば、複数の Web サーバとアプリケーションサーバを同じ設定にする必要のあるデータセンターなどにとって、NetBoot は強力なソリューションです。

NetBoot を使用すれば、管理者は、サーバに保存した起動イメージを更新するだけで、クライアントコンピュータを瞬時に設定および更新できます。各イメージには、サーバ上に置かれた、すべてのクライアント用のオペレーティングシステムおよびアプリケーションフォルダが含まれます。サーバで変更を加えると、クライアントの再起動時にその変更がクライアントに自動的に反映されます。障害が起きたり変更されたシステムは、再起動するだけで簡単に復元できます。

NetBoot を管理するときは、次のアプリケーションを使用します。

- NetBoot デスクトップ管理 (Mac OS 9 イメージの変更に使用します)
- ネットワークイメージユーティリティ (Mac OS X イメージの作成および変更に使用します)
- DHCP/NetBoot モジュール (NetBoot イメージの保存に使用します)

これらのツールおよびネットワーク経由でオペレーティングシステムをインストールする方法について詳しくは、システムイメージ管理ガイドを参照してください。

ネットワークインストール

ネットワークインストールは、ネットワークを介したソフトウェアインストールを一元的に操作するためのサービスです。ネットワークインストールを使用すると、組織内のネットワークに接続された任意の Macintosh システムに対して、ソフトウェアのインストール、復元、またはアップグレードを選択的に自動実行できます。「PackageMaker」を使用すると、ネットワークインストールパッケージを作成できます。インストールイメージには、最新リリースの Mac OS X、ソフトウェアアップデート、サイトライセンスを取得済みのアプリケーション、カスタムアプリケーション、設定スクリプトなどを含めることができます。

- ネットワークインストールは、オペレーティングシステムの移行、ソフトウェアアップデートやカスタムソフトウェアのパッケージのインストール、教室や研究室内のコンピュータの復元、デスクトップコンピュータやポータブルコンピュータの再設定などを実行するために最適なソリューションです。
- マーケティング、技術、販売など、組織内のさまざまな部署に応じたカスタマイズインストールイメージを定義できます。

ネットワークインストールを使用すれば、システムを設定するために複数の CD をセットする必要はありません。インストールファイルおよびパッケージをすべてサーバ上に置いて、クライアントコンピュータに一度にインストールできます。また、ネットワークインストールには、ソフトウェアパッケージやシステムイメージのインストール前またはインストール後の操作を自動実行するための、インストール前処理スクリプトやインストール後処理スクリプトを含めることもできます。

ネットワークインストールの使いかたについて詳しくは、システムイメージ管理ガイドを参照してください。

ユーザアカウント

ユーザのアカウントを定義するときに、ユーザの ID を証明するためにユーザ名、パスワード、およびユーザ識別番号 (UID) を指定します。ユーザのアカウント内のその他のユーザ情報は、さまざまなサービスで使用されます。ユーザが権限を与えられている操作を判断したり、ユーザの環境を個別に設定したりするために使用されます。Mac OS X Server は、いくつかの種類の異なるユーザとグループを使用します。これらのほとんどはユーザ定義、つまり、作成するユーザとグループのアカウントです。あらかじめ定義されているユーザとグループのアカウントもあり、これらは Mac OS X で使用するために予約されています。

ユーザと管理されたユーザ

サーバとユーザアカウントがどのように設定されているかによって、ユーザは Mac OS 9 および Mac OS X のコンピュータ、Windows コンピュータ、または UNIX コンピュータ (デスクトップまたはポータブル) を使用してログインでき、Mac OS X Server はこれらの動作に対応しています。

ほとんどのユーザは個人のアカウントを持ち、そのアカウントがそれらのユーザの認証やサービスへのアクセスの制御に使われます。ユーザの環境を個別に設定したいときは、そのユーザ用のユーザ、グループ、コンピュータの環境設定を定義します。「管理されたクライアント」または「管理されたユーザ」とは、そのアカウントに関連付けられている環境設定を管理者が制御しているユーザのことです。「管理されたクライアント」は、環境設定が定義されているコンピュータアカウントを指すこともあります。

管理されたユーザのログイン時に有効になる環境設定は、そのユーザの環境設定と、そのユーザが属しているワークグループまたはコンピュータリスト用に設定された環境設定の組み合わせです。管理されたユーザについては、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」および第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

管理者

サーバ、ディレクトリドメイン、またはパスワードサーバの管理者のアクセス権を持つユーザは、管理者と呼ばれます。管理者は常に、あらかじめ定義されている「admin」グループのメンバーです。

ユーザの管理者のアクセス権はそのユーザのアカウントに保管されています。ユーザが表示できる情報を決定したり、特定の Mac OS X Server の設定または Mac OS X Server のディレクトリドメインの設定を変更したりするときに、管理者のアクセス権を使います。

サーバの管理

サーバ管理のアクセス権は、特定の Mac OS X Server にログインしたときにユーザが持つ権限を制御します。たとえば、次のようになります。

- サーバ管理者は、「サーバ管理」を使用でき、「ディレクトリアクセス」を使用してサーバの検索方式に変更を加えることができます。
- サーバ管理者は、共有ポイントだけでなく、サーバ上のすべての AFP ディレクトリを表示できます。

サーバ管理者のアクセス権が割り当てられたユーザは、サーバのローカルディレクトリドメインにある「admin」グループに追加されます。「サーバ管理」、「ディレクトリアクセス」、「システム環境設定」などの多数の Mac OS X アプリケーションは、特定のユーザがそのアプリケーションを使って特定の処理を実行できるかどうかを決定する際に「admin」グループを使用します。

ローカルの Mac OS X コンピュータの管理

Mac OS X コンピュータのローカルディレクトリドメインの「admin」グループに属しているユーザは、そのコンピュータ上の管理者権限を持ちます。

ディレクトリドメイン管理

「ワークグループマネージャ」を使用して特定のユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントを管理する権限を一部のユーザに与えるには、それらのユーザをディレクトリドメイン管理者にします。たとえば、ネットワーク管理者を教室のサーバすべてのサーバ管理者にし、1人1人の教師には特定のディレクトリドメイン内の生徒のアカウントを管理するアクセス権を与えるとします。

ディレクトリドメインにユーザアカウントを持つユーザはすべて、そのドメインの管理者になることができます。

サーバ管理者は、ドメインに保管されているアカウントデータをディレクトリドメイン管理者がどの程度まで変更できるかを制御できます。たとえば、ネットワーク管理者はユーザアカウントの追加と削除ができ、その他のユーザは特定のユーザの情報を変更できるように、ディレクトリドメインのアクセス権を設定することができます。あるいは、その他のユーザがさまざまなグループを管理できるようにすることもできます。

ディレクトリドメイン管理者のアクセス権が割り当てられたユーザは、ディレクトリドメインが存在するサーバの「admin」グループに追加されます。

パスワードサーバの管理

管理者がユーザのパスワードサーバ設定を変更するには、パスワードサーバの管理者になる必要があります。

パスワードサーバの管理者とは、あるディレクトリドメインに含まれるユーザのパスワードがパスワードサーバによって管理されている場合に、そのディレクトリドメインの管理者のことを指しています。パスワードサーバ管理者のパスワードは、パスワードサーバを使って管理する必要があります。

ゲストユーザ

匿名の人、つまり、有効なユーザ名またはパスワードを持たないために認証できない人にサービスを提供したい場合もあります。このようなユーザは、ゲストユーザと呼ばれます。

AFP などのいくつかのサービスでは、ゲストユーザがファイルにアクセスできるかどうかを指定できます。ゲストアクセスを有効にすると、匿名で接続しているユーザによるアクセスが、アクセス権が「すべてのユーザ」に設定されているファイルとフォルダに制限されます。ゲストユーザアカウントは、認証したユーザに対応するレコードが見つからない場合に使用されます。

ゲストユーザのもう 1 つの種類は、Mac OS 9 を使用する共有コンピュータや kiosk コンピュータの設定を簡単にするために定義できる管理されたユーザです。これらのユーザの種類については詳しくは、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

グループ、プライマリグループ、およびワークグループ

グループとは、類似した要求を持つユーザの単純な集まりのことです。たとえば、すべての英語教師を 1 つのグループにまとめ、そのグループに、ボリューム上の特定のファイルまたはフォルダに対するアクセス権を与えることができます。

グループを使用すると、共有リソースの管理を簡素化できます。さまざまなリソースを必要とするユーザに個別にアクセス権を与える代わりに、それらのユーザを 1 つのグループにまとめて、そのグループにアクセス権を与えることができます。

グループアカウント内の情報は、ディレクトリおよびファイルへのユーザアクセスを制御するために使われます。この操作については、30 ページの「その他のユーザによるディレクトリおよびファイルへのアクセス」を参照してください。

グループフォルダ

グループを定義するとき、グループメンバーに共有させたいファイルを保存するためのフォルダを指定することもできます。フォルダの場所は、グループアカウントに保管されます。

ユーザにグループフォルダ用の管理者のアクセス権を許可できます。グループフォルダ管理者はグループフォルダに対するオーナーのアクセス権を持ち、「Finder」を使ってグループフォルダ属性を変更できます。

ワークグループ

グループの環境設定を定義するとき、グループはワークグループとして認識されます。ワークグループは、グループメンバーの作業環境を管理する方法を提供します。

Mac OS X ワークグループに定義した環境設定は、グループアカウントに保管されます。Mac OS 8 と Mac OS 9 のワークグループの環境設定は、「Macintosh マネージャ」を使用して保管されます。ワークグループの環境設定については、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」および第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

コンピュータアカウント

コンピュータアカウントは、同じ環境設定が割り当てられ、同じユーザとグループによって利用されるコンピュータのリストです。コンピュータアカウントは、「ワークグループマネージャ」で作成および変更できます。

Mac OS X クライアントコンピュータのコンピュータアカウントを設定する方法については、第 6 章「コンピュータアカウントを設定する」を参照してください。Mac OS X コンピュータアカウントの環境設定を指定する方法については、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」を参照してください。Mac OS 9 コンピュータのコンピュータアカウントの設定方法と環境設定の指定方法については、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

ゲストコンピュータ

ネットワーク上のほとんどのコンピュータは、コンピュータアカウントに割り当てられています。不明なコンピュータ（コンピュータアカウントに割り当てられていないコンピュータ）がネットワークに接続して、何らかのサービスにアクセスしようとする、そのコンピュータは「ゲスト」と見なされます。不明なコンピュータ、つまり「ゲスト」コンピュータには、「ゲストコンピュータ」アカウントに選択した設定が適用されます。

ゲストコンピュータのレコードは、サーバソフトウェアのインストール時に、オリジナルのディレクトリドメイン内だけに自動的に作成されます。後でサーバ管理者が、ほかのディレクトリドメイン内に追加のゲストコンピュータを作成できます。アカウントを作成すると、コンピュータアカウントのリストに「ゲストコンピュータ」が表示されます。

各ディレクトリドメインは、ゲストコンピュータのアカウントを 1 つだけ持つことができます。ネットワークの編成と設定によっては、特定のディレクトリドメインにゲストコンピュータアカウントを作成できないこともあります。

ユーザの環境

管理者がアカウントを作成したユーザは、管理者が許可したアクセス権に基づいてサーバリソースにアクセスできます。ほとんどのユーザの場合、ログインからログアウトまでの操作は次の順序で行います。

- 認証：名前とパスワードを入力します。
- パスワードの検証：ユーザ名とパスワードがディレクトリサーバにより確認されます。
- ログイン：サーバリソースおよびネットワークリソースへのアクセスが許可されます。
- アクセス：サーバに接続して、サーバ、共有ポイント、およびアプリケーションを利用します。
- ログアウト：ユーザのセッションが終了します。

ユーザの環境は、ユーザの種類、許可されているアクセス権、現在使用しているシステムの種類（Windows や UNIX など）、ユーザがグループのメンバかどうか、環境設定管理が実装されているレベル（ユーザ、グループ、またはコンピュータ）によって異なります。

Mac OS X のユーザ環境については、第 8 章「クライアント管理の概要」を参照してください。Mac OS 9 のユーザ環境については、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。認証、パスワード検証、および情報アクセス制御の概要情報については、これから説明します。これらの項目について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

認証

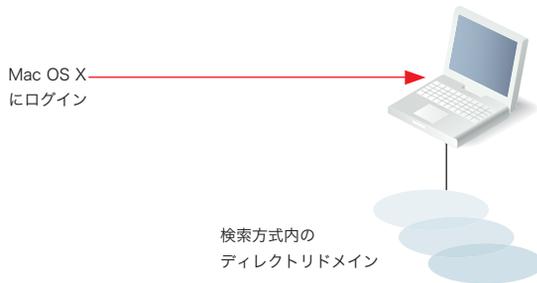
ユーザは、Mac OS X コンピュータにログインまたは接続するときに、コンピュータに登録されているユーザアカウントに関連付けられた名前とパスワードを入力する必要があります。

Mac OS X コンピュータは、コンピュータの検索方式のディレクトリドメインに保存されているユーザアカウントを検索できます。

- ディレクトリドメインには、ユーザとリソースに関する情報が保存されます。ディレクトリドメインはデータベースに似ていて、コンピュータが設定情報を取得するときにアクセスします。
- 検索方式は、Mac OS X コンピュータが設定情報を必要とするときに検索するディレクトリドメインのリストです。設定情報の検索は、ユーザのコンピュータ上のローカルディレクトリから開始されます。

オープンディレクトリ管理ガイドでは、さまざまな種類のディレクトリドメインと、Mac OS X コンピュータの検索方式の設定方法について説明します。

次の図では、あるユーザが Mac OS X コンピュータにログインし、Mac OS X コンピュータはその検索方式に指定されているディレクトリドメインからそのユーザのアカウントを検索しています。



ログイン後、ユーザは、ユーザのアカウントがリモートコンピュータの検索方式内で見つければ、リモートの Mac OS X コンピュータに接続できます。



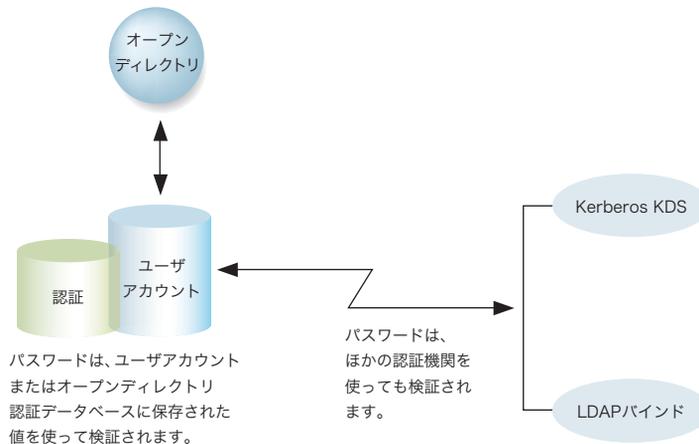
Mac OS X は、ユーザが入力した名前を含むユーザアカウントを検索する場合、そのアカウントと関連付けられたパスワードを検証しようとします。パスワードが検証できると、ユーザは認証され、ログインまたは接続プロセスは完了します。

Mac OS X コンピュータにログインすると、そのコンピュータの検索方式のディレクトリドメインに定義されているすべてのリソース（プリンタや共有ポイントなど）へのアクセス権が与えられます。共有ポイントとは、共有するファイルが含まれるハードディスク（またはハードディスクパーティション）、CD-ROM ディスク、またはフォルダのことです。ユーザは、「Finder」ウインドウで「ホーム」をクリックするか、「Finder」の「移動」メニューで「ホーム」を選択すると、自分のホームディレクトリにアクセスできます。

ユーザは、ネットワーク上のリソースにアクセスするためにサーバにログインする必要はありません。たとえば、Mac OS X コンピュータに接続するとき、ユーザは、コンピュータ上でアクセスが認証されているファイルにアクセスできます。ただし、ファイルシステムによっては最初にユーザ名とパスワードを入力するよう求められる場合もあります。サーバにログインしないでサーバの共有リソースにアクセスすると、ユーザのコンピュータの検索方式は有効なままですが、接続先のコンピュータの検索方式は無効になります。

パスワードの検証

ユーザを認証するとき、Mac OS X は最初にユーザのアカウントを見つけ、ユーザのアカウントに指定されているパスワード方式を使ってユーザのパスワードを検証します。



オープンディレクトリでは、ユーザのパスワードを検証する方法として、いくつかのオプションを選択できます。パスワードの検証オプションについては詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

情報へのアクセス制御

Mac OS X コンピュータ上のすべてのディレクトリ（フォルダ）とファイルには、ファイルのオーナー、グループ、およびほかのすべてのユーザに対するアクセス権が与えられます。



オーナー: 127: 読み出し / 書き込み
グループ: 2017: 読み出しのみ
その他: アクセス不可

Mac OS X は、ディレクトリおよびファイルのアクセス権を追跡するために、ユーザのアカウント（UID）に含まれる特定のデータ項目を使用します。

ディレクトリオーナーおよびファイルオーナーのアクセス

ディレクトリまたはファイルが作成されると、それを作成したユーザの UID をファイルシステムが保管します。そのディレクトリまたはファイルに対してその UID を使ってアクセスしたユーザには、それらの要素に対する読み出し / 書き込みアクセス権がデフォルトで与えられます。また、作成者が開始したすべてのプロセスは、作成者の UID と関連付けられたすべてのファイルに対する読み出し / 書き込みアクセス権を持ちます。

ユーザの UID を変更すると、そのユーザは、自分が作成したファイルとディレクトリを変更できなくなり、アクセスもできなくなることがあります。同様に、ユーザがファイルとディレクトリの作成に使用した UID とは異なる UID を持つユーザとしてログインすると、そのユーザにはそれらのファイルやディレクトリに対するオーナーのアクセス権がなくなります。

その他のユーザによるディレクトリおよびファイルへのアクセス

UID をグループ ID と組み合わせて、特定グループのメンバーであるユーザがアクセスを制御するために使用します。

すべてのユーザはプライマリグループに属します。ユーザのプライマリグループ ID は、そのユーザのユーザアカウントに保管されています。ユーザがディレクトリまたはファイルにアクセスしたときにそのユーザがオーナーでない場合、ファイルシステムはファイルのグループのアクセス権を確認します。

- ユーザのプライマリグループ ID がファイルと関連付けられたグループの ID と一致すると、ユーザはグループのアクセス権を継承します。
- ユーザのプライマリグループ ID がファイルのグループ ID と一致しない場合、Mac OS X はアクセス権を持つグループアカウントを検索します。グループアカウントには、グループのメンバーであるユーザのユーザ名（ショートネーム）のリストが含まれています。ファイルシステムはグループアカウント内の各ユーザ名（ショートネーム）を UID にマップし、ユーザの UID がグループメンバーの UID と一致すれば、そのユーザにディレクトリまたはファイルに対するグループのアクセス権が許可されます。

アカウントの設定やユーザの管理は、さまざまな作業で構成されます。特に、複数のインストールが共存する環境、ネットワークの規模が大きな環境、ユーザ数が多い環境では、必要な作業が多くなります。この章では、実装、分散、およびシステム制御を効率的に行う方法について説明します。

設定の概要

ユーザ管理は、いくつかの作業に大きく分かれています。さらに、各作業は、多くの細かい作業から成っています。ここでは、ユーザ管理の実装方法の概要について説明します。それぞれの作業に含まれる具体的な手順については、このガイドの対応する章で説明します。

ユーザとグループの管理は、主に次の手順で構成されます。

- 手順 1：計画を立てる。
- 手順 2 サーバが最低限の要件を満たしているどうか確認する。
- 手順 3：共有ドメインを作成してアカウント情報を保管する。
- 手順 4：オープンディレクトリ・パスワードサーバを設定する。
- 手順 5：ユーザとグループのアカウントをサーバが検索できるようにサーバおよびクライアントの検索方式を設定する。
- 手順 6：ユーザアカウントおよびホームディレクトリを設定する。
- 手順 7：グループを作成する。
- 手順 8：コンピュータが最低限の要件を満たしているどうか確認する
- 手順 9：クライアントコンピュータを設定し、コンピュータアカウントを作成する。
- 手順 10：必要に応じてユーザとグループのアカウント情報を確認する。
- 手順 11：必要に応じてアカウント情報を更新する。
- 手順 12：使用中のユーザとグループのアカウントを管理する。

次に、これらの手順の概要を説明します。詳細は示されているページを参照してください。

手順 1：計画を立てる

ユーザ管理を計画するときは、まず、ユーザの要件を分析し、リソースの展開方法を決定します。検討する項目の例をいくつか挙げます。

- ネットワークの大きさと分散
- ネットワークにアクセスするユーザ数
- 管理者のアクセス権を割り当てるユーザ
- ユーザが必要とするサービスとリソース（メール、データ記憶装置へのアクセスなど）
- ユーザをグループに分割する方法（講義のテーマ、業務の機能など）
- コンピュータを分類する方法（公開研究室のすべてのコンピュータなど）

Mac OS X、Mac OS 9、または Windows を使用しているコンピュータは、ユーザ管理を行わなくてもネットワークにアクセスできます。特定のローカルリソースまたはネットワークリソース（共有ボリューム、ディスクメディア、アプリケーション、環境設定など）へのアクセス権を管理または制御する機能は、Mac OS X または Mac OS 9 を使用しているコンピュータでのみ使用できます。Mac OS X コンピュータは、「ワークグループマネージャ」のアカウントと環境設定機能を使って管理できます。Mac OS 9 コンピュータを管理するには、「Macintosh マネージャ」を使用する必要があります。Windows コンピュータもネットワークに接続できますが、これらのツールを使って管理することはできません。

次のような場合は、クライアント管理（環境設定やアクセス権制御）を利用することをお勧めします。

- アクセス権を制御した一貫性のあるインタフェースを使って、どのコンピュータからもユーザが自分の書類にアクセスできるようにしたい
- モバイルコンピュータでのアクセス権を制御したい
- 特定のリソースを特定のグループまたはユーザだけに割り当てたい
- 管理部門、教室、人の出入りが自由な研究室など、主要な場所でのコンピュータ使用に対してセキュリティを設定する必要がある

詳しい説明と推奨する管理方法については、36 ページの「ユーザ管理の方法を計画する」を参照してください。

手順 2： サーバが最低限の要件を満たしているどうか確認する

Mac OS X 管理用コンピュータのソフトウェア要件

- Mac OS X Server v. 10.2.6 以降がインストールされていること

Mac OS X 管理用コンピュータのハードウェア要件

- G3 以上のプロセッサを装備した Macintosh コンピュータ（初期の PowerBook G3 またはアップグレードした PowerPC プロセッサを除きます）
- 128 MB（メガバイト）の RAM
- 4 GB（ギガバイト）の空きディスク容量

手順 3： 共有ドメインを作成してアカウント情報を保管する

「サーバ管理」のオープンディレクトリのモジュールを使って共有ドメインまたはネットワークで表示可能なドメインを設定し、ユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウント情報をそのドメインに保管します。ドメイン階層とその設定方法について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

「ワークグループマネージャ」を使用してユーザとグループを追加および変更するユーザには、対象のドメインに対してディレクトリドメイン管理者のアクセス権が必要です。「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに置かれているユーザアカウントとグループアカウントを追加または変更できます。

LDAPv2、読み出し専用 LDAPv3、BSD 設定ファイル、またはその他の読み出し専用ディレクトリドメインを使用する予定であれば、そのドメインが Mac OS X Server によるアクセスをサポートするように設定されていて、ユーザとグループのアカウントに必要なデータを備えていることを確認します。適切なフォーマットで情報を提供するためには、ディレクトリの情報を追加、変更、または再構成する必要がある場合があります。

- これらのドメインが配置されているリモートサーバにアクセスして情報を取得するために Mac OS X Server を設定する方法については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。
- Mac OS X に必要なユーザアカウントとグループアカウントのデータのフォーマットについては、付録「アカウント情報を読み込む/書き出す」を参照してください。Mac OS X Server 上に配置されていないディレクトリドメインを使用するときは、特定の種類のディレクトリドメインに必要なデータマッピングを判断しなければならないことがあります。詳しくは、この付録を参照してください。
- Microsoft社の Active Directoryに保管された情報を使ってMacintoshユーザを認証し、Mac OS X Server 上でそれらのユーザにサービスを提供する方法については、Windows サービスガイドを参照してください。

手順 4： オープンディレクトリ・パスワードサーバを設定する

オープンディレクトリ・パスワードサーバを使ってディレクトリドメインのユーザのパスワードを検証する場合は、パスワードサーバをできるだけ早く設定する必要があります。別のパスワード検証方式からパスワードサーバを使った検証に切り替えるときは、影響を受けるすべてのユーザのパスワードをリセットする必要があります。

設定について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

手順 5： ユーザとグループのアカウントをサーバが検索できるようにサーバおよびクライアントの検索方式を設定する

サーバからユーザとグループの情報にアクセスして特定のユーザにサービスを提供する場合は、そのサーバの検索方式をそのように設定する必要があります。Mac OS X クライアントコンピュータの検索方式を設定するときは、Mac OS X コンピュータからアカウントと共有リソース(ネットワークファイルサーバやプリンタなど)にアクセスできるようにする必要があります。クライアントの設定オプションとそれらの設定手順については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

手順 6： ユーザアカウントおよびホームディレクトリを設定する

「ワークグループマネージャ」を使用して、ユーザアカウントとホームディレクトリを設定できます。ユーザアカウントは、Mac OS X Server 上に置かれているディレクトリドメインと、書き込みアクセス権を持つアップル以外のオープンディレクトリドメインに作成できます。「ワークグループマネージャ」でユーザを作成すると、Mac OS X クライアントでそれらのユーザを管理できます。ユーザの作成時に、ユーザのさまざまなアクセス権（プリントやメールの割り当てなど）を設定できます。

ホームディレクトリは、AFP (Apple Filing Protocol) サーバに保管することができます。グループボリュームをAFP共有ポイントとして設定し、必要に応じて共有ポイントを追加できます。Mac OS X の管理されているクライアントの場合は、共有ポイントが自動マウントされるように設定する必要があります。管理対象の各ユーザには、ホームディレクトリが必要です。ホームディレクトリを持たないユーザは、コンピュータやリソースへのアクセスが制限されます。

ユーザアカウントの作成方法とユーザのアクセス権の定義方法については、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。ホームディレクトリについて詳しくは、第 7 章「ホームディレクトリを設定する」を参照してください。

読み出し専用ユーザアカウントの操作について詳しくは、57 ページの「読み出し専用のユーザアカウントを操作する」を参照してください。

管理されたユーザの設定について詳しくは、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」および第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。管理されたユーザをネットワークディレクトリドメインに作成した場合は、そのユーザアカウントを複数のコンピュータで使用することもできます。管理されたユーザは、各クライアントコンピュータ上にローカルに定義することもできます。

手順 7： グループを作成する

「ワークグループマネージャ」を使用して、Mac OS X Server 上に配置されているディレクトリドメインおよび書き込みアクセス権を持つアップル以外のオープンディレクトリドメインにグループアカウントを作成できます。詳しくは、次のセクションを参照してください。

- 76 ページの「Mac OS X Server のグループアカウントを作成する」および 77 ページの「読み出し／書き込み LDAPv3 グループアカウントを作成する」
- 40 ページの「アカウントを効率的に操作する」
- 40 ページの「プリセットを使用する」
- 付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」

読み出し専用グループアカウントの操作について詳しくは、79 ページの「読み出し専用のグループアカウントを操作する」を参照してください。

グループアカウントのすべての設定について詳しくは、第 5 章「グループアカウントを設定する」を参照してください。

手順 8： コンピュータが最低限の要件を満たしているどうか確認する

すべてのコンピュータについて、ネットワークに接続するための最小要件を満たしていることを確認します。

Mac OS X クライアントコンピュータのソフトウェア要件

- Mac OS X v. 10.2.6 以降（基本オペレーティングシステム）

Mac OS X クライアントコンピュータのハードウェア要件

- G3 以上のプロセッサを装備したMacintosh コンピュータ（初期の PowerBook G3 またはアップグレードした PowerPC プロセッサを除きます）
- 128 MB（メガバイト）の物理 RAM
- 1.5 GB（ギガバイト）のハードディスク容量

手順 9： クライアントコンピュータを設定し、コンピュータアカウントを作成する

Mac OS X コンピュータのディレクトリサービスが、ログイン時にユーザアカウントにアクセスできるように設定されていることを確認します。Mac OS X コンピュータとその他のクライアントコンピュータは、ユーザが認証可能になり、ユーザに実行させたいサービスにアクセスできるように設定されていなければなりません。

Mac OS 9.1 をオペレーティングシステムとして使用しているクライアントコンピュータも、Mac OS X Server ネットワークに接続できます。Mac OS 9.1 システムのユーザのアクセス権と環境設定を管理したい場合は、「Macintosh マネージャ」を使用します。

「Classic」や「Dock」などの管理されている環境設定では、ファイルやフォルダを探すときに、特定の「パス」を使用します。管理用コンピュータのファイルシステム構造は、すべての管理されているクライアントコンピュータのファイルシステム構造と一致する必要があります。つまり、フォルダ名、ボリューム、アプリケーションの場所などが一致していなければなりません。

「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアのインストール、「Macintosh マネージャ」のサーバとクライアントの言語の選択、および Apple ファイルサービスの言語スクリプトの変更について詳しくは、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

Windows クライアントも Mac OS X Server ネットワークに接続できます。Windows クライアントを Mac OS X Server ネットワークで使用できるように設定する方法について詳しくは、Windows サービスガイドを参照してください。

手順 10： 必要に応じてユーザとグループのアカウント情報を確認する

「ワークグループマネージャ」では、ユーザとグループの情報を簡単に確認でき、必要に応じて更新することもできます。詳しくは、41 ページの「ワークグループマネージャでアカウントを検索する」以降のセクションを参照してください。

手順 11： 必要に応じてアカウント情報を更新する

ユーザが一定に定まらず、サーバの要件が変わる場合は、ユーザとグループのレコードを最新のものにします。ゲストアカウントを定義する、ユーザアカウントを使用不可にする、グループにユーザを追加する、グループからユーザを取り除く、アカウントを削除する、などのよく使う操作については、第 3～5 章の説明を参照してください。

手順 12： アカウントを継続的に保守する

次の情報は、日常的なアカウント保守作業に役立ちます。

- よくある問題の解決方法については、第 11 章「問題を解決する」を参照してください。

- バックアップの方法については、43 ページの「ファイルをバックアップおよび復元する」を参照してください。
- パスワードサーバの監視については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

ユーザ管理の方法を計画する

ユーザとグループのアカウントを初めて設定する前に、次のことを実行します。

- ユーザとグループのアカウント情報を保管するディレクトリドメインを識別します。

Active Directory または LDAP サーバが設定されている場合は、既存のレコードを活用できることもあります。利用できるディレクトリドメインオプションについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

以前のバージョンの Apple サーバを使用している場合は、既存のレコードを移行できる場合があります。利用可能なオプションについては、移行ガイドを参照してください。

必要に応じて、ユーザレコードを保管するための新しいディレクトリドメインを作成してください。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

参考：アカウントの追加を開始しようとしたときに、すべてのドメインが準備できていない場合は、サーバ上にすでに存在するドメインにアカウントを追加してください。ローカルディレクトリドメインに追加してもかまいません。付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」に記載されているサーバの書き込みおよび読み出し機能を使用して、ユーザとグループを後で別のディレクトリドメインに移動できます。

- 使用するパスワード検証方式（1 つまたは複数）を決定します。オプションについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

オープンディレクトリ・パスワードサーバを使ってディレクトリドメインのユーザのパスワードを検証する場合は、パスワードサーバをできるだけ早く設定する必要があります。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

- 管理されたユーザにしたいユーザを決定します。計画のガイドラインについては、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」および第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。
- ホームディレクトリを計画する方法を決めます。
- ホームディレクトリを必要とするユーザを決定し、ホームディレクトリを置きたいコンピュータを識別します。パフォーマンスを重視する場合は、100 Mbps 未満のネットワーク接続速度でネットワークホームディレクトリを使用することは避けてください。ユーザのネットワークホームディレクトリは、ユーザのアカウントを含むディレクトリドメインと同じサーバ上に保管する必要はありません。むしろ、さまざまなサーバ間にディレクトリドメインとホームディレクトリを分散させると、ネットワークにかかる負荷を分散させることができます。このような場合の、いくつかの例を 100 ページの「ホームディレクトリを複数のサーバに分散する」で示しています。

1 台のコンピュータに姓が A から F までのユーザのホームディレクトリを保管し、別のコンピュータに G から J までのユーザのホームディレクトリを保管したいという場合もあるでしょう。あるいは、ホームディレクトリは Mac OS X Server 上に保管し、ユーザとグループのアカウントは Active Directory または LDAP サーバに保管したいという場合もあるでしょう。ユーザを作成する前に、方法を決めてください。ホームディレクトリは移動できますが、移動した場合はユーザのレコードを大幅に変更しなければならないことがあります。

- ホームディレクトリ用に使用するアクセスプロトコルを決定します。たいていの場合は AFP を使用しますが、サーバで多数の UNIX クライアントをサポートする場合は、NFS を使用する場合があります。

ホームディレクトリ用に使用したいコンピュータとその数を決定したら、各コンピュータのドメイン名と IP アドレスの計画を立てます。また、ホームディレクトリを配置するコンピュータ上での名前と共有ポイントを決定します。

- 必要になるグループとワークグループを決定します。サーバ要件が類似しているユーザは、同じグループ内に配置する必要があります。

ワークグループは、グループの環境設定を設定するときに使います。ワークグループの使いかたについては、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」および第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

グループフォルダを保管する場所も決定する必要があります。

- ユーザとグループを管理できるようにさせたいユーザを決定し、それらのユーザが管理者のアクセス権を持っていることを確認します。最初にサーバを設定する際に「サーバアシスタント」を使用するときは、オーナー/管理者のパスワードを指定します。指定したパスワードは、サーバのルートパスワードにもなります。ルートパスワードと異なるパスワードを持つ管理者ユーザを作成するときは、「ワークグループマネージャ」を使用します。サーバ管理者に、ルートのアクセス権は必要ありません。

ルートパスワードは安全な場所に保管し、その使用には細心の注意を払う必要があります。ルートユーザには、システムファイルも含めて、システムに対するすべてのアクセス権が与えられます。必要な場合は、「ワークグループマネージャ」を使用してルートパスワードを変更できます。

- サポートしたいユーザが特別な注意を払わなくてもログインできサーバで作業できるような、クライアントコンピュータの設定方法を決定します。この項目については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

ワークグループマネージャを操作する

Mac OS X Server ソフトウェアのインストールが完了すると、「ワークグループマネージャ」にアクセスできます。ここでは、「ワークグループマネージャ」にアクセスする方法について説明してから、「ワークグループマネージャ」を使って実行できる主な操作について簡単に説明します。

ワークグループマネージャを開く/認証を行う

「ワークグループマネージャ」は、サーバのインストール時または管理用コンピュータの設定時に、「/アプリケーション/Server/」にインストールされます。「ワークグループマネージャ」を開くときは、Mac OS X Server の「Dock」または「サーバ管理」のツールバーにある、「ワークグループマネージャ」アイコンをクリックします。

- 使用しているサーバで認証なしで「ワークグループマネージャ」を開くときは、「サーバ」メニューから「ディレクトリを表示」を選択します。「ワークグループマネージャ」に表示される情報には、読み出しアクセスのみ可能です。変更を行うときは、カギをクリックして、管理者として認証を行います。複数のサーバの管理や複数のディレクトリドメインの操作を行うときは、この方法が便利です。
- 特定のサーバの管理者として認証を行うときは、ログインウィンドウでサーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力するか、「ブラウズ」をクリックしてリストからサーバを選びます。目的のサーバの管理者のユーザ名とパスワードを指定し、「接続」をクリックします。ほとんどの場合に特定の 1 台のサーバで作業を行うときは、この方法を使用します。

ワークグループマネージャでの主な作業

「ワークグループマネージャ」にログインすると、ユーザアカウントのウィンドウが表示されます。サーバのローカルディレクトリドメインに含まれるユーザ、グループ、またはコンピュータのアカウントのリストを確認できます。ログインした後に、必要に応じて別のドメインに切り替えることもできます。また、共有ポイントを操作したり、ユーザ、グループ、またはコンピュータの管理されている環境設定のオプションも設定できます。このアプリケーションで作業を開始するには：

- 共有ポイントを操作するときは、ツールバーの「共有」アイコンをクリックします。詳しくは、ファイルサービス管理ガイドを参照してください。
- ユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを管理するときは、ツールバーの「アカウント」アイコンをクリックします。ユーザおよびグループアカウントについて詳しくは、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。コンピュータアカウントについて詳しくは、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」を参照してください。
- 複数のディレクトリドメインのアカウントを一度に操作するときは、「サーバ」メニューから「新規ワークグループマネージャウィンドウ」を選択して、「ワークグループマネージャ」ウィンドウを複数開きます。
- 管理されたユーザ、グループ、またはコンピュータの環境設定を操作するときは、ツールバーの「環境設定」アイコンをクリックします。詳しくは、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」を参照してください。
- 表示されている情報をリフレッシュするには、「リフレッシュ」ボタンをクリックします。
- ユーザおよびグループのリストの表示方法や、SSL トランザクションを使用するかどうかなど、「ワークグループマネージャ」の動作を制御するときは、「ワークグループマネージャ」メニューから「環境設定」を選びます。
- ツールバーをカスタマイズするときは、「表示」メニューから「ツールバーをカスタマイズ」を選択します。
- 「サーバ管理」を開いて特定のサーバの状況を監視するときは、ツールバーの「サーバ管理」アイコンをクリックします。「サーバ管理」アプリケーションについては、「お使いになる前に」を参照してください。
- 「サーバ管理」を開いてサーバのファイル、プリント、メール、Web、NetBoot、およびネットワークの設定を操作するときは、「サーバ」メニューから「サービスを設定」を選択します。「サーバ管理」のさまざまなサービスやツールについては、Mac OS X Server のほかのマニュアルを参照してください。
- オンライン情報を取得するときは、「ヘルプ」メニューを使用します。「ワークグループマネージャ」および Mac OS X Server のその他のトピックに関するサーバ管理者用のヘルプを入手できます。

管理者を指定する

Mac OS X クライアントの場合、サーバ管理者は、ほかのユーザとそのアクセス権に対する最大の制御権を持ちます。サーバ管理者はユーザ、グループ、およびコンピュータアカウントを作成でき、それらに設定、アクセス権、および管理された環境設定を割り当てることができます。また、ほかのサーバ管理者のアカウントを作成したり、特定のユーザ（教師や技術スタッフなど）に特定のディレクトリドメイン内の管理者のアクセス権を与えることもできます。「ディレクトリドメイン管理者」は、サーバ管理者によって割り当てられた制限の範囲内で、ユーザ、グループ、およびコンピュータアカウントを管理できます。

これらのアカウントを設定する前に、管理者のアクセス権を必要とするユーザを検討してください。管理されたユーザに管理者のアクセス権を与えると、それらのユーザは特定のユーザグループを管理したり、特定のアカウント設定を調整したりできます。管理者と特定の管理者のアクセス権を持つユーザを適切に計画すれば、システム管理作業を分散して、作業フローやシステム管理を効率化することができます。ネットワークアカウントを持つユーザへの管理者のアクセス権の割り当てについて詳しくは、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

ユーザアカウントを設定する

「ワークグループマネージャ」を使用して OS X クライアントを管理する場合は、アカウントを設定するときいくつかのアクセス権を設定できます。ひな形に似た「プリセット」を使用し、アカウントを作成するときにさまざまな設定を自動的に適用できます。ユーザアカウントの設定方法について詳しくは、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

必要に応じて、クライアントコンピュータ上のローカルユーザのアカウントや、ネットワークユーザのアカウントを設定することもできます。ネットワークユーザは Mac OS X Server に関連付けられたユーザアカウントを持つユーザで、そのユーザがネットワーク上のさまざまなコンピュータからログインできるようにすることができます。ローカルユーザは特定のクライアントコンピュータに関連付けられたアカウントを持つユーザで、そのユーザのローカルアカウントは、ネットワークユーザアカウントやほかのコンピュータのローカルアカウントとは別のもので、1 人のユーザが、ネットワークサービスにアクセスするためのネットワークアカウントと、特定のコンピュータの個別のローカルアカウントを持っていることもあります。ネットワークアカウントを持つユーザには管理された環境設定を設定できますが、ネットワークユーザを管理する最も簡単な方法は、そのユーザが属しているグループの環境設定を管理することです。これにより、どのコンピュータを使用しているユーザでも簡単に管理できます。

ユーザが特定のコンピュータのローカルアカウントを持っている場合は、「ワークグループマネージャ」を使用しなくても、クライアントコンピュータのユーザの環境設定を管理できます。ただし、クライアントコンピュータとそのコンピュータにアクセスできるグループの環境設定を管理するときは、「ワークグループマネージャ」を使用してローカルユーザを間接的に管理するほうが便利な場合もあります。これらのグループとコンピュータの環境設定は、オフラインで使うためにキャッシュされます。この機能は、特にモバイルコンピュータに役立ちます。モバイルコンピュータのユーザがネットワークから接続を解除しても、そのユーザはまだ管理されています。

ユーザの管理された環境設定は、ユーザのアカウントを作成した後で設定できます。管理された環境設定とその使いかたについて詳しくは、112 ページの「環境設定の管理について」を参照してください。

グループアカウントを設定する

Mac OS X ユーザを管理するためにユーザをグループアカウントに追加する必要はありませんが、効率的かつ効果的なクライアント管理のためにはグループが非常に重要です。たとえば、グループを使って、メディア、プリンタ、およびボリュームに対する同じアクセス権をユーザに提供できます。

「ワークグループマネージャ」を使用してグループアカウントを作成する方法について詳しくは、第 5 章「グループアカウントを設定する」を参照してください。

特定のグループに割り当てられている管理された環境設定は、そのグループ内のすべてのユーザに適用されます。ただし、ユーザの管理された環境設定は、グループの環境設定に優先することがあります。グループの管理された環境設定は、グループのアカウントを作成した後で設定できます。詳しくは、第 5 章「グループアカウントを設定する」を参照してください。

アカウントを効率的に操作する

アカウントを設定および管理するときに、いくつかの便利な方法や「ワークグループマネージャ」の機能を利用すると、時間を節約して効率的に操作することができます。次のような方法を利用できます：

- 一度に複数のユーザまたはグループのアカウントに変更を加えることができます。
- プリセットをテンプレートとして使用して、ユーザまたはグループの新規アカウントにデフォルトで適用される属性を事前に定義できます。
- アカウント情報をファイルから読み込むことができます。

複数のアカウントを同時に編集する

複数のユーザ、グループ、またはコンピュータのアカウントについて、アカウント情報や管理された環境設定を一度に編集できます。一部のアカウント固有の情報については、複数のアカウントを選択しても変更できません。

プリセットを使用する

ユーザ、グループ、またはコンピュータのアカウントの設定を選択し、それらの設定を「プリセット」として保存できます。プリセットはひな形のように機能し、事前に選択した設定や情報を新規アカウントに適用できます。プリセットを使用すれば、同じような設定を持つ複数のアカウントを簡単に設定できます。

プリセットは、アカウントの作成時のみに使用できます。既存のアカウントは、プリセットを使って変更できません。プリセットを使用できるのは、アカウントを手作業で作成するときや、アカウントをファイルから読み込むときだけです。

アカウントの作成に使用した後でプリセットを変更しても、プリセットを使用して作成されたアカウントは、その変更を反映するようには更新されません。

アカウント情報を読み込む／書き出す

XML または文字区切りのテキストファイルを使って、アカウント情報の読み込みまたは書き出しを行うことができます。この方法を使ってアカウント情報を読み込むと、多数のアカウントを簡単に設定できます。ユーザデータを記録またはバックアップするときには、ファイルに書き出す方法が便利ことがあります。

詳しくは、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

ワークグループマネージャでアカウントを検索する

「ワークグループマネージャ」では、アカウントは「ワークグループマネージャ」ウィンドウの左側のタブにリスト表示されます。

「ワークグループマネージャ」環境設定は、このリストに反映されます。ユーザとグループをリストに表示するかどうかを制御したり、項目の表示順序を制御したりするときは、「ワークグループマネージャ」メニューの「環境設定」を選択します。

リストを表示するときは、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、対象のディレクトリドメインを選択します。ネットワークに接続している場合は、親ディレクトリドメインのアカウントが最初に表示されます。選択に使用できるドメインには、ログインしたサーバがアクセスできるように設定されているすべてのディレクトリドメインが含まれます。

ディレクトリドメインを選択すると、それらのドメインに置かれているすべてのアカウントがリストに表示されます。列の見出しをクリックして、リストを並べ替えることができます。矢印は、並べ替え順（昇順または降順）を表しています。列の見出しをもう一度クリックすると、並べ替え順が逆になります。リストの上にあるフィルタオプションを使用して、リストを絞り込んで特定のアカウントを検索できます。

リストに表示されているアカウントの 1 つまたは複数を選択するときは、対象のアカウントを選択します。選択したアカウントに関する設定が、リストの右側のパネルに表示されます。利用できる設定は、現在表示しているタブによって異なります。

ローカルディレクトリドメイン内のアカウントのリストを表示する

ローカルディレクトリドメインは、サーバに常駐するドメインで、そのサーバにログインしたときだけ表示されます。

操作しているサーバのローカルドメインに保管されているアカウントのリストを表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、ドメインを管理しているサーバにログインし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして「ローカル」を選択します。ローカルドメインも、「/NetInfo/root/< ホスト名 >」または「/NetInfo/DefaultLocalNode」として表示されます。

選択したディレクトリドメインに含まれるユーザアカウントを表示するには、そのユーザのボタンをクリックします。グループのボタンをクリックすると、グループアカウントが表示されます。コンピュータのボタンをクリックすると、コンピュータアカウントが表示されます。

- 2 特定のアカウントを操作するときは、そのアカウントを選択します。アカウントを変更するときは、サーバまたはドメイン管理者のアクセス権が必要で、認証のためにカギをクリックする必要があります。

検索パスディレクトリドメインにアカウントのリストを表示する

検索パスのディレクトリドメインとは、ログインした Mac OS X Server に定義されている検索パス内のディレクトリドメインのことです。検索方式の設定方法については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

操作しているサーバの検索パスのドメインに保管されているアカウントのリストを表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、検索方式に対象のディレクトリドメインを含むサーバにログインします。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、「検索パス」を選択します。

「検索パス」のドメインに含まれるユーザアカウントを表示するときは、そのユーザのボタンをクリックします。グループのボタンをクリックすると、グループアカウントが表示されます。コンピュータのボタンをクリックすると、コンピュータアカウントが表示されます。

利用可能なディレクトリドメインのアカウントのリストを表示する

「ワークグループマネージャ」を使用して、ログインしたサーバからアクセスできるディレクトリドメインのうち、特定のディレクトリドメインに保管されているユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントを表示できます。使用しているサーバから表示できるディレクトリドメインのリストから、対象のドメインを選択します。

「利用可能な」ディレクトリドメインは、検索方式内のディレクトリドメインと同じではないことに注意してください。検索方式は、ユーザのアカウントなどを取得する必要があるときに、サーバが定期的に検索するディレクトリドメインで構成されます。ただし、そのサーバがアクセスできるディレクトリドメインが、その検索方式に含まれていないことがあります。

サーバからアクセスできるディレクトリドメインに保管されているアカウントのリストを表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、対象のディレクトリドメインを表示できるサーバにログインします。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、「その他」を選択します。
- 3 表示されたダイアログで対象のドメインを選択し、「OK」をクリックします。

選択したディレクトリドメインに含まれるユーザアカウントを表示するには、そのユーザのボタンをクリックします。グループのボタンをクリックすると、グループアカウントが表示されます。コンピュータのボタンをクリックすると、コンピュータアカウントが表示されます。

- 4 特定のアカウントを操作するときは、そのアカウントを選択します。アカウントを変更するときは、サーバまたはドメイン管理者のアクセス権が必要で、認証のためにカギをクリックする必要があります。

アカウントのリストをリフレッシュする

「ワークグループマネージャ」に表示されているアカウントのリストをリフレッシュするときは、次のいずれかを実行します。

- 「リフレッシュ」をクリックします。
- リストの上部のフィールドに検索したい語を入力すると、新しくフィルタされたリストが表示されます。
- リストの上部のフィールドからその語を削除すると、元のフィルタされていないリストが表示されます。
- ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、別の項目をリストから選択すると、以前に操作したドメインがもう一度選択されます。

リスト内の特定のアカウントを検索する

「ワークグループマネージャ」にアカウントのリストを表示してから、特定のユーザまたはグループを検索するためにリストを絞り込むことができます。

アカウントのリスト内の項目を絞り込むには：

- 1 アカウントのリストを表示してから、ユーザ、グループ、またはコンピュータのタブをクリックします。
- 2 アカウントリストの上にあるポップアップメニューで、検索したいユーザ、グループ、またはコンピュータを識別するオプションを選択し、テキストフィールドに検索したい語を入力します。検索基準を満たすアカウントのリストが表示されます。ユーザの名前を入力した場合は、ユーザまたはグループのフルネームとユーザ名（ショートネーム）が検索されます。

ユーザとグループのリストを並べ替える

「ワークグループマネージャ」でアカウントのリストが表示された後で、列の見出しをクリックすると、その列の値を使ってエントリを並べ替えることができます。リスト内のエントリの順番を逆にするには、もう一度見出しをクリックします。

環境設定を効率的に管理する

多数のアカウントの環境設定を調整するときには、バッチ編集を使用すると時間を節約できます。複数のアカウントの環境設定を編集する方法については、122 ページの「複数のレコードの環境設定を編集する」を参照してください。

Macintosh マネージャを効率的に使用する

一部のコンピュータクライアントで Mac OS 9 を使用することを計画している場合は、「Macintosh マネージャ」を使用して、それらのクライアントのユーザ、グループ、およびコンピュータの設定を管理できます。Macintosh マネージャを効率的に使用方法については、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

ファイルをバックアップおよび復元する

パスワードサーバと、ルートおよび管理者のユーザアカウントは、定期的にバックアップしてください。ディレクトリドメインのバックアップについては、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

パスワードサーバをバックアップする

パスワードサーバは頻繁にバックアップしてください。パスワードサーバをバックアップするときは、パスワードサーバを使用するディレクトリドメインもすべてバックアップしてください。

パスワードサーバをバックアップするには：

- 「/var/db/authserver」フォルダをバックアップします。

パスワードサーバのバックアップファイルのセキュリティは、パスワードサーバを管理するコンピュータと同様に十分に確保してください。

パスワードサーバを復元する場合は、対応するディレクトリドメインも同時に復元してください。

ルートおよび管理者のユーザアカウントをバックアップする

システムファイルのオーナーは、作成された時点のルートまたはシステム管理者のユーザ ID になります。システムファイルを復元する際は、元のアクセス権を保持するように、同じ ID がサーバに存在する必要があります。

これらのユーザ ID を再作成できるようにするために、サーバのユーザ情報とグループ情報は定期的にファイルに書き出してください。詳しくは、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

ネットワークにアクセス可能なポータブルコンピュータの管理方法を計画することは重要です。この章では、1人または複数のユーザが使用するポータブルコンピュータを管理する際の注意事項について説明します。

モバイルクライアントを設定する

いくつかのポータブルコンピュータを特定のユーザまたはユーザグループに配布する場合に、さまざまな管理方式を導入すれば、ユーザの環境を個別に設定したり、ローカルリソースおよびネットワークリソースに対するユーザのアクセスレベルを制御することができます。

ポータブルコンピュータを設定する

ネットワークに接続できるようにポータブルコンピュータを準備するときには、次の手順で行ってください。

手順 1： OS、アプリケーション、ユーティリティをインストールする

ほとんどのコンピュータには、オペレーティングシステムがすでにインストールされています。ただし、新しいオペレーティングシステムをインストールする必要がある場合は、そのオペレーティングシステム（Mac OS X または Mac OS 9）および追加したいアプリケーションやユーティリティの最小インストール要件をコンピュータが満たしていることを確認してください。

手順 2： ローカルアカウントを Mac OS X コンピュータ上に作成する

1 つ以上のローカル管理者アカウントと必要な数のローカルユーザアカウントを作成します。ローカルアカウント名とパスワードは、ネットワーク名とパスワードと混同しにくいものを選択してください。Mac OS 9 では、この手順は不要です。

手順 3： コンピュータアカウントをサーバ上に設定する

Mac OS X コンピュータの場合は、「ワークグループマネージャ」を使ってコンピュータをコンピュータアカウントに追加して、コンピュータレベルの環境設定管理を適用します。ユーザのネットワークアカウントにユーザレベルの環境設定管理を設定することもできます。

パフォーマンスを最適化するために、ディレクトリサービスのアクセス権を設定するときには、すべての Mac OS X ポータブルコンピュータが DHCP を使ってディレクトリサービスの情報を検索するように設定してください。

ディレクトリサービスの設定方法について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。コンピュータアカウントの操作方法について詳しくは、第 6 章「コンピュータアカウントを設定する」を参照してください。管理されている環境設定の使いかたについて詳しくは、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」を参照してください。

Mac OS 9 コンピュータの場合は、「Macintosh マネージャ」を使ってコンピュータリストを設定したり、優先する設定を適用します。「Macintosh マネージャ」の使いかたについて詳しくは、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

モバイルアカウントを使用する

モバイルアカウントは、ローカルコンピュータにコピーされている Mac OS X Server のユーザアカウントです。サーバのアカウントと継続的に同期して、ローカルコンピュータとサーバのアカウントのデータを一致させることができます。モバイルアカウントのユーザは、コンピュータがネットワークに接続されていない場合でも、ネットワークアカウントの名前とパスワードを使ってポータブルコンピュータにログインできます。モバイルアカウントのホームディレクトリはローカルコンピュータ上に存在し、ネットワークアカウントのホームディレクトリはサーバ上に存在します。

コンピュータをネットワークに接続すると、ユーザの認証は、モバイルアカウントではなくサーバアカウントに対して直接行われます。ただし、ホームディレクトリは、ローカルコンピュータのものが使われます。認証に成功すると、モバイルアカウントが自動的に更新されます。このとき、このアカウントに関連付けられている管理されている環境設定も更新されます。コンピュータのネットワーク接続が解除されても、管理されている環境設定はそのまま使用されます。

モバイルアカウントを作成する

作成したモバイルアカウントは、「アカウント」システム環境設定のアカウントリストに表示されます。アカウントの種類は、「モバイル」として表示されます。「モバイル」を選択すると、「アカウント」パネルのほとんどの項目は淡色で表示されます。「ワークグループマネージャ」を使って、ユーザがログインしたときにモバイルアカウントを自動的に作成するように設定できます。

ワークグループマネージャを使ってモバイルアカウントを作成するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ユーザアカウントを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 「モバイルアカウント」をクリックして、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 4 「ログイン時にモバイルアカウントを作成する」を選択します。
- 5 ユーザがログインしたときにモバイルアカウントを作成するかどうかを決定できるようにする場合は、「モバイルアカウントを作成する前に確認を要求する」を選択します。

このオプションが選択されている場合、ユーザがログインしたときに確認ダイアログが表示されます。「作成」をクリックすれば、モバイルアカウントがすぐに作成されます。「続ける」をクリックすれば、モバイルアカウントを作成しないでネットワークユーザとしてログインできます。

- 6 「今すぐ適用」をクリックします。

「ワークグループマネージャ」を使って、対応するサーバアカウントを変更することもできます。適用した変更は、このユーザがポータブルコンピュータをネットワークに次回接続したときに、モバイルアカウントに適用されます。

モバイルアカウントを削除する

不要になったモバイルアカウントは削除できます。モバイルアカウントを削除すると、ローカルホームディレクトリも削除されます。モバイルアカウントを削除するには、ローカル管理者のアカウントとパスワードが必要です。

モバイルアカウントを削除するには：

- 1 クライアントコンピュータの「システム環境設定」を開きます。
- 2 「アカウント」をクリックしてから、「ユーザ」タブをクリックします。
- 3 削除したいアカウントを選択します。モバイルアカウントの場合、「タイプ」列に「モバイル」が表示されます。
- 4 「ユーザを削除」をクリックし、「ユーザを削除」ダイアログで「OK」をクリックします。

モバイルアカウントのユーザ環境

ログイン時にユーザのリストが表示されるように設定している場合は、ローカルユーザと一緒にモバイルアカウントも表示されます。アカウントを選択して正しいパスワードを入力すると、ログインが完了します。管理されたクライアントの場合、特定のユーザ、グループ、またはコンピュータがログインしたときにモバイルアカウントが作成されるように設定されているときは、ログインウィンドウのアカウントリストにはすべてのユーザが表示されます。アカウントを選択して正しいパスワードを入力すると、ローカルキャッシュに保管されているネットワークアカウントがその場で自動的に作成されます。モバイルアカウントのユーザは、ネットワークから接続を解除しても、モバイルアカウントを使ってログインできます。

モバイルクライアントを管理する

ポータブルコンピュータの設定が完了したら、「ワークグループマネージャ」や「Macintosh マネージャ」のさまざまな機能を使って、ユーザのネットワークサービスへのアクセス権を制限または許可できます。

ネットワークアカウントを持っているユーザは、コンピュータがオープンディレクトリに認識されている場合には、ネットワークアカウント名とパスワードを使って利用可能なリソースにアクセスできます。Mac OS X コンピュータのパフォーマンスを最適化するために、DHCP（「システム環境設定」の「ネットワーク」パネルにあります）および自動検索方式（「ディレクトリアクセス」の「認証」パネルにあります）を使用するように設定してください。Mac OS X バージョン 10.2 以降では、DHCP と自動検索方式がデフォルトで設定されています。デフォルトの設定を変更すると、ネットワークから接続を解除したときに、そのオペレーティングシステムのパフォーマンスが低下することがあります。DHCP と自動検索方式を使ってコンピュータをオープンディレクトリ・サービスにバインドする方法について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

ポータブルコンピュータは持っているがネットワークアカウントを持っていないユーザが、ネットワークリソースにアクセスする必要がある場合には、「ワークグループマネージャ」または「Macintosh マネージャ」を使って、不明なコンピュータ（ゲストコンピュータ）用の設定を適用できます。

不明な Mac OS X ポータブルコンピュータ

Mac OS X システムソフトウェアを実行する自分用のポータブルコンピュータを持っているユーザを管理するときは、「ゲストコンピュータ」アカウントを使用して、ネットワークの不明またはゲストコンピュータにコンピュータレベルの管理を適用できます。これらのユーザが Mac OS X Server のユーザアカウントを使用してログインする場合は、ユーザとグループの管理された環境設定およびアカウント設定も適用されます。

Mac OS X のユーザの「ゲストコンピュータ」アカウントの設定について詳しくは、94 ページの「ゲストコンピュータを管理する」を参照してください。Mac OS 9 システムソフトウェアを使用する不明のポータブルコンピュータの管理について詳しくは、182 ページの「読み込まれていないユーザに簡単にアクセスを提供する」を参照してください。

複数のローカルユーザが使用する Mac OS X ポータブルコンピュータ

共有ポータブルコンピュータの一例は、iBook Wireless Mobile Lab です。iBook Wireless Mobile Lab では、10 台または 15 台の生徒用の iBook（さらにインストラクタ用の iBook が 1 台）、1 台の AirMac ベースステーション、および 1 台のプリンタがすべてモバイルカートに収納されています。このカートを使って、コンピュータを運ぶことができます（たとえば、別の教室へ移動できます）。

カートの iBook を管理する場合は、同一の一般ローカルユーザアカウントを各コンピュータに作成します（たとえば、すべてのアカウントがユーザ名として「Math」を、パスワードとして「student」を使用できます）。歴史のクラス用に 1 つ、生物のクラス用に 1 つというように、さまざまな一般ローカルアカウントを作成できます。各アカウントはホームディレクトリを持つ必要があり、管理者のアクセス権を持つことはできません。サーバ管理者（またはほかの人）に保守作業やアップグレードの実行、ソフトウェアのインストール、およびローカルユーザアカウントの管理を許可するには、各コンピュータの別のローカル管理者アカウントを使用します。

ローカルユーザアカウントを作成した後、各コンピュータをコンピュータリストに追加し、そのリストの環境設定を管理します。一般アカウントの場合、複数のユーザがローカルホームディレクトリに項目を保存できるので、通常のメンテナンスの一部としてそのフォルダを定期的に整理することをお勧めします。

モバイルアカウントは、管理者が作成することもできますが、「ワークグループマネージャ」の環境設定管理を使ってユーザがログインしたときに自動的に作成されるように設定することもできます。

プライマリローカルユーザだけが使用する Mac OS X ポータブルコンピュータ

モバイルアカウントを使用しない単一ユーザ用にポータブルコンピュータを設定する場合には、次の2つの方法があります。

- ユーザに管理者のアクセス権は与えず、ローカルアカウントを与えます。

コンピュータのローカル管理者アカウントを設定してから（このアカウントの情報はユーザには教えないでください）、ユーザのローカルアカウントを設定します。管理者のアクセス権がないローカルアカウントを持つユーザは、ソフトウェアをインストールすることはできず、自分のホームディレクトリ内の項目だけを追加または削除できます。ローカルユーザは、自分のローカルホームディレクトリ内の「パブリック」フォルダを使用して、ほかのローカルユーザと項目を共有できます。

このユーザが持っていたモバイルアカウントは、ローカルアカウントとして機能しますが、ネットワークアカウントとして管理されることがあります。このユーザが既存のネットワークアカウントを持っている場合は、最初にログインしたときにモバイルアカウントが作成されるように、管理された環境設定を変更することができます。

- ユーザをコンピュータの管理者にします。

ユーザがローカル管理者である場合も、管理されないユーザとしてログインできます。たとえば、学校でサーバにアクセスするためにはログイン時に管理されることを選ぶ必要がありますが、自宅では学校のサーバにアクセスできないことがあるため、管理されないほうがよい場合もあります。

ユーザが Mac OS X Server のユーザアカウントも持っていて、ネットワークにアクセスできる場合でも、ネットワークトラフィックを軽減するためには、ローカルアカウントを使ってログインするほうがよいこともあります。この場合、ユーザは、「Finder」の「移動」メニューの「フォルダへ移動」を使って自分のネットワークホームディレクトリに接続し、書類の保管や検索などを行うことができます。

Mac OS 9 ポータブルコンピュータを管理する

Mac OS 9を使用するポータブルコンピュータを設定および管理することができます。Mac OS 9ポータブルコンピュータのユーザには、ネットワークアカウントまたはローカルユーザアカウントを割り当てることができます。「Macintosh マネージャ」の「チェックアウト」機能を利用すれば、割り当てられたポータブルコンピュータを自宅に持ち帰っても、管理されたネットワークに接続していない環境でコンピュータを使用できます。

「Macintosh マネージャ」を使ってポータブルコンピュータを管理する方法については、215 ページの「ポータブルコンピュータを管理する」を参照してください。

ワイヤレスサービスを使用する

AirMac を使うなど、管理されているクライアントにワイヤレスネットワークサービスを提供することができます。ポータブルコンピュータを持つユーザがワイヤレスの通信圏から離れたり、別のディレクトリサーバに切り換える（ワイヤレスの区域の外に移動して別の通信圏に入る）ときは、クライアント管理設定が変更されることがあります。新しい場所からは、ファイルサーバ、プリンタ、共有グループボリュームなどのいくつかのネットワークサービスを使用できなくなります。ユーザは、いったんログアウトしてからもう一度ログインすることで、このような使用できないリソースを消去できます。

AirMac の使用についての詳細情報が必要な場合は、次の Web サイトで AirMac のマニュアルを参照してください：

www.apple.co.jp/airmac

ユーザアカウントは、Mac OS X Server が、ユーザの ID を検証し、サーバ上の特定のファイルへのアクセスなどのサービスやさまざまなサービスが使用する環境設定などをユーザに提供するために必要なデータを保管します。この章では、ユーザアカウントを設定、編集、および管理する方法について説明します。

ユーザアカウントを管理する

このセクションでは、さまざまな種類のディレクトリドメインに保管されているユーザアカウントの管理方法について説明します。

ユーザアカウントの保管場所

ユーザアカウントは、グループアカウントやコンピュータアカウントと同様に、オープンディレクトリドメイン内に保管できます。このドメインには、アカウントにアクセスする Mac OS X コンピュータからアクセスできます。ディレクトリドメインは、Mac OS X コンピュータ（オープンディレクトリのマスター、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメイン）またはアップル以外のサーバ（LDAP または Active Directory サーバなど）に配置できます。

「ワークグループマネージャ」を使用して、すべての種類のディレクトリドメインにあるアカウントを操作できます。ただし、アップデートできるディレクトリドメインは、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインだけです。

オープンディレクトリドメインの種類について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

定義済みのユーザアカウント

次の表は、Mac OS X Server をインストールしたときに自動的に作成されるユーザアカウントのリストです。

定義済みのユーザ名	ショートネーム	UID	用途
anonymous (匿名) FTP ユーザ	ftp	98	anonymous ユーザとして FTP を使用している人に与えられたユーザ名。このユーザは、FTP サーバの電源が入れられた場合、anonymous FTPアクセスが有効になった場合、および anonymous FTP ユーザがまだ存在しない場合に、FTP サーバが初めてアクセスされた時点で作成されます。
Macintosh マネージャユーザ	mmuser	-17	「Macintosh Management Server」が特定のサーバ上で初めて起動されたときに作成されるユーザ。このユーザにはホームディレクトリはありません。パスワードは定期的に変更されます。
MySQL サーバ	mysql	74	MySQL データベースサーバが要求を処理するプロセスのために使用するユーザ。
Sendmail ユーザ	smmsp	25	「Sendmail」を実行しているユーザ。
sshd 特権分離	sshd	75	ネットワークデータを処理する sshd 子プロセスのユーザ
システム管理者	root	0	最も権限のあるユーザ。
システムサービス	daemon	1	従来の UNIX ユーザ。
不明なユーザ	unknown	99	システムがハードディスクを認識しないときに使われるユーザ。
権限を持たないユーザ	nobody	-2	このユーザは、元々はシステムサービスをシステム管理者として実行しなくてもいいように作成されたものです。ただし、現在この目的のためには、WWW サーバのようなサービス固有のユーザが使われることが多くなっています。
WWW サーバ	www	70	Apache が要求を処理するプロセスのために使用する、権限を持たないユーザ。

Mac OS X Server のユーザアカウントを作成する

ディレクトリドメインに新規ユーザアカウントを作成するには、そのドメインの管理者のアクセス権が必要です。

ユーザアカウントを作成するには：

- 1 使用している Mac OS X Server のディレクトリサービスが、対象のドメインにアクセスできるように設定されていることを確認します。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」をクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、ユーザのアカウントを配置するドメインを開きます。

たとえば、「ローカル」、「/NetInfo/root/< ホスト名 >」、および「/NetInfo/DefaultLocalNode」はすべて、ローカルディレクトリドメインを参照します。「/NetInfo/root」は、使用しているサーバがアクセスするように設定されている場合には、共有「NetInfo」ドメインを参照します。サーバがアクセスしない場合には、「/NetInfo/root」はローカルドメインを参照します。

- 4 ディレクトリドメイン管理者として認証されるためにカギをクリックします。
- 5 「サーバ」>「新規ユーザ」と選択するか、ツールバーの「新規ユーザ」をクリックします。
- 6 表示されるタブでユーザの設定を指定します。

詳しくは、57 ページの「ユーザの基本設定を操作する」から 71 ページの「ユーザのプリント設定を操作する」までを参照してください。

新規ユーザは、プリセットや読み込んだファイルを使用して作成することもできます。

詳しくは、55 ページの「プリセットを使用して新規アカウントを作成する」および付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

読み出し／書き込み LDAPv3 ユーザアカウントを作成する

アップル以外の LDAPv3 サーバに書き込みアクセスできる場合は、そのサーバ上にユーザアカウントを作成できます。

LDAPv3 ユーザアカウントを作成するには：

- 1 使用している Mac OS X Server のディレクトリサービスが、ユーザアカウントの LDAP サーバを使用するように設定されていることを確認します。

「ディレクトリアクセス」を使用して LDAP 接続を設定する方法については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。マップが必要なユーザアカウント要素については、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、ユーザのアカウントを配置する LDAPv3 ドメインを開きます。
- 4 認証のためにカギをクリックします。
- 5 「サーバ」>「新規ユーザ」と選択するか、ツールバーの「新規ユーザ」をクリックします。

- 6 表示されるタブでユーザの設定を指定します。詳しくは、57 ページの「ユーザの基本設定を操作する」から 71 ページの「ユーザのプリント設定を操作する」までを参照してください。

新規ユーザは、プリセットや読み込んだファイルを使用して作成することもできます。詳しくは、55 ページの「プリセットを使用して新規アカウントを作成する」および付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

ユーザアカウント情報を編集する

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し／書き込みディレクトリドメインに置かれているユーザアカウントを変更することができます。

ユーザアカウントに変更を加えるには：

- 1 使用している Mac OS X Server のディレクトリサービスが、対象のディレクトリドメインにアクセスできるように設定されていることを確認します。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、ユーザのアカウントの存在するドメインを開きます。
- 4 認証のためにカギをクリックします。
- 5 ユーザボタンをクリックして、操作したいユーザを選択します。
- 6 表示されるタブでユーザの設定を編集します。詳しくは、57 ページの「ユーザの基本設定を操作する」から 71 ページの「ユーザのプリント設定を操作する」までを参照してください。

複数のユーザを同時に編集する

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し／書き込みディレクトリドメインに置かれている複数のユーザアカウントに対して、同じ変更を同時に加えることができます。

複数のユーザを編集するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、対象のディレクトリドメイン内のユーザのリストを表示します。「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックしてから、ユーザリスト内のユーザを選択します。変更する各ユーザアカウントを、コマンドキーを押しながらクリックして選択します。
- 2 目的の操作のタブをクリックし、更新するフィールドに対して必要な変更を加えます。

ユーザアカウント用のプリセットを作成する

ユーザアカウントのプリセットをいくつか作成して、特定のディレクトリドメインの新しいユーザアカウントを作成するときに、それらのプリセットを選択することもできます。

ユーザアカウント用のプリセットを作成するには：

- 1 ユーザアカウントを作成するサーバの「ワークグループマネージャ」を開きます。新規アカウントの作成に使用するプリセットが保管されている Mac OS X ディレクトリドメインまたはアップル以外の LDAPv3 ドメインに、サーバがアクセスできることを確認します。そのドメインにアクセスする必要がある場合は、地球のアイコンをクリックします。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 既存のユーザアカウント内のデータを使用してプリセットを作成するには、そのアカウントを開きます。空のユーザアカウントを使用してプリセットを作成するには、新規ユーザアカウントを作成します。
- 4 新規ユーザアカウントに継承させたい値を、フィールドに入力します。既存のアカウントのプリセットを基にしている場合は、あらかじめ指定したくない値を削除します。
ユーザアカウントのプリセットには次の属性を定義できます：パスワード設定、管理者のアクセス権、ホームディレクトリの設定、割り当て、デフォルトシェル、プライマリグループ ID、所属グループリスト、コメント、ログイン設定、プリント設定、およびメール設定。
- 5 「環境設定」ボタンをクリックし、必要な定義をプリセットに設定して、「アカウント」ボタンを再度クリックします。

プリセットの環境設定を設定したら、「アカウント」設定に戻ってプリセットを保存する必要があります。

- 6 「プリセット」ポップアップメニューで「プリセットを保存」を選択し、プリセットの名前を入力して「OK」をクリックします。

プリセットは、現在のディレクトリドメインに保存されます。

プリセットを使用して新規アカウントを作成する

プリセットを使用すると、新規アカウントに設定を簡単に適用できます。プリセットを適用した新規アカウントの設定は、必要に応じて変更することもできます。

プリセットを使用して新規アカウントを作成するには：

- 1 サーバから「ワークグループマネージャ」を開きます。このサーバが、新規アカウントの作成に使用するプリセットが保管されている Mac OS X ディレクトリドメインまたはアップル以外の LDAPv3 ドメインにアクセスできることを確認します。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、新規アカウントを配置するディレクトリドメインを開きます。
- 4 ディレクトリドメイン管理者として認証されるためにカギをクリックします。
- 5 「プリセット」ポップアップメニューから使用したいプリセットを選びます。ファイルを読み込む場合は、読み込みオプションダイアログでプリセットを選択します。
- 6 新規アカウントを作成します。対話方式を使用するか、読み込みファイルを使用してください。

アカウントの設定がプリセットと読み込みファイルの両方に指定されている場合は、読み込みファイルの値が使用されます。アカウントの設定がプリセットだけに指定され、読み込みファイルに指定されていない場合は、プリセットの値が使用されます。

- 7 必要に応じて属性値を追加または更新します。対話方式または読み込みファイルを使用できます。

プリセット名を変更する

ひな形の設定が簡単に分かるような名前、またはユーザ、グループ、コンピュータアカウントの種類に適したプリセットがすぐに分かるような名前をプリセットに付けます。

プリセット名を変更するには：

- 1 プリセットが定義されているサーバの「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 「プリセット」ポップアップメニューから、「プリセットの名前変更」を選び、新しい名前を入力します。
- 4 「OK」をクリックします。

プリセットを変更する

プリセットを変更しても、プリセットを使って作成された既存のアカウントには、変更は反映されません。

プリセットを変更するには：

- 1 プリセットが定義されているサーバの「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 「プリセット」ポップアップメニューから変更したいプリセットを選びます。
- 4 変更が終わったら、「プリセット」ポップアップメニューの「プリセットを保存」を選択します。

また、プリセットを使用して新規アカウントを作成しているときに、プリセットに定義されているフィールドを変更して保存してもかまいません。

プリセットを削除する

特定のプリセットが不要になった場合は、削除できます。

プリセットを削除するには：

- 1 プリセットが定義されているサーバの「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 「プリセット」ポップアップリストから、「プリセットの削除」を選びます。
- 4 削除したいプリセットを選択し、「削除」をクリックします。

読み出し専用のユーザアカウントを操作する

「ワークグループマネージャ」を使用して、読み出し専用ディレクトリドメインに保管されているユーザアカウントの情報を確認できます。読み出し専用ディレクトリドメインには、LDAPv2 ドメイン、書き込みアクセス用に設定されていない LDAPv3 ドメイン、および BSD 設定ファイルがあります。

読み出し専用ユーザアカウントを操作するには：

- 1 使用している Mac OS X Server のディレクトリサービスが、アカウントが置かれているディレクトリドメインにアクセスできることを確認します。「ディレクトリアクセス」を使用してサーバ接続を設定する方法については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。マップが必要なユーザアカウント要素については、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、ユーザのアカウントの存在するディレクトリドメインを開きます。
- 4 表示されるタブを使用して、ユーザのアカウント設定を確認します。詳しくは、57 ページの「ユーザの基本設定を操作する」から 71 ページの「ユーザのプリント設定を操作する」までを参照してください。

ユーザの基本設定を操作する

基本設定は、すべてのユーザに定義する必要のある属性の集まりです。

「ワークグループマネージャ」では、ユーザアカウントウィンドウの「基本設定」タブを使用して基本設定を操作します。

ユーザ名を定義する

ユーザ名には、「Ellen Brown」や「Dr. Arnold T. Smith」などのフルネームを指定します。ユーザ名は、「ロングネーム」や「実際の」名前と呼ばれることもあります。ユーザは、ユーザアカウントに関連付けられたユーザ名（ショートネーム）を使ってログインできます。

ログインウィンドウでは、ロングネームの大文字／小文字が区別されます。たとえば、ユーザ名が「Mary Smith」の場合は、ログインウィンドウに「MARY SMITH」と入力するとログインに失敗します。ただし、ファイルサーバにアクセスする場合や「Macintosh マネージャ」から Mac OS 9 クライアントにログインする場合に行われるユーザ認証では、大文字／小文字が区別されません。

ロングネームは、255 バイト以下の文字を指定できます。ロングネームは、さまざまな文字セットに対応しています。英数字の最大文字数は 255 文字、3 バイト文字の最大文字数は 85 文字になります。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているアカウントのユーザ名を編集することができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできる任意のディレクトリドメイン内のユーザ名を確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してユーザ名を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ユーザのアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。名前を変更するには、認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「基本」タブの「名前」フィールドで、ユーザ名を確認または編集します。ユーザ名の初期値は、「名称未設定 < 任意の数字 >」です。名前を変更した場合、「ワークグループマネージャ」ではユーザ名が一意かどうかは検証されません。

複数のユーザに同じ名前を割り当てないようにしてください。「ワークグループマネージャ」では、使用しているサーバの検索パスにある特定のドメインにまたはドメインをまたがって重複したユーザ名が割り当てられていないかどうかは検出しますが、検索パスにないドメインについては名前が重複しているかどうかは検出しません。

ユーザ名（ショートネーム）を定義する

ショートネームは、「ebrown」や「arnoldsmith」など、ユーザの短縮名です。ユーザは、そのユーザのアカウントと関連付けられたショートネームまたはユーザ名を使ってログインできます。ショートネームは、Mac OS X ではホームディレクトリおよびグループに対して使われます。

- Mac OS X は、ユーザの AFP ホームディレクトリ（ローカルまたはネットワーク）を自動的に作成するときに、ショートネームを使ってディレクトリの名前を作成します。ホームディレクトリについて詳しくは、第 7 章「ホームディレクトリを設定する」を参照してください。
- Mac OS X は、ユーザが特定のファイルへのアクセスが認証されているグループに属しているかどうかを確認するときに、ショートネームを使用してグループメンバーの UID を検索します。例については 61 ページの「ショートネームの重複を避ける」を参照してください。

1 つのユーザアカウントに対して、最大 16 個のショートネームを関連付けることができます。最初のショートネームは、ホームディレクトリと所属グループのリストで使用されます。

ショートネームには、255 文字以下の英数字を指定できます。ただし、Mac OS X バージョン 10.1.5 以前を使用するクライアントでは、最初のショートネームは 8 文字以内にする必要があります。

最初のショートネームには、次の文字だけを使用してください（2 つ目以降のショートネームには、すべての英数字を使用できます）。

- a ~ z
- A ~ Z

- 0～9
- _ (アンダースコア)
- - (ハイフン)

通常、ショートネームは 8 文字以下にします。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し／書き込みディレクトリドメインに保管されているアカウントのショートネームを編集することができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできる任意のディレクトリドメイン内のショートネームを確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してユーザのショートネームを操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」 ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ユーザのアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。ショートネームを変更するには、認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「基本」 タブの「ユーザ名」 フィールドで、ユーザ名 (ショートネーム) を確認または編集します。ショートネームの初期値は、「名称未設定_< 任意の数字 >」です。複数のショートネームを指定する場合は、1 行に 1 つずつ指定する必要があります。

複数のユーザに同じショートネームを割り当てないようにしてください。「ワークグループマネージャ」では、使用しているサーバの検索パスにある特定のドメインにまたはドメインをまたがって重複したショートネームが割り当てられていないかどうかは検出しますが、検索パスにないドメインについてはショートネームが重複しているかどうかは検出しません。

ユーザのアカウントを保存した後で最初のショートネームを変更することはできませんが、ショートネームのリストにあるほかの名前は変更できます。

変わらないショートネームを選ぶ

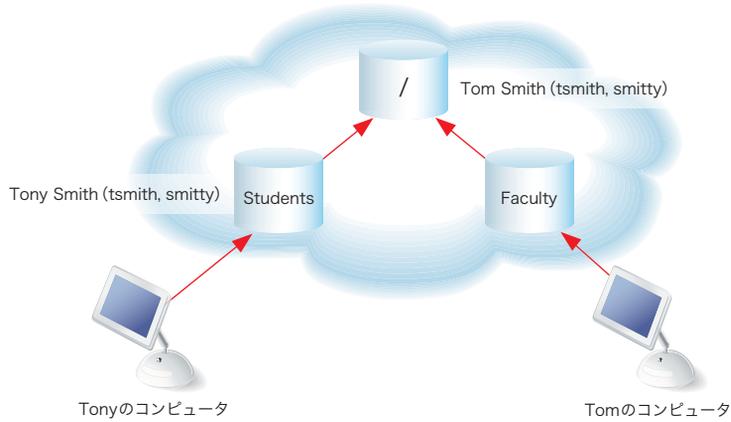
グループを作成すると、Mac OS X が最初のショートネームによってグループ内のユーザを識別します。最初のショートネームを変更することはできません。

ショートネームの変更が避けられない場合は、そのユーザの新しいショートネームを含む新しいアカウントを同じディレクトリドメイン内に作成することはできますが、UID、プライマリグループ、ホームディレクトリなどのその他の情報はすべてそのまま残ります。次に、古いユーザアカウントでのログインを無効にします。このユーザは変更した名前を使ってログインできますが、ファイルやその他のネットワークリソースへのアクセス権は変更されません。(ログイン用のアカウントの使用停止について詳しくは、74 ページの「ユーザアカウントを使用不可にする」を参照してください。)

ユーザ名の重複を避ける

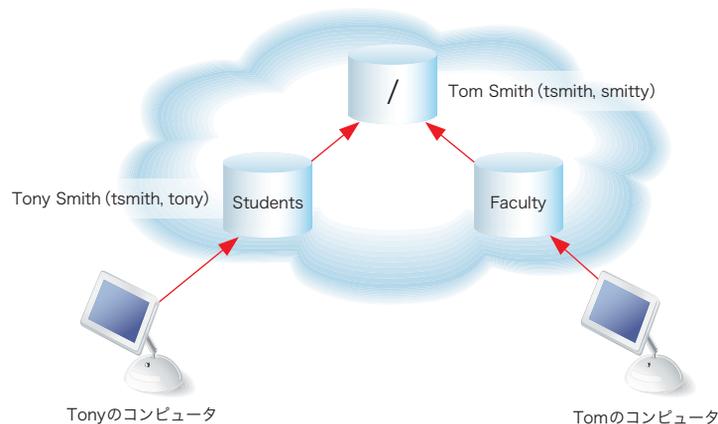
別々のユーザアカウントが同じユーザ名 (ロングネームまたはショートネーム) とパスワードを持っていると、Mac OS X コンピュータが、認証させたいユーザとは別のユーザを認証してしまうことがあります。つまり、認証用に使用すべきユーザレコードをマスクしてしまうことがあります。

3つの共有ディレクトリドメインで構成される環境を使って説明します。Tony Smithが「Students」ドメイン内にアカウントを持ち、Tom Smithがルートドメインにアカウントを持っているとします。両方のアカウントにユーザ名「tsmith」とパスワード「smitty」が含まれているとします。



Tonyがユーザ名「tsmith」とパスワード「smitty」を使って自分のコンピュータにログインすると、Tonyは「Students」ドメイン内のレコードを使って認証されます。同様に、Tomも自分のコンピュータで同じログインエントリを使用でき、ルートドメイン内のTomのレコードを使って認証されます。同じユーザ名とパスワードを使ってTonyがTomのコンピュータにログインし、TomがTonyのコンピュータにログインした場合、認証はされますが、予期した結果は得られません。TonyはTomのファイルにアクセスでき、TomもTonyのファイルにアクセスできる可能性があります。

ここで、TonyとTomのユーザ名（ショートネーム）が同じで、パスワードが異なるとします。



Tom がユーザ名 (ショートネーム) 「tsmith」と自分のパスワード (smitty) を使って Tony のコンピュータにログインしようとする、Tom のユーザレコードは「Students」ドメイン内の Tony のユーザレコードによってマスクされてしまいます。Mac OS X は「Students」ドメインで「tsmith」を探しますが、そのパスワードは Tom がログインに使用したものと一致しません。Tom は Tony のコンピュータへのアクセスが拒否され、ルートドメイン内の Tom のレコードは見つからなくなってしまいます。

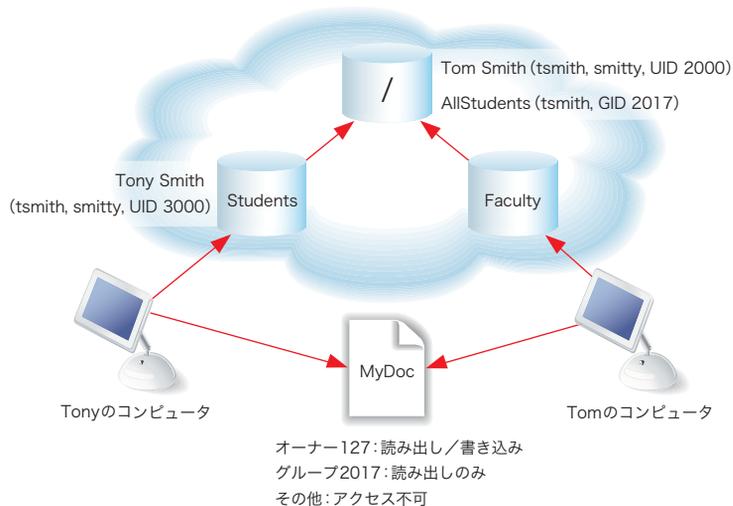
Tony のユーザレコードがローカルディレクトリドメインにも存在し、そのユーザ名とパスワードが「Students」ドメイン内のレコードと同じ場合、Tony の「Students」ドメインのレコードはマスクされます。Tony のローカルドメインは、「Students」ドメインのレコードと区別できる名前とパスワードの組み合わせを提供する必要があります。Tony が「Students」ドメインにアクセスできない場合 (自宅で作業している場合など) は、ローカル名を使ってログインし、自分のコンピュータを操作します。「Students」ドメインとローカルドメインに含まれるユーザレコードの UID が一致する場合、Tony は「Students」ドメインを使ってログインしたときに作成したローカルファイルにアクセスできます。

ユーザ名 (ショートネーム) の重複は、次のセクションで説明するようにグループレコードにも望ましくない影響があります。

ショートネームの重複を避ける

UID はグループメンバーの検索に使われるため、ショートネームが重複していると、アクセス権を与えるつもりのないユーザにファイルのアクセスが許可されてしまうことがあります。

Tony と Tom Smith の例に戻り、彼らのユーザ名 (ショートネーム) が重複しているとします。そして、管理者が、すべての生徒が属しているルートドメイン内にグループを作成したと仮定します。「AllStudents」というグループの GID は 2017 とします。



ここで、Tony と Tom が 2 人ともアクセスできるコンピュータ上に MyDoc というファイルがあると仮定します。このファイルは UID 127 を持つユーザに所有されています。このファイルには AllStudents 用の読み出し専用アクセス権があります。AllStudents には、Tom ではなく Tony が追加されています。しかし、グループのメンバーリストが UID ではなくユーザ名（ショートネーム）で構成され、AllStudents のメンバー名としてユーザ名（ショートネーム）tsmith が使われているので、Tony だけでなく Tom も AllStudents に登録されていることとなります。

Tom が MyDoc にアクセスしようとする、Mac OS X はオーナーのアクセス権は Tom に適用されないと判断してから、グループのアクセス権が Tom に適用されるかどうかを確認します。Mac OS X は、ログイン階層を検索して、AllStudents に関連付けられたユーザ名（ショートネーム）を持つユーザレコードがあるかどうかを確認します。Tom のユーザレコード（ショートネーム tsmith）はログイン階層内にあるために検出され、ユーザレコード内の UID が Tom のログイン UID と比較されます。これらは一致するため、実際には Tom は AllStudents のメンバーではないにも関わらず、Tom に MyDoc の読み出しが許可されてしまいます。

ユーザ ID を定義する

ユーザ ID (UID) は、ユーザを一意に識別する数字です。Mac OS X コンピュータは、UID を使用してユーザのディレクトリおよびファイルの所有権を追跡します。ユーザがディレクトリまたはファイルを作成するとき、UID はクリエイター ID として保管されます。UID を持つユーザには、作成したディレクトリまたはファイルに対する読み出し／書き込みアクセス権がデフォルトで与えられます。

UID は、500 ~ 2,147,483,648 の数値で構成される一意の文字列でなければなりません。複数のユーザに同じ UID を割り当てないようにしてください。複数のユーザが同じ UID を持っている場合、ディレクトリとファイルのアクセス権も同じになるためです。

UID 0 は、ルートユーザ用に予約されています。100 未満の UID は、システム用に予約されています。これらの UID を持つユーザを削除しないでください。また、ルートユーザのパスワードを変更する場合以外は変更しないでください。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されているアカウントの UID を編集できます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内の UID を確認することもできます。

通常は、割り当てられた UID を使ってユーザがファイルとディレクトリをネットワークに作成し始めたなら、その UID はできるだけ変更しないでください。1 つの可能性として、別々のサーバに作成されたユーザを 1 つの新規サーバまたはサーバのクラスタにマージするときは、UID の変更が必要になることがあります。その UID が、マージする前のサーバ上で別のユーザに関連付けられていた可能性があるためです。

ワークグループマネージャを使用して UID を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ユーザのアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。

- 2 UID を変更するには、認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

「基本」タブの「ユーザ ID」フィールドに値を指定する場合は、ユーザがログインする予定のコンピュータの検索方式の中でその値が一意であることを確認します。共有ディレクトリドメインに新規ユーザアカウントを作成しているときは、UID が自動的に割り当てられます。割り当てられる値は、サーバの検索パスで使われていない UID（1025 以上）です。ただし、Mac OS X デスクトップコンピュータの「アカウント環境設定」パネルを使って作成した新規ユーザには、501 以降の UID が割り当てられます。

パスワードを定義する

パスワードサーバの使いかたについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

サーバ用の管理者権限を割り当てる

サーバ管理のアクセス権を持つユーザは、サーバの設定の大部分を制御でき、「サーバ管理」など、ユーザがサーバの admin グループのメンバーでなければ使用できないアプリケーションを使用できます。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインにサーバ管理者のアクセス権を割り当てることができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内のサーバ管理者のアクセス権を確認することもできます。

ワークグループマネージャでサーバ管理者のアクセス権を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」にログインするときに、管理者のアクセス権を許可するサーバの名前または IP アドレスを指定します。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、ユーザのアカウントの存在するディレクトリドメインを開きます。
- 4 アクセス権を変更するには、認証のためにカギをクリックします。
- 5 「基本」タブで「ユーザに許可する操作」の「サーバを管理する」を選択して、サーバ管理者のアクセス権を許可します。

ディレクトリドメイン用の管理者権限を割り当てる

Apple ディレクトリドメインの管理者のアクセス権を持つユーザは、「ワークグループマネージャ」を使用して、そのドメインに保管されているユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントに変更を加えることができます。ユーザが加えられる変更は、管理者が指定するものに限定されます。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されているアカウントに、ディレクトリドメイン管理者のアクセス権を割り当てることができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内のこれらのアクセス権を確認することもできます。

ワークグループマネージャでディレクトリドメイン管理者のアクセス権を操作するには：

- 1 このディレクトリドメインにこのユーザのアカウントがあることを確認してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックしてから、リスト内の項目を選択して、ユーザのアカウントの存在するディレクトリドメインを開きます。
- 4 アクセス権を編集するには、認証のためにカギをクリックします。
- 5 「基本」タブで「ユーザに許可する操作」の「このディレクトリドメインを管理する」を選択して、アクセス権を許可します。
- 6 「アクセス権」をクリックして、ユーザがドメイン内で管理できるものを指定します。デフォルトでは、ユーザはディレクトリドメインのアクセス権を持ちません。
- 7 アクセス権を使ってユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを変更するには、それぞれ、「ユーザ」、「グループ」、または「コンピュータ」タブをクリックします。
- 8 ユーザがアカウントや環境設定を変更できるようにする場合は、該当するチェックボックスをチェックします。チェックボックスがチェックされていない場合、ユーザは「ワークグループマネージャ」でアカウントまたは環境設定情報を表示できますが、変更することはできません。
- 9 ディレクトリドメインに含まれるすべてのユーザ、グループ、またはコンピュータの情報をこのユーザが変更できるようにするには、「すべての～」を選択します。

ユーザが変更できる項目を右側に表示されたリストに制限するには、「下のリスト内の～」を選択します。項目をリストに追加するには、「対象の～」リストに項目をドラッグします。項目をリストから削除するときは、キーボードの delete キーを押します。

- 10 ユーザ、グループ、またはコンピュータのアカウントを追加および削除する権限をこのユーザに許可するには、「～のアカウントを編集する」ボックスをチェックし、「すべての～」を選択します。

ディレクトリドメインがパスワードサーバに関連付けられている場合、そのドメインの管理者をパスワードサーバの管理者に指定できます。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

ユーザの詳細設定を操作する

詳細な設定には、ログイン設定、キーワード、パスワード検証方式、およびコメントが含まれています。

詳細な設定を操作するには、「ワークグループマネージャ」のユーザアカウントウィンドウにある「詳細」タブを使用します。

ログイン設定を定義する

ユーザのログイン設定を指定すると、次の操作を行うことができます。

- ユーザアカウントを使ってユーザを認証できるかどうかを制御します。
- 管理されたユーザが複数の管理されたコンピュータに同時にログインできるようにするかどうかを制御します。

- 管理されたコンピュータのユーザがログイン時にワークグループを選択できるかまたは選択しなければならないか、またはユーザのログイン時にワークグループを表示しないようにするかどうかを指定します。
- コマンドラインを使って Mac OS X とやり取りするときにユーザが使うデフォルトシェル (/bin/csh、/bin/tcsh など) を指定します。このデフォルトのシェルは、ログイン先のコンピュータの「ターミナル」アプリケーションによって使用されます。ただし、「ターミナル」アプリケーションの環境設定では、デフォルトシェルを無効にすることもできます。デフォルトシェルは、ユーザがリモートの Mac OS X コンピュータにログインするときに、SSH (Secure Shell) または Telnet で使用されます。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているアカウントのログイン設定を定義することができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内のログイン設定を確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してログイン設定を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。
アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ユーザのアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。設定を編集するには、認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。
- 2 「詳細」タブをクリックします。
- 3 ユーザが複数の管理されたコンピュータに同時にログインできるようにするには、「同時ログインを許可する」を選択します。(NFS ホームディレクトリを使用するユーザの場合は、同時ログインを使用不可にすることはできません。)
- 4 ユーザが Mac OS X コンピュータにログインするときに使用するデフォルトのシェルを指定するため、「ログインシェル」ポップアップメニューからシェルを選択します。リストにないシェルを入力したい場合は、「カスタム」をクリックします。ユーザがコマンドラインを使ってサーバにリモートアクセスできないようにする場合は、「なし」を使います。

パスワード検証方式を定義する

パスワードの設定および管理について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

キーワードのマスターリストを作成する

キーワードを定義すると、ユーザの検索や並べ替えの速度が向上します。キーワードを使用すれば、グループを作成したり複数のユーザを編集するなどの操作を簡単に行うことができます。

ユーザレコードにキーワードを追加する前に、マスターキーワードリストを作成する必要があります。選択したユーザの「詳細」パネルに表示されるキーワードのリストは、そのユーザだけに適用されます。

マスターキーワードリストを編集するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 編集したいユーザアカウントを選択して、「詳細」をクリックします。

- 3 「定義」をクリックして、マスターキーワードリストを表示します。
マスターリストには、キーワードとして使用できる用語がすべて表示されます。マスターキーワードリストの表示と編集は、すべてのユーザアカウントについて行うことができます。
- 4 マスターリストにキーワードを追加するには、テキストフィールドに用語を入力して、「+」をクリックします。
- 5 マスターリストからキーワードを削除して、さらにそのキーワードを持つすべてのユーザレコードを削除する場合は、「削除されたキーワードをユーザから取り除く」を選択して「-」をクリックします。
マスターリストからキーワードを削除するだけの場合は、「削除されたキーワードをユーザから取り除く」が選択されていないことを確認してから、削除したいキーワードを選択し、「-」をクリックします。
- 6 マスターリストの編集が終わったら、「OK」をクリックします。

ユーザアカウントにキーワードを適用する

一度に複数のユーザにキーワードを追加することはできません。ただし、必要に応じて、キーワードが関連付けられているすべてのユーザからそのキーワードを削除することはできます。

ユーザアカウントごとにキーワードを操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 編集したいユーザアカウントを選択して、「詳細」をクリックします。
- 3 選択したアカウントにキーワードを追加するには、「+」をクリックして、使用できるキーワードのリストを表示します。リストから1つまたは複数の用語を選択して、「OK」をクリックします。
- 4 特定のユーザからキーワードを削除するには、削除したい用語を選択して、「-」をクリックします。
- 5 選択したユーザに対してキーワードを追加または削除したら、「保存」をクリックします。

コメントを編集する

ユーザのアカウントにコメントを保存して、ユーザを管理する際の助けにすることができます。コメントは、半角で32,676文字、全角で16,383文字まで入力できます。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターのLDAPディレクトリ、NetInfoドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているアカウントのコメントを定義することができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内のコメントを確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してコメントを操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。
アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ユーザのアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。コメントを編集するには、認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。
- 2 「詳細」タブをクリックします。
- 3 「コメント」フィールドの内容を編集または確認します。

ユーザのグループ設定を操作する

グループ設定は、ユーザがメンバーになっているグループを識別します。

「ワークグループマネージャ」で、ユーザアカウントウィンドウの「グループ」タブを使用してグループ設定を操作します。

グループの管理について詳しくは、第 5 章「グループアカウントを設定する」を参照してください。

ユーザのプライマリグループを定義する

プライマリグループは、デフォルトでユーザが属しているグループのことです。

プライマリグループの ID は、自分が所有していないファイルにユーザがアクセスするときに、ファイルシステムによって使用されます。ファイルシステムはファイルのグループのアクセス権をチェックし、ユーザのプライマリグループ ID がファイルと関連付けられたグループの ID と一致する場合、そのユーザはグループのアクセス権を継承します。プライマリグループは、ユーザがファイルに対するグループのアクセス権を持つかどうかを、最もすばやく決定できる方法を提供します。

プライマリグループ ID は、一意な一連の数字にする必要があります。デフォルトでは 20（「staff」という名前のグループを示します）ですが、変更可能です。最大値は 2,147,483,648 です。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているアカウントのプライマリグループ ID を定義することができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内のプライマリグループ情報を確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してプライマリグループ ID を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、ユーザのアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。プライマリグループを編集するには、認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「グループ」タブをクリックします。
- 3 「プライマリグループ ID」フィールドの内容を編集または確認します。プライマリグループ ID を入力すると、「ワークグループマネージャ」にそのグループのフルネームとショートネームが表示されます。ただし、そのグループが存在していない場合またはログインしているサーバの検索パスからアクセスできない場合には、グループの名前は表示されません。

ユーザをグループに追加する

複数のユーザに同じファイルへのアクセス権を持たせたい場合や、Mac OS X で複数のユーザの環境設定をワークグループまたはコンピュータリストを使用して管理したい場合は、ユーザをグループに追加します。

ユーザとグループのアカウントがオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されている場合は、「ワークグループマネージャ」を使用してユーザをグループに追加できます。

ワークグループマネージャを使用してユーザをグループに追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「グループ」タブをクリックします。
- 3 「追加」をクリックして、操作しているディレクトリドメイン内に定義されているグループのリストを開きます。（このリストにシステムグループを表示するには、「ワークグループマネージャ」メニューで「環境設定」を選んでから、「システムのユーザとグループを表示」を選択します。）
- 4 グループを選択し、「グループ」タブの「ほかのグループ」リストにドラッグします。

グループアカウントの「メンバー」パネルを使用しても、ユーザをグループに追加できます。

グループからユーザを取り除く

ユーザとグループのアカウントがオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されている場合は、「ワークグループマネージャ」を使用してユーザをグループから取り除くことができます。

ワークグループマネージャを使用してユーザをグループから取り除くには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「グループ」タブをクリックします。
- 3 取り除くユーザが属しているグループを選択し、「取り除く」をクリックします。

グループアカウントの「メンバー」パネルを使って、ユーザをグループに追加することもできます。

ユーザの所属グループを確認する

使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメインにユーザアカウントが保管されている場合は、ユーザが属しているグループを「ワークグループマネージャ」を使用して確認できます。

ワークグループマネージャを使用して所属グループを確認するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「グループ」タブをクリックします。ユーザが属しているグループのうち、プライマリグループが表示され、その他のグループは「ほかのグループ」リストに示されます。

ユーザのホーム設定を操作する

ホーム設定には、ユーザのホームディレクトリ属性を指定します。ホームディレクトリの使用方法と設定について詳しくは、第7章「ホームディレクトリを設定する」を参照してください。

ユーザのメール設定を操作する

Mac OS X Server メールサービスのアカウントを作成するには、ユーザアカウントにそのユーザのメール設定を指定します。そのアカウントを使用するには、メール設定に指定したユーザ名、パスワード、メールサービス、およびメールプロトコルがメールクライアントによって識別されるように設定します。

ユーザのメールサービス設定を操作するには、「ワークグループマネージャ」のユーザアカウントウインドウにある「メール」タブを使用します。

Mac OS X Server メールサービスの設定および管理方法について詳しくは、メールサービス管理ガイドを参照してください。

ユーザのメールサービスを使用不可にする

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインアカウントがに保管されているユーザのメールサービスを使用不可にすることができます。

ワークグループマネージャを使用してユーザのメールサービスを使用不可にするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「メール」タブをクリックします。
- 3 「なし」を選択します。

メールサービスアカウントオプションを使用可能にする

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているユーザアカウントのメールサービスを使用可能にして、メールオプションを設定できます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメインに保管されているアカウントのメール設定を確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してユーザのメールアカウントオプションを操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザーリスト内のユーザを選択します。

- 2 「メール」タブをクリックします。
- 3 このユーザがメールサービスを使用できるようにする場合は、「有効」ボタンを選択します。
- 4 「メールサーバ」の DNS 名または IP アドレスのフィールドに、そのユーザのメールを送受信するメールサーバの有効な名前またはアドレスを入力します。「ワークグループマネージャ」では、これらの情報は検証されません。
- 5 「メールの割り当て」フィールドには、そのユーザのメールボックスの最大サイズ（メガバイト）を指定します。

0 または空値は、使われる割り当てがないことを意味します。ユーザのメッセージ領域がこのメール割り当てに近い場合（またはこの値を超えた場合）、不要なメッセージを削除して領域を解放することを要求するメッセージが、メールサービスによって表示されます。このメッセージには、割り当て情報がキロバイト（KB）またはメガバイト（MB）単位で表示されます。

- 6 「メールアクセス」設定では、このユーザのメールアカウントで使用するプロトコルを選択します。プロトコルには、POP（Post Office Protocol）と IMAP（Internet Message Access Protocol）があります。
- 7 次の機能は、バージョン10.3より前の Mac OS X Server ソフトウェアを使用しているサーバのメールアカウントだけで使用できます。

「オプション」設定で、POP と IMAP の両方を使用してメールにアクセスするメールアカウントの受信箱の特性を選択します。

「POP と IMAP で別の受信箱を使用する」は、POP 用の受信箱と IMAP メール用の別の受信箱を作成します。「IMAP フォルダリストに POP メールボックスを表示する」は、POP Inbox という名前の IMAP フォルダを示します。

新規メールを受信したときにユーザのメールアプリケーションに自動的に通知する場合は、「NotifyMail を許可する」を選択します。通知の送信先の IP アドレスは、ユーザがログインした最後の IP アドレスか、指定するアドレスのいずれかです。

ユーザのメールを転送する

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインにアカウントが保管されているユーザのメール転送を設定できます。

ワークグループマネージャを使用してユーザのメールを転送するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザーリスト内のユーザを選択します。

- 2 「メール」タブをクリックします。
- 3 「転送」を選択し、「転送先」フィールドに転送先のメールアドレスを入力します。正確なアドレスを入力してください。「ワークグループマネージャ」では、そのアドレスが存在するかどうかは検証されません。

ユーザのプリント設定を操作する

プリント設定は、ユーザのアカウントに関連付けられます。そのプリント設定の定義に基づいて、プリントサービスはアクセス可能な Mac OS X Server プリントキューにプリント割り当てを適用し、ユーザはそれらのプリントキューにプリントできます。プリント割り当てを適用したプリントキューの設定方法については、プリントサービス管理ガイドを参照してください。

「ワークグループマネージャ」のユーザアカウントウィンドウにある「プリント」タブを使用して、ユーザのプリント割り当てを操作します。

- 「なし」（デフォルト）を選ぶと、プリント割り当てが適用されるプリントキューにユーザがアクセスできなくなります。
- 「すべてのキュー」を選ぶと、プリント割り当てが適用されるプリントキューのうち、アクセス可能なすべてのプリントキューにユーザがプリントできるようになります。
- 「キューごと」を選ぶと、プリント割り当てが適用される特定のプリントキューにユーザがプリントできるようになります。

割り当てが適用されるプリントキューにユーザがアクセスできないようにする

「ワークグループマネージャ」を使用して、割り当てが適用されるアクセス可能な Mac OS X プリントキューに、ユーザがプリントできないようにすることができます。「ワークグループマネージャ」を使用するときは、ユーザのアカウントがオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されている必要があります。

割り当てが適用されるプリントキューにユーザがアクセスできないようにするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、リスト内の項目を選択して、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「プリント」タブをクリックします。
- 3 「なし」を選択します。

割り当てが適用されるプリントキューにユーザがアクセスできるようにする

「ワークグループマネージャ」を使用して、割り当てが適用されるアクセス可能な Mac OS X プリントキューに、ユーザがプリントできるようにすることができます。「ワークグループマネージャ」を使用するときは、ユーザのアカウントがオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されている必要があります。

割り当てが適用されるプリントキューにユーザのプリント割り当てを設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、リスト内の項目を選択して、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザーリスト内のユーザを選択します。

2 「プリント」タブをクリックします。

設定した割り当てをすべてのキューに適用する場合は、手順 3 に進みます。設定した割り当てを特定のプリントキューに適用する場合は、手順 4 に進みます。

3 「すべてのキュー」をクリックし、割り当てが適用されるプリントキューに一定期間（日）内でプリントできる最大ページ数を指定します。

4 「キューごと」をクリックし、「キュー名」ポップアップメニューを使用してユーザ割り当てを定義したいプリントキューを選択します。指定するプリントキューが「キュー名」ポップアップメニューにない場合は、「追加」をクリックしてキュー名を入力し、キューが定義されているサーバの IP アドレスまたは DNS 名を「プリントサーバ」フィールドに指定します。

ユーザにキューに対する無制限のプリント権限を与えるには、「プリントの制限なし」をクリックします。それ以外の場合は、一定期間（日）内でプリントできる最大ページ数を指定します。「保存」をクリックします。

特定のキューに対するユーザのプリント割り当てを削除する

特定のキューのプリント割り当てが不要になった場合には、そのプリント割り当てをユーザごとに削除することができます。

ワークグループマネージャを使用してユーザのプリント割り当てを削除するには：

1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、リスト内の項目を選択して、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザーリスト内のユーザを選択します。

2 「プリント」タブをクリックします。

3 「キュー名」ポップアップメニューと「プリントサーバ」フィールドを使用して、ユーザのアクセスを不可にしたいプリントキューを識別します。

4 「削除」をクリックします。

ユーザのプリント割り当てを再設定する

プリント割り当てを超えてプリントしなければならないことがあります。たとえば、ある管理者は 200 ページのマニュアルをプリントしたいけれども、プリント割り当てが 150 ページしかありません。また、ある生徒は、作文をプリントすると割り当てを超えてしまうが、新しく書き直した作文をプリントしなければなりません。このような場合には、「ワークグループマネージャ」を使ってプリント割り当てを再設定すれば、こうしたユーザはプリントを続行できます。

ワークグループマネージャを使用してユーザのプリント割り当てを再開するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作対象のユーザアカウントが開いていない場合はそのユーザアカウントを開きます。

アカウントを開くには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、リスト内の項目を選択して、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「プリント」タブをクリックします。

- 3 割り当てが適用されるすべてのプリントキューにプリントできるように設定されている場合は、「プリントの割り当てを再開」をクリックします。

ユーザのプリント割り当てがプリント固有の場合、「キュー名」ポップアップメニューと「プリントサーバ」フィールドを使用してプリントキューを識別し、「プリントの割り当てを再開」をクリックします。

ユーザのページ制限を緩和するとき、割り当て期間を再設定したくない場合は、そのユーザがプリントできるページ数を変更します。この方法で拡張した場合は、割り当て期間は再設定されず同じ値のままですが、その割り当て期間にプリントできるページ数の調整は、現在の期間だけでなく、将来の期間にも適用されます。選択したユーザのページ制限を緩和または強化するときは、「制限するページ数」フィールドに新しい数値を入力して、「保存」をクリックします。

Windows ユーザ用の設定を選択する

Windows オペレーティングシステムを使用するコンピュータを Mac OS X Server ネットワークに統合することができます。Windows コンピュータにアクセスする必要があるユーザごとに、「ワークグループマネージャ」の「Windows」パネルを使って、ユーザアカウントを設定して、必要な設定を選択します。

Windows コンピュータにアクセスするユーザ用の設定の使いかたについて詳しくは、Windows サービスガイドを参照してください。

ゲストユーザを定義する

有効なユーザ名やパスワードを持たないために認証されない「匿名」ユーザをサポートするために、いくつかのサービスを設定できます。匿名ユーザに対応するために、次のサービスを設定できます。

- Windows サービス (ゲストアクセスの設定については、Windows サービスガイドを参照してください)
- Apple ファイルサービス (ゲストアクセスの設定については、ファイルサービス管理ガイドを参照してください)
- FTP サービス (ゲストアクセスの設定については、ファイルサービス管理ガイドを参照してください)
- Web サービス (ゲストアクセスの設定については、Webテクノロジー管理ガイドを参照してください)

匿名でサーバに接続するユーザは、アクセス権が「すべてのユーザ」に設定されたファイル、フォルダ、および Web サイトだけにアクセスが制限されます。

ゲストユーザのもう 1 つの種類は、共有コンピュータや kiosk コンピュータの設定を簡単にするために定義できる管理されたユーザです。これらの種類のユーザについて詳しくは、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」および第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

ユーザアカウントを削除する

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されているユーザアカウントを削除することができます。

警告： この操作を取り消すことはできません。

ワークグループマネージャを使用してユーザアカウントを削除するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、削除したいユーザアカウントを選択します。

アカウントを検索するには、「アカウント」ボタンをクリックしてからツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、リスト内の項目を選択して、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。ユーザリスト内のユーザを選択します。

- 2 「サーバ」>「選択したユーザの削除」と選択するか、ツールバーの「削除」アイコンをクリックします。

ユーザアカウントを使用不可にする

ユーザアカウントを使用不可にするには、次の 2 つの方法があります。

- アカウントを削除する方法（「ユーザアカウントを削除する」を参照してください）
- ユーザのパスワードを不明な値に変更する方法（63 ページの「パスワードを定義する」を参照してください）

グループアカウントを使用すると、類似した要求を持つユーザの集まりを簡単に管理できます。この章では、グループアカウントの設定および管理方法について説明します。

グループアカウントについて

グループアカウントは、グループに属するユーザの ID と、グループのメンバーの作業環境をカスタマイズするための情報を格納します。グループの環境設定を定義するとき、グループはワークグループとして認識されます。

プライマリグループとは、ユーザのデフォルトグループのことです。プライマリグループにより、ユーザがファイルにアクセスするときに Mac OS X ファイルシステムが実行するチェックを迅速に行えます。

グループアカウントを管理する

このセクションでは、さまざまなディレクトリドメインが置かれているグループアカウントを管理する方法について説明します。

グループアカウントの保管場所

グループアカウントは、ユーザアカウントやコンピュータアカウントと同様に、オープンディレクトリドメイン内に保管できます。このドメインには、アカウントにアクセスする Mac OS X コンピュータからアクセスできます。ディレクトリドメインは、Mac OS X コンピュータ（オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメイン）またはアップル以外のサーバ（LDAP または Active Directory サーバなど）に配置できます。

「ワークグループマネージャ」を使って、あらゆる種類のディレクトリドメインのアカウントを操作できます。さまざまな種類のオープンディレクトリドメインについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

定義済みのグループアカウント

次の表は、Mac OS X Server のインストール時に自動的に作成されるグループアカウントのリストです。

定義済みのグループ名	グループ ID	用途
admin	80	管理者のアクセス権を持つユーザが属しているグループ。
bin	7	すべてのバイナリファイルを所有するグループ。
daemon	1	システムサービスが使用するグループ。
dialer	68	サーバ上のモデムへのアクセスを制御するためのグループ。
guest	31	
kmem	2	カーネルメモリへのアクセスの制御に使われる従来のグループ。
mail	6	ローカル UNIX メールへのアクセスに使われてきたグループ。
mysql	74	MySQLデータベースサーバが要求を処理するプロセスのために使用するグループ。
network	69	このグループには明確な意味はありません。
nobody	-2	システムサービスが使用するグループ。
nogroup	-1	システムサービスが使用するグループ。
operator	5	このグループには明確な意味はありません。
smmsp	25	「Sendmail」が使用するグループ。
sshd	75	ネットワークデータを処理する「sshd」子プロセスのグループ。
staff	20	UNIX ユーザが従来属していたデフォルトグループ。
sys	3	このグループには明確な意味はありません。
tty	4	SSH または Telnet ユーザと関連付けられたデバイスファイルなどの、特殊なファイルを所有するグループ。
unknown	99	システムがハードディスクを認識しないときに使われるグループ。
utmp	45	システムにログインしたユーザのリストを更新できるプログラムを制御するグループ。
uucp	66	UUCPスプールファイルへのアクセスを制御するために使用されるグループ。
wheel	0	管理者のアクセス権を持つユーザが属する (admin グループ以外の) もう1つのグループ。
www	70	Apache が要求を処理するプロセスのために使用する、アクセス権を持たないグループ。

Mac OS X Server のグループアカウントを作成する

ディレクトリドメインに新規グループアカウントを作成するには、ディレクトリドメインの管理者のアクセス権が必要です。

グループアカウントを作成するには：

- 1 使用しているMac OS X Serverのディレクトリサービスが、対象のドメインにアクセスできるように設定されていることを確認します。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、グループアカウントを置きたいドメインを開きます。
- 4 ディレクトリドメイン管理者として認証されるためにカギをクリックします。
- 5 グループリストのタブをクリックします。
- 6 「新規グループ」をクリックし、表示されるタブでグループの設定を指定します。

新規グループは、プリセットや読み込みファイルを使用して作成することもできます。詳しくは、「グループアカウント用のプリセットを作成する」および付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

読み出し／書き込み LDAPv3 グループアカウントを作成する

アップル以外の LDAPv3 サーバが書き込みアクセスできるように設定されている場合は、そのサーバにグループアカウントを作成できます。

LDAPv3 グループアカウントを作成するには：

- 1 使用しているMac OS X Serverのディレクトリサービスが、グループアカウントのLDAPサーバを使用するように設定されていることを確認します。「ディレクトリアクセス」を使用してLDAP接続を設定する方法については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。マップが必要なグループアカウント要素については、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、グループアカウントを置きたいLDAPv3ドメインを開きます。
- 4 認証のためにカギをクリックします。
- 5 「サーバ」メニューから「新規グループ」を選びます。
- 6 表示されるタブでグループの設定を指定します。詳しくは、79ページの「グループのメンバー設定を操作する」および81ページの「グループフォルダ設定を操作する」を参照してください。

新規グループは、プリセットや読み込みファイルを使用して作成することもできます。詳しくは、「グループアカウント用のプリセットを作成する」および付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

グループアカウント用のプリセットを作成する

グループアカウントのプリセットを使って、あらかじめ定義した設定を新しいグループアカウントに適用することができます。

グループアカウント用のプリセットを作成するには：

- 1 グループアカウントを作成するサーバの「ワークグループマネージャ」を開きます。新規アカウントの作成に使用するプリセットが保管されている Mac OS X ディレクトリドメインまたはアップル以外の LDAPv3 ドメインに、サーバがアクセスできることを確認します。
- 2 「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 既存のグループアカウント内のデータを使用してプリセットを作成するには、そのアカウントを開きます。空のグループアカウントを使用してプリセットを作成するには、新規グループアカウントを作成します。
- 4 新規グループアカウントに継承させたい値を、フィールドに入力します。既存のアカウントのプリセットを基にしている場合は、あらかじめ指定したくない値を削除します。
- 5 「環境設定」ボタンをクリックし、必要な定義をプリセットに設定して、「アカウント」ボタンを再度クリックします。

プリセットに対する環境設定を設定したら、「アカウント」設定に戻ってプリセットを保存する必要があります。

- 6 「プリセット」ポップアップメニューで「プリセットを保存」を選択し、プリセットの名前を入力して「OK」をクリックします。

グループアカウント情報を編集する

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し／書き込みディレクトリドメインに置かれているグループアカウントを変更することができます。

グループアカウントに変更を加えるには：

- 1 使用している Mac OS X Server のディレクトリサービスが、対象のディレクトリドメインにアクセスできるように設定されていることを確認します。詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、グループアカウントが置かれているドメインを開きます。
- 4 認証のためにカギをクリックします。
- 5 「グループ」ボタンをクリックして、操作したいグループを選択します。
- 6 表示されるタブでグループの設定を編集します。詳しくは、79 ページの「グループのメンバー設定を操作する」および 81 ページの「グループフォルダ設定を操作する」を参照してください。

読み出し専用のグループアカウントを操作する

「ワークグループマネージャ」を使用して、読み出し専用ディレクトリドメインに置かれているグループアカウントの情報を確認できます。読み出し専用ディレクトリドメインには、LDAPv2 ドメイン、書き込みアクセス用に設定されていない LDAPv3 ドメイン、および BSD 設定ファイルがあります。

読み出し専用グループアカウントを操作するには：

- 1 使用している Mac OS X Server のディレクトリサービスが、アカウントが置かれているディレクトリドメインにアクセスできることを確認します。「ディレクトリアクセス」を使用してサーバ接続を設定する方法については、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。マップが必要なグループアカウント要素については、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。
- 2 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」ボタンをクリックします。
- 3 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、グループアカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。
- 4 表示されるタブを使用して、グループのアカウント設定を確認します。詳しくは、「グループのメンバー設定を操作する」および 81 ページの「グループフォルダ設定を操作する」を参照してください。

グループのメンバー設定を操作する

メンバー設定には、グループの名前、ID、グループのメンバーであるユーザのリストが含まれています。

「ワークグループマネージャ」のグループアカウントウィンドウにある「メンバー」タブを使って、メンバー設定を操作します。

「メンバー」リストのユーザの名前が斜体で表示されている場合、そのグループはユーザのプライマリグループです。

ユーザをグループに追加する

複数のユーザに同じファイルアクセス権を持たせたい場合、またはそのユーザを管理されたユーザにしたい場合は、ユーザをグループに追加します。

ユーザアカウントを作成し、新規ユーザをプライマリグループに割り当てると、ユーザは指定するグループに自動的に追加されるため、明示的に追加を指定する必要はありません。それ以外の場合は、ユーザをグループに明示的に追加します。

ユーザとグループのアカウントがオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されている場合は、「ワークグループマネージャ」を使用してユーザをグループに追加できます。

ワークグループマネージャを使用してグループにユーザを追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、対象のグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。アカウントを開くときは、「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。グループリスト内のグループを選択します。
- 2 「メンバー」タブをクリックします。
- 3 「追加」をクリックして、操作しているディレクトリドメイン内に定義されているユーザのリストを開きます。（このリストにシステムユーザを表示するときは、「ワークグループマネージャ」メニューで「環境設定」を選んでから、「システムのユーザとグループを表示」を選択します。）ログインするコンピュータの検索方式に指定されているディレクトリドメインに、グループアカウントが置かれていることを確認します。
- 4 ユーザを選択し、「メンバー」タグの「メンバー」リスト内にドラッグします。

グループからユーザを取り除く

ユーザアカウントとグループアカウントがオープンディレクトリのマスターまたは NetInfo ドメインの LDAP ディレクトリ内に置かれている場合は、「ワークグループマネージャ」を使用して、ユーザのプライマリグループ以外のグループからユーザを取り除くことができます。

ワークグループマネージャを使用してユーザをグループから取り除くには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、対象のグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。

アカウントを開くときは、「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。グループリスト内のグループを選択します。
- 2 「メンバー」タブをクリックします。
- 3 グループから取り除きたいユーザを選択し、「取り除く」をクリックします。

グループに名前を付ける

グループには2つの名前があります。つまり、フルネームとショートネームです。

- フルネーム（「English Department Students」など）は、表示専用で、最大で 255 バイトを指定できます。フルネームは、さまざまな文字セットに対応しています。英数字の最大文字数は 255 文字、3 バイト文字の最大文字数は 85 文字になります。
- グループ名には、255 文字以下の英数字を指定できます。ただし、Mac OS X バージョン 10.1.5 以前を使用するクライアントでは、最初のグループ名は 8 文字以内にする必要があります。グループ名には次の文字だけを使用してください。
 - a～z
 - A～Z
 - 0～9
 - _（アンダースコア）

ショートネームは、通常は 8 文字以下です。ファイルにアクセスできるかどうかをグループを基準にして判断するときは、Mac OS X では、グループ名を使ってグループメンバーの UID を検索します。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているグループアカウントの名前を編集することができます。また、「ワークグループマネージャ」を使用して、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメイン内の名前を確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してグループ名を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、対象のグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。

アカウントを開くときは、「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。名前を変更するときは、認証のためにカギをクリックします。グループリスト内のグループを選択します。

- 2 「メンバー」タブの「名前」または「ユーザ名」フィールドで、名前を確認または編集します。

「ワークグループマネージャ」は、新しい名前を保存する前に、その名前が一意であるかどうかを確認します。

グループ ID を定義する

グループ ID は、グループを一意に識別する ASCII 数字の文字列です。最大値は 2,147,483,648 です。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに保管されているグループアカウントの ID を編集したり、使用中のサーバからアクセスできるディレクトリドメインのグループ ID を確認したりすることができます。

ワークグループマネージャを使用してグループ ID を操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、対象のグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。

アカウントを開くときは、「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。グループ ID を変更するときは、認証のためにカギをクリックします。グループリスト内のグループを選択します。

- 2 「メンバー」タブの「グループ ID」フィールドで、ID を確認または編集します。「ワークグループマネージャ」は、新規グループ ID を保存する前に、使用しているディレクトリドメイン内で一意であることを確認します。

グループフォルダ設定を操作する

特定のグループのメンバーが使用するフォルダを設定できます。グループフォルダは、グループメンバーに対する特殊な用途の書類やアプリケーションを整理する方法を提供し、グループメンバーにそれらの間で情報を受け渡す場所となります。

グループフォルダを設定するときは、「ワークグループマネージャ」のそのグループアカウントのウインドウにある「グループフォルダ」パネルを使って行います。

- 「なし」を選択した場合は、グループフォルダは作成されません。手順については、「グループフォルダを指定しない」（次のセクション）を参照してください。
- 共有ポイントの一覧から選択した共有ポイントにグループフォルダを設定します。定義済みの「グループ」共有ポイントまたはその他の既存の共有ポイントが「グループフォルダ」パネルに表示されない場合は、「ワークグループマネージャ」の共有ウインドウの「ネットワークマウント」パネルで、その共有ポイント用のマウントレコードを作成します。手順については、82 ページの「グループフォルダを既存の共有ポイントに作成する」または 84 ページの「グループフォルダを新しい共有ポイントに作成する」を参照してください。
- 追加ボタン (+) または複製ボタン (コピーアイコン) をクリックして、共有ポイントのサブフォルダにグループフォルダを設定します。詳しくは、85 ページの「既存の共有ポイントのサブフォルダにグループフォルダを作成する」を参照してください。

グループフォルダを指定しない

「ワークグループマネージャ」を使用して、グループアカウントのグループフォルダの設定を「なし」に変更できます。デフォルトでは、新しいグループにグループディレクトリは含まれません。

グループフォルダを持たないように定義するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で「アカウント」をクリックしてから、「グループ」ボタンをクリックします。
- 2 グループアカウントが置かれているディレクトリドメインを開いて、ドメインの管理者として認証します。

ディレクトリドメインを開くために、グループのリストの上にある小さな地球のアイコンをクリックし、ポップアップメニューから選択します。

認証するには、カギをクリックし、そのディレクトリドメインの管理者の名前とパスワードを入力します。
- 3 操作したいグループアカウントを選択します。
- 4 「グループフォルダ」をクリックし、リストから「(なし)」を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

グループフォルダを既存の共有ポイントに作成する

グループのグループフォルダは、既存の共有ポイントに作成できます。つまり、定義済みの共有ポイントである「/Groups」フォルダに作成できます。

/Groups フォルダまたは既存の別の共有ポイントのグループにグループフォルダを設定するには：

- 1 グループアカウントがサーバのローカルディレクトリではなく共有ディレクトリドメインにある場合は、グループフォルダを置きたい共有ポイントにネットワークマウントレコードが作成され、そのレコードをホームディレクトリが使用するように設定されていることを確認してください。

「ワークグループマネージャ」で「共有」をクリックし、「共有ポイント」（左側にあります）をクリックして、表示されたリストから共有ポイントを選択します。次に、「ネットワークマウント」をクリックし、「この共有ポイントのマウントレコードを作成する」と「用途：ユーザのホームディレクトリ」が選択されていることを確認します。これらの設定を変更するときは、「場所」ポップアップメニューを使用して、グループアカウントが置かれているディレクトリドメインを選択し、カギのアイコンをクリックして、ディレクトリドメインの管理者として認証する必要があります。

グループアカウントがサーバのローカルディレクトリドメインにある場合は、共有ポイントのマウントレコードは必要ありません。

- 2 「ワークグループマネージャ」で、対象のグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。

グループアカウントを開くには、アカウントが置かれているサーバに接続します。「アカウント」をクリックし、「グループ」ボタンをクリックします。グループリストの上にある小さな地球のアイコンをクリックし、ポップアップメニューを使用して、グループアカウントが保管されているディレクトリドメインを開きます。カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証してから、グループリストからグループを選択します。

- 3 「グループフォルダ」をクリックして、選択したグループのフォルダを設定します。

- 4 共有ポイントのリストから、使用したい共有ポイントを選択します。

このリストには、接続しているサーバの検索パスに含まれる共有ポイントのうち、ネットワークからアクセスできる自動マウント可能な共有ポイントがすべて表示されます。選択したい共有ポイントが表示されない場合は、「リフレッシュ」をクリックしてみてください。それでも表示されない場合は、その共有ポイントが自動的にマウントされない可能性があります。この場合は、共有ポイントのネットワークマウントレコードをホームディレクトリが使用できるように設定する必要があります。手順 1 を参照してください。

- 5 「オーナー名」フィールドに、グループフォルダのオーナーにしたいユーザの名前を入力します。このユーザは、グループフォルダの管理者となります。

ブラウズボタン (...) をクリックして、現在のディレクトリドメイン内のユーザリストからオーナーを選択します。

グループフォルダのオーナーには、そのグループフォルダに対する読み出し／書き込みのアクセス権が割り当てられます。

- 6 「今すぐフォルダを作成」をクリックしてから、「保存」をクリックします。

グループフォルダの名前は、グループに関連付けられているショートネームを使って作成されます。

グループメンバがログインしたときに、グループフォルダが自動的に表示されるように設定することができます：

- 「Dock」の環境設定を使って、「Dock」にグループフォルダが表示されるように設定できます。詳しくは、131 ページの「グループフォルダに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。
- ログインの環境設定を使って、ユーザが「Finder」の「コンピュータ」をクリックしたときに、グループフォルダの共有ポイントとその下のグループフォルダが表示されるように設定できます。詳しくは、151 ページの「グループ共有ポイントに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。

これらの環境設定を使用するときには、そのグループメンバーのコンピュータの検索方式で、そのグループが共有ドメインに定義されている必要があります。コンピュータの検索方式の設定手順については、オープンディレクトリの管理者ガイドを参照してください。

グループフォルダを自動的に表示しない場合でも、「Finder」の「移動」メニューにある「サーバへ接続」コマンドを使ってグループフォルダが置かれているサーバに移動すれば、グループフォルダにアクセスできます。

グループフォルダを新しい共有ポイントに作成する

「ワークグループマネージャ」を使用して、グループフォルダを新しい共有ポイントに作成できます。

グループフォルダを新しい共有ポイントに作成するには：

- 1 グループフォルダを置きたいサーバに、グループフォルダの共有ポイントとして使用するフォルダを作成します。
- 2 「ワークグループマネージャ」を使って手順1のサーバに接続し、「共有」をクリックします。
- 3 「すべて」（左側のリストの上にあります）をクリックし、共有ポイントに作成したフォルダを選択します。
- 4 「一般設定」パネルで「この項目と内容を共有する」を選択します。
- 5 「グループ」のアクセス権を「読み出し／書き込み」に設定し、「全員」のアクセス権を「読み出し専用」に設定して、「グループ」フィールドの名前を「admin」に変更します。

この段階では、オーナーのアクセス権は設定しません。

- 6 「ネットワークマウント」をクリックし、グループアカウントが置かれているディレクトリドメインの管理者として認証します。
「場所」ポップアップメニューを使用して、グループアカウントが置かれているディレクトリドメインを選択します。次に、カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証します。
- 7 「この共有ポイントのマウントレコードを作成する」と「用途：ユーザのホームディレクトリ」を選択します。
- 8 「保存」をクリックします。
- 9 操作したいグループアカウントが開いていない場合は、「アカウント」をクリックしてそのグループアカウントを開きます。

グループアカウントを開くには、アカウントが置かれているサーバに接続します。「アカウント」をクリックし、「グループ」ボタンをクリックします。グループリストの上にある小さな地球のアイコンをクリックし、ポップアップメニューを使用してグループアカウントが保管されているディレクトリドメインを開きます。カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証してから、グループリストのグループを選択します。

- 10 「グループフォルダ」をクリックし、作成した共有ポイントを選択します。
- 11 「オーナー名」フィールドに、グループフォルダのオーナーにしたいユーザの名前を入力します。このユーザは、グループフォルダの管理者となります。

ブラウズボタン (...) をクリックして、現在のディレクトリドメイン内のユーザリストからオーナーを選択します。

グループフォルダのオーナーには、そのグループフォルダに対する読み出し／書き込みのアクセス権が割り当てられます。

- 12 「今すぐフォルダを作成」をクリックしてから、「保存」をクリックします。

グループフォルダの名前は、グループに関連付けられているショートネームを使って作成されます。

グループメンバがログインしたときに、グループフォルダが自動的に表示されるように設定することができます：

- 「Dock」の環境設定を使って、「Dock」にグループフォルダが表示されるように設定できます。詳しくは、131 ページの「グループフォルダに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。
- ログインの環境設定を使って、ユーザが「Finder」の「コンピュータ」をクリックしたときに、グループフォルダの共有ポイントとその下のグループフォルダが表示されるように設定できます。詳しくは、151 ページの「グループ共有ポイントに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。

これらの環境設定を使用するときには、そのグループメンバのコンピュータの検索方式で、そのグループが共有ドメインに定義されている必要があります。コンピュータの検索方式の設定手順については、オープンディレクトリの管理者ガイドを参照してください。

グループフォルダを自動的に表示しない場合でも、「Finder」の「移動」メニューにある「サーバへ接続」コマンドを使ってグループフォルダが置かれているサーバに移動すれば、グループフォルダにアクセスできます。

既存の共有ポイントのサブフォルダにグループフォルダを作成する

「ワークグループマネージャ」では、共有ポイントの直下以外の場所にもグループフォルダを作成できます。定義した共有ポイントの下に、複数のグループフォルダを作成して、さらにその下にいくつかのサブフォルダを作成することもできます。「Groups」が共有ポイントの場合は、生徒グループのフォルダを「/Groups/StudentGroups」に置き、教師グループのフォルダを「/Groups/TeacherGroups」に置くこともできます。この場合、2年生のグループフォルダのフルパスは、「/Groups/StudentGroups/SecondGrade」になります。

ここで説明する手順では、共有ポイントがすでに存在することを前提としています。共有ポイントがまだ存在していない場合は、84 ページの「グループフォルダを新しい共有ポイントに作成する」の手順に従ってください。ただし、最後の手順で「今すぐフォルダを作成」をクリックしないでください。その後で、以下の手順に従ってください。

既存の共有ポイントのサブフォルダにグループフォルダを設定するには：

- 1 グループアカウントがサーバのローカルディレクトリではなく共有ディレクトリドメインにある場合は、グループフォルダを置きたい共有ポイントにマウントレコードが作成され、そのレコードをホームディレクトリが使用するように設定されていることを確認してください。

「ワークグループマネージャ」で「共有」をクリックし、「共有ポイント」（左側にあります）をクリックして、表示されたリストから共有ポイントを選択します。次に、「ネットワークマウント」をクリックし、「この共有ポイントのマウントレコードを作成する」と「用途：ユーザのホームディレクトリ」が選択されていることを確認します。これらの設定を変更するときは、「場所」ポップアップメニューを使用して、グループアカウントが置かれているディレクトリドメインを選択し、カギをクリックして、ディレクトリドメインの管理者として認証する必要があります。

グループアカウントがサーバのローカルディレクトリドメインにある場合は、共有ポイントのマウントレコードは必要ありません。

- 2 「ワークグループマネージャ」で、対象のグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。

グループアカウントを開くには、アカウントが置かれているサーバに接続します。「アカウント」をクリックし、「グループ」ボタンをクリックします。グループリストの上にある小さな地球のアイコンをクリックし、ポップアップメニューを使用してグループアカウントが保管されているディレクトリドメインを開きます。カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証してから、グループリストのグループを選択します。

- 3 「グループフォルダ」をクリックして、選択したグループのフォルダを設定します。
- 4 グループフォルダの場所を追加するときは、追加ボタン (+) をクリックします。既存のグループフォルダの場所をコピーするときは、複製ボタン (コピーアイコン) をクリックします。

グループフォルダの場所を削除したい場合は、そこを選択して削除ボタン (-) をクリックします。削除できるグループフォルダの場所は、追加ボタンまたは複製ボタンで追加した場所だけです。

- 5 「URL」フィールドに、グループフォルダを置きたい共有ポイントへの完全な URL を入力します。

たとえば、DNS 名が「myserver.example.com」であるサーバ上の「SchoolGroups」という名前の AFP 共有ポイントを入力するときは、「AFP://myserver.example.com/SchoolGroups」と入力します。DNS を使用していない場合は、グループフォルダを管理しているサーバの DNS 名を、サーバの IP アドレスと置き換えます：「AFP://192.168.2.1/SchoolGroups」。

- 6 「パス」フィールドに、共有ポイントからグループフォルダへのパスを入力します。このとき、グループフォルダは入力しますが、共有ポイントは入力しないでください。

たとえば、共有ポイントが「SchoolGroups」で、グループフォルダへのフルパスが「SchoolGroups/StudentGroups/SecondGrade」の場合は、「パス」フィールドに「StudentGroups/SecondGrade」と入力します。

パスの先頭または末尾にスラッシュを入力しないでください。

- 7 「OK」をクリックします。
- 8 「オーナー名」フィールドに、グループフォルダのオーナーにしたいユーザの名前を入力します。このユーザは、グループフォルダの管理者となります。

ブラウズボタン (...) をクリックして、現在のディレクトリドメイン内のユーザリストからオーナーを選択します。

グループフォルダのオーナーには、そのグループフォルダに対する読み出し/書き込みのアクセス権が割り当てられます。

- 9 「今すぐフォルダを作成」をクリックしてから、「保存」をクリックします。

グループメンバとしてログインするユーザに対して、グループフォルダをどのように表示するかを設定します。いくつかの方法があります。

グループメンバがログインしたときに、グループフォルダが自動的に表示されるように設定することができます：

- 「Dock」の環境設定を使って、「Dock」にグループフォルダが表示されるように設定できます。詳しくは、131 ページの「グループフォルダに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。
- ログインの環境設定を使って、ユーザが「Finder」の「コンピュータ」をクリックしたときに、グループフォルダの共有ポイントとその下のグループフォルダが表示されるように設定できます。詳しくは、151 ページの「グループ共有ポイントに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。

これらの環境設定を使用するときには、そのグループメンバーのコンピュータの検索方式で、そのグループが共有ドメインに定義されている必要があります。コンピュータの検索方式の設定手順については、オープンディレクトリの管理者ガイドを参照してください。

グループフォルダを自動的に表示しない場合でも、「Finder」の「移動」メニューにある「サーバへ接続」コマンドを使ってグループフォルダが置かれているサーバに移動すれば、グループフォルダにアクセスできます。

グループアカウントを削除する

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し/書き込みディレクトリドメインに保管されているグループアカウントを削除することができます。

警告： この操作を取り消すことはできません。

ワークグループマネージャを使用してグループアカウントを削除するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、削除したいグループアカウントが開いていない場合はそのグループアカウントを開きます。

アカウントを開くときは、「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、アカウントが置かれているディレクトリドメインを開きます。認証のためにカギをクリックします。グループリスト内のグループを選択します。

- 2 「サーバ」 > 「選択したグループの削除」と選択するか、ツールバーの「削除」アイコンをクリックします。

コンピュータアカウントは、同じ環境設定が割り当てられ、同じユーザとグループによって利用されるコンピュータのリストです。この章では、コンピュータアカウントの設定および管理方法について説明します。

コンピュータアカウントについて

コンピュータアカウントは、「ワークグループマネージャ」で作成および変更できます。設定したコンピュータアカウントは、ウインドウの左側のリストに表示されます。コンピュータアカウントのリストは検索が可能です。設定内容は、ウインドウの右側の「リスト」、「アクセス」、および「キャッシュ」パネルに表示されます。

コンピュータアカウントを設定するときは、コンピュータを識別する方法が決まっていることを確認してください。論理的で覚えやすい説明を使うようにします（たとえば、コンピュータ名を説明として使用できます）。コンピュータのアドレス情報には、「オンボード」または内蔵 Ethernet アドレスを使う必要があります。この情報はコンピュータごとに一意です。クライアントコンピュータは、ユーザのログイン時に、このデータを使用して環境設定情報を検索します。コンピュータをブラウズすると、コンピュータの Ethernet アドレスと名前が「ワークグループマネージャ」によって自動的に入力されます。

コンピュータは、起動時にディレクトリサービスで Ethernet アドレスが格納されているコンピュータアカウントのレコードを調べ、そのコンピュータアカウントの設定を使います。レコードが見つからない場合、コンピュータはコンピュータアカウントの「ゲストコンピュータ」の設定を使います。

ユーザの管理された環境設定は、ユーザのアカウントを作成した後で設定できます。管理された環境設定とその使いかたについて詳しくは、112 ページの「環境設定の管理について」および第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」を参照してください。

ディレクトリドメイン管理者がコンピュータアカウントの編集、リストへのコンピュータの追加と削除、またはコンピュータアカウントの環境設定の編集を行うことができるようにするときは、その管理者にそれらのアクセス権を与える必要があります。すべてのコンピュータアカウントまたは特定のコンピュータアカウントに対する管理者のアクセス権を割り当てることができます。管理者のアクセス権の割り当てについては、第4章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

コンピュータアカウントを作成する

コンピュータアカウントを使って、複数のコンピュータに同じアクセス権と環境設定を割り当てることができます。コンピュータアカウントには、最大で2000のコンピュータを追加できます。

コンピュータリストを設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、新規アカウントを保存したいディレクトリドメインを開いてから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 「サーバ」 > 「新規コンピュータリスト」と選択するか、ツールバーの「新規コンピュータリスト」をクリックして、リストの名前を入力します。
- 6 リストにコンピュータを追加するには、追加ボタンをクリックし、「アドレス」フィールドにコンピュータのEthernetアドレスを入力します。

または、ブラウズボタンをクリックすれば、コンピュータのEthernetアドレスと名前が「ワークグループマネージャ」によって自動的に入力されます。

- 7 「説明」にコンピュータ名などの説明を入力します。
- 8 コメントを入力します。
コメントは、コンピュータの場所、設定（たとえば、特別な必要のある個人用に設定されたコンピュータなど）、または接続されている周辺機器に関する追加情報を提供するのに役立ちます。また、コメントを使って、コンピュータの機種やシリアル番号など、追加の識別情報を提供することもできます。

- 9 コンピュータリストが完成するまで、コンピュータの追加を続けます。
- 10 アカウントを保存します。

参考：コンピュータは複数のリストには所属できず、コンピュータを「ゲストコンピュータ」アカウントに追加することはできません。

コンピュータアカウント用のプリセットを作成する

コンピュータアカウントの設定を選択し、それらの設定を「プリセット」として保存できます。プリセットはひな形のように機能し、事前に選択した設定や情報を新規アカウントに適用できます。プリセットを使用すれば、同じような設定を持つ複数のコンピュータアカウントを簡単に設定できます。プリセットは、アカウントの作成時のみに使用できます。プリセットを使って既存のコンピュータアカウントを変更することはできません。

「リスト」パネルの設定は、コンピュータリストごとに適用され、プリセットには適用されません。

コンピュータアカウント用のプリセットを作成するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、プリセットを使ってコンピュータアカウントを作成したいディレクトリドメインを開いてから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 空のアカウントから新規プリセットを作成するときは、最初に新規コンピュータアカウントを作成します。既存のコンピュータアカウント内のデータを使用してプリセットを作成するときは、そのアカウントを開きます。
- 6 「アクセス」および「キャッシュ」設定パネルで、プリセットで使用したい情報を入力します。
- 7 「プリセット」ポップアップリストから、「プリセットを保存」を選びます。

プリセットを作成すると、プリセットの設定を変更できなくなります。プリセットの削除またはプリセット名の変更はできます。

プリセットの名前を変更するときは、「プリセット」ポップアップメニューからプリセットを選び、「プリセットの名称変更」を選びます。

プリセットを削除するときは、「プリセット」ポップアップメニューからプリセットを選び、「プリセットの削除」を選びます。

コンピュータアカウントのプリセットを使用する

新規コンピュータアカウントを作成するときは、「プリセット」ポップアップメニューからプリセットを選んで初期設定を適用できますが、目的に合わせてアカウント設定を変更することもできます。プリセットは、新規アカウントを作成する前に選択する必要があります。また、アカウントを作成した後で、別のプリセットに切り替えることはできません。アカウントを保存すると、「プリセット」メニューは淡色で表示され、そのアカウント用に再使用することはできなくなります。

コンピュータアカウント用のプリセットを使用するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、新規アカウントを保存したいディレクトリドメインを開いてから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 「プリセット」ポップアップメニューから、使用したいプリセットを選びます。
- 6 新規アカウントを作成します。
- 7 必要に応じて設定を追加または更新してから、アカウントを保存します。

既存のコンピュータアカウントにコンピュータを追加する

既存のリストに簡単にコンピュータを追加できます。ただし、「ゲストコンピュータ」リストにコンピュータを追加することはできません。

リストにコンピュータを追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、追加したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 コンピュータを追加したいアカウントを選びます。
- 6 プリセットを使用したい場合は、「プリセット」ポップアップメニューからプリセットを選択します。
- 7 追加ボタンをクリックし、コンピュータの Ethernet アドレスを「アドレス」フィールドに入力します。
ブラウズボタンをクリックして目的のコンピュータを探して選択した場合、コンピュータの Ethernet アドレスと名前は自動的に入力されます。
- 8 「説明」にコンピュータ名などの説明を入力します。
- 9 コメントを入力します。
コメントは、コンピュータの場所、設定（たとえば、特別な必要のある個人用に設定されたコンピュータなど）、または接続されている周辺機器に関する追加情報を提供するのに役立ちます。また、コメントを使って、コンピュータの機種やシリアル番号など、追加の識別情報を提供することもできます。
- 10 「保存」をクリックします。
- 11 リストが完成するまで、コンピュータと情報の追加を続けます。

コンピュータに関する情報を編集する

コンピュータアカウントにコンピュータを追加すると、必要に応じて情報を編集できます。

コンピュータの情報を変更するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 コンピュータアカウントを選びます。
- 6 「リスト」パネルで情報を編集したいコンピュータを選択し、「編集」をクリックします。
- 7 必要に応じて情報フィールドの情報を変更し、「保存」をクリックします。

コンピュータを別のコンピュータアカウントに移動する

コンピュータのグループを変更したい場合があります。「ワークグループマネージャ」は、コンピュータを別のリストに移動するとき便利です。

コンピュータは複数のリストには所属できず、コンピュータを「ゲストコンピュータ」アカウントに移動することはできません。

コンピュータを別のリストに移動するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 コンピュータアカウントを選びます。
- 6 「リスト」パネルで、移動したいコンピュータを選択し、「編集」をクリックします。
- 7 「リストに移動」ポップアップメニューで新しいコンピュータアカウントを選択し、「OK」をクリックします。
- 8 「保存」をクリックします。

コンピュータアカウントからコンピュータを個別に削除する

コンピュータアカウントからコンピュータを削除すると、そのコンピュータは管理できなくなります。

リストからコンピュータを削除するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 コンピュータアカウントを選びます。
- 6 「リスト」パネルで、そのアカウントのコンピュータリストから1つ以上のコンピュータを選びます。
- 7 「取り除く」をクリックし、「保存」をクリックします。

コンピュータアカウントを削除する

コンピュータアカウントに指定されているコンピュータがすべて必要なくなった場合は、そのアカウントを削除できます。「ゲストコンピュータ」アカウントを削除することはできません。

警告：この操作を取り消すことはできません。

コンピュータアカウントを削除するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックし、「リスト」をクリックします。
- 5 コンピュータアカウントを選びます。
- 6 「サーバ」 > 「選択したコンピュータリストの削除」と選択するか、ツールバーの「削除」をクリックします。

コンピュータアカウントを検索する

「ワークグループマネージャ」には、特定のコンピュータアカウントを検索するための検索機能があります。選択したドメイン内での検索が可能で、検索結果を絞り込むことができます。

コンピュータアカウントを検索するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 3 「アカウント」をクリックし、「コンピュータ」ボタンをクリックします。
- 4 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、検索を絞り込むためにディレクトリドメインを選択します。次のいずれかのオプションから選択します：

ローカルディレクトリ：ローカルボリュームのアカウントレコードだけを検索します。

検索パス：ログインしているコンピュータの「ディレクトリ設定」に定義されたパス（たとえば、`myserver.mydomain.com`）を使って、アカウントレコードを検索します。

その他：利用可能なディレクトリドメインをブラウズおよび選択して、アカウントレコードを検索します。

- 5 必要に応じて、検索フィールドの左にあるフィルタポップアップメニューから追加のフィルタを選びます。
- 6 検索フィールドに、検索する語を入力します。

ゲストコンピュータを管理する

不明のコンピュータ（コンピュータアカウントにないコンピュータ）がネットワークに接続し、ネットワークのサービスにアクセスしようとする場合、そのコンピュータは「ゲスト」として扱われます。不明のコンピュータ、つまり「ゲスト」コンピュータには、「ゲストコンピュータ」用に選んだ設定が適用されます。

多数のコンピュータに対して「ゲストコンピュータ」アカウントを使うことはお勧めできません。大半のコンピュータは正規のコンピュータリストに含めることをお勧めします。

ゲストコンピュータのレコードは、サーバソフトウェアのインストール時に、オリジナルのディレクトリドメイン内だけに自動的に作成されます。後でサーバ管理者が、ほかのディレクトリドメイン内に追加のゲストコンピュータを作成できます。アカウントを作成すると、コンピュータアカウントのリストに「ゲストコンピュータ」が表示されます。

各ディレクトリドメインは、ゲストコンピュータのアカウントを1つだけ持つことができます。ネットワークの編成と設定によっては、特定のディレクトリドメインにゲストコンピュータアカウントを作成できないこともあります。

参考：コンピュータを「ゲストコンピュータ」アカウントに追加または移動することはできず、リスト名は変更できません。

ゲストコンピュータアカウントを設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックします。
- 5 アカウントリストの「ゲストコンピュータ」を選びます。
- 6 「リスト」をクリックしてから、「環境設定」の設定を選択します。

管理された環境設定を設定したい場合は、「定義」を選択します。このオプションを選択した場合は、「保存」をクリックし、手順7に進みます。

ゲストコンピュータに上位層のサーバと同じ環境設定を設定したい場合は、「継承」を選びます。このオプションを選択した場合は、「保存」をクリックします。手順7は必要ありません。

- 7 「定義」を選択した場合は、「アクセス」をクリックし、使用したい設定を選択します。「キャッシュ」をクリックし、環境設定を消去する間隔を設定してから「保存」をクリックします。

「ゲストコンピュータ」アカウントを設定したら、必要に応じてその環境設定を管理できます。管理された環境設定の使用について詳しくは、112ページの「環境設定の管理について」および第9章「Mac OS Xの環境設定の管理」を参照してください。

「ゲストコンピュータ」アカウントの設定または環境設定を選択しない場合、ゲストコンピュータは管理されません。ただし、ゲストコンピュータの使用者が、ユーザまたはグループの管理された環境設定が設定されたMac OS X Serverのユーザアカウントを持っている場合は、ユーザがネットワークに接続してログインするときにそれらの設定が適用されます。

コンピュータに管理者アカウントを持っているユーザの場合も、管理されないユーザとしてログインできます。管理されていないユーザは、「フォルダへ移動」コマンドを使用して、ネットワークのホームディレクトリにアクセスできます。

アクセス設定を操作する

「アクセス」パネルを使って、リスト内のコンピュータをグループ内のユーザが利用できるように設定できます。特定のグループだけにリスト内のコンピュータへのアクセスを許可することも、すべてのグループ（つまりすべてのユーザ）にリスト内のコンピュータへのアクセスを許可することもできます。また、ローカルユーザアクセスの特定の面を制御することもできます。

コンピュータへのアクセスを制限する

特定のユーザだけがアクセスできるようにコンピュータを確保できます。このようにすると、制限付きのリソースへのアクセスを提供するのが容易になります。たとえば、ビデオの読み込みおよび編集に必要なハードウェアとソフトウェアを備えた 2 台のコンピュータがある場合、ビデオの制作を行う必要のあるユーザのためにそれらのコンピュータを確保できます。まずユーザアカウントがあることを確認し、次にユーザを「ビデオ制作」グループに追加して、そのグループだけにビデオ制作コンピュータへのアクセス権を与えます。

参考：ローカル管理者のアカウントを持つユーザは、常にログインできます。

特定のグループ用にコンピュータを確保するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックします。
- 5 コンピュータアカウントを選んでから、「アクセス」をクリックします。
- 6 「以下のグループに限定する」を選びます。
- 7 「追加」をクリックし、1 つ以上のグループを選択してリストにドラッグします。

許可したグループを取り除く場合は、グループを選んで「取り除く」をクリックします。

すべてのユーザがコンピュータを利用できるようにする

どのグループアカウントのどのユーザでも、リスト内のコンピュータを利用できるように設定できます。

すべてのユーザがコンピュータを利用できるようにするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックします。
- 5 コンピュータアカウントを選んでから、「アクセス」をクリックします。
- 6 「すべてのグループがコンピュータを使用できる」を選びます。

ローカルユーザアカウントを使用する

ローカルアカウントは、ユーザが 1 人または複数のときでも、ステーションリおよびモバイルコンピュータで使用できます。クライアントコンピュータにローカル管理者アカウントを持っている場合は、「システム環境設定」の「アカウント」パネルを使用して、ローカルユーザアカウントを作成できます。ローカルユーザはローカルで認証されます。

個々のユーザに専用のポータブルコンピュータ (iBook など) を提供する予定の場合は、ユーザをそのコンピュータのローカル管理者にすることもできます。ローカル管理者は、ローカルまたはネットワークユーザより多くのアクセス権を持ちます。たとえば、ローカル管理者は、プリンタの追加やネットワーク設定の変更を行ったり、コンピュータが管理されないよう決定したりすることができます。

ローカルユーザアカウントの環境設定を管理する最も簡単な方法は、そのローカルアカウントを持つコンピュータとそのコンピュータに割り当てられているワークグループの環境設定を管理することです。

ローカルアカウントを持つユーザにアクセス権を与えるには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「アカウント」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」ボタンをクリックします。
- 5 ローカルユーザを持つコンピュータが含まれるコンピュータアカウントを選んでから、「アクセス」をクリックします。
- 6 選択するアカウントは、ローカルユーザがログインできるものである必要があります。「ユーザにローカルだけのアカウントを許可する」が選択されていることを確認します。
- 7 ローカルユーザがログインしたときに、そのユーザが利用できるすべてのワークグループのリストを表示する場合は、「すべてのグループがコンピュータを使用できる」を選びます。
- 8 特定のワークグループだけを表示する場合は、「以下のグループに限定する」を選び、リストにグループを追加します。
- 9 「保存」をクリックします。

ホームディレクトリは、ユーザの個人的使用のためのフォルダです。Mac OS X ユーザのシステム環境設定や管理されたユーザ設定を保管するためなどに Mac OS X がホームディレクトリを使用することもあります。この章では、ホームディレクトリの設定と管理の概要を説明します。

ホームディレクトリについて

設定したホームディレクトリには、AFP (Apple Filing Protocol) または NFS (Network File System) を使ってアクセスできます。

- プロトコルには、AFP を使うことをお勧めします。AFP では、認証によってアクセスセキュリティが保証されます。ファイルにアクセスするには、有効な名前とパスワードを使ってログインする必要があります。
- NFS ファイルアクセスは、ユーザ認証ではなくクライアント IP アドレスに基づいているため、一般的には AFP より安全性が劣ります。NFS は、UNIX ワークステーションを使用する多くのユーザにホームディレクトリを提供する必要がある場合のみ使用してください。

「ワークグループマネージャ」を使ってホームディレクトリを設定するときは、「アカウント」ウィンドウの「ホーム」パネルを使用します。

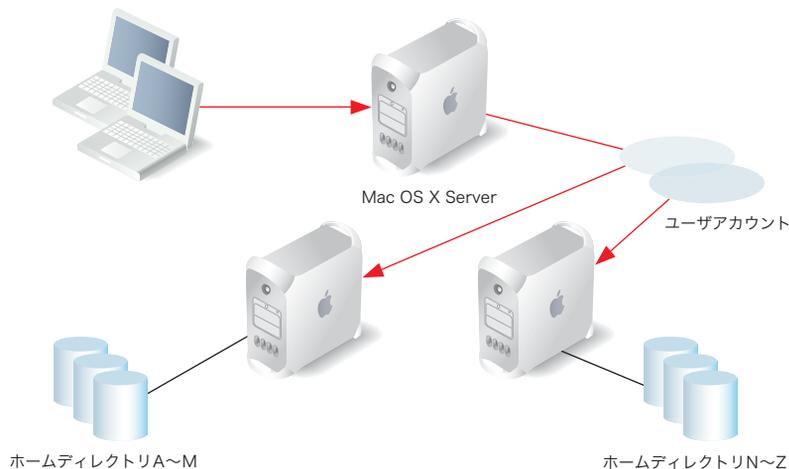
ホームディレクトリの設定は、ファイルから読み込むこともできます。読み込みファイルの操作方法について詳しくは、付録「アカウント情報を読み込む／書き出す」を参照してください。

ユーザのホームディレクトリは、ユーザのアカウントを含むディレクトリドメインと同じサーバ上に保管する必要はありません。むしろ、さまざまなサーバ間にディレクトリドメインとホームディレクトリを分散させると、さまざまなサーバ間で負荷を分散させることができます。このような場合の、いくつかの例を 100 ページの「ホームディレクトリを複数のサーバに分散する」で示しています。

Windowsのプライマリドメインコントローラに割り当てられたサーバ上にユーザアカウントが置かれている場合には、Windows ワークステーションまたはMac OS X コンピュータのどちらからログインしても、「ホーム」パネルで指定したホームディレクトリを使用できます。Windows ワークステーションユーザのホームディレクトリの設定方法について詳しくは、Windows サービス管理ガイドを参照してください。

ホームディレクトリを複数のサーバに分散する

次の図では、1 台の Mac OS X Server にユーザアカウントを保管し、それ以外の 2 つの Mac OS X Server に AFP ホームディレクトリを保管しています。



ログイン時に、ユーザは、アカウントサーバの共有ディレクトリドメインに保管されているアカウントによって認証されます。ユーザのホームディレクトリの場所は、アカウントに保管されていて、そのユーザのホームディレクトリをマウントするために使われます。実際のホームディレクトリは、2 台のホームディレクトリサーバのいずれかに置かれます。

AFP ホームディレクトリの場合は、次の手順で設定します。

手順 1： ユーザアカウントの共有ドメインをアカウントサーバ上に作成します

共有ドメインの作成について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

手順 2： ホームディレクトリの自動マウント可能な共有ポイントを各ホームディレクトリサーバに設定します

自動マウント可能な共有ポイントの設定方法については、後で説明します。

手順 3： アカウントサーバの共有ドメインにユーザアカウントを作成します

アカウントを設定して、いずれかの自動マウント可能な共有ポイントにホームディレクトリを配置する方法については、後で説明します。

ユーザアカウント属性の設定方法については、53 ページの「Mac OS X Server のユーザアカウントを作成する」の手順を参照してください。ホームディレクトリの設定について詳しくは、この章の後の方で説明します。

手順 4：クライアントコンピュータのディレクトリサービスを設定して、アカウントサーバ上の共有ディレクトリドメインをクライアントの検索方式に追加します。

検索方式の設定について詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

コンピュータを再起動してから共有ドメインのアカウントを使ってログインすると、指定したサーバ上にホームディレクトリが自動的に作成され（まだ作成されていない場合）、そのコンピュータ上に表示されます。

ホームディレクトリを指定しない

「ワークグループマネージャ」を使用して、ユーザアカウントのホームディレクトリの設定を「なし」に変更できます。デフォルトでは、新規ユーザにはホームディレクトリはありません。

ホームディレクトリの定義を解除するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」をクリックしてから「ユーザ」ボタンをクリックします。
- 2 ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインを開いて、ドメインの管理者として認証します。

ディレクトリドメインを開くために、ユーザのリストの上にある小さな地球のアイコンをクリックし、ポップアップメニューから選択します。

認証するには、カギのアイコンをクリックし、そのディレクトリドメインの管理者の名前とパスワードを入力します。

- 3 操作したいユーザアカウントを選択します。
- 4 「ホーム」をクリックし、リストから「なし」を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

ローカルユーザのホームディレクトリを作成する

「ワークグループ」を使用して、サーバのローカルディレクトリドメインにアカウントが保管されているユーザに対して、ホームディレクトリを定義できます。ローカルユーザアカウントは、スタンドアロンサーバ（ネットワークからアクセスできないサーバ）で使用したり、サーバ上の管理者アカウントが使用します。

ローカルユーザのホームディレクトリは、ユーザアカウントが置かれているサーバ上の AFP 共有ポイントに保管する必要があります。これらの共有ポイントは、自動マウント可能である必要はありません（ネットワークマウントレコードは必要ありません）。

ローカルユーザアカウントのホームディレクトリを作成するには：

- 1 ホームディレクトリの共有ポイントが、ローカルユーザアカウントが置かれているサーバ上に存在することを確認します。

定義済みの「/Users」共有ポイント、またはサーバ上ですでに定義されているその他の AFP 共有ポイントを使用できます。独自の共有ポイントを定義することもできます。既存の共有ポイントを使用するときは、手順 4 に進んでください。新しい共有ポイントを定義するときは、手順 2 と 3 に進んでください。

ホームディレクトリのディスク割り当ての状況に応じて、ホームディレクトリの共有ポイントは、ほかの共有ポイントと異なるパーティションに設定することができます。詳しくは、109 ページの「ディスク割り当てを設定する」を参照してください。

- 2 必要に応じて、「Finder」を使って共有ポイントとして使用するフォルダを作成します。
- 3 「ワークグループマネージャ」で、ローカルユーザアカウントが置かれているサーバに接続し、「共有」をクリックしてそのフォルダを AFP 共有ポイントとして設定します。

「すべて」（左側のリストの上にあります）をクリックし、そのフォルダを選択します。

「一般」をクリックし、「この項目と内容を共有する」を選択します。

共有ポイントのオーナーとグループの名前を指定します。これらのフィールドに名前を入力するか、「ユーザとグループ」をクリックしたときに開くパネルから名前をドラッグします。

「オーナー」のアクセス権を「読み出し／書き込み」に設定し、「グループ」のアクセス権と「全員」のアクセス権を「読み出し専用」に設定します。

「保存」をクリックします。

- 4 「ワークグループマネージャ」で、「アカウント」をクリックし、操作したいアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。

ローカルユーザアカウントを開くには、「ユーザ」ボタンをクリックします。ユーザリストの上にある小さな地球をクリックし、ポップアップメニューを使ってローカルディレクトリドメインを開きます。カギをクリックし、ローカルディレクトリドメインの管理者として認証してから、ユーザリストからユーザを選択します。

- 5 「ホーム」をクリックして、選択したユーザのホームディレクトリを設定します。

- 6 共有ポイントのリストから、使用したい共有ポイントを選択します。

このリストには、接続しているサーバ上のすべての AFP 共有ポイントが表示されます。

- 7 (省略可能) ディスク割り当てを入力し、MB (メガバイト) または GB (ギガバイト) を指定します。

- 8 「今すぐホームを作成」をクリックし、次に「保存」をクリックします。

「今すぐホームを作成」をクリックしないで「保存」をクリックした場合は、ユーザがクライアントコンピュータを次に再起動してリモートログインしたときに、ホームディレクトリが作成されます。

ホームディレクトリには、ユーザの最初のショートネームと同じ名前が付きます。

- 9 ローカルユーザのホームディレクトリが置かれているサーバ上で、AFP サービスが動作していることを確認します。

AFP サービスの状況を確認するには、「サーバ管理」を開いて、ローカルユーザアカウントが置かれているサーバに接続します。「コンピュータとサービス」リストで「AFP」を選択し、「概要」をクリックします。Apple ファイルサービスが停止している状態の場合は、「サーバ」>「サービスを開始」と選択するか、ツールバーの「サービスを開始」をクリックします。

ネットワークホームディレクトリを変更する

「ワークグループマネージャ」で、共有ディレクトリドメインに保管されているユーザアカウントのネットワークホームディレクトリを設定します。

ユーザのネットワークホームディレクトリは、ユーザのコンピュータがアクセスできる AFP 共有ポイントまたは NFS 共有ポイントに配置できます。この共有ポイントは自動マウント可能でなければなりません。つまり、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインにネットワークマウントレコードが必要です。自動マウント可能な共有ポイントに配置したホームディレクトリは、ログインした Mac OS X コンピュータがその共有ドメインにアクセスするように設定されている場合、「/ ネットワーク /Servers」に自動的に表示されます。ほかのユーザも、「~ <ホームディレクトリ名>」ショートカットを使ってこのホームディレクトリにアクセスできます。

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、または使用中のサーバからアクセスできるほかの読み出し／書き込みディレクトリドメインにアカウントが保管されているユーザに対して、ネットワークホームディレクトリを定義できます。また、「ワークグループグループ」を使用して、アクセス可能な読み込み専用ディレクトリドメインにあるホームディレクトリの情報を確認することもできます。

ネットワークホームディレクトリを AFP または NFS 共有ポイントに作成するには：

- 共有ポイントがホームディレクトリを配置したいサーバ上に存在し、ホームディレクトリが使用するように設定されているネットワークマウントレコードがその共有ポイントにあることを確認します。

手順については、106 ページの「自動マウント可能な AFP 共有ポイントをホームディレクトリに設定する」または 107 ページの「自動マウント可能な NFS 共有ポイントをホームディレクトリに設定する」を参照してください。

- 「ワークグループマネージャ」で、操作したいアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。

ユーザアカウントを開くには、アカウントが置かれているサーバに接続します。「アカウント」をクリックし、「ユーザ」ボタンをクリックします。ユーザリストの上にある小さな地球をクリックし、ポップアップメニューを使ってユーザアカウントが保管されているディレクトリドメインを開きます。カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証してから、ユーザリストのユーザを選択します。

- 「ホーム」をクリックして、選択したユーザのホームディレクトリを設定します。
- 共有ポイントのリストから、使用したい共有ポイントを選択します。

このリストには、接続しているサーバの検索パスに含まれる共有ポイントのうち、ネットワークからアクセスできる自動マウント可能な共有ポイントがすべて表示されます。選択したい共有ポイントが表示されない場合は、「リフレッシュ」をクリックしてみてください。それでも表示されない場合は、その共有ポイントが自動的にマウントされない可能性があります。この場合は、共有ポイントのネットワークマウントレコードをホームディレクトリが使用できるように設定する必要があります。手順1を参照してください。

- 5 (省略可能) ディスク割り当てを入力し、MB (メガバイト) または GB (ギガバイト) を指定します。
- 6 「今すぐホームを作成」をクリックし、次に「保存」をクリックします。

「今すぐホームを作成」をクリックしないで「保存」をクリックした場合は、ユーザがクライアントコンピュータを次に再起動してリモートログインしたときに、ホームディレクトリが作成されます。ホームディレクトリには、ユーザの最初のショートネームと同じ名前が付きまます。

- 7 ユーザがクライアントコンピュータを再起動したときに、共有ポイントを表示できることを確認します。

コマンドラインを使ってサーバにアクセスするためにユーザがSSHを使ってログインした場合には、ユーザのホームディレクトリはマウントされず、ゲストアクセス以外は許可されません。

共有ポイントに置かれているホームディレクトリの場所や名前を詳細に制御したい場合は、追加ボタン (+) または複製ボタン (コピーアイコン) をクリックして、カスタムホームディレクトリを作成します。手順については、「カスタムホームディレクトリを作成する」(次のセクション) を参照してください。

カスタムホームディレクトリを作成する

「ワークグループマネージャ」では、ユーザのホームディレクトリ設定をカスタマイズできます。次のような場合に、ホームディレクトリ設定をカスタマイズします。

- ユーザのホームディレクトリを、ホームディレクトリの共有ポイントの直下以外のディレクトリに配置する場合。たとえば、共有ポイントのホームディレクトリを複数のサブディレクトリに編成する場合などにカスタマイズします。「Homes」がホームディレクトリの共有ポイントの場合は、「Homes/Teachers」に教師のホームディレクトリを配置し、「Homes/Students」に生徒のホームディレクトリを配置することもできます。
- ユーザの最初のショートネームと異なるホームディレクトリ名を指定する場合。

「ワークグループマネージャ」を使用して、サーバのローカルディレクトリドメインまたは使用中のサーバからアクセスできる共有ディレクトリドメインにアカウントが保管されているユーザに対して、カスタムディレクトリを定義できます。共有ディレクトリドメインは、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは別の読み出し/書き込みディレクトリドメインから選択できます。

また、「ワークグループグループ」を使用して、アクセス可能な読み込み専用ディレクトリドメインにあるホームディレクトリの情報を確認することもできます。

ワークグループマネージャを使用してカスタムホームディレクトリを作成するには：

- 1 共有ポイントが存在し、正しく設定されていることを確認します。

ローカルユーザアカウントのホームディレクトリの共有ポイントは、ユーザアカウントが置かれているサーバの AFP 共有ポイントに配置する必要があります。この共有ポイントは、自動マウント可能である必要はありません（ネットワークマウントレコードは必要ありません）。

ユーザアカウントのホームディレクトリが共有ディレクトリドメインに置かれている場合は、ユーザのコンピュータがアクセスできる AFP 共有ポイントまたは NFS 共有ポイントに共有ポイントを配置できます。この共有ポイントは自動マウント可能でなければなりません。つまり、ホームディレクトリには、ネットワークマウントレコードが必要です。

手順については、106 ページの「自動マウント可能な AFP 共有ポイントをホームディレクトリに設定する」または 107 ページの「自動マウント可能な NFS 共有ポイントをホームディレクトリに設定する」を参照してください。

- 2 ホームディレクトリを共有ポイントの下のフォルダのすぐ下に置きたい場合は、「Finder」を使用して、共有ポイントとホームディレクトリを配置する場所の間のパスにすべてのフォルダを作成します。
- 3 「ワークグループマネージャ」で、対象のアカウントが開いていない場合はそのアカウントを開きます。ユーザアカウントを開くには、アカウントが置かれているサーバに接続します。「アカウント」をクリックし、「ユーザ」ボタンをクリックします。ユーザリストの上にある小さな地球をクリックし、ポップアップメニューを使ってユーザアカウントが保管されているディレクトリドメインを開きます。カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証してから、ユーザリストのユーザを選択します。
- 4 「ホーム」をクリックして、選択したユーザのホームディレクトリを設定します。
- 5 カスタムディレクトリの場所を追加するときは、追加ボタン (+) をクリックします。既存のホームディレクトリの場所をコピーするときは、複製ボタン (コピーアイコン) をクリックします。ホームディレクトリの場所を削除したい場合は、そこを選択して削除ボタン (-) をクリックします。削除できるホームディレクトリの場所は、追加ボタンまたは複製ボタンで追加した場所だけです。
- 6 「URL」フィールドに対して、ホームディレクトリを置きたい自動マウント可能な既存の AFP 共有ポイントへの完全な URL を入力します。NFS 共有ポイントの場合は、このフィールドは空白のままにします。

たとえば、AFP 共有ポイントが「Homes」で、DNS を使用している場合は、「AFP://server.example.com/Homes」と入力します。DNS を使用していない場合は、ホームディレクトリを管理しているサーバの DNS 名を、サーバの IP アドレスと置き換えます：
AFP://192.168.2.1/HomesURL の末尾にスラッシュ (/) を付けても付けなくてもかまいません。
- 7 「パス」フィールドに対して、AFP 共有ポイントからホームディレクトリまでのパスを入力します。このとき、ホームディレクトリは含めますが、共有ポイントは含めないでください。NFS 共有ポイントの場合は、このフィールドは空白のままにします。

たとえば、「Teachers/SecondGrade/Smith」と入力します。

パスの先頭または末尾にスラッシュを入力しないでください。
- 8 「ホーム」フィールドにホームディレクトリへのフルパスを入力します。ホームディレクトリまで入力してください。

先頭にスラッシュ (/) を入力し、末尾にはスラッシュを入力しないでください。

ローカルユーザアカウントの例： /Users/Teachers/SecondGrade/Smith

共有ディレクトリドメインのユーザアカウントの例：

/Network/Servers/myServer/Homes/Teachers/SecondGrade/Smith

「/Network/Servers/」の後には、サーバを最初に設定したときに入力したホスト名を入力する必要があります。ホスト名が分からない場合は、「ターミナル」アプリケーションを開き、「hostname」と入力して return キーを押せば、名前が表示されます。

- 9 「OK」をクリックします。
- 10 (省略可能) ディスク割り当てを入力し、MB (メガバイト) または GB (ギガバイト) を指定します。
- 11 「今すぐホームを作成」をクリックし、次に「保存」をクリックします。
このホームディレクトリには、手順 8 で指定した名前が付きます。
「今すぐホームを作成」をクリックしないで「保存」をクリックした場合は、ユーザがクライアントコンピュータを次に再起動してリモートログインしたときに、ホームディレクトリが作成されます。
- 12 ユーザアカウントが共有ディレクトリドメインにある場合は、ユーザがクライアントコンピュータを再起動して、共有ポイントを表示できることを確認してください。

自動マウント可能な AFP 共有ポイントをホームディレクトリに設定する

「ワークグループマネージャ」を使用して、AFP 共有ポイントをホームディレクトリに設定できます。

共有ディレクトリドメイン (オープンディレクトリのマスターなど) に保管されているユーザアカウントのホームディレクトリは、ユーザのコンピュータからアクセスできる AFP 共有ポイントに置くことができます。この共有ポイントは自動マウントでなければなりません。つまり、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインにネットワークマウントレコードが必要です。

自動マウント可能な共有ポイントに配置されたホームディレクトリは、ログインした Mac OS X コンピュータがその共有ドメインにアクセスするように設定されている場合、「/ ネットワーク / Servers」に自動的に表示されます。ほかのユーザも、「~<ホームディレクトリ名>」ショートカットを使ってこのホームディレクトリにアクセスできます。

自動マウント可能な AFP 共有ポイントをホームディレクトリに設定するには：

- 1 ホームディレクトリを置きたいサーバに、ホームディレクトリの共有ポイントとして使用するフォルダを作成します。

管理者ユーザのネットワークホームディレクトリが必要な場合は、別のドライブまたはパーティションに置いて、そのドライブまたはパーティションを共有ポイントにします。通常のユーザには管理者が設定した共有ポイントが表示されますが、管理者にはボリュームのみが共有ポイントとして表示されます。

ホームディレクトリのディスク割り当ての状況に応じて、ホームディレクトリの共有ポイントは、ほかの共有ポイントと異なるパーティションに設定することができます。詳しくは、109 ページの「ディスク割り当てを設定する」を参照してください。

- 2 「ワークグループマネージャ」を使って手順 1 のサーバに接続し、「共有」をクリックします。
- 3 「すべて」（左側のリストの上にあります）をクリックし、共有ポイントに作成したフォルダを選択します。
- 4 「一般設定」パネルで「この項目と内容を共有する」を選択します。
- 5 共有ポイントのオーナーとグループの名前を指定します。これらのフィールドに名前を入力するか、「ユーザとグループ」をクリックしたときに開くパネルから名前をドラッグします。
- 6 「オーナー」のアクセス権を「読み出し／書き込み」に設定し、「グループ」のアクセス権と「全員」のアクセス権を「読み出し専用」に設定してから、「保存」をクリックします。
- 7 「ネットワークマウント」をクリックし、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインの管理者として認証します。

「場所」ポップアップメニューを使用して、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインを選択します。次に、カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証します。
- 8 「この共有ポイントのマウントレコードを作成する」と「用途：ユーザのホームディレクトリ」を選択します。
- 9 「プロトコル」ポップアップメニューが「AFP」に設定されていることを確認し、「保存」をクリックします。
- 10 共有ポイントにゲストアクセスを設定して、別のサーバにホームディレクトリを持つユーザが「~ <ホームディレクトリ名> /Public」ショートカットを使ってホームディレクトリにアクセスできるようにします。

「プロトコル」をクリックして、ポップアップメニューから「Apple ファイル設定」を選択し、「この項目を AFP で共有する」と「AFP ゲストアクセスを許可する」が選択されていることを確認します。（これらのオプションはデフォルトで選択されています。）

「サーバ管理」で、AFP ゲストアクセスが有効になっていることを確認します。ホームディレクトリサーバに接続し、「コンピュータとサービス」リストで「AFP」を選択します。「設定」をクリックしてから「アクセス」をクリックし、「ゲストアクセスを有効にする」が選択されていることを確認します。AFP サービスが実行中であることも確認してください。

自動マウント可能な NFS 共有ポイントをホームディレクトリに設定する

ホームディレクトリにアクセスするときには、セキュリティを重視する場合は、AFP プロトコルを使用することをお勧めします。ただし、「ワークグループマネージャ」を使って、ネットワーク NFS 共有ポイントを設定してホームディレクトリにアクセスすることもできます。NFS 共有ポイントは、共有ディレクトリドメイン（オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリなど）に定義されているユーザのホームディレクトリが使用できます。この共有ポイントは自動マウント可能でなければなりません。つまり、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインにネットワークマウントレコードが必要です。

自動マウント可能な共有ポイントに配置されたホームディレクトリは、ログインした Mac OS X コンピュータがその共有ドメインにアクセスするように設定されている場合、「/ ネットワーク / Servers」に自動的に表示されます。ほかのユーザも、「~ <ホームディレクトリ名>」ショートカットを使ってこのホームディレクトリにアクセスできます。

自動マウント可能な NFS 共有ポイントをホームディレクトリに設定するには：

- 1 ホームディレクトリを置きたいサーバに、ホームディレクトリの共有ポイントとして使用するフォルダを作成します。

管理者ユーザのネットワークホームディレクトリが必要な場合は、別のドライブまたはパーティションに置いて、そのドライブまたはパーティションを共有ポイントにします。通常のユーザには管理者が設定した共有ポイントが表示されますが、管理者にはボリュームのみが共有ポイントとして表示されます。

ホームディレクトリのディスク割り当ての状況に応じて、ホームディレクトリの共有ポイントは、ほかの共有ポイントと異なるパーティションに設定することができます。詳しくは、109 ページの「ディスク割り当てを設定する」を参照してください。

- 2 「ワークグループマネージャ」を使って手順 1 のサーバに接続し、「共有」をクリックします。
- 3 「すべて」（左側のリストの上にあります）をクリックし、共有ポイントに作成したフォルダを選択します。
- 4 「一般」をクリックし、「この項目と内容を共有する」を選択します。
- 5 共有ポイントのオーナーとグループの名前を指定します。これらのフィールドに名前を入力するか、「ユーザとグループ」をクリックしたときに開くパネルから名前をドラッグします。
- 6 「オーナー」のアクセス権を「読み出し／書き込み」に設定し、「グループ」のアクセス権と「全員」のアクセス権を「読み出し専用」に設定してから、「保存」をクリックします。
- 7 「プロトコル」をクリックし、ポップアップメニューから「NFS エクスポート設定」を選びます。
- 8 「この項目とその内容の書き出し先」を選択し、その下のポップアップメニューで「クライアント」が選択されていることを確認します。
- 9 共有ポイントにアクセスできるようにするクライアントコンピュータを追加します。
「コンピュータ」リストを追加したいクライアントの IP アドレスまたはホスト名を入力する場合は、「追加」をクリックします。
選択したアドレスをリストから取り除く場合は、「取り除く」をクリックします。
- 10 共有ポイントのアクセス権を設定します。
「ルートユーザをマップしない」を選択し、その他のボックスの選択を解除します。
- 11 「ネットワークマウント」をクリックし、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインの管理者として認証します。
「場所」ポップアップメニューを使用して、ユーザアカウントが置かれているディレクトリドメインを選択します。次に、カギをクリックし、ディレクトリドメインの管理者として認証します。
- 12 「この共有ポイントのマウントレコードを作成する」と「用途：ユーザのホームディレクトリ」を選択します。
- 13 「プロトコル」ポップアップメニューから「NFS」を選択し、「保存」をクリックします。

ディスク割り当てを設定する

ユーザが自分のホームディレクトリが置かれているパーティション内に所有するファイルの保管に使用できるように、ディスク容量を制限できます。

ディスク割り当ては、ホームディレクトリの共有ポイントまたはホームディレクトリには適用されず、ホームディレクトリの共有ポイントとホームディレクトリが置かれているパーティション全体に適用されます。このため、ユーザが別のユーザのフォルダにファイルを置くと、そのユーザのディスク割り当てに影響することがあります。

- ファイルをユーザの AFP ドロップボックスにコピーするとき、ドロップボックスのオーナーはファイルのオーナーになります。
- ただし、NFS では、ファイルを別のフォルダにコピーするとオーナーはそのまま残り、コピー操作によって特定のパーティションのディスク割り当てが減少します。

ワークグループマネージャを使用してホームディレクトリの共有ポイントのディスク割り当てを設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」で、操作したいアカウントを開きます。
アカウントを開くときは、「アカウント」をクリックし、ツールバーの下にある小さな地球のアイコンをクリックし、ユーザのアカウントを含むディレクトリドメインを開きます。ディスク割り当てを編集するには、認証のためにカギをクリックしてから、ユーザリスト内のユーザを選択します。
- 2 「ホーム」をクリックします。
- 3 「ディスク割り当て」フィールドとその隣のポップアップメニューを使用してディスク割り当てを指定します。
- 4 共有ポイントがマウントされているボリューム上で、指定したディスク割り当てが使用可能になっていることを確認します。
「共有」をクリックし、「すべて」リストでそのボリュームを選択して、「このボリューム上でディスク割り当てを有効にする」を選択します。

プリセットを使用してデフォルトのホームディレクトリを定義する

新規ユーザに使用するデフォルトのホームディレクトリ設定を定義するときは、プリセットを使って事前に定義できます。プリセットの定義と使いかたについて詳しくは、55 ページの「プリセットを使用して新規アカウントを作成する」を参照してください。

ホームディレクトリを移動する

ホームディレクトリを移動する必要がある場合は、新しいホームディレクトリを作成し、既存のホームディレクトリを手動で削除します。既存のホームディレクトリが不要な場合は、そのディスク領域の割り当てを解除します。

ホームディレクトリを削除する

ユーザアカウントを削除しても、関連付けられているホームディレクトリは自動的に削除されません。このホームディレクトリは手動で削除する必要があります。

この章では、Mac OS X クライアント管理の概要について説明します。クライアント管理では、アクセス権を制御したり、ユーザ、グループ、およびコンピュータの環境設定を管理します。

クライアント管理について

Mac OS X のクライアント管理には、次の利点があります。

- ディレクトリサービスの自動設定機能によって、Mac OS X のクライアントコンピュータが使用するディレクトリサービスを自動的に設定できます。
- ユーザ、グループ、およびコンピュータアカウントを更新すると、管理された Mac OS X のユーザに、変更が自動的に継承されます。Mac OS 8 および Mac OS 9 のアカウントは、「Macintosh マネージャ」を使用して個別に更新します。
- 個々のシステム環境設定をより直接的に制御できます。
- ログイン時に、ネットワークホームディレクトリおよびグループディレクトリを自動的にマウントできます。

Mac OS X Server では、Mac OS X のクライアントがアクセスするディレクトリサービスも自動で設定できます。自動ディレクトリサービス設定では、ユーザが Mac OS X コンピュータにログインすると、自動的に、そのユーザのディレクトリサービス設定がネットワークからダウンロードされ、ネットワークアクセス方式、環境設定、およびデスクトップ方式が設定されます。クライアントコンピュータを直接設定する必要はありません。

Mac OS X Server には、Mac OS X アカウントを設定および管理するために、「ワークグループマネージャ」アプリケーションが用意されています。また、「Macintosh マネージャ」をインストールすれば、Mac OS 9 コンピュータ上のアカウントを管理することもできます。

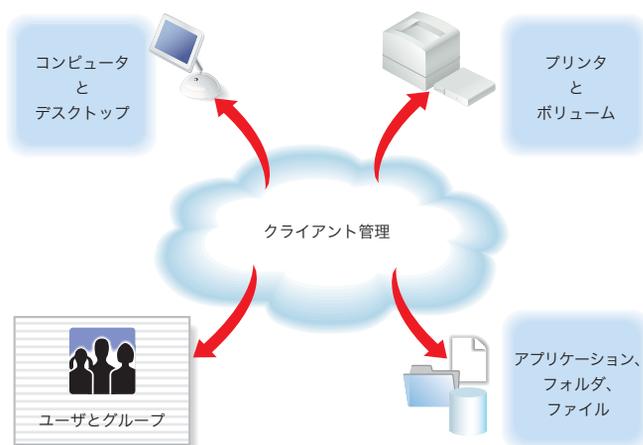
Mac OS X Server の NetBoot およびネットワークインストール機能を使うと、Macintosh クライアントコンピュータで使われるソフトウェアの設定を自動化できます。

アクセス権を制御する

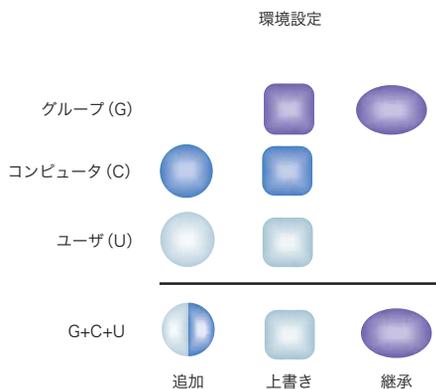
一部の環境設定や設定を管理することによって、ローカル・ハードドライブ、周辺機器（プリンタ、外部ハードドライブ、メディアなど）、フォルダとファイル、ネットワークリソース、およびアプリケーションへのアクセス権を制御できます。

環境設定の管理について

ユーザの管理は、ユーザの個々の設定および環境設定と、ユーザが所属するワークグループや使用しているコンピュータの設定および環境設定を考慮に入れて行います。管理されたクライアントという用語は、アクセス権または環境設定が管理制御下にあるユーザ、グループ、またはコンピュータを指します。クライアントを管理することにより、アプリケーション、リムーバブルメディア、プリンタ、コンピュータ、およびシステムリソースへのユーザアクセスの制御が可能になります。



環境設定の管理設定は、ユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントに適用できます。ユーザが持つ環境設定の最終的なセットは、ユーザ固有のユーザアカウントの環境設定、ログイン時に選んだワークグループの環境設定、および現在ユーザが使っているコンピュータの環境設定を組み合わせたものです。下の図は、管理された環境設定が相互に関連していることを示しています。ある環境設定に選択した設定は、追加されたり（プリンタのリストのように、設定が結合される場合）、上書きされたり（あるレベルに設定した環境設定が、別のレベルで設定した環境設定よりも優先される場合）、継承される（その設定が特定のレベルだけに適用される場合）ことがあります。



ほとんどの環境設定では、ユーザ設定はコンピュータ設定を上書きし、コンピュータ設定はグループ設定を上書きします。このことについて、「Dock 表示」設定を使って説明します。

画面上の「Dock」の位置として、「Workgroup A」には「左」を選択していますが、「Computer 2」を含むコンピュータリストには「下」を選択し、ユーザ「Alice」には「右」を選択するとします。「Alice」が「Computer 2」にログインして「Workgroup A」を選択すると、「Dock」は画面の右側に表示されます。

次に、「Alice」の「Dock 表示」設定を管理しないことにします（タブの上部にある管理設定から「管理対象外」を選択します）。「Alice」が「Computer 2」にログインして「Workgroup A」を選択すると、「Dock」は画面の下に表示されます。

ここで説明した上書きは、「アプリケーション」環境設定の「項目」パネル、「Dock の項目」パネル、「プリンタリスト」パネル、および「ログイン項目」の設定では発生しません。これらの設定では、ユーザ、使用しているコンピュータ、およびログイン時に選択したグループの設定の組み合わせが、そのユーザの最終的な設定になります。このような結果は「付加的」と呼ばれます。「プリント」環境設定を使うと、付加的な結果をうまく説明できます。たとえば、ユーザが利用できるプリンタの最終的なリストは、コンピュータのプリンタリスト、グループのプリンタリスト、およびユーザのプリンタリストを組み合わせたものです。

場合によっては、特定の環境設定を 1 つのタイプのレコードだけに設定するほうが簡単で便利な場合があります。たとえば、プリンタの環境設定はコンピュータだけに設定し、アプリケーションの環境設定はワークグループだけに設定し、「Dock」の環境設定はユーザだけに設定できます。その場合、これらの環境設定の上書きまたは追加は行われません。これは、ユーザがそれらの環境設定を競合することなく継承するためです。

環境設定管理のオプション

ユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントの環境設定を管理するときは、管理バーのラジオボタンを使って、1 回だけ管理するか、常に管理するか、または管理しないかを選択することができます。

環境設定を 1 回だけ管理する

最初にユーザの環境設定を管理し、権限のあるユーザに変更を許可する場合は、管理バーの「1 度」を選びます。ユーザがログインすると、そのユーザのホームディレクトリの環境設定ファイルは「1 度」だけ管理された環境設定で更新されます。これらの環境設定ファイルにはタイムスタンプが付きます。1 回だけ管理された環境設定を更新する場合、「ワークグループマネージャ」は、ユーザが次にログインするときに最新のバージョンをユーザの環境設定ファイルに適用します。

「Classic」環境設定や「メディアアクセス」環境設定などの場合、「1 度」は使用できません。選択できるのは「管理対象外」または「常に確認する」だけです。

環境設定を常に管理する

管理バーで「常に確認する」を選択すると、ユーザに環境設定を強制できます。このユーザが次回ログインしたときの環境設定は、管理者が選択した環境設定になります。常に管理される環境設定は、ユーザが変更することはできません。ユーザがその環境設定にアクセスできる場合でも同様です。たとえば、「ワークグループマネージャ」の「アプリケーション」環境設定の「システム環境設定」パネルにある設定を使って、そのユーザがその環境設定を参照できるようにした場合でも、設定は変更できません。

環境設定を管理しない

環境設定を管理しない場合は、管理バーで「管理対象外」を選択します。ある環境設定をまったく管理しない場合は、その環境設定の管理設定をユーザ、グループ、およびコンピュータレベルで「管理対象外」に設定する必要があります。管理されていない環境設定へのアクセス権をユーザに提供すれば、ユーザは必要に応じて設定を変更できます。

「管理対象外」は、すべての環境設定のデフォルトの設定です。

クライアント管理の例

このセクションでは、管理されたユーザが行う操作の例と、管理された Mac OS X クライアントのサーバ処理について説明します。

ログインする

管理されたクライアントコンピュータが起動すると、ログインダイアログが表示されます。ユーザは、選択されているログイン設定に応じて、自分のユーザ名を入力するか、リストから選びます。ユーザ名とパスワードは、ディレクトリサービス（「ディレクトリアクセス」ユーティリティを使って設定します）によって検証されます。検証が完了すると、そのユーザのワークグループのリストがサーバから返され、ユーザはワークグループを選択します。ユーザの環境、アクセス権、および環境設定は、そのユーザに対して選択されている設定、選択されているワークグループ、およびユーザが使用するコンピュータによって決定されます。

ユーザアカウントの作成時に、ログイン設定によってユーザの環境が決まります。同時ログインを許可すると、ユーザは複数のコンピュータにログインできます。

参考：ほとんどのユーザには、同時ログインは推奨されていません。同時ログインのアクセス権は、技術スタッフや教師などの管理者のアクセス権を持つユーザ用に確保しておくことをお勧めします。

ローカルユーザのワークグループのリストには、そのコンピュータに割り当てられているすべてのワークグループが表示されます。ネットワークユーザのワークグループのリストには、そのユーザアカウントに割り当てられているワークグループと、使用しているコンピュータに割り当てられえいるワークグループが表示されます。アクセスできるワークグループがない場合または 1 つだけしかない場合は、ワークグループを選択するダイアログは表示されず、自動的にログインが進行します。

ホームディレクトリの場所を見つける

ユーザの書類はユーザのホームディレクトリに保管されています。ユーザは「Finder」ウィンドウのツールバーにある「ホーム」アイコンをクリックして、ホームディレクトリにアクセスできます。ホームディレクトリについて詳しくは、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

アプリケーションのある場所

アプリケーションは、ローカルコンピュータのハードディスクに格納する以外に、サーバの共有ポイントに格納することもできます。アプリケーションをローカルコンピュータに格納した場合は、「アプリケーション」フォルダからそのアプリケーションを検索できます。アプリケーションをサーバに格納した場合は、そのサーバに接続してから、アプリケーションを検索して使用する必要があります。特定のアプリケーションを簡単に検索できるようにするには、「ワークグループマネージャ」の「Dock の項目」環境設定を使用して、そのユーザの「Dock」に「マイアプリケーション」フォルダのエイリアスを追加します。「マイアプリケーション」フォルダには、ユーザが開けるアプリケーションのエイリアスが保管されます。

アプリケーションに対するユーザのアクセス権を管理したい場合は、許可されたアプリケーションのリストを「アプリケーション」環境設定に作成します。許可されたアプリケーションのリストの設定については、123 ページの「許可されたアプリケーションのリストを作成する」を参照してください。ユーザの環境が「シンプル Finder」または通常の「Finder」のどちらを使用している場合でも、「Dock」の「マイアプリケーション」フォルダでユーザが検索できるアプリケーションは、許可されたアプリケーションのリストによって決まります。「シンプル Finder」または通常の「Finder」の使いかたについて詳しくは、139 ページの「ユーザ環境を選択する」を参照してください。ユーザの「Dock」の「マイアプリケーション」フォルダまたはほかのフォルダにエイリアスを追加する方法については、131 ページの「ユーザの Dock に項目を追加する」を参照してください。

共有書類を探す

グループの共有ポイントを設定した場合は、ユーザはグループの「書類」フォルダ、およびログイン時に選択したグループの「パブリック」フォルダとドロップボックスにアクセスできます。これらのフォルダは、グループの共有ポイントを設定したときに、自動的に作成されます。グループの「書類」フォルダに簡単にアクセスしたい場合は、「ワークグループマネージャ」の「Dock の項目」環境設定を使用します。詳しくは、131 ページの「グループフォルダに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。グループの「パブリック」フォルダとドロップボックスが含まれるグループボリュームに簡単にアクセスしたい場合は、151 ページの「グループ共有ポイントに簡単にアクセスできるようにする」を参照してください。

この章では、Mac OS X クライアント管理で管理できる設定の概要を説明してから、管理された環境設定を使って Mac OS X のユーザ環境をカスタマイズおよび制御する方法について詳しく説明します。

ワークグループマネージャが Mac OS X の環境設定に従って動作する仕組み

「ワークグループマネージャ」を使うと、管理者はネットワークのユーザの特定のシステム設定を設定およびロックできます。最初に環境設定を設定してユーザにその設定の変更を許可したり、環境設定を常に管理下に置いてユーザに変更を許可しないようにしたり、設定をまったく設けないようにしたりできます。

重要： Mac OS 9 クライアントを管理する必要がある場合は、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」をお読みください。

ユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントのさまざまな設定のほかに、「ワークグループマネージャ」は次の環境設定を制御することもできます。

環境設定パネル	管理対象
アプリケーション	ユーザが使用できるアプリケーション
Classic	Classic の起動設定、スリープの設定、およびコントロールパネルなどの Classic の項目の可用性
Dock	「Dock」の場所、動作、および項目
省エネルギー	ポータブルコンピュータのバッテリーの利用状況と、スリープまたはスリープ解除オプション
Finder	「Finder」の動作、デスクトップの外観と項目、および「Finder」のメニューコマンドの可用性
インターネット	メールアカウントの環境設定および Web ブラウザの環境設定
ログイン	ログインウィンドウの外観、マウントされるボリューム、およびユーザのログイン時に自動的に開く項目
メディアアクセス	CD、DVD、および記録可能なディスクの設定と、ハードディスクやフロッピーディスクなどの内部および外部ディスクの設定

環境設定パネル	管理対象
モバイルアカウント	ログイン時のモバイルアカウントの作成
プリンタ	利用可能なプリンタおよびプリンタへのアクセス権
システム環境設定	ユーザがアクセスできるシステム環境設定
ユニバーサルアクセス	マウスやキーボードの動作を制御する設定、ディスプレイ設定を拡張する設定、および特別な操作方法を必要とするユーザのためにサウンドまたはスピーチを調整する設定

環境設定を管理する

「ワークグループマネージャ」では、ユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントに関する情報がディレクトリサービスに統合されます。アカウントを設定した後で、アカウントの環境設定を管理できます。環境設定を管理することにより、特定のシステム環境設定の制御、およびシステム環境設定、アプリケーション、プリンタ、およびリムーバブルメディアへのユーザアクセスの制御を行うことができます。ユーザ、グループ、またはコンピュータレコードでの設定および環境設定についての情報は、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリなどの、「ワークグループマネージャ」にアクセスできるディレクトリドメインに保管されています。グループの環境設定は、グループボリュームに保管されます。ユーザの環境設定は、ユーザのホームディレクトリ（Mac OS X クライアントの「ホーム」フォルダ）に保管されます。

ユーザ、グループ、およびコンピュータのアカウントを作成した後、「ワークグループマネージャ」の「環境設定」パネルを使って、それらのアカウントの環境設定の管理を始めることができます。Mac OS X クライアントの環境設定を管理する場合は、管理したいユーザごとにネットワークホームディレクトリまたはローカルホームディレクトリがあることを確認する必要があります。ユーザのグループボリュームの設定方法またはホームディレクトリの設定方法については、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

参考：ユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントの環境設定を管理しているときには、「環境設定」パネルの管理された環境設定の横に矢印のアイコンが表示されて、その環境設定が管理中であることが分かります。複数のユーザ、グループ、またはコンピュータを選択して、管理された環境設定を確認することもできます。矢印のアイコンが淡色で表示されている場合には、選択した項目の管理された環境設定は混在状態です。

環境設定のキャッシュについて

環境設定のキャッシュには、コンピュータが属しているコンピュータアカウントの環境設定、そのコンピュータに関連付けられているグループの環境設定、およびそのコンピュータに最近ログインしたユーザの環境設定が保管されます。これらの環境設定がキャッシュに保管されると、「ワークグループマネージャ」がオフライン環境でユーザを管理する方法が変わります。また、環境設定のキャッシュを使用することで、パフォーマンスが向上する場合があります。

ポータブルコンピュータ上のローカルユーザアカウントがネットワークに接続していないときでも、アカウントを管理するためにキャッシュされた環境設定が役立つことがあります。たとえば、管理したいコンピュータのセット用のアカウントを作成してから、そのコンピュータアカウントの環境設定を管理するとします。次に、グループに対して管理しているコンピュータを使用できるようにしてから、そのグループの環境設定を管理します。最後に、それらのコンピュータ上でローカルユーザのアカウントを設定します。これで、ユーザがオフラインに移動したりネットワークから接続を解除した場合でも、ユーザはキャッシュ内のコンピュータおよびグループの環境設定によって管理されることとなります。

キャッシュされたアカウント情報に影響する変更を適用した場合には、「ワークグループマネージャ」はそのような変更が発生したことを示す「フラグ」をオープンディレクトリに設定します。ユーザがログインすると、クライアントはフラグが設定されたアカウントを自動的に更新します。別のツールを使ってディレクトリサービスを管理する場合でも、「ワークグループマネージャ」を使って一定の間隔でキャッシュを更新できます。

参考：アカウントの設定または環境設定を変更すると、環境設定のキャッシュが自動的に更新されます。新しい環境設定は、ユーザ次回ログインしたときに有効になります。

管理された環境設定のキャッシュを一定の間隔で更新する

ユーザの管理された環境設定のキャッシュは、定期的に更新できます。この設定は、コンピュータアカウントだけに適用されます。コンピュータは、設定したスケジュールに従って、更新された環境設定がないかどうかサーバをチェックします。

管理された環境設定のキャッシュの更新間隔を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、変更したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」タブをクリックし、リスト内のコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「キャッシュ」をクリックします。
- 6 キャッシュの更新間隔を示す数字を入力し、次にポップアップメニューから更新間隔（秒、分、時、日、または週）を選びます。たとえば、5日ごとにキャッシュを更新するように設定できます。
- 7 「保存」をクリックします。

管理された環境設定のキャッシュを手動で更新する

必要に応じて、選択したコンピュータリスト内の各コンピュータの管理された環境設定のキャッシュを、手動で更新できます。

管理された環境設定のキャッシュを空にするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいコンピュータアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。

- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「コンピュータ」タブをクリックし、リストからコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「キャッシュ」をクリックしてから、「キャッシュを更新」をクリックします。

クライアントコンピュータ上のキャッシュを直接更新することもできます。

ローカル管理者の名前とパスワードを使ってクライアントコンピュータに shift キーを押しながらログインし、表示されたダイアログの「環境設定を更新」をクリックします。

ユーザの環境設定を管理する

ユーザの環境設定は、必要に応じて個別に管理します。ただし、ユーザ数が多い環境では、ほとんどの環境設定はグループまたはコンピュータ単位で管理した方が効率的な場合があります。その場合、ユーザレベルの環境設定の管理は、特定のユーザ（ディレクトリドメイン管理者、教師、技術スタッフなど）だけに行います。

また、どの環境設定をユーザの制御下に置いたままにするかも検討する必要があります。たとえば、ユーザが「Dock」をどこに表示してもかまわない場合は、「Dock 表示」管理を「管理対象外」または「1 度」に設定する方がよい場合があります。

ユーザの環境設定を管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、該当するユーザアカウントを含むディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 「ユーザ」をクリックして、アカウントリスト内のユーザアカウントを選びます。
- 5 管理したい環境設定のアイコンをクリックします。
- 6 その環境設定のそれぞれのタブで、管理する設定を選びます。次に、環境設定の設定を選び、使用したい情報を入力します。

一部の管理設定は、特定の環境設定では利用できないことがあります。また、一部の環境設定は、特定の種類のアカウントでは利用できないことがあります。「プリント」および「メディアアクセス」の環境設定では、1 つの管理設定にすべての環境設定オプションを割り当ててください。

- 7 選択が終わったら、「今すぐ適用」をクリックします。

グループの環境設定を管理する

グループの環境設定は、グループのすべてのユーザ間で共有されます。一部の環境設定を個々のすべてのユーザに設定する代わりにグループだけに設定すると、特に管理するユーザの数が多いときに時間を節約できます。

ユーザはワークグループをログイン時に選択できるため、現在のタスク、場所、または環境に適した管理設定を持つグループを選ぶことができます。グループのメンバーごとに環境設定を個別に設定する代わりに、1つのグループ用に環境設定を一度設定する方がより効率的です。

参考：ユーザが一度にアクセスできるワークグループは、最大 16 個です。この点を考慮して管理する必要があります。

グループの環境設定を管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストのグループアカウントを選びます。
- 5 管理したい環境設定のアイコンをクリックします。
- 6 その環境設定のそれぞれのタブで、管理する設定を選びます。次に、環境設定の設定を選び、使用したい情報を入力します。

一部の管理設定は、特定の環境設定では利用できないことがあります。また、一部の環境設定は、特定の種類のアカウントでは利用できないことがあります。「プリント」および「メディアアクセス」の環境設定では、1つの管理設定にすべての環境設定オプションを割り当ててください。

- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

コンピュータの環境設定を管理する

コンピュータの環境設定は、リスト内のすべてのコンピュータ間で共有されます。場合によっては、ユーザやグループではなくコンピュータの環境設定を管理する方が便利な場合があります。

コンピュータの環境設定を管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、該当するユーザアカウントを含むディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストのコンピュータアカウントを選びます。
- 5 その環境設定のそれぞれのタブで、管理する設定を選びます。次に、環境設定の設定を選び、使用したい情報を入力します。

一部の管理設定は、特定の環境設定では利用できないことがあります。また、一部の環境設定は、特定の種類のアカウントでは利用できないことがあります。「プリント」および「メディアアクセス」の環境設定では、1つの管理設定にすべての環境設定オプションを割り当ててください。

- 6 その環境設定のそれぞれのタブで、使いたい設定を選びます。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

複数のレコードの環境設定を編集する

複数のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントの環境設定を、一度に編集できます。複数のアカウントのいくつかの設定が同じではない場合は、「混在状態」のつまみ、ラジオボタン、チェックボックス、テキストフィールド、またはリストが表示されることがあります。つまみ、ラジオボタン、およびチェックボックスの場合は、選択したすべてのアカウントの設定が同じではないことがダッシュによって示されます。テキストフィールドの場合は、「複数選択」が混在状態を示します。リストには、選択したすべてのアカウントの項目の組み合わせが表示されます。

混在状態の設定を調整する場合は、選択する新しい設定をすべてのアカウントが持つこととなります。たとえば、「Dock」サイズの設定がそれぞれ異なっている 3 つのグループアカウントを選択するとします。これらのアカウントの「Dock 表示」環境設定を見ると、「Dock サイズ」つまみは中心に置かれ、上にダッシュが付いています。「Dock サイズ」つまみの状態を「大」に変更すると、選択したすべてのアカウントの「Dock」サイズが大になります。

特定の環境設定の管理を停止する

アカウントの管理された環境設定を設定した後は、管理する設定を「管理対象外」に設定することによって、特定の環境設定パネルの管理を停止できます。

環境設定の管理を必要に応じて停止するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 現在管理している環境設定のアイコンをクリックします。
- 6 管理を停止したい環境設定を含むタブをクリックします。
「プリント」および「メディアアクセス」の環境設定には、タブごとの管理設定バーはありません。代わりに、1 つの管理バーがタブの上に表示され、選択した管理設定がその環境設定のすべてのオプションに適用されます。
- 7 管理設定バーで「管理対象外」を選びます。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

環境設定管理の設定を変更すると、使用中の環境設定パネルにあるすべての項目に新しい設定が適用されます。個々の環境設定（「Dock」など）の管理をすべて停止したい場合は、その環境設定の各パネルで管理設定が「管理対象外」に設定されていることを確認します。

アプリケーションへのアクセスを管理する

「アプリケーション」パネルの設定を使って、アプリケーションにアクセスする権限をユーザに設定します。ユーザが開くことができる「許可された」アプリケーションのリストを作成できます。これにより、ユーザにローカルボリューム上の項目を開くことを許可できます。

許可されたアプリケーションのリストを作成する

ユーザがアプリケーションにアクセスする権限は、2種類の方法を使って制御できます。つまり、ユーザが開くことができる「許可された」アプリケーションを選択してそれらにアクセス権を与えるか、「許可されない」アプリケーションを選択してユーザがそれらを開くことを制限します。

「許可された」アプリケーションまたは「許可されない」アプリケーションのリストを作成するときは、「アプリケーション」環境設定を使用します。許可されないアプリケーションのリストを作成した場合、ユーザはこのリストに含まれないアプリケーションをすべて開くことができます。許可されたアプリケーションのリストを作成した場合、ユーザはこのリストに含まれるアプリケーションだけを開くことができます。ただし、アプリケーションがリストに含まれていない「ヘルパーアプリケーション」を開くようにすることはできません。

グループまたはコンピュータアカウントの「アプリケーション」環境設定の「項目」設定を管理することによって、アプリケーションを複数のユーザが使用できるようにすることができます。また、この環境設定を個々のユーザ用に設定することもできます。

ユーザのリストにアプリケーションを追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「アプリケーション」環境設定アイコンをクリックしてから、「項目」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 目的に応じてアクセス制限方法を選択し、その方法に応じて「ユーザが使用できるアプリケーション」または「ユーザが使用できないアプリケーション（これ以外は使用可）」を選択します。
- 8 「追加」をクリックして目的のアプリケーションをブラウズしてから、リストに追加します。
複数の項目を選ぶときは、コマンドキーを押したままにします。
- 9 リストへのアプリケーションの追加が終わったら、「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザがローカルボリューム上のアプリケーションを開けないようにする

ローカルボリュームへのアクセス権を持っているユーザは、コンピュータのローカルハードディスクのアプリケーションと、CD や DVD などの外部ディスクの許可されたアプリケーションにアクセスすることができます。これらのアプリケーションにアクセスできないようにするため、ローカルボリュームへのアクセスを禁止することができます。

ローカルアプリケーションへのアクセスを禁止するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「アプリケーション」環境設定アイコンをクリックしてから、「項目」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 「ユーザはローカルボリュームのすべてのアプリケーションを使用できる」の選択を解除します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

ヘルパーアプリケーションへのアプリケーションのアクセスを管理する

アプリケーションが単独で完了できないタスクを処理するために、「ヘルパーアプリケーション」が使用されることがあります。たとえば、ユーザがメールメッセージ内の Web リンクを開こうとする場合に、メールアプリケーションは Web ブラウザアプリケーションを開いて Web ページを表示する必要があります。

アプリケーションリストをユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントで利用する場合、共通のヘルパーアプリケーションをそのリストに含めることができます。たとえば、メールアプリケーションへのアクセス権をユーザに与える場合は、Web ブラウザ、PDF ビューア、およびピクチャビューアを追加して、メールコンテンツまたは添付ファイルを開いて表示するときに問題が発生するのを防ぐことができます。

「アプリケーション」環境設定で「許可された」項目のリストを設定するときに、「許可された」項目のリストに含まれていないヘルパーアプリケーションを使うことをアプリケーションに許可するかどうかを選択できます。

ヘルパーアプリケーションへのアクセスを管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「アプリケーション」環境設定アイコンをクリックしてから、「項目」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 許可されたアプリケーションのリストをまだ作成していない場合は、ここで作成します。

「ユーザが使用できるアプリケーション」を選択します。

リストに追加したいアプリケーションをブラウズする場合は、「追加」をクリックします。リストからアプリケーションを取り除くには、目的の名前を選び、「取り除く」をクリックします。ヘルパーアプリケーションを許可するときは、それらもリストに追加されていなければなりません。

- 8 「使用可能アプリケーションから使用不可アプリケーションを起動することを許可する」を選ぶと、ヘルパーアプリケーションへのアクセスが許可されます。アクセスを禁止するときは、このオプションの選択を解除します。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

UNIX ツールの操作を制御する

オペレーティングシステムまたは一部のアプリケーションでは、「QuickTime Image Converter」など、アプリケーション以外のツールを使用しなければならないことがあります。これらのツールには直接アクセスできません。これらのツールは通常、バックグラウンドで自動的に動作します。ただし、ターミナルなどのコマンドラインインタフェースを使って起動することもできます。

このようなツールへのアクセス権を許可しない場合は、一部のアプリケーションが適切に機能しないことがあります。これらのツールを使用可能にすると、アプリケーションの互換性と操作の効率が増しますが、セキュリティを重視する場合は使用不可にすることをお勧めします。

UNIX ツールへのアクセスを許可するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「アプリケーション」環境設定アイコンをクリックしてから、「項目」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 UNIX ツールへのアクセスを許可するときは、「UNIX ツールの実行を許可する」を選択します。アクセスを禁止するときは、このオプションの選択を解除します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

Classic の環境設定を管理する

「Classic」環境設定は、Classic の起動オプションを設定したり、Classic システムフォルダを選んで Classic 環境のスリープオプションを設定したりするのに使います。ユーザが特定のアップルメニュー項目を利用できるようにすることもできます。

次の表に、Classic の各パネルで設定可能な内容を示します。

Classic 環境設定のパネル	設定対象
起動	「起動」設定では、Classic システムフォルダを指定したり、Classic の起動時に実行する動作を定義できます。
詳細	Classic の「詳細」環境設定を使うと、アップルメニューの項目、Classic のスリープ設定、および機能拡張を停止したり起動時に Classic のデスクトップファイルを再構築したりするユーザ権限を制御できます。

Classic の起動オプションを選択する

「ワークグループマネージャ」では、Classic 環境を起動する方法とタイミングをさまざまな方法で制御できます。ユーザが Classic で動作するアプリケーションを頻繁に操作する必要がある場合は、ユーザのログイン直後に Classic が起動するようにすると便利です。ユーザが Classic をほとんど使用しない場合は、Classic アプリケーションを開く場合または Classic アプリケーションを必要とする書類を開くときにだけ、Classic を起動することができます。Classic が起動したことを示す警告と、起動をキャンセルできるオプションを表示することもできます。

Classic のさまざまな起動オプションを操作するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「Classic」環境設定アイコンをクリックしてから、「起動」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。

- 7 ユーザがログインしたときに Classic をすぐに起動する場合は、「ログイン時に Classic を起動する」を選択します。ログインしたときに Classic を起動すると、起動ウィンドウが非表示になるため、ユーザは Classic の起動をキャンセルできません。

ユーザがほとんど Classic を使用しない場合は、このオプションの選択を解除すれば、Classic を必要とする書類またはアプリケーションを開いたときに、Classic が自動的に起動します。この場合、Classic の起動ウィンドウが表示されるため、ユーザは Classic の起動をキャンセルすることができます。

- 8 ユーザが Classic アプリケーションまたは書類を開いたときにだけ Classic を起動させる場合に、警告ダイアログを表示するときは、「Classic 起動時に警告する」を選択します。

ユーザは、Classic の起動を続行するかキャンセルするかを選択できます。ユーザに Classic の起動を中断させたくない場合は、このオプションの選択を解除します。

- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

Classic のシステムフォルダを選ぶ

ほとんどのコンピュータでは、Mac OS 9 システムフォルダは、Mac OS X の起動ディスク上に 1 つだけ作成されます。このような環境では、特定の Classic システムフォルダを指定する必要はありません。コンピュータの起動ディスクに複数の Mac OS 9 システムフォルダが存在する場合に、特定のシステムフォルダへのパスが設定されていないときは、エラーメッセージが表示され、Classic は使用できません。

コンピュータの起動ディスクに複数の Mac OS 9 システムフォルダが存在する場合、または別のディスクにある Mac OS 9 システムフォルダを使用したい場合は、Classic を使用するときに特定のシステムフォルダを指定する必要があります。そのシステムフォルダへのパスを指定する場合には、Mac OS 9 システムフォルダがすべてのクライアントのハードディスク上で相対的に同じ位置にある必要があります。

Mac OS 9 システムフォルダが複数存在する環境で、「Classic」環境設定の「起動」パネルに特定のシステムフォルダを設定していない場合でも、Classic システムの環境設定へのアクセス権を持っているユーザは、特定の Mac OS 9 システムフォルダを選択することもできます。

特定の Classic システムフォルダを選ぶには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「Classic」環境設定アイコンをクリックしてから、「起動」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 使用したい Classic システムフォルダへのパスを入力（指定するパスに誤りがないか確認します）するか、「選択」を使用して目的のフォルダをブラウズします。

クライアントコンピュータの Classic システムフォルダへのパスが、管理用コンピュータの Classic システムフォルダへのパスと同じであることを確認してください。

- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

再起動時の特別な操作を許可する

管理されたユーザが Classic システムの環境設定へのアクセス権を持っている場合には、「Classic」パネルの「起動」または「再起動」ボタンをクリックして、Classic を起動または再起動できます。Classic システムの環境設定の「詳細」タブから Classic を起動または再起動するユーザに対して、機能拡張を停止したり、Classic デスクトップファイルを再構築するなど、特別な操作の実行を許可することができます。技術スタッフのメンバーのような特定のユーザにのみ、この権限を許可することができます。

再起動時の特別な操作を許可するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリスト内のユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選びます。
- 5 「Classic」環境設定アイコンをクリックしてから、「詳細」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 「特別な起動モードを許可する」を選びます。
- 8 Classic デスクトップファイルの再構築をユーザに許可したい場合は、「デスクトップの再構築をユーザに許可する」を選びます。このオプションの選択を解除すると、Classic システムの環境設定の「詳細」タブにある「デスクトップを再構築」ボタンが使用不可になります。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

Classic のアップルメニュー項目へのアクセス権を制御する

Classic の管理された環境設定では、Mac OS 9 の「コントロールパネル」、「セレクト」、「ネットワークブラウザ」など、Classic のアップルメニューに含まれる特定の項目へのアクセス権を制御できます。アップルメニューに含まれる項目のすべてまたは一部を表示または隠すことができます。

特定の項目を隠した場合、ユーザはアップルメニューからその項目にアクセスできなくなります。ただし、Mac OS 9 システムフォルダから「セレクト」を開始するなど、別の方法を使ってアクセスできます。アップルメニューの項目へのアクセス権を詳細に制限したい場合は、「ワークグループマネージャ」の「アプリケーション」環境設定を使って、ユーザが開けるアプリケーションまたは開けないアプリケーションを設定できます。詳しくは、123 ページの「アプリケーションへのアクセスを管理する」を参照してください。

参考：「セレクト」へのアクセス権を許可しないと、プリンタ管理も同時に適用されている場合に、クライアントの Classic 環境からプリントしようとしたときの動作が変わることがあります。ユーザが「セレクト」にアクセスできない場合には、新しいプリンタを設定できなくなり、プリンタの種類を切り替えることもできません (PostScript プリンタと PostScript 以外のプリンタの切り替えなど)。

アップルメニューの項目を隠すまたは表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Classic」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「詳細」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 アップルメニューからコントロールパネルを取り除く場合は、「コントロールパネルを隠す」を選択します。コントロールパネルを表示する場合は、このオプションの選択を解除します。
- 7 アップルメニューから「セレクト」と「ネットワークブラウザ」を取り除く場合は、「セレクトとネットワークブラウザを隠す」を選択します。「セレクト」と「ネットワークブラウザ」を表示する場合は、このオプションの選択を解除します。
- 8 残りのアップルメニュー項目を隠す場合は、「ほかのアップルメニュー項目を隠す」を選択します。このグループには、「計算機」、「キー配列」、「最近使ったアプリケーション」などの項目が含まれます。残りのアップルメニュー項目を表示する場合は、このオプションの選択を解除します。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

Classicのスリープ設定を調整する

Classicのアプリケーションが1つも開いていない場合、Classicはスリープ状態になってシステムリソースの使用を減らします。ユーザが最後のClassicアプリケーションを終了してからClassicがスリープ状態になるまでの時間間隔を調整できます。Classicがスリープモードになっている場合は、Classicアプリケーションを開くのに少し時間がかかります。

一部の環境では、バックグラウンドで動作するアプリケーション（ユーザが介入しなくても自動的に動作するアプリケーション）を使用しなければならないことがあります。Classicがスリープモードになったときに、バックグラウンドアプリケーションが動作していた場合、そのアプリケーションは中断されます。アプリケーションの実行を続行したい場合は、Classicのスリープ設定を「しない」に設定します。

Classicのスリープ設定を調整するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Classic」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「詳細」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 つまみをドラッグして、Classicがスリープ状態になるまでの時間を設定します。
Classicがスリープ状態にならないようにしたい場合は、つまみを「しない」にドラッグします。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

常に同じ Classic ユーザ環境設定を提供する

Classicでは通常、ユーザごとのMac OS 9環境設定のデータがMac OS 9システムフォルダ内で検索されます。ユーザが複数のコンピュータを使用したり、複数のユーザが1台のコンピュータを操作する場合には、「~/ライブラリ/Classic」のホームフォルダにある環境設定を使って、各ユーザが常に同じ環境設定を使用できるようにする必要があります。

ユーザ別のホームフォルダの環境設定を使用しない場合は、ユーザのMac OS 9データはMac OS 9システムフォルダに保存され、個別のフォルダには保存されません。この場合、環境設定は共有され、最後のユーザが行った変更は次のユーザがログインしたときに有効になります。

Classicのユーザ環境設定を保存する場所を選択するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Classic」環境設定アイコンをクリックします。

- 5 「詳細」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 各ユーザに常に同じ Classic 環境設定を提供する場合は、「ホームフォルダから環境設定を使う」を選択します。
すべての Classic ユーザ環境設定がローカルコンピュータの Mac OS 9 システムフォルダを使用する場合は、このオプションの選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

Dock 環境設定を管理する

「Dock」の設定によって、ユーザの「Dock」の動作を調整し、「Dock」に表示する項目を指定できます。次の表に、「Dock」の各パネルで設定可能な内容を示します。

Dock 環境設定のパネル	設定対象
表示	「Dock 表示」環境設定を使って、「Dock」の位置と動作を制御できます。
項目	「Dock の項目」の設定を使って、ユーザの「Dock」項目の追加と並べ替えができます。

ユーザの Dock を制御する

「Dock」の設定によって、デスクトップ上の「Dock」の位置調整と「Dock」のサイズ変更ができます。また、「Dock」のアニメーション動作を制御することもできます。

Dock の外観と動作を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Dock」アイコンをクリックします。
- 5 「Dock 表示」をクリックします。
- 6 管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。
- 7 「Dock サイズ」つまみをドラッグし、「Dock」の大きさを調整します。
- 8 ユーザがポインタを「Dock」の項目の上に移動したときにその項目を拡大したい場合は、「拡大」チェックボックスを選び、つまみを調整します。「拡大」は、「Dock」に多数の項目がある場合に便利です。
- 9 「Dock」が常に表示されないようにしたい場合は、「Dock を自動的に隠す／表示する」を選びます。ユーザがポインタを「Dock」がある画面の端に移動すると、「Dock」が自動的にポップアップ表示されます。
- 10 「Dock」をデスクトップの左、右、または下部のどこに置くかを選びます。
- 11 しまうときのエフェクトを選びます。

- 12 アプリケーションが開くときに「Dock」のアイコンをアニメーション表示させたくない場合は、「起動中のアプリケーションをアニメーションで表示する」の選択を解除します。
- 13 「今すぐ適用」をクリックします。

グループフォルダに簡単にアクセスできるようにする

グループボリュームを設定した後に、ユーザがグループディレクトリを簡単に検索できるようにしたい場合は、そのユーザの「Dock」にエイリアスを追加します。グループディレクトリには、グループの「ライブラリ」フォルダ、「書類」フォルダ、「パブリック」フォルダ（ドロップボックスを含む）があります。グループ共有ポイントの設定方法については、81 ページの「グループフォルダ設定を操作する」を参照してください。

ユーザがグループフォルダアイコンをクリックしてもグループディレクトリにアクセスできない場合は、ユーザ名とパスワードを入力してサーバに接続してから、ディレクトリを開く必要があります。

参考：この環境設定は、グループだけに適用されます。この環境設定は、ユーザまたはコンピュータには適用できません。

グループディレクトリの Dock 項目を追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。グループ共有ポイントをまだ設定していない場合は、次の手順に進む前に設定してください。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでグループアカウントを選んでから、「Dock」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「Dock の項目」をクリックします。
- 6 管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。
「1 度」を選択すると、グループフォルダのアイコンがユーザの「Dock」に表示されますが、削除することもできます。
- 7 「共有」を選択します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

グループ共有ポイントの位置を変更した場合は、「ワークグループマネージャ」でグループの「Dock」項目をアップデートしてください。

ユーザの Dock に項目を追加する

アプリケーション、フォルダ、または書類をユーザの「Dock」に追加して、簡単にアクセスできるようにできます。

Dock に項目を追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。

- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Dock」アイコンをクリックします。
- 5 「Dockの項目」をクリックします。
- 6 管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 7 個々のアプリケーション、通常のフォルダ、および書類を「Dock」に追加する場合は、「追加」をクリックし、目的の項目をブラウズして選びます。

「Dock」項目を削除するには、削除する項目を選んで、「取り除く」をクリックします。

リストにある「Dock」の項目を並べ替える場合は、表示する順になるようにそれらの項目をドラッグします。アプリケーションは常に一方の端にグループ化され、フォルダとファイルはもう一方の端にグループ化されます。
- 8 「マイアプリケーション」、「書類」、または「ネットワークホーム」から、「Dock」に追加する項目を選択します（複数可）。

「マイアプリケーション」フォルダには、使用できるアプリケーションのエイリアスが保管されます。

「書類」フォルダは、ユーザのホームディレクトリにある「書類」フォルダです。

「ネットワークホーム」フォルダは、主にモバイルアカウントが保管されるフォルダです。このフォルダは、サーバ上に配置されるユーザのホームディレクトリです。
- 9 「Dock」の項目の追加が終了したら、「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザが別の Dock 項目を追加できないようにする

通常、ユーザは自分の「Dock」に別の項目を追加できますが、この操作を禁止することができます。管理者が追加した「Dock」項目をユーザが削除することはできません。

ユーザが自分の Dock に項目を追加できないようにするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Dock」アイコンをクリックします。
- 5 「Dockの項目」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「その他の Dock 項目の追加と削除をユーザに許可する」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

省エネルギー環境設定を管理する

「省エネルギー」環境設定を使って、サーバとクライアントコンピュータのスリープ、スリープ解除、および再起動のタイミングを管理すれば、エネルギーとバッテリー電源を節約できます。次の表に、「省エネルギー」の各パネルで設定可能な内容を示します。

省エネルギー環境設定のパネル	設定対象
デスクトップ	「デスクトップ」環境設定では、コンピュータのハードドライブとディスプレイをスリープ状態にするタイミングを設定します。
ポータブル	「ポータブル」設定では、ポータブルコンピュータのプロセッサのパフォーマンスや、スリープ、スリープ解除、および自動再起動のタイミングを制御します。
バッテリーメニュー	「バッテリーメニュー」設定では、バッテリーの状況を示すインジケータを表示します。
予約	「予約」設定では、起動、システム終了、またはスリープのスケジュールを作成します。

デスクトップコンピュータのスリープおよびスリープ解除設定を使用する

コンピュータをスリープ状態にすると、ディスプレイの電源が切れて、ハードディスクの動作が停止するため、エネルギーが節約されます。スリープ状態の解除は、コンピュータの起動より短い時間で済みます。

「ワークグループマネージャ」の「省エネルギー」環境設定を使って、クライアントコンピュータが使用されない状態が一定時間経過したときに、自動的にスリープ状態にすることができます。特定の現象が発生した場合に、コンピュータをスリープ解除または再起動することもできます。

スリープおよびスリープ解除を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでコンピュータアカウントを選んでから、「省エネルギー」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「デスクトップ」タブをクリックします。
- 6 OS のポップアップメニューから「Mac OS X」または「Mac OS X Server」を選択して、管理設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 スリープ設定を調整するには、「設定」ポップアップメニューから「スリープ」を選びます。

つまみを移動して、コンピュータがスリープモードになるまでの時間を設定します。デフォルトの設定は 1 時間です。「管理対象外」に設定されている場合、コンピュータはスリープモードに入りません。

ディスプレイのスリープ時間を別に設定したい場合は、「ディスプレイがスリープするまでの時間を別に指定する」を選択して、つまみを移動します。コンピュータのスリープ設定よりも長くすることはできません。

使用されない時間が少しでも発生したらスリープさせる場合は、「可能な場合はハードディスクをスリープさせる」を選択します。

- 8 スリープ解除および再起動を設定するときは、「設定」ポップアップメニューから「オプション」を選びます。

モデムが動作したときにコンピュータのスリープを解除する場合は、「モデムが通話を検出したときにスリープを解除する」を選びます。

管理者がリモートアクセスしようとしたときにコンピュータのスリープを解除する場合は、「ネットワーク管理者のアクセスによってスリープを解除する」を選択します。

停電した場合にコンピュータを再起動するときは、「停電後に自動的に再起動する」を選びます。自動的に再起動しない場合は、このオプションの選択を解除します。

- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

コンピュータまたはディスプレイのスリープは、マウスをクリックするかキーボードのキーを押すことで解除できます。

ポータブルコンピュータの省エネルギー設定を操作する

「省エネルギー」の「ポータブル」設定を使って、スリープのタイミング、スリープ解除のタイミング、およびプロセッサのパフォーマンス設定をポータブルコンピュータが使用している電源（アダプタまたはバッテリー）に応じて調整できます。停電が突然発生した場合に、コンピュータを自動的に再起動することもできます。

バッテリー電源を節約するために、できるだけコンピュータのアダプタを使用することをお勧めします。

ポータブルコンピュータの設定を管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでポータブルコンピュータアカウントを選んでから、「省エネルギー」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ポータブル」タブをクリックします。
- 6 「電源」ポップアップメニューから「アダプタ」または「バッテリー」を選択して、管理設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 スリープ設定を調整するには、「設定」ポップアップメニューから「スリープ」を選びます。

つまみを移動して、コンピュータがスリープモードになるまでの時間を設定します。デフォルトの設定は1時間です。「管理対象外」に設定されている場合、コンピュータはスリープモードに入りません。

ディスプレイのスリープ時間を別に設定したい場合は、「ディスプレイがスリープするまでの時間を別に指定する」を選択して、つまみを移動します。コンピュータのスリープ設定よりも長くすることはできません。

使用されない時間が少しでも発生したらスリープさせる場合は、「可能な場合はハードディスクをスリープさせる」を選択します。

- 8 スリープ解除、再起動、およびプロセッサのパフォーマンスを設定するには、「設定」ポップアップメニューから「オプション」を選びます。

モデムが動作したときにコンピュータのスリープを解除する場合は、「モデムが通話を検出したときにスリープを解除する」を選びます。

管理者がリモートアクセスしようとしたときにコンピュータのスリープを解除する場合は、「ネットワーク管理者のアクセスによってスリープを解除する」を選択します。

停電した場合にコンピュータを再起動するときは、「停電後に自動的に再起動する」を選びます。自動的に再起動しない場合は、このオプションの選択を解除します。

「プロセッサのパフォーマンス」ポップアップメニューで「最高」、「自動」、または「低」を選択します。アダプタを使用する場合は、「最高」に設定することをお勧めします。バッテリーを使用する場合は、「自動」に設定することをお勧めします。

- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

コンピュータまたはディスプレイのスリープは、マウスをクリックするかキーボードのキーを押すことで解除できます。

バッテリーの状況を表示する

ポータブルコンピュータが電源アダプタに接続されていない場合は、標準電源またはバックアップ電源としてバッテリーが使用されます。バッテリー電源の残りが少なくなり電力を供給できなくなると、コンピュータはエネルギーを節約するためにスリープ状態になります。コンピュータを標準電源に再接続すると（充電済みのバッテリーを挿入する、電源アダプタを接続する、など）、コンピュータのスリープが解除されて作業を再開できます。

コンピュータを持って移動しているときには、バッテリーの状況を監視することをお勧めします。また、バッテリーを充電するために、できるだけ電源アダプタを使用してください。

メニューバーにバッテリーの状況を表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「省エネルギー」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「バッテリーメニュー」タブをクリックして、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 バッテリーメニューを表示する場合は、「メニューバーにバッテリーステータスを表示する」を選びます。バッテリーメニューを表示しない場合は、このオプションの選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

自動的な起動、システム終了、またはスリープを予約する

指定した曜日の指定した時刻に、コンピュータを起動、システム終了、またはスリープさせることができます。システム終了またはスリープを予約しておけば、コンピュータが使用されない時間（勤務時間外、週末、放課後など）が分かっている場合は、その時間帯にエネルギーを節約することができます。コンピュータを自動的に起動するように予約しておけば、研究室や教室のコンピュータを必要な時間帯にすぐに使用することができます。

自動的な操作を予約するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「省エネルギー」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「予約」タブをクリックします。
- 6 OS のポップアップメニューから「Mac OS X」または「Mac OS X Server」を選択して、管理設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 コンピュータを自動的に起動するように予約する場合は、「コンピュータを起動」を選択して、ポップアップメニューから特定の曜日または日付の範囲（「平日」、「週末」、または「毎日」）を選択します。次に、時刻フィールドに時刻を入力します。起動の予約を無効にする場合は、このオプションの選択を解除します。
- 8 コンピュータを自動的にスリープまたはシステム終了するように予約する場合は、ポップアップメニューから「スリープ」または「システム終了」を選択してから、横にあるチェックボックスを選びます。次に、ポップアップメニューから特定の曜日または日付の範囲（「平日」、「週末」、または「毎日」）を選択します。次に、時刻フィールドに時刻を入力します。スリープまたはシステム停止の予約を無効にする場合は、このオプションの選択を解除します。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

Finder の環境設定を管理する

「Finder」環境設定を使うと、「Finder」のメニューとウィンドウのさまざまな面を制御できます。次の表に、「Finder」の各パネルで設定可能な内容を示します。

Finder 環境設定のパネル	設定対象
環境設定	「ワークグループマネージャ」で「Finder」環境設定の設定を使って、ユーザに合わせた「Finder」のタイプの選択、デスクトップに配置した項目の表示と非表示の切り替え、および「Finder」ウィンドウの動作の制御を行います。また、ファイル拡張子を表示したり、ユーザが「ゴミ箱」を空にしようとしたときにユーザに警告を表示したりできます。
コマンド	「Finder」メニューおよびアップルメニューのコマンドを使うと、ユーザは簡単にサーバへの接続やコンピュータの再起動などができます。状況によっては、これらのコマンドへのユーザアクセスを制限したい場合があります。「コマンド」パネルの設定では、特定のコマンドの使用をユーザに許可するかどうかを制御できます。
表示	「Finder」の「表示」を使うと、ユーザのデスクトップ、「Finder」ウィンドウ、およびコンピュータの最上位ディレクトリにある項目の配置と外観を調整できます。

常にディスクとサーバがユーザのデスクトップに表示されないようにする

通常、ユーザがディスクを挿入すると、そのディスクのアイコンがデスクトップに表示されます。ローカルハードディスク、ディスクパーティションおよびマウントされたサーバボリュームのアイコンも表示されます。これらの項目をユーザのデスクトップに表示したくない場合は、隠すことができます。

ユーザが「Finder」ウィンドウのツールバーで「コンピュータ」アイコンをクリックした場合には、これらの項目はそのまま最上位レベルのディレクトリに表示されます。

ディスクおよびサーバのアイコンをデスクトップに表示しないようにするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「環境設定」タブをクリックし、管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「次の項目をデスクトップに表示」から、隠したい項目の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

Finder ウィンドウの動作を制御する

ユーザが新しい「Finder」ウィンドウを開いたときにどのディレクトリが表示されるかを選択できます。また、ユーザがフォルダを開いたときに内容がどのように表示されるかを定義することもできます。

Finder ウィンドウの環境設定を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開いて、「環境設定」をクリックします。
- 2 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 3 「環境設定」タブをクリックし、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 4 「新規 Finder ウィンドウ」で開く」から、表示したい項目を指定します。
「ホーム」を選ぶと、ユーザのホームディレクトリの項目が表示されます。
「コンピュータ」を選ぶと、最上位レベルのディレクトリが表示されます。このディレクトリには、ローカルディスクとマウントされたボリュームが含まれています。
- 5 「フォルダを常に新規ウィンドウとして開く」を選ぶと、ユーザがフォルダを開くときにフォルダの内容が別のウィンドウに表示されます。通常、Mac OS X のユーザは、1つの「Finder」ウィンドウを使って一連のフォルダをブラウズできます。
- 6 「ウィンドウを常にカラム表示で開く」を選ぶと、表示はウィンドウ間で常に同じものになります。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ファイル拡張子を表示する

通常、ファイル拡張子は、ファイル名の末尾に表示されます（たとえば、「.txt」や「.jpg」など）。アプリケーションは、ファイル拡張子を使ってファイルの種類を識別します。

ファイル拡張子を表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「環境設定」タブをクリックし、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「常にファイル拡張子を表示する」を選びます。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザ環境を選択する

ユーザ環境として、通常の「Finder」または「シンプル Finder」のいずれかを選択できます。通常の「Finder」は標準の Mac OS X デスクトップのように表示され、同じように機能します。クライアントマシンには、「システム環境設定」を使って「シンプル Finder」を設定できます。「シンプル Finder」は、クライアントマシンに表示される、ユーザが操作しやすいインターフェースです。「書類」フォルダと「マイアプリケーション」フォルダは、「Dock」に表示されるため、簡単にアクセスできます。

「ワークグループマネージャ」を使って「シンプル Finder」の環境を適用したときに、「シンプル Finder」がローカルコンピュータで使用されていない場合でも、影響するのは「Finder」の外観だけです。「Dock」および「アプリケーション」のアクセス設定は、個別に管理する必要があります。これらの機能を使えば、ユーザの要件に応じて、ユーザ環境を詳細に調整することができます。追加機能の「シンプル Finder」を使用するために、「ワークグループマネージャ」を使って次の操作を行うことができます：

- 「アプリケーション」環境設定の「項目」パネルを使って、ユーザに提供するアプリケーションを追加します。追加したアプリケーションのエイリアスは、ユーザが次にログインしたときに、「マイアプリケーション」フォルダに表示されます。
- 「Dock」環境設定の「Dock の項目」パネルを使って、ユーザの「Dock」に項目を追加します。
- 「Dock」環境設定の「Dock 表示」パネルを使って、ユーザの「Dock」の外観および配置を調整します。

ローカルコンピュータに「シンプル Finder」を設定する以外に、「ワークグループマネージャ」のアプリケーション管理機能と「Dock」管理機能を使って「Dock」項目やアプリケーションへのアクセス権を追加することもできます。

重要：ユーザがワークグループを使ってログインする場合、そのワークグループにグループディレクトリが関連付けられているときには、「シンプル Finder」の環境設定をそれらのユーザには割り当てないでください。このような環境でログインするユーザは、アプリケーションを使用できません。「シンプル Finder」はフォアグラウンドで動作するため、そのグループディレクトリにアクセスできません。

ユーザの環境を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「環境設定」タブをクリックし、管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「常に確認する」を選択した場合は、「通常の Finder を使用」または「シンプル Finder を使ってこのコンピュータへのアクセスを制限する」のいずれかを選択できます。
「1 度」を選択した場合は、「通常の Finder を使用」だけを選択できます。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザがゴミ箱を空にするときに警告メッセージを表示しない

通常、ユーザが「ゴミ箱」を空にするときに警告メッセージが表示されます。ユーザにこのメッセージを表示したくない場合は、オフにすることができます。

ゴミ箱の警告メッセージを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「環境設定」タブをクリックし、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「ゴミ箱を空にする前に警告を表示する」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

iDisk へのユーザアクセスを制御する

ユーザが「iDisk」に接続したい場合は、「Finder」の「移動」メニューの「iDisk へ移動」コマンドを使うことができます。このメニュー項目をユーザに表示したくない場合は、このコマンドを隠すことができます。

iDisk へ移動コマンドを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「コマンド」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「iDisk へ移動」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

リモートサーバへのユーザアクセスを制御する

ユーザは、「Finder」の「移動」メニューの「サーバへ接続」コマンドを使ってサーバ名または IP アドレスを指定して、リモートサーバに接続できます。このメニュー項目をユーザに表示したくない場合は、このコマンドを隠すことができます。

サーバへ接続コマンドを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。

- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「コマンド」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「サーバへ接続」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

フォルダへのユーザアクセスを制御する

ユーザは、「Finder」の「移動」メニューの「フォルダへ移動」コマンドを使ってフォルダのパス名を指定して、特定のフォルダを開くことができます。このアクセス権をユーザに与えたくない場合は、このコマンドを隠すことができます。

フォルダへ移動コマンドを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「コマンド」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「フォルダへ移動」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザがディスクを取り出せないようにする

ユーザがディスク（たとえば、CD、DVD、フロッピーディスク、FireWire ドライブなど）を取り出せないようにしたい場合は、「Finder」の「ファイル」メニューの「取り出し」コマンドを隠すことができます。

取り出しコマンドを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「コマンド」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「取り出し」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

Finder のディスクを作成コマンドを隠す

適切なハードウェアのあるコンピュータでは、ユーザはディスクを作成（記録可能な CD や DVD に情報を書き込み）できます。このアクセス権をユーザに与えたくない場合は、「Finder」の「ファイル」メニューの「ディスクを作成」コマンドを隠すことができます。

ディスクを作成コマンドを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「コマンド」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「ディスクを作成」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザが記録可能な CD または DVD を使用または作成できないようにするときは、「メディアアクセス」パネルの設定を使用します。

CD を作成できるのは、CD-RW ドライブ、コンボドライブ、または SuperDrive を搭載したコンピュータだけです。「ディスクを作成」コマンドは、CD-R、CD-RW、または DVD-R ディスクだけで使用できます。DVD を作成できるのは SuperDrive だけです。

再起動およびシステム終了コマンドをアップルメニューから取り除く

ユーザが使用しているコンピュータを再起動またはシステム終了させたくない場合は、「再起動」および「システム終了」コマンドをアップルメニューから取り除くことができます。

再起動およびシステム終了コマンドを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「コマンド」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「再起動」 / 「システム終了」の選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

別の方法として、ログインの環境設定を使って、「再起動」および「システム終了」ボタンをログインウィンドウから取り除くこともできます。詳しくは、146 ページの「ログインの環境設定を管理する」を参照してください。

デスクトップ項目の外観とアイコンの配置条件を調整する

ユーザのデスクトップの項目はアイコンとして表示されます。デスクトップアイコンのサイズと配置方法を制御できます。

デスクトップ表示の環境設定を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「表示」をクリックしてから、管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。この設定は、3 つの表示タブすべてにあるオプションに適用されます。
- 6 「デスクトップ表示」をクリックします。
- 7 つまみをドラッグしてアイコンのサイズを調整します。
- 8 ユーザのデスクトップでアイコンを配列する方法を選びます。
どれも選ばないと、ユーザはデスクトップの任意の場所に項目を配置できます。
「グリッドに沿う」を選ぶと、常に項目が行と列に揃えられます。
「常に次で並べ替える」を選ぶと、アイコンの配置条件のポップアップメニューから方法を選ぶことができます。項目は、名前、作成日または変更日、サイズ、または種類（たとえば、すべてのフォルダを 1 つにグループ化します）ごとに並べ替えることができます。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

Finder ウィンドウの内容の外観を調整する

「Finder」ウィンドウの項目は、リストまたはアイコンとして表示できます。これらの項目の外観や、「Finder」ウィンドウにツールバーを表示するかどうかを制御できます。

「デフォルト表示」の設定によって、すべての「Finder」ウィンドウの全体的な外観を制御します。「コンピュータ表示」の設定によって、ハードディスクとディスクパーティション、外部ハードディスク、マウントされたボリューム、およびリムーバブルメディア（CD やフロッピーディスクなど）が表示される最上位レベルのコンピュータディレクトリの表示方法を制御します。

デフォルトおよびコンピュータ表示の環境設定を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。

- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「Finder」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「表示」をクリックしてから、管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。この設定は、3 つの表示タブすべてにあるオプションに適用されます。
- 6 「デフォルト表示」をクリックします。
- 7 「表示」つまみをドラッグしてアイコンのサイズを調整します。
- 8 アイコンの配置条件を選びます。

どれも選ばないと、ユーザはデスクトップの任意の場所に項目を配置できます。

「グリッドに沿う」を選ぶと、常に項目が行と列に揃えられます。

「常に次で並べ替える」を選ぶと、アイコンの配置条件のポップアップメニューから方法を選ぶことができます。項目は、名前、作成日または変更日、サイズ、または種類（たとえば、すべてのフォルダを 1 つにグループ化します）ごとに並べ替えることができます。

- 9 デフォルトの表示の「リスト表示」設定を調整します。

「相対日時（昨日／今日）」を使うを選んだ場合、項目の作成日または変更日は、たとえば「02/4/12」の代わりに「今日」のように表示されます。

「フォルダの容量を計算する」を選んだ場合、「Finder」ウインドウに表示される各フォルダの合計サイズが自動的に計算されます。フォルダのサイズが非常に大きい場合、計算にしばらく時間がかかる場合があります。

リスト内のアイコンのサイズを選びます。

- 10 ユーザにツールバーを表示したい場合は、「Finder ウインドウにツールバーを表示」を選びます。
- 11 「コンピュータ表示」をクリックし、「アイコン表示」および「リスト表示」の設定を調整します。使用できる設定は、5～6の手順で説明したデフォルト表示で使用できるものと同じです。
- 12 「今すぐ適用」をクリックします。

インターネットの環境設定を管理する

「インターネット」環境設定によって、メールと Web ブラウザのオプションを設定できます。一部のインターネットブラウザまたはメールアプリケーションは、これらの設定に対応していないことがあります。次の表に、「インターネット」の各パネルで設定可能な内容を示します。

インターネット環境設定のパネル	設定対象
メール	優先するメールアプリケーションおよびメール情報を指定します。
Web	優先する Web ブラウザを指定し、そのホームページや検索ページの URL を設定します。

メールの環境設定を設定する

メールの設定によって、優先するメールアプリケーションの指定と、メールアドレス、受信メールサーバ、および送信メールサーバの情報の指定ができます。

参考：一部のメールアプリケーションでは、これらの設定が無視されることがあります。

メールの環境設定を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「インターネット」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「メール」をクリックし、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 デフォルトメールソフトを設定するときは、「設定」をクリックし、目的のメールアプリケーションを選びます。
- 7 メールアドレス、受信メールサーバ、および送信メールサーバの情報を入力します。
- 8 メールアカウントの種類（POP または IMAP のいずれか）を選びます。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

Web ブラウザの環境設定を設定する

「インターネット」環境設定の Web 設定を使用して、よく使う Web ブラウザとダウンロードしたファイルの保管場所を指定します。また、「ホームページ」の場所を使って、ブラウザの開始点となる URL を指定することもできます。「検索ページ」の場所を使って、検索エンジンの URL を指定します。

参考：一部の Web ブラウザでは、これらの設定が無視されることがあります。

Web の環境設定を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「インターネット」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「Web サービス」をクリックし、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「デフォルト Web ブラウザ」を設定するときは、「設定」をクリックし、優先的に使用する Web ブラウザアプリケーションを選びます。
- 7 「ホームページ」の URL を入力します。これは、ブラウザが開くときにユーザに表示されるページです。
- 8 「検索ページ」の URL を入力します。

- ダウンロードしたファイルを保存するフォルダの場所を入力するか、「設定」をクリックしてフォルダをブラウズします。
- 「今すぐ適用」をクリックします。

ログインの環境設定を管理する

「ログイン」環境設定を使って、ユーザのログインオプションの設定、パスワードのヒントの指定、およびログイン画面からコンピュータを再起動およびシステム終了するユーザ権限の制御を行います。また、グループボリュームをマウントしたり、ユーザのログイン後に自動的にアプリケーションを開くこともできます。

次の表に、「Finder」の各パネルで設定可能な内容を示します。

Finder 環境設定のパネル	設定対象
オプション	「ログインオプション」の設定は、ログインウィンドウの項目の外観と機能に影響します。
ログイン項目	「ログイン項目」の設定を使って、ユーザのためにアプリケーションを開いたり、グループボリュームにアクセス権を与えたりできます。

「ログインオプション」設定を管理している場合でも、ユーザは「システム環境設定」の「ログイン」環境設定の情報をいつでも編集できます。「ログイン項目」設定をユーザ、グループ、またはコンピュータレベルで管理している場合は、ユーザがどのような変更を行っても有効にはなりません。ただし、「ログインオプション」管理設定を「管理対象外」に変更して、「その他の項目の追加と削除をユーザに許可する」の選択を解除した場合には、ユーザが変更を行った場合でも特定の状況では有効になることがあります。

たとえば、「Group A」では、ユーザがログイン項目を追加でき、「Group B」ではログイン項目を追加できないとします。あるユーザがログインして「Group B」を選択して、「システム環境設定」のログイン項目リストにアプリケーションを追加します。このユーザが次にログインして「Group B」を選択したときに、追加したログイン項目は開きません。しかし、このユーザが「Group A」（ログイン項目を追加できます）を選択すると、追加したアプリケーションが開きます。

「ログイン項目」環境設定と「アカウント」環境設定にユーザがアクセスできないようにしたい場合は、「ワークグループマネージャ」を使って「システム環境設定」を管理します。

アカウント環境設定とログイン項目環境設定にアクセスできないようにするには：

- 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「システム環境設定」アイコンをクリックします。

- 5 管理設定を「常に確認する」に設定し、表示する項目リストから「ログイン項目」と「アカウント」の選択を解除します。
- 6 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザのログイン方法を決定する

管理者が選ぶ設定内容に合わせて、名前とパスワードのテキストフィールドまたはユーザのリストがログインウインドウに表示されます。これらの設定はコンピュータアカウントだけに適用されます。

ユーザのログイン方法を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ログインオプション」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 ユーザにユーザ名とパスワードの入力を要求する場合は、「名前とパスワードのテキストフィールド」を選びます。
- 7 ユーザがリストから自分の名前を選ぶようにする場合は、「これらのコンピュータを使用できるユーザのリスト」を選びます。

ユーザのリストを使用する場合は、リスト内の表示したいユーザのカテゴリを選びます。特定の種類のユーザをリストに表示しないようにするには、対応する設定の選択を解除します。

リストにローカルユーザアカウントを入れるには、「ローカルユーザを表示する」を選びます。

リストにネットワークユーザを入れるには、「ネットワークユーザを表示する」を選びます。

ローカルコンピュータ上で管理者のアクセス権を持つユーザをリストに表示するには、「ローカル管理者を表示」を選びます。

不明のユーザを許可する場合は、「その他のユーザを表示する」を選ぶことができます。

参考：「ワークグループマネージャ」のコンピュータのアカウント設定の「アクセス」で、ローカルだけのアカウントを許可するオプションが使用不可になっている場合は、管理者以外のローカルユーザはログインできません。

- 8 一部のユーザ（管理者など）に対して、Darwin のコンソール（コマンドラインインタフェース）を使ったログインを許可することができます。このオプションを使用可能にする場合は、「ユーザがコンソールを使用してログインできるようにする」を選択します。

- 9 コンピュータが起動するときに特定のユーザとして自動的にログインする場合は、「自動ログインクライアントの設定を有効にする」を選択できます。この設定は、公共施設で汎用的に使用されるコンピュータ (kiosk) を設定する場合に使います。

この設定を使用する場合は、「システム環境設定」の「アカウント」パネルで、そのクライアントコンピュータへの自動ログインを設定する必要があります。「ログインオプション」をクリックして「自動ログインのアカウント」を選択し、ポップアップメニューからユーザを選択して、そのユーザアカウントの正しいパスワードを指定します。

- 10 管理されたログイン設定の選択が終了したら、「今すぐ適用」をクリックします。

クライアントコンピュータ上で同時に複数のユーザを許可する

ファーストユーザスイッチは、1 台のコンピュータ上で複数のユーザアカウントを同時に使用できるようにする機能です。各ユーザはログイン時に認証され、現在動作中のユーザアカウントが「Finder」メニューバーの右側に表示されます。この「Finder」メニューをクリックすると、使用可能なユーザアカウントのリストが表示されます。

ファーストユーザスイッチは、メンバーが固定している小さなユーザグループが使用するコンピュータで、便利な機能です。リスト内の別のアカウントに切り替えるときには、ユーザ認証が必要になります。

ファーストユーザスイッチを管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ログインオプション」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 ユーザにこの機能の使用を許可する場合は、「ファーストユーザスイッチを有効にする」を選択します。アクセスを禁止するときは、このオプションの選択を解除します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ファーストユーザスイッチを許可する場合は、クライアントコンピュータでもこの機能を使用可能にする必要があります。「システム環境設定」の「アカウント」パネルの「ログインオプション」をクリックして、「ファーストユーザスイッチを有効にする」を選択します。

ユーザがパスワードを思い出せるようにする

「ヒント」を使ってユーザが自分のパスワードを思い出せるようにできます。間違ったパスワードを使って 3 回続けてログインに失敗すると、管理者が作成したヒントがダイアログに表示されます。

ローカルユーザにパスワードのヒントを作成している場合は、パスワードのヒントを表示するオプションを選択しなくても、3 回続けてログインに失敗すると、必ずヒントが表示されます。パスワードのヒントは、ネットワークユーザアカウントには使用されません。

参考：「ログインオプション」の設定は、コンピュータアカウントでだけ使用できます。

パスワードのヒントを表示するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ログインオプション」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「パスワードの入力を3回試みた後でパスワードのヒントを表示する」を選びます。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

アイドル状態のユーザの自動ログアウトを使用可能にする

使用されない状態が一定時間経過したユーザアカウントを自動的にログアウトすれば、サーバの負荷を軽減し、ユーザアカウントのセキュリティを向上させることができます。一定の時間が経過したユーザは、ログアウトされ、ログインウィンドウに戻ります。

ユーザを自動的にログアウトするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「自動ログアウト」をクリックして、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 つまみを調整して、使用されていないユーザが自動的にログアウトされるまでの時間を設定します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ログイン時にコンピュータを再起動またはシステム終了できないようにする

通常、ログインウィンドウには「再起動」および「システム終了」ボタンが表示されます。ユーザがコンピュータを再起動またはシステム終了できないようにしたい場合は、これらのボタンを隠す必要があります。

また、「Finder」メニューの「再起動」および「システム終了」コマンドを隠すこともできます。詳しくは、137 ページの「Finderの環境設定を管理する」を参照してください。「Finder」の環境設定の「コマンド」パネルを調べて、「再起動」/「システム終了」が選択されていないことを確認します。

参考：「ログインオプション」の設定は、コンピュータアカウントでだけ使用できます。

再起動およびシステム終了ボタンを隠すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。

- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ログインオプション」をクリックしてから、管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 6 「ログインウィンドウの“再起動”および“システム終了” ボタンを隠す」を選びます。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザのログイン後に自動的に項目を開く

ユーザがログインした後、頻繁に使用される項目をすぐに使える状態にしておくことができます。いくつかの項目を開く場合、それらの項目が開いてから隠すことができます。これにより、ユーザの画面が乱雑になるのを防ぎ、同時にアプリケーションを開いて利用可能な状態にしておくことができます。

項目はリストの順に開き、「Finder」でそれぞれの項目の上に「重なり」ます。リストの最後の項目が、「Finder」の最前面になります。たとえば、リストが3つの項目で構成され、すべての項目が非表示になっていない場合は、前回開いた項目のメニューバーが表示されます。アプリケーションのウィンドウが開くと、ほかのアプリケーションのウィンドウの上に重なります。

アプリケーションが自動的に開かないようにしたい場合は、shift キーを押しながらログインします。shift キーは、起動が完了して「Finder」がデスクトップに表示されるまで押し続けてください。

アプリケーションを自動的に開くには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ログイン」をクリックし、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 リストに項目を追加するには、「追加」をクリックします。
- 7 すぐにユーザに表示したくない項目は「隠す」チェックボックスを選びます。

アプリケーションは開いたままの状態ですが、ウィンドウとメニューバーは、ユーザがそのアプリケーションをアクティブにするまで隠されています（たとえば、「Dock」でそのアイコンをクリックするまで隠されています）。

- 8 ユーザにこのアクセス権を与えたくない場合は、「その他のアプリケーションの追加と削除をユーザに許可する」の選択を解除します。

ユーザは、管理者がこのリストに追加した項目を削除することはできませんが、自分で追加した項目は削除できます。

- 9 ログイン時に自動的に開くアプリケーションをユーザが停止できないようにするには、「shift キーを押してアプリケーションを開かないようにすることを許可する」の選択を解除します。
- 10 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザのネットワークホームディレクトリにアクセスする

この設定は、主にモバイルアカウントのために使われます。ネットワークに接続された状態でユーザがログインすると、そのユーザの元のホームディレクトリ（サーバ上）を含む共有ポイントがデスクトップにマウントされます。

ネットワークホームを自動マウントするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでモバイルユーザアカウントを選んでから、「ログイン」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「ログイン項目」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 「ネットワークホーム共有ポイントを追加する」を選択します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

グループ共有ポイントに簡単にアクセスできるようにする

グループ共有ポイントを設定した後に、ユーザがグループディレクトリを簡単に検索できるようにしたい場合は、ログインしたときに自動的に共有ポイントにアクセスするように設定します。グループ共有ポイントの設定方法について詳しくは、81 ページの「グループフォルダ設定を操作する」を参照してください。

参考：この環境設定は、グループだけに適用されます。この環境設定は、ユーザまたはコンピュータには適用できません。

グループ共有ポイント用のログイン項目を追加するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。グループ共有ポイントをまだ設定していない場合は、次の手順に進む前に設定してください。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでグループアカウントを選んでから、「Dock」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「Dockの項目」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。
- 7 「書類」を選択します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザがログインすると、ログイン時に入力したユーザ名とパスワードを使って、グループ共有ポイントに接続されます。「Finder」環境設定を使って接続中のサーバーを表示しないように設定している場合、グループボリュームのアイコンはデスクトップに表示されません。ただし、「Finder」ウインドウで「コンピュータ」をクリックすれば、グループボリュームを検索できます。

グループ共有ポイントの位置を変更した場合、「ワークグループマネージャ」でグループのログイン項目を必ず更新してください。

メディアアクセスの環境設定を管理する

「メディアアクセス」環境設定によって、CD、DVD、ローカルハードディスク、および外部ディスク（たとえば、フロッピーディスクや FireWire ドライブなど）の設定とアクセスを制御できます。次の表に、「メディアアクセス」の各パネルで設定可能な内容を示します。

メディアアクセス環境設定のパネル	設定対象
ディスクメディア	「ディスクメディア」の設定は、CD、DVD、および記録可能なディスク（たとえば、CD-R、CD-RW、DVD-R など）だけに影響します。CD、DVD、または記録可能なディスクを使うための適切なハードウェアがないコンピュータは、これらの設定の影響を受けません。
その他のメディア	「その他のメディア」パネルの設定は、内部ハードディスクと、CD または DVD 以外の外部ディスクに影響します。

CD および DVD へのアクセスを制御する

CD または DVD を再生または記録できるコンピュータの場合、ユーザがアクセスできるメディアの種類を制御できます。個々の CD または DVD、あるいはディスクの特定の項目へのアクセスを制限することはできません。ただし、すべての CD または DVD へのアクセスを許可しないようにすることはできます。また、管理者のユーザ名とパスワードを要求することによって、アクセスを制限することもできます。

CD および DVD へのアクセスを制御するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開いて、「環境設定」をクリックします。
- 2 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「メディアアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 3 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「メディアアクセス」環境設定オプションに適用されます。
- 4 「ディスクメディア」をクリックします。
- 5 CD および CD-ROM の設定を選びます。

「CD & CD-ROM」の横の「許可」チェックボックスを選ぶと、コンパクトディスクの音楽、データ、またはアプリケーションへのアクセスがユーザに許可されます。

コンパクトディスクへのアクセスを制限するときは、「認証が必要」を選んで、管理者のユーザ名とパスワードを要求します。

すべてのコンパクトディスクへのアクセスを禁止するときは、「許可」の選択を解除します。

- 6 DVD の設定を選びます。
「DVD」の横の「許可」チェックボックスを選ぶと、デジタルビデオディスクのムービーその他の情報へのアクセスがユーザに許可されます。

DVD へのアクセスを制限するときは、「認証が必要」を選んで、管理者のユーザ名とパスワードを要求します。

すべての DVD へのアクセスを禁止するときは、「許可」の選択を解除します。

- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

記録可能ディスクの使用を制御する

コンピュータに適切なハードウェアがある場合、ユーザはディスクを作成できます。つまり、CD-R、CD-RW、DVD-R などの記録可能なディスクに情報を書き込めます。ユーザは、CD-RW ドライブ、コンボドライブ、または SuperDrive を搭載したコンピュータで CD を作成できます。ユーザは、SuperDrive を搭載したコンピュータでだけ DVD を作成できます。

記録可能なメディアを使う権限を制限したい場合は、管理者のユーザ名とパスワードを要求できます。

記録可能ディスクの使用を制御するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「メディアアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「メディアアクセス」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「ディスクメディア」をクリックします。
- 7 記録可能メディアのオプションを選択します。

「記録可能ディスク」の横の「許可」チェックボックスを選ぶと、CD-R、CD-RW、または DVD-R ディスクの使用がユーザに許可されます。

「認証」チェックボックスを選ぶと、ディスクを使うための管理者パスワードを要求します。

ユーザがコンパクトディスクまたは DVD-R ディスクに情報を記録できないようにするときは、「許可」の選択を解除します。

- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

ハードドライブおよびディスクへのアクセスを制御する

「その他のメディア」パネルで選択した「メディアアクセス」の設定を使って、CD および DVD 以外のリムーバブルメディアに使用する内部ディスクドライブと外部ディスクドライブ (PowerPC G4 コンピュータの内部 Zip ドライブ、外部フロッピーディスクドライブなど) へのアクセスを制御できます。外部ディスクへのアクセスを許可しない場合、ユーザは、フロッピーディスク、Zip ディスク、FireWire ハードドライブその他の外部記憶装置を使うことはできません。

参考: これらのオプションは、内部ハードディスクには適用されません。各クライアントコンピュータの内部ハードディスクとディスクパーティションへのアクセス権を設定したい場合は、「Finder」の所有権とアクセス権の設定を使用します。

内部および外部ディスクへのアクセスを制限するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「メディアアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「メディアアクセス」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「その他のメディア」をクリックします。
- 7 「内蔵ディスク」(コンピュータのハードディスクとディスクパーティション)のオプションを選びます。
「認証」チェックボックスを選ぶと、ハードディスクにアクセスするためのパスワードが要求されます。
「許可」チェックボックスの選択を解除すると、ユーザのハードディスクへのアクセスが禁止されます。
「読み出し専用」チェックボックスを選択すると、ユーザがハードディスクの内容を見ることができます。ただし、ユーザは、ハードディスクの内容を変更したりハードディスクにファイルを保存したりすることはできません。
- 8 「外部ディスク」(CD および DVD 以外) のオプションを選びます。
「認証」チェックボックスを選ぶと、外部ディスクにアクセスするためのパスワードが要求されます。
「許可」チェックボックスの選択を解除すると、ユーザの外部ディスクへのアクセスが禁止されます。
「読み出し専用」チェックボックスを選択すると、ユーザが外部ディスクの内容を見ることができます。ただし、ユーザは、外部ディスクの内容を変更したり外部ディスクにファイルを保存したりすることはできません。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザのログアウト時にメディアを自動的に取り出す

コンピュータ室などにおいて複数のユーザが使うコンピュータでは、ユーザは退出時に自分のメディアを置き忘れる場合があります。ユーザがログアウト時にディスク、CD、または DVD を取り出さなかった場合、次にログインするユーザがそれらのディスクを利用する可能性があります。

共有されているコンピュータで CD、DVD、または Zip ディスクや FireWire ドライブなどの外部ディスクへのアクセスをユーザに許可する場合、ユーザがログアウトするときにリムーバブルメディアを自動的に取り出すようにできます。

リムーバブルメディアを自動的に取り出すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。

- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「メディアアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「メディアアクセス」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「その他のメディア」をクリックします。
- 7 「ログアウト時にすべてのリムーバブルメディアを取り出す」を選びます。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

モバイルアカウント環境設定を管理する

モバイルアカウントを必要とするユーザの場合は、ログインしたときにそのユーザのモバイルアカウントを自動的に作成することができます。「モバイルアカウント」環境設定の使いかたなど、モバイルアカウントについて詳しくは、第3章「モバイルクライアントのユーザ管理」を参照してください。

プリントの環境設定を管理する

「プリント」環境設定を使って、プリンタのリストを作成し、プリンタへのアクセスを管理します。次の表に、「プリント」の各パネルで設定可能な内容を示します。

プリント環境設定のパネル	設定対象
プリンタリスト	「プリンタリスト」の設定を使って、利用可能なプリンタリストを作成できます。また、プリンタを追加したり、コンピュータに直接接続されたプリンタへアクセスしたりするユーザ権限を制御できます。
アクセス	「アクセス」の設定によって、デフォルトのプリンタを指定し、特定のプリンタへのアクセスを制限できます。

ユーザがプリンタを利用できるようにする

ユーザにプリンタへのアクセス権を与えるときは、最初にプリンタリストを設定する必要があります。次に、特定のユーザまたはグループにそのリストにあるプリンタの使用を許可できます。また、コンピュータがプリンタを使用できるようにすることもできます。ユーザのプリンタの最新のリストは、ユーザ、ログイン時に選択したグループ、および使用中のコンピュータが使用できるプリンタの組み合わせです。

ユーザ用のプリンタリストを作成するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「プリント」環境設定アイコンをクリックします。

- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「プリント」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「プリンタリスト」をクリックします。
- 7 「使用可能なプリンタ」リストは、「プリンタ設定ユーティリティ」アプリケーション内の使用可能なネットワークプリンタのリストから作成されます。
「使用可能なプリンタ」リスト内のプリンタを選んでから、「リストに追加」をクリックして、目的のプリンタをユーザのプリンタリストで使用できるようにします。
目的のプリンタが「使用可能なプリンタ」リストに表示されない場合は、「プリンタの設定を開く」をクリックし、プリンタを「プリンタ設定ユーティリティ」のプリンタリストに追加します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

ユーザがプリンタリストを変更できないようにする

プリンタリストを変更するユーザ権限を制限したい場合は、新しいプリンタを追加する際に管理者のユーザ名とパスワードを要求することができます。また、この権限を完全に取り除くこともできます。

プリンタリストへのアクセスを制限するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「プリント」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「プリント」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「プリンタリスト」をクリックします。
- 7 管理者だけがプリンタリストを変更できるようにしたい場合は、「管理者のパスワードを要求する」を選びます。
- 8 ユーザがプリンタリストを変更できないようにしたい場合は、「プリンタリストにプリンタを追加することをユーザに許可する」の選択を解除します。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

コンピュータに接続されたプリンタへのアクセスを制限する

状況によっては、特定のユーザだけがコンピュータに直接接続されているプリンタでプリントできるようにしたい場合があります。たとえば、教室にプリンタが接続されているコンピュータがある場合、教師を管理者にし、プリンタにアクセスする際に管理者のユーザ名とパスワードを要求することによって、そのプリンタを教師専用にすることができます。

特定のコンピュータに接続されたプリンタへのアクセスを制限するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「プリント」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「プリント」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「プリンタリスト」をクリックします。
- 7 管理者だけがプリンタを使えるようにしたい場合は、「管理者のパスワードを要求する」を選びます。
- 8 ユーザがプリンタにアクセスできないようにしたい場合は、「ユーザのコンピュータに直接接続するプリンタを許可する」の選択を解除します。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

デフォルトプリンタを設定する

プリンタリストを設定すると、1つのプリンタをデフォルトのプリンタとして指定できます。ユーザが書類をプリントしようとする、アプリケーションのプリンタダイアログでこのプリンタが優先的に選ばれます。

デフォルトのプリンタを設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「プリント」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「プリント」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「アクセス」をクリックします。
- 7 ユーザのプリンタリストでプリンタを選び、「デフォルトにする」をクリックします。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

プリンタへのアクセスを制限する

特定のプリンタでプリントする際に、管理者のユーザ名とパスワードを要求することができます。

特定のプリンタへのアクセスを制限するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「プリント」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 管理する設定を「常に確認する」に設定します。この設定は、すべての「プリント」環境設定オプションに適用されます。
- 6 「アクセス」をクリックします。
- 7 ユーザのプリンタリストでプリンタを選び、「管理者のパスワードを要求する」を選びます。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

システム環境設定へのアクセスを管理する

「アプリケーション」環境設定の「システム環境設定」パネルを使って、クライアントコンピュータの「システム環境設定」に表示する環境設定を選択できます。「システム環境設定」の項目を表示しているとき、ユーザは、環境設定を開くことができますが、その設定を変更できる場合とできない場合があります。たとえば、「Dock」の環境設定管理を「常に確認する」に設定し、「Dock」環境設定を表示するように設定した場合、ユーザは設定を見ることはできても変更を加えることはできません。

「システム環境設定」が管理用コンピュータで使用できない場合があります。不足している環境設定を使用している管理用コンピュータにインストールするか、「ワークグループマネージャ」をそれらの環境設定がインストールされている管理用コンピュータで使用する必要があります。

システム環境設定へのアクセスを管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「アプリケーション」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「システム環境設定」をクリックします。
- 6 管理する設定を「常に確認する」に設定します。

- 7 ユーザの「システム環境設定」に表示したくない項目ごとに、「表示」チェックボックスの選択を解除します。
「何も表示しない」をクリックして、リスト内のすべての項目の選択を解除します。
「すべてを表示」をクリックして、リスト内のすべての項目を選びます。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

ユニバーサルアクセスの環境設定を管理する

「ユニバーサルアクセス」設定では、一部のユーザの操作性を向上させることができます。たとえば、お体に不自由のある方がコンピュータを快適に操作できない場合や別の方法で操作したい場合に、より効率的に操作できる設定を選択することができます。「ワークグループマネージャ」の「ユニバーサルアクセス」を設定および管理すれば、ユーザの特別な要件に適したワークグループまたはコンピュータを実現できます。

次の表に、「ユニバーサルアクセス」の各パネルで設定可能な内容を示します。

ユニバーサルアクセス環境設定のパネル	設定対象
画面表示	「画面表示」環境設定を使って、画面を視覚的に調整したり、デスクトップをユーザが拡大できるようにします。
音声	「音声」環境設定を使って、視覚的な警告を使用可能にします。
キーボード	「キーボード」環境設定を使って、キー入力に対するキーボードの反応方法を調整したり、キーの組み合わせを使ってキーを簡単に入力できるようにします。
マウス	「マウス」環境設定を使って、ポインタの反応を調整できます。テンキーをマウスの代わりに使えるように設定することもできます。
オプション	「オプション」設定を使って、ショートカットキーの組み合わせたり、補助装置を使用可能にしたり、「ユニバーサルアクセス」環境設定パネルのテキストをコンピュータが読み上げるかどうかを選択します。

ユーザの表示設定を調整する

「ワークグループマネージャ」の「画面表示」環境設定を使って、ユーザが画面の外観を調整できるようにします。ユーザは、キーボードショートカット（特定のキーの組み合わせ）を使って、デスクトップを簡単に拡大／縮小できます。画面表示をグレイスケールまたは白黒に変更すると、画面の文字を読みやすくなることがあります。

参考：管理された表示設定を作成した場合、ユーザはキーボードショートカットを使って拡大／縮小オプションとカラーオプションを切り替えることができます。ただし、管理設定から「常に確認する」を設定した場合は、オプションを切り替えることはできません。

画面環境設定を管理するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ユニバーサルアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「画面表示」をクリックしてから、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「ズーム機能を入にする」を選ぶと、ユーザがデスクトップを拡大／縮小できます。
- 7 拡大／縮小設定を詳細に調整するには、「ズームオプション」をクリックします。
つまみを使って、「最大拡大率」および「最小拡大率」を設定します。
プレビュー領域を表示する場合は、「縮小したときにプレビュー領域を表示する」を選択します。
拡大／縮小したグラフィックスの外観を向上させる場合は、「イメージをスムージングする」の選択を解除します。
- 8 黒の背景に白いテキストを表示する場合は、「色の限定：黒地に白」を選択します。
- 9 画面表示をカラーからグレイスケールに変更する場合は、「色の限定：グレイスケール」を選択します。
- 10 「今すぐ適用」をクリックします。

表示をさらにカスタマイズしたい場合は、「Finder」の「表示」環境設定を使って「Finder」ウィンドウ内のアイコンのサイズを制御したり、「Dock表示」環境設定を使って「Dock」内のアイコンを拡大したりできます。

特定のユーザ専用のコンピュータを管理する場合は、「ディスプレイ」環境設定を使って、ディスプレイの解像度やディスプレイで使用する色数を変更することもできます。ローカルコンピュータに設定した「ディスプレイ」環境設定を変更されないようにしたい場合は、「ワークグループマネージャ」の「アプリケーション」環境設定を使って、利用可能な「システム環境設定」のリストからその「ディスプレイ」項目を削除することもできます。

特定のコンピュータでスクリーンリーダなどの補助装置の使用できるようにするには、「システム環境設定」の「ユニバーサルアクセス」パネルの「オプション」タブで、「補助装置にアクセスできるようにする」を選択します。

視覚的な警告を設定する

聴覚に障害がある方のために、コンピュータの警告音（新しいメールを受信したときやエラーが発生したときに再生される音など）の代わりに、画面を点滅させることができます。

画面が点滅する警告を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。

- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ユニバーサルアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「音声」をクリックしてから、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「警告音が鳴るときに画面を点滅させる」を選択します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

キーボードの反応速度を調整する

複数のキーを同時に押すことが困難な方の場合、「複合キー」機能を使って、連続して入力した個別のキーをキーの組み合わせとして認識させることができます。キーを入力するたびに画面に表示され、キーの組み合わせが完了すると、警告音が鳴ります。

参考:「ユニバーサルアクセスのショートカット」を使用可能にすると、shift キーを 5 回押せば、「複合キー」の入/切を切り替えることができます。

キーボードの反応速度が速すぎるために、同じキーを繰り返し入力してしまう問題が発生することがあります。そのような場合は、「スローキー」を使って、キーを入力したときの反応速度を遅くすることができます。キーが入力されたときに、「クリック」音を鳴らしてユーザに通知することもできます。

キーを入力したときのキーボードの反応方法を設定するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ユニバーサルアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「キーボード」をクリックしてから、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 複合キーを使用可能にする場合は、「入」を選びます。

キーの組み合わせの入力が完了したときの警告音を使用不可にする場合は、「修飾キーが設定されたときにピープ音を鳴らす」の選択を解除します。

キー入力の画面表示を使用不可にする場合は、「押したキーを画面に表示する」の選択を解除します。

これらのオプションを選択しなかった場合は、キーの組み合わせの入力が進行しているときまたは完了したときに、その状態が簡単に分からなくなることがあります。

- 7 スローキーを使用可能にする場合は、「入」を選びます。
- 8 つまみを移動して、キーが押されてからコンピュータが認識するまでの時間を調整します。
- 9 キーが入力されたときに「クリック」音を鳴らしたくない場合は、「クリックキーサウンドを使用する」の選択を解除します。
- 10 「今すぐ適用」をクリックします。

マウスとポインタの反応速度を調整する

マウスの使用が困難な場合またはマウスを使いたくない場合は、「マウスキー」機能を利用してマウスの代わりにテンキーを使うことができます。テンキーの各キーは方向キーとマウスの操作に対応しているため、テンキーを使ってポインタを移動する、マウスボタンを押す、マウスボタンを放す、クリックするなどの操作を行うことができます。

参考：「ユニバーサルアクセスのショートカット」を使用可能にすると、option キーを 5 回押せば、「マウスキー」の入/切を切り替えることができます。

ポインタの動きが速すぎる場合は、ポインタが移動を開始するまでの時間とポインタが移動する速度を調整できます。

マウスとポインタの設定を制御するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ユニバーサルアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「マウス」をクリックしてから、管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 マウスキーを使用可能にする場合は、「入」を選びます。
- 7 ポインタが移動を開始するまでの時間を制御するには、「入力認識までの時間」つまみを調整します。
- 8 ポインタが移動する速度を制御するには、「最大の速さ」つまみを調整します。
- 9 「今すぐ適用」をクリックします。

ユニバーサルアクセスのショートカットを使用可能にする

ユニバーサルアクセスのショートカットは、利用可能なユニバーサルアクセス機能を使用可能にするキーの組み合わせです。この機能を使って、画面を拡大する、複合キーを使用可能にする、などの操作を行うことができます。ユニバーサルアクセスのショートカットを使用可能にしないと、一部のユーザが画面の拡大などの機能を使用できなかつたり、使用可能になっている複合キーなどの機能を使用不可にできないことがあります。

ユニバーサルアクセスのショートカットを使用するには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ユニバーサルアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「オプション」をクリックしてから、管理する設定（「1 度」または「常に確認する」）を選びます。

- 6 「ユニバーサルアクセスのショートカットを使用する」を選択します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

特別な操作方法を必要とするユーザ用の装置を使用可能にする

必要に応じて、管理されたユーザに対して、テキストリーダーなどの補助装置の使用を許可することができます。

補助装置を使用可能にするには：

- 1 「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、操作したいアカウントが含まれるディレクトリドメインを選択してから、「環境設定」をクリックします。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。
- 4 アカウントリストでユーザ、グループ、またはコンピュータアカウントを選んでから、「ユニバーサルアクセス」環境設定アイコンをクリックします。
- 5 「オプション」をクリックしてから、管理する設定（「1度」または「常に確認する」）を選びます。
- 6 「補助装置にアクセスできるようにする」を選択します。
- 7 「今すぐ適用」をクリックします。

この章では、「Macintosh マネージャ」を使って、ネットワーク管理者が Mac OS 9 クライアントコンピュータの管理、ソフトウェアやリムーバブルメディアへのアクセスの制御、ユーザに対する一貫性のある独自の環境の提供を集中的に行う方法について説明します。

Macintosh マネージャについて

「Macintosh マネージャ」によりネットワーク管理者は、Mac OS 9 クライアントコンピュータの管理、ソフトウェアやリムーバブルメディアへのアクセスの制御、ユーザに対する一貫性のある独自の環境の提供を集中的に行うことができます。「ワークグループマネージャ」のユーザアカウントから基本情報（ユーザ名、パスワード、およびユーザ ID）を読み込んだら、ユーザ、ワークグループ、およびコンピュータリストの初期設定とアクセス権をカスタマイズできます。Mac OS X Server はユーザの書類と初期設定をホームディレクトリに保存するため、ユーザはネットワーク上のどの Mac からでも自分のファイルにアクセスできます。

「ワークグループマネージャ」と同様、「Macintosh マネージャ」を使って、アプリケーション、ファイルサーバのボリューム、およびプリンタへのユーザアクセスを制御するためのネットワーク全体のポリシーを設定できます。「Macintosh マネージャ」により、Mac OS 9 コンピュータ用の独自の認証および初期設定を管理できます。また、「Macintosh マネージャ」は NetBoot クライアントと共に使用できます。

クライアント管理により、ユーザに合った、より効果的な環境を作成できます。ユーザの環境を定義できるため、さまざまなスキルレベルに合わせたインタフェースを提供できます。これにより、たとえば小学校のコンピュータ室を 1 年生から 6 年生までの広範囲の生徒が使用できるように設定することが、より簡単になります。

この章では、「Macintosh マネージャ」の動作の概略、さまざまな種類の管理されている環境に関する詳細、および以下のことを実行する方法を説明します。

- 「Macintosh マネージャ」を設定する。
- 「Macintosh マネージャ」にユーザを読み込む。
- Mac OS 9 クライアントにワークグループおよびコンピュータのリストを設定する。
- Mac OS 9 クライアント用の管理されている環境を作成する。
- 「Macintosh マネージャ」のセキュリティ設定および制御を実施する。

参考：「Macintosh マネージャ」は Mac OS X クライアントの管理には使用しません。Mac OS X クライアントを管理する必要がある場合は、第 9 章「Mac OS X の環境設定の管理」をお読みください。

Macintosh マネージャの移行方法

以前のバージョンの「Macintosh マネージャ」から 2.2.2 への移行は、新しい「Macintosh マネージャ」にアップグレードするだけでできます。機能はほとんど同じですが、「Macintosh マネージャ」でいくつかの項目を保存する方法に違いがあることに注意してください。

移行の概要と方法について詳しくは、移行ガイドを参照してください。

ユーザの環境

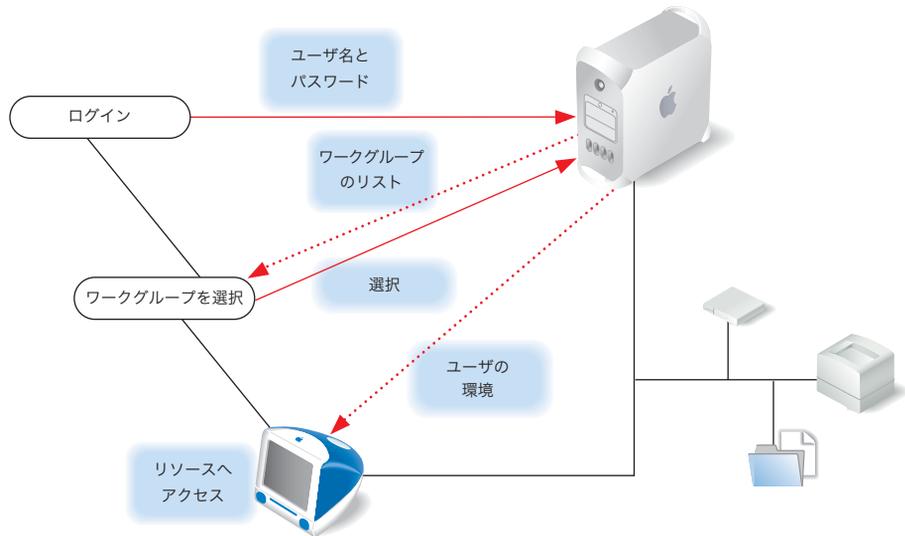
このセクションでは、管理されている Mac OS 9 クライアントのための実際のユーザ環境とサーバ処理について説明します。

ログインする

Mac OS 9 クライアントコンピュータの「Macintosh マネージャ」に読み込まれているユーザは、「Macintosh マネージャ」ログインダイアログに Mac OS X Server のユーザ名とパスワードを入力するだけでログインできます。それ以外の方法として、ユーザがログイン時にリスト（ロングネームが表示されます）から自分の名前を選ぶこともできます。

ユーザがログインすると、「Macintosh マネージャ」はディレクトリサービスを使用して、ユーザ ID が有効かどうかを検証します。ユーザ ID が正しければ、「Macintosh マネージャ」はそのユーザ用の正しいワークグループを見つけて、それをリストに表示します。ユーザが複数のワークグループに属している場合、ユーザはリストからワークグループを選択できます。ユーザが 1 つのワークグループにしか属していない場合は、ワークグループリストを表示せずに自動的にログインが続行されます。「Macintosh マネージャ」ワークグループ設定は、ユーザの作業環境（「Finder」、「制限付き Finder」、または「パネル」）を定義します。ユーザ名とパスワードの情報が保管されているサーバにアクセスできない場合、そのユーザはログインできません。

ユーザは、使用しているコンピュータ、ネットワーク設定、およびアクセス権に従って、プリンタ、アプリケーション、およびボリュームなどのさまざまなリソースへのアクセス権を持つことができます。コンピュータ、ワークグループ、およびユーザを設定して、個々のユーザの環境を定義するアクセス権と初期設定の最終的なセットを決定します。



「その他のユーザ」アカウントを使ってログインする

ユーザが Mac OS X ユーザアカウントを持っていても「Macintosh マネージャ」に読み込まれていない場合は、「Macintosh マネージャ」ログインダイアログに自分の Mac OS X Server のユーザ名とパスワードを入力できます。「その他のユーザ」アカウントが複数のワークグループに属している場合、そのユーザはリストからワークグループを選択できます。アカウントが 1 つのワークグループにしか属していない場合は、ログインが自動的に続行されます。

ゲストアカウントを使ってログインする

「ゲスト」アカウントが有効になっている場合は、すべてのユーザが「ゲスト」としてログインできます。「ゲスト」アカウントはパスワード認証を必要としません。「ゲスト」アカウントが複数のワークグループに属している場合、そのユーザはワークグループをリストから選択できます。アカウントが 1 つのワークグループにしか属していない場合は、ログインが自動的に続行されます。

ホームディレクトリの場所を見つける

ユーザのホームディレクトリは、ユーザのログイン時に自動的にマウントされます。ユーザの名前が付いたフォルダは、デスクトップまたはパネル上に表示されます（ワークグループの種類によって異なります）。ユーザのホームディレクトリは「ユーザ」フォルダの中にあります。Mac OS X もインストールされている環境では、Mac OS X のホームディレクトリと同じものが使われることがあります。

ゲストユーザには、ファイルや初期設定を保存するための一時的なローカルのホームディレクトリがあります。

アプリケーションのある場所

「パネル」および「制限付き Finder」ワークグループに許可されているアプリケーションは、ユーザのホームディレクトリの中にある「<ワークグループ名>の項目」フォルダにあります。「Finder」ワークグループのユーザの場合、アプリケーションはコンピュータの「アプリケーション」フォルダまたは「Applications (Mac OS 9)」フォルダに保存されています。

共有書類を探す

ユーザが共有項目を表示または保存できる領域にアクセスできるかどうかは、ユーザの環境とワークグループフォルダの設定方法によって異なります。たとえば、「パネル」ワークグループに提出フォルダを作成して、ユーザが書類を入れられるようにしたり、「Macintosh マネージャ」の共有ポイントの中に「グループの書類」ボリュームを作成して、ユーザが共同作業できるようにしたりすることもできます。

設定する前に

次のような場合は、クライアント管理の活用を検討してください。

- ユーザがどのコンピュータからでも自分の書類にアクセスできるようにすると同時に、一貫性のある制御されたインタフェースを提供したい
- ポータブルコンピュータのユーザのアクセス権を制御する場合
- 特定のリソースを特定のグループまたは個人専用にする場合
- 管理部門や人の出入りが自由な研究室などの場所でのコンピュータ使用に対してセキュリティを設定する必要がある

ユーザ、グループ、またはコンピュータを管理するために「Macintosh マネージャ」を設定する前に、次の手順に従って準備してください。

手順 1: コンピュータが最低限の要件を満たしているかどうか確認する

重要: 以前のバージョンの「Macintosh マネージャ」を使用しているクライアントがある場合は、Mac OS X Server に接続する前に、「Macintosh マネージャ 2.2.2」にアップグレードしてください。

クライアントコンピュータの要件

ソフトウェア

- Mac OS 9.x (基本オペレーティングシステム)
- 「アピアランス」コントロールパネル: バージョン 1.0.1 以降

参考: Mac OS 9 と Mac OS X のユーザリストとホームディレクトリが同じことがあります。Mac OS X クライアントを管理するときに「Macintosh マネージャ」は使用しません。

ハードウェア

- 68K プロセッサの Macintosh コンピュータ
- 8 MB (メガバイト) の物理 RAM (仮想メモリは不可)
- 2 MB の空きディスク容量
- 「パネル」環境を使用する場合は 16 ビットモニタを推奨

管理用コンピュータの要件

ソフトウェア

- Mac OS X Server（「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアを含みます）がインストールされている

サーバ以外のコンピュータで管理用ソフトウェアにアクセスしたい場合は、「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアだけをインストールすることもできます。（この場合コンピュータでは、Mac OS X バージョン 10.3 または Mac OS 9.2 のいずれかのオペレーティングシステムを使用する必要があります）。

ハードウェア

- G3 プロセッサの Macintosh コンピュータ
- 128 MB の RAM。複数のサービスを実行する高需要サーバの場合は 256 MB 以上の RAM
- 4 GB（ギガバイト）の空きディスク容量
- 800 × 600 以上のモニタ解像度

参考：ハードウェアの自動再起動には、2000 年 2 月以降にリリースされた Macintosh Server G4 または Power Mac G4 が必要です。

手順 2： Macintosh マネージャ管理用ソフトウェアをインストールする

「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアは、Mac OS X または Mac OS 9 で使用できます。この管理用ソフトウェアは、Mac OS X サーバ、選択した「管理用」クライアントコンピュータ、またはすべてのクライアントコンピュータにインストールできます。「Macintosh マネージャ」管理アプリケーションにアクセスできるのは、サーバ管理者、「Macintosh マネージャ」の管理者、およびワークグループ管理者だけです。

参考：「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアを使用するときは、リモート操作する必要があります。「Macintosh マネージャ」ソフトウェアを使った Mac OS 9 クライアントの管理は、「Macintosh マネージャ」サーバとして選択した Mac OS X サーバから行うことはできません。

使用する管理用コンピュータを特定すると、クライアントの管理設定の変更や更新がより簡単になります。たとえば、教室内に複数台のコンピュータがある場合に、教師のコンピュータに管理用ソフトウェアをインストールし、教師に管理アクセス権を与えます。この場合、教師は、ワークグループへのユーザの追加や別のプリンタへのアクセス権の許可など、必要に応じて即座に変更を加えることができます。

「Macintosh マネージャ」の設定には管理用コンピュータを使用するため、管理用コンピュータには、クライアントコンピュータで使用するものと同じプリンタおよびアプリケーションへのアクセス権が必要です。これにより、クライアントに許可したアプリケーションとプリンタのリストが、簡単に作成できるようになります。管理用コンピュータは、クライアントよりも多くのプリンタとアプリケーションへのアクセス権を持つことができますが、クライアントより少なくしないでください。

重要：プリンタをクライアントコンピュータで使用できるようにすると、「Macintosh マネージャ」が Mac OS 9 クライアント用のデスクトップ・プリンタを作成します。Mac OS X バージョンの「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションは、LaserWriter のデスクトップ・プリンタだけを作成します。LaserWriter 以外のプリンタにアクセスする必要がある場合は、クライアントを管理する際に Mac OS 9 バージョンの「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションを使う必要があります。

管理用クライアントコンピュータを設定するには：

- 1 コンピュータが最低限の要件を満たしていることを確認します。
- 2 システムソフトウェアが Mac OS X または Mac OS 9.2 のいずれかであることを確認します。
- 3 必要なアプリケーションがインストールされていることを確認します。
- 4 「プリンタ設定ユーティリティ」（Mac OS X の場合）または「デスクトップ・プリンタ Utility」（Mac OS 9 の場合）を使って、プリンタアクセスを設定します。
- 5 「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアおよびクライアントソフトウェアをインストールします。

「Macintosh マネージャ」管理アプリケーションを使用する前に、Mac OS X の「システム環境設定」の「共有」パネルを開き、Web 共有とファイル共有が無効になっていることを確認します。Mac OS 9 を使用している場合は、「ファイル共有」および「Web 共有」コントロールパネルの設定を確認します。

手順 3： クライアントコンピュータを設定する

「Macintosh マネージャ」のクライアントとして使用できるコンピュータは、Mac OS 9 コンピュータだけです。

Mac OS 9 クライアントコンピュータを設定するには：

- 1 コンピュータが最低限の要件を満たしていることを確認します。
- 2 システムソフトウェアが Mac OS 9（バージョン 9.1 以降推奨）であることを確認します。
- 3 「Macintosh マネージャ」クライアントソフトウェアがまだインストールされていない場合は、インストールします。
- 4 「マルチユーザ」コントロールパネルを開きます。
- 5 「オプション」をクリックし、次に「その他」をクリックします。
- 6 「ネットワークのアカウント（Macintosh マネージャ）」を選択します。
- 7 「保存」をクリックします。
- 8 「入」を選択して「マルチユーザ」アカウントを有効にします。
- 9 コントロールパネルを閉じてから、「特別」メニューの「ログアウト」を選びます。

ログアウトすると、コンピュータでは、自動的にネットワーク上で「Macintosh マネージャ」サーバ（「Macintosh マネージャ」のサーバプロセスがインストールされた Mac OS X Server）が検索されます。検索の結果表示されたサーバから使用するサーバを選択できます。「Macintosh マネージャ」サーバが見つからない場合は、目的のサーバの TCP/IP アドレス（AppleTalk アドレスではありません）を検索して表示してください。

アップデートパッケージを使用する

クライアントコンピュータですでに「Macintosh マネージャ 2.0」以降を使用している場合は、自動アップデートパッケージを使って、最新バージョンの「Macintosh マネージャ」に簡単にアップグレードできます。アップデートパッケージは「Macintosh マネージャ」のインストール CD にあります。このパッケージは自動的にインストールされません。

アップデートパッケージを使用するには：

- アップデートパッケージを「Macintosh マネージャ」サーバ上の「Multi-User 項目」フォルダにコピーします。

接続されているクライアントはすべて、定期的に「Multi-User 項目」フォルダでアップデートパッケージを探します。アップデートパッケージが見つかったら、アップデートが新しいバージョン用か以前のバージョン用かにかかわらず、クライアントが自動的にアップデートを実行します。アップデートパッケージを使用する前に、アップデートしたくないコンピュータは必ずシステム終了しておいてください。アップデートが完了したら、アップデートパッケージを「Multi-User 項目」フォルダから取り除いてから、クライアントコンピュータを再起動します。

Macintosh マネージャのサーバおよびクライアント用の言語を選ぶ

クライアントコンピュータ上で使用する言語は、「Macintosh マネージャ」サーバで使用する言語と一致させるのが理想的です。ただし、特定のクライアントコンピュータで別の言語を設定したい場合は、それも可能です。

異なる言語を使用するクライアントコンピュータが同じサーバに接続するときは、サーバの言語スクリプトがクライアントの言語スクリプトと一致している必要があります。たとえば、スクリプトが「欧米」に設定されているフランス語のクライアントソフトウェアを使用するクライアントコンピュータのユーザは、同じ言語スクリプトを使用するサーバに接続できます。「欧米」スクリプトを使用するドイツ語のクライアントコンピュータの別のユーザも、同じサーバを使用できます。このスクリプトは、Mac OS X の場合は「システム環境設定」の「言語環境」パネルで設定でき、Mac OS 9 では「地域情報」コントロールパネルを使って設定できます。

ユーザが「Macintosh マネージャ」サーバに接続したとき、クライアントコンピュータは、前回の接続中に使用していたものと同じ言語ソフトウェアを使用します。たとえば、「Macintosh マネージャ」にフランス語のクライアントコンピュータから接続し、その後でドイツ語のクライアントコンピュータから接続した場合、ユーザのホームディレクトリ内の初期設定フォルダとその他のフォルダは各言語用に作成されることがあるため、ユーザは言語間で初期設定を共有できなくなることがあります。逆に、別々のフォルダが作成されなければ、言語が異なる 2 つのプログラムが初期設定ファイルを共有してしまう可能性があります。この場合、クライアントコンピュータが操作不能になることがあります。

Apple ファイルサービスの言語スクリプトを変更する

Apple ファイルサービスの正しい言語スクリプト（「古いクライアント用にエンコードする」の場合）は、「Macintosh マネージャ」サーバを使用する前に選択しておく必要があります。「Macintosh マネージャ」サービスを使用中の場合は、言語スクリプトを変更する前に「Macintosh マネージャ」サービスを停止してください。

「古いクライアント用にエンコードする」のスクリプトは、クライアントコンピュータの言語スクリプト（「システム環境設定」の「言語環境」パネルで選択します）と、「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションの言語と一致する必要があります。

手順 4： ユーザとそのホームディレクトリがすでに設定されていることを確認する

ユーザとホームディレクトリを設定していない場合は、次の手順に進む前に設定してください。詳しくは、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

Macintosh マネージャの内側

以降のセクションでは、いくつかの「Macintosh マネージャ」のコンポーネントについて説明し、「Macintosh マネージャ」がほかの Mac OS X Server のサービスと共に機能する仕組みの背景情報を説明します。

Macintosh マネージャのセキュリティ

「Macintosh マネージャ」は「セキュリティアプリケーション」として指定されたものではありませんが、「Macintosh マネージャ」の設定を使うことで、より多くの管理機能を提供したり、ユーザにより多くの柔軟性を与えたりすることができます。たとえば、ローカルファイルとシステムのアクセス権を制限したり、ユーザにオーディオ CD の使用を許可したりできます。また、ユーザに一部のアプリケーションへのアクセスは許可し、それ以外のアプリケーションへのアクセスは許可しないといったこともできます。

「Macintosh マネージャ」のユーザは、ほかのユーザのホームディレクトリにアクセスできず、ネットワーク設定（「AppleTalk」および「TCP/IP」コントロールパネル）、「省エネルギー」設定、または「マルチユーザ」設定を変更することはできません。

「Macintosh マネージャ」は、ユーザが「Macintosh マネージャ」のファイルの名前を変更したり、ファイルタイプやクリエータを変更したりできないように設計されています。また、機能拡張を停止してコンピュータを再起動しても、「Macintosh マネージャ」機能拡張には影響がありません。さらに、「Macintosh マネージャ」機能拡張は、ユーザが移動または停止することにより無効にすることはできません。

Macintosh マネージャ共有ポイントについて

「Macintosh マネージャ」サーバソフトウェアをインストールすると、サーバ上に「Macintosh Manager」という名前の共有ポイントが作成されます。「Macintosh マネージャ」が共有ポイントにアクセスできるよう、自動的に適切なアクセス権が設定されます。管理者のアクセス権を持たないユーザは共有ポイントの内容を見ることはできず、そこでのやり取りは行いません。「Macintosh マネージャ」の共有ポイントは、本来はデータベースを操作するためのものですが、ワークグループの書類のボリュームのためのデフォルトの場所でもあります。「Macintosh マネージャ」に接続しているユーザは、ファイルサーバのアクセスライセンスの対象として数えられます。ワークグループの書類のボリュームの内容について詳しくは、197 ページの「Macintosh マネージャで情報を共有する」を参照してください。

容量を節約する必要がある場合、「Macintosh マネージャ」の共有ポイントは、共有ポイントの名前が同じで、フォルダが共有ポイントに存在し、アクセス権が同じである場合に限り、別のボリュームに移動できます。「Macintosh マネージャ」で使用する共有ポイントの名前には、ASCII 文字以外の特許文字（・、å、é、ü など）や 2 バイト文字（漢字など）は使用しないでください。

重要：「Macintosh マネージャ」の共有ポイントは、UFS フォーマットのボリュームには置かないでください。

共有ポイント名に特殊文字を使用する

「Macintosh マネージャ」で使用する共有ポイントの名前には、ASCII 文字以外の特殊文字（、、å、é、ü など）や 2 バイト文字（漢字など）は使用しないでください。

Multi-User 項目フォルダ

「Multi-User 項目」フォルダは、「Macintosh マネージャ」の共有ポイント内にあります。「Multi-User 項目」フォルダ内のファイルとフォルダには、「Macintosh Management Server」の場所、ワークグループ項目へのエイリアス、キャッシュ情報、ユーザリスト/グループリスト/コンピュータリストのデータベースなど、「Macintosh マネージャ」を使って設定するオプションに関する情報が含まれています。「Multi-User 項目」フォルダには、次の項目が含まれています。

- 「Activity Log」ファイル：このファイルには、ログインの状況、プリンタの使用状況、アプリケーションの使用状況などの情報を示すレポートを生成する際に使われるログ項目が含まれています。「Activity Log」ファイル内の項目の数は定義することができます。詳しくは、217 ページの「レポートの項目数を設定する」を参照してください。
- 「CD-ROM Prefs」ファイル：このファイルには、ユーザが使用を許可されている CD のリストと、各 CD 上の特定の項目の設定が含まれています。
- 「Computers」フォルダ：このフォルダには、設定した各コンピュータリストの「Macintosh マネージャ」設定を保存しているデータベースのファイルが含まれています。
- 「Groups」フォルダ：このフォルダには、「Macintosh マネージャ」のワークグループおよびデータベースの各ファイル用のフォルダが含まれています。これらのファイルには、許可された項目のリストやワークグループの書類のフォルダの場所など、各ワークグループの「Macintosh マネージャ」設定に関する情報が保存されます。
- 「Multi-User 項目」ファイル：このファイルは、「Multi-User 項目」フォルダに現在含まれているファイルのアーカイブで構成されています。ファイルを開いたり、変更したりしないでください。また、このファイルは削除されると、次に「Macintosh マネージャ」を使用するときに再作成されます。
- 「Printers」フォルダ：このフォルダには、「Macintosh マネージャ」で設定したデスクトップ・プリンタを表すファイルが含まれています。「Macintosh マネージャ」のワークグループが使用するデスクトップ・プリンタごとにファイルが作成されます。ユーザがデスクトップ・プリンタを使用するワークグループにログインすると、プリンタ情報がクライアントコンピュータのデスクトップにコピーされます。

プリンタ情報を変更するときは、「Macintosh マネージャ」を使用してください。「プリンタ」フォルダ内の項目を開いたり、取り除いたりしないでください。このフォルダからプリンタファイルを削除すると、そのプリンタを使おうとするワークグループのメンバーに、プリンタが見つからないというメッセージが表示されます。
- 「Users」フォルダ：このフォルダには、各ユーザアカウントの「Macintosh マネージャ」設定を保存しているデータベースファイルと、少なくとも 1 回サーバにログインしたことがある各ユーザのフォルダが含まれています。

「Multi-User 項目」フォルダをアップデートする方法

「Macintosh マネージャ」で変更を行うと、クライアントの「Multi-User 項目」フォルダも常にアップデートされます。このフォルダのコピーは、各クライアントコンピュータの「システムフォルダ」に自動的に保存されます。クライアントコンピュータの「Multi-User 項目」フォルダが削除されると、コンピュータが必要に応じてサーバから新しいコピーを新規にダウンロードしますが、ユーザがログインしているときはダウンロードしません。このフォルダは、次のような場合にもアップデートされます。

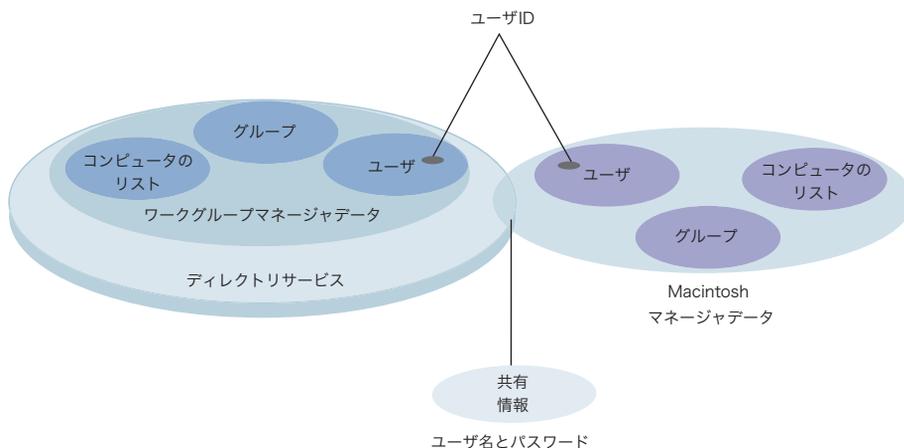
- クライアントコンピュータがサーバに接続しているが、ユーザはログインしていない場合、「Macintosh マネージャ」は、フォルダ内にアップデートが必要な項目があるかどうかを定期的に調べます。ユーザがコンピュータにログインしているときに変更が行われた場合は、ユーザがログアウトするまでフォルダはアップデートされません。
- コンピュータが一定時間アイドル状態にあったためにサーバから自動的に切断される場合、ユーザがコンピュータでログインおよびログアウトを実行するまで、アップデートのチェックは行われません。
- クライアントの「Multi-User 項目」フォルダが削除されると、クライアントは、ユーザがログインしたときにサーバから新しいコピーを新規にダウンロードします。

Macintosh マネージャがディレクトリサービス进行操作する仕組み

「Macintosh マネージャ」にも「ワークグループマネージャ」にも、ディレクトリサービスのデータベース内のユーザアカウント情報へのアクセス権があります。Mac OS 9 のクライアントを管理している場合は、管理しているネットワークにユーザがアクセスできるように、「ワークグループマネージャ」から「Macintosh マネージャ」内にユーザを読み込むか、「Macintosh マネージャ」の「その他のユーザ」機能を使う必要があります。

「Macintosh マネージャ」と「ワークグループマネージャ」との間で共有される情報は、ユーザ ID だけです。ユーザ ID は、ユーザ名、パスワード、およびユーザのホームディレクトリの場所に関する情報と共に、ディレクトリサービス内に保存されています。

ディレクトリサービスについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。



「Macintosh マネージャ」は、ユーザ ID を使ってディレクトリサービスからユーザのユーザ名とパスワードを検証して取得し、ユーザのホームディレクトリを検索します。ユーザ ID は、ユーザと、「Macintosh マネージャ」にある適切なワークグループ、環境設定、およびコンピュータリストとの照合にも使われます。

ユーザのディスク割り当てやシステムアクセス権など、ほかのすべてのユーザ情報は、「Macintosh マネージャ」を使って設定されます。ユーザを読み込んだら、そのユーザ用のワークグループを作成し、ワークグループが使用できるコンピュータを指定するリストを作成できます。「Macintosh マネージャ」のワークグループおよびコンピュータリストは、「ワークグループマネージャ」のグループおよびコンピュータリストとはまったく別のものです。

ユーザ情報の保存場所

「Macintosh マネージャ」は、ユーザ、ワークグループ、およびコンピュータの設定に関する情報を「Multi-User 項目」フォルダの中のフォルダにあるデータベースファイルに保存します。「ユーザ」、「グループ」、および「コンピュータ」の各フォルダには、2つのデータベースファイルが含まれています。

- 1つのファイルには、データベース内の各レコードのインデックス（ワークグループの名前など）が含まれています。
- もう1つのファイルには、各レコードの特定の情報（ワークグループメンバー、アクセス権、環境など）が含まれています。

ユーザデータベース、グループデータベース、およびコンピュータデータベースは、大きなリレーショナルデータベースの一部ではありませんが、各データベースはほかのデータベースに保存されている情報を相互に参照します。たとえば、ユーザデータベースには、ユーザが所属するワークグループのリストが含まれています。データベース間の一貫性を維持するために、「Macintosh マネージャ」は、データベースの参照を次々に調べ、必要に応じてデータベースをアップデートします。

Macintosh マネージャがホームディレクトリを操作する仕組み

ホームディレクトリの場所は、ユーザアカウントを作成するときに設定できます。ユーザにホームディレクトリがない場合、そのユーザはログインできません。Mac OS 9 の管理されているクライアントは、ユーザのログイン時に、自動的にユーザのホームディレクトリをマウントします。ユーザは自分のホームディレクトリのオーナーであり、その内容に対する完全なアクセス権があります。「Macintosh マネージャ」では、フォルダのアクセス権がアクセス可能に設定されている場合でも、ほかのユーザのホームディレクトリにはアクセスできません。

ユーザアカウントとホームディレクトリの作成について詳しくは、第4章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

Macintosh マネージャが環境設定に従って動作する仕組み

特定のアクセス権を制御するほかに、「Macintosh マネージャ」を使用してアプリケーションの環境設定や「システム環境設定」を制御できます。これらの設定は、ユーザの「Managed Preferences」フォルダ内のフォルダを使用して定義できます。

- 「Initial Preferences」フォルダ内の設定は、1 ユーザに対して一度だけ設定されます。
- 「Forced Preferences」フォルダ内の設定は、ユーザがログインするたびに設定されます。

これらのフォルダを使ってユーザの環境設定を制御する方法について詳しくは、219 ページの「環境設定を管理する」を参照してください。

Macintosh マネージャの初期設定の保存場所

このセクションでは、ユーザ固有の設定（Web ブラウザの「よく使う項目」やデスクトップの背景など）が「Macintosh マネージャ」環境にどのように保存されるかについて説明します。

「Macintosh マネージャ」では、初期設定の保存および初期設定へのアクセスは、次の方法で行われます。

- ユーザがログインしていないとき：Mac OS 9 のクライアントコンピュータでは、ユーザの個々の初期設定の大半はサーバ上に保存されています。
- ユーザが「Macintosh マネージャ」にログインしているとき：「Macintosh マネージャ」によりユーザ固有の初期設定が検索され、ユーザがログインしている間有効になります。Mac OS 9 クライアントの環境設定は、ユーザのホームディレクトリの「/ライブラリ /Classic/Preferences」フォルダに保存されます。

ユーザにホームディレクトリがない場合、Mac OS 9 の場合はクライアントのハードディスク上の「ユーザ」フォルダ内の「初期設定」フォルダに保存できますが、「システムフォルダ」内の「初期設定」フォルダに保存することはできません。

MMLocalPrefs 機能拡張を使用する

一部のアプリケーションのネットワーク使用が過剰になった場合は、初期設定をローカルで保存すれば、ネットワーク全体の負荷を減らすことができます。Mac OS 9 コンピュータに MMLocalPrefs 機能拡張をインストールすると、「Macintosh マネージャ」でのユーザの初期設定の保存とアクセスをローカルで行うことができるようになります。ユーザの初期設定はローカルのハードディスク間でコピーする必要があるため、MMLocalPrefs 機能拡張を使用すると、ログインとログアウトにかかる時間が増加することがあります。

MMLocalPrefs 機能拡張は各コンピュータに手でインストールする必要があり、そのコンピュータにアクセスできるユーザには影響を及ぼしません。

重要：Mac OS 9 クライアントで「チェックアウト」機能を有効にする必要がある場合は、MMLocalPrefs 機能拡張をインストールしないでください。

Macintosh マネージャと NetBoot を一緒に使用する

Mac OS 9 の NetBoot を「Macintosh マネージャ」と一緒に使用する必要はありませんが、NetBoot を使って研究室や教室にあるすべてのコンピュータのシステム設定を管理することができます。Mac OS 9 の NetBoot を使用すると、生徒に同じユーザ環境を与えることができ、保守しやすい安全なネットワーク上で同じリソースに簡単にアクセスできるようになります。

NetBoot を使用する準備

クライアントコンピュータで NetBoot サーバによって提供されるシステムソフトウェアを使用する場合、各コンピュータが使用するソフトウェアのバージョン、およびアクセスするアプリケーションを同一にできます。セッションの際にユーザがどのような変更を行っても、再起動するとコンピュータは同じシステム設定に戻ります。ユーザアプリケーションは、サーバ上に保存されるディスクイメージにのみインストールされるので、ネットワークコンピュータの管理は簡単です。

「NetBoot Desktop Admin」ユーティリティを使って「マルチユーザ」コントロールパネルのオプションを変更し、NetBoot クライアントコンピュータが起動時に「Macintosh マネージャ」からアカウント情報を取得できるようにする必要があります。

NetBoot と一緒に使用するために管理されているネットワークとクライアントを準備する方法の概略を、以下の手順で説明します。詳しくは、システムイメージ管理ガイドを参照してください。

- クライアントコンピュータを、サーバ上の Mac OS ディスクイメージから起動するように設定します。
- 「Macintosh マネージャ」を使用して、ユーザ環境、初期設定、ローカルおよびネットワークリソースへのアクセスを制御します。
- 「Macintosh マネージャ」サーバソフトウェアを、NetBoot クライアントコンピュータが起動に使用する Mac OS イメージを含むサーバ上にインストールします。同じサーバを使って、ユーザの書類とアプリケーションを保存します。
- 教師や技術スタッフなどの特定のユーザ用のワークグループ管理者アカウントを設定してから、それらのユーザに「Macintosh マネージャ」を使用してユーザアカウントとワークグループを管理する方法を示します。

管理された Mac OS 9 クライアントを設定する

次の手順は、「Macintosh マネージャ」でクライアントを管理するための、最初の設定プロセスの概要を示しています。このプロセスの各部の詳細情報と関連作業については、この章の別のセクションで説明しています（参照ページが記載されています）。

手順 1：Macintosh マネージャサービスが使用可能であることを確認する

「Macintosh マネージャ」の機能を利用する前に、「Macintosh マネージャ」サービスがサーバから開始されていることを確認する必要があります。

Macintosh マネージャサービスを開始するには：

- 1 「サーバ管理」を開き、管理者の名前とパスワードを入力します。
- 2 「コンピュータとサービス」リストでサーバを選択します。
- 3 「設定」をクリックし、「Macintosh マネージャ」を使用可能にします。

手順 2：Macintosh マネージャ管理に管理者としてログインする

手順については、178 ページの「Macintosh マネージャに管理者としてログインする」を参照してください。

手順 3：ユーザアカウントを読み込む

ユーザアカウントは、「ワークグループマネージャ」またはテキストファイルから読み込むことができ、ひな形を使って設定を適用できます。「Macintosh マネージャ」には「ゲスト」アカウントがあります。また、読み込まれていないユーザにアクセス権を与えるには、「その他のユーザ」アカウントを使うこともできます。

ユーザアカウントの操作について詳しくは、179 ページの「ユーザアカウントを読み込む」を参照してください。

手順 4：Macintosh マネージャの管理者を指定する

手順については、185 ページの「管理者を指定する」を参照してください。

手順 5：ワークグループ管理者を指定する

手順については、185 ページの「管理者を指定する」を参照してください。

手順 6：ユーザ用のワークグループを作成する

ワークグループを使うと、ユーザをグループ化し、すべてのユーザに同じ設定を適用できます。ワークグループは目的（ビデオ製作）や場所（4 年生の教室）などの条件に従って設定でき、必要なリソースにユーザが簡単にアクセス可能にすることができます。また、ひな形を使ってワークグループ設定を適用することもできます。

新しいワークグループの作成について詳しくは、189 ページの「ワークグループを設定する」を参照してください。

手順 7：コンピュータリストを作成する

コンピュータリストを使うと、コンピュータをグループ化し、すべてのコンピュータに同じ設定を適用できます。また、ひな形を使ってコンピュータリストに設定を適用することもできます。「その他のコンピュータ」アカウントを使って、管理されているネットワークで、コンピュータリストにないコンピュータへのアクセスを提供できます。

コンピュータリストの使用について詳しくは、205 ページの「コンピュータリストを設定する」を参照してください。

手順 8：グローバル設定の選択と管理されている初期設定フォルダの設定を行う

「Macintosh マネージャ」には、ユーザ、グループ、およびコンピュータ用のさまざまな設定に加え、「グローバル」パネルにその他のセキュリティ、および CD-ROM 設定があります。また、初期設定ファイルを「Forced Preferences」、「Initial Preferences」、または「Preserved Preferences」フォルダに入れることによって、ユーザの初期設定を管理することもできます。

グローバル設定の使用について詳しくは、216 ページの「グローバルなセキュリティ設定を使用する」および 218 ページの「グローバル CD-ROM 設定を使用する」を参照してください。

「Managed Preference」フォルダの使用について詳しくは、219 ページの「環境設定を管理する」を参照してください。

Macintosh マネージャに管理者としてログインする

初めて「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアを開いてログインするときは、Mac OS X Server の管理者アカウントを使用できます。その後、このアカウントを使って、または設定したほかの「Macintosh マネージャ」の管理者アカウントを使って、「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアにログインすることができます。

参考：ログインはリモートコンピュータから行う必要があります。「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアは、「Macintosh マネージャ」サーバとして指定したコンピュータ上で使用することはできません。

Macintosh マネージャにログインするには：

- 1 「Dock」の「Macintosh マネージャ」アイコンをクリックして、「Macintosh マネージャ」を開きます。「ワークグループマネージャ」から「Macintosh マネージャ」を開くときは、「Macintosh マネージャ」アイコンをクリックし、「Macintosh マネージャを開く」を選択します。
- 2 管理者アカウントのユーザ名とパスワードを入力します。

ログイン後、ユーザアカウントの追加、ワークグループの作成、コンピュータリストの作成、管理者の指定、および Macintosh マネージメントサービス設定へのアクセスと変更を行うことができます。

Macintosh マネージャの環境設定を操作する

「Macintosh マネージャ」の環境設定では、ユーザとワークグループの並べ替えの方法や、書き出すレポートのフォーマットを選ぶことができます。これらの設定を変更できるのは、「Macintosh マネージャ」の管理者だけです。

Macintosh マネージャの環境設定を変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」にログインします。
- 2 Mac OS X の場合は「Macintosh マネージャ」メニューから「環境設定」を選び、Mac OS 9 の場合は「ファイル」メニューから「初期設定」を選びます。
- 3 ユーザの並べ替えの基準（名前または種類）を選択します。
- 4 ワークグループの並べ替えの基準（名前または環境）を選択します。
- 5 レポートをテキストファイルに書き出すときのフォーマットを選択します（情報フィールドの区切りに、コンマとタブのいずれを使うかを選択します）。
- 6 ユーザ、グループ、またはコンピュータのひな形を使用する場合は、「“ひな形”を表示する」を選択して、アカウントのリストに「ひな形」を組み込みます。

ユーザアカウントを読み込む

このセクションでは、ユーザを読み込んでユーザ設定を適用するためのさまざまな方法について説明します。「Macintosh マネージャ」を使ってユーザアカウントを読み込んだり修正したりする前に、すべてのユーザアカウントを作成しておく必要があります。「Macintosh マネージャ」でユーザアカウントを作成することはできません。ユーザをまだ設定していない場合の詳細と手順については、第 4 章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

「Macintosh マネージャ」ユーザアカウントは、管理されている環境でコンピュータを使用するすべての人のためのものです。大半のユーザは、「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションにアクセスする必要はありません。特定のユーザ（マネージャや教師など）に管理者のアクセス権を与える場合は、185 ページの「管理者を指定する」を参照してください。

「Macintosh マネージャ」の「ユーザ」パネルで、ユーザの設定とユーザの種類を選択します。オプションを手動で選択することも、ユーザが読み込まれるときに設定を適用するひな形を使用することもできます。

ユーザの設定にひな形を適用する

ひな形を作成し、読み込みの際にそれを使って、複数のユーザに同じ設定を適用できます。これにより、多数のユーザの管理をすばやく開始できます。

参考：ひな形をいったん設定すると、元の状態に戻せなくなります。ただし、ひな形の設定は、いつでも変更することができます。

ユーザのひな形を設定または変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」の「ユーザ」パネルで、「読み込まれたユーザ」リストの「ひな形」を選びます。ひな形が表示されない場合は、「Macintosh マネージャ環境設定」を開き、「ひな形」を表示する」が選択されていることを確認します。
Mac OS X で「Macintosh マネージャ環境設定」を開くには「Macintosh マネージャ」メニューから「環境設定」を選びます。Mac OS 9 では、「編集」メニューから「初期設定」を選びます。
- 2 「基本設定」および「拡張設定」パネルで、ひな形で使用するオプションを設定してから、「保存」をクリックします。

すべてのユーザを読み込む

Mac OS X Server データベース内のユーザが少数の場合は、そのすべてを一度に「Macintosh マネージャ」を読み込むことができます。「すべてを読み込み」を使えば、最大 10,000 ユーザまで読み込みます。

すべてのユーザを読み込むには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ユーザ」をクリックします。
- 2 「すべてを読み込み」をクリックします。

「Macintosh マネージャ」の個々のユーザアカウントは、読み込まれたユーザごとに作成されます。この処理は、読み込まれるユーザの数によっては時間がかかることがあります。ユーザは、個別に読み込むこともグループ単位で読み込むこともできます。

1,000 以上のユーザを読み込む場合は、ユーザをテキストファイルから読み込むことを検討してください。

1 人または複数のユーザを読み込む

必要に応じて、個人ユーザや少数のグループのユーザを読み込むことができます。1 人ずつユーザを読み込む際は、「Macintosh マネージャ」管理用ソフトウェアを Mac OS X で使用している必要があります。Mac OS 9 のコンピュータで「Macintosh マネージャ」を使っている場合は、ユーザを 1 人ずつ読み込むことはできません。

Macintosh マネージャに 1 人または複数のユーザを追加するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ユーザ」をクリックします。
- 2 「読み込み」をクリックします。

- 3 「ワークグループマネージャ」をまだ開いていない場合は、ユーザの追加についてのメッセージが表示されます。「開く」をクリックして「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 4 「ワークグループマネージャ」で、「ユーザとグループ」をクリックしてユーザとグループのリストを表示します。
- 5 「ユーザとグループ」リストで、読み込みたいユーザを選択し、それらを「Macintosh マネージャ」の「読み込まれたユーザ」リストにドラッグします。両方のリストが見えるように、ウィンドウの配置を調整してください。

ユーザとグループリストでユーザが見つからない場合は、そのユーザが Mac OS X Server のディレクトリ内に存在していない可能性があります。

10,000 以下のユーザを読み込む場合は、「すべてを読み込む」を使用することもできます。

ユーザ情報をテキストファイルにまとめる

ユーザ情報を含む標準テキストファイルを作成し、「Macintosh マネージャ」にユーザを読み込む際にそのファイルを使用できます。このファイルには、各ユーザに関する情報として、ユーザ ID、ユーザ名、ショートネームの少なくとも 1 つが含まれている必要があります。パスワード情報をリストに入れる必要はありません。

ユーザ情報をテキストファイルにまとめるには：

- 1 テキストファイル内の各ユーザが、ディレクトリサービスに存在していることを確認します。存在していないユーザについての情報は無視されます。
- 2 ユーザ情報の各行がハードリターンで区切られていることを確認します。
各行にユーザ情報の項目が複数ある場合は、各項目がコンマかタブのいずれかで区切られていることを確認します。
- 3 ファイルが標準テキストとして保存されており、ファイル名の末尾に「.txt」が付いていることを確認します。

エラーの可能性を低くするために、テキストファイル内でユーザ情報の種類を混ぜて使用することは避けてください。たとえば、各ユーザのユーザ ID だけを使用するなどしてください。

テキストファイルからユーザのリストを読み込む

多数のユーザの管理を始める際は、テキストファイルを使ってユーザ情報を読み込むと便利です。

ユーザをテキストファイルから読み込むには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ユーザ」をクリックします。
- 2 「ファイル」メニューから「ユーザリストを読み込む」を選び、読み込みたいファイルを選択します。
- 3 「読み込み可能フィールド」リストで、テキストファイル内のユーザ情報の最初の項目と一致するリスト項目を選択し、「追加」をクリックしてその項目を「読み込み」リストに追加します。
たとえば、テキストファイル内の最初の項目が「ユーザ ID」の場合、「読み込み」リストに追加する最初の項目は「ユーザ ID」にする必要があります。読み込みたい情報ごとに、同じことを行います。
- 4 テキストファイル内のユーザ情報の項目が何で区切られているかによって、「フィールドの区切り」で「タブ」または「コンマ」のいずれかを選びます。
- 5 「読み込みサンプルを開く」をクリックして読み込まれた情報をプレビューするか、「OK」をクリックして読み込みを開始します。

ユーザが見つからない場合は、警告メッセージが表示されます。「Macintosh マネージャ」に読み込む前に、テキストファイル内のユーザがディレクトリサービスのデータベースに存在している必要があります。

特定の読み込まれたユーザを検索する

「ユーザを選択」を使って、選択した基準に従って「Macintosh マネージャ」のユーザを検索できます。

ユーザを検索するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開き、「ユーザ」をクリックします。
- 2 ユーザのリストに「ひな形」が表示されている場合は、ひな形を選択しないようにします。
- 3 「編集」メニューから「ユーザを選択」を選びます。
- 4 使用する検索情報の種類を選択します。

「コメント」を選択すると、コメントフィールドに特定の単語が含まれているユーザを検索できます。

読み込まれていないユーザに簡単にアクセスを提供する

ユーザがユーザアカウントを設定しなくても管理されているネットワークにアクセスできるようにする場合は、「その他のユーザ」を使うか、ゲストユーザアカウントを設定できます。

ポータブルコンピュータでネットワークにアクセスする必要がある場合は、「その他のコンピュータ」アカウントを使用することもできます。

ゲストアカウントを使用する

「Macintosh マネージャ」では 3 種類の「ゲスト」アカウントを作成でき、それらをすべて管理できます。

• その他のユーザ

「その他のユーザ」を使用すると、多数のユーザにすばやくアクセス権を与えることができ、「Macintosh マネージャ」に読み込まなくてもそれらのユーザを管理できます。Mac OS X の既存のユーザアカウントを持つユーザは、ログインが可能で、自分のホームディレクトリ、環境設定、および書類にアクセスできます。このようなユーザは、「その他のユーザ」アカウントに設定されたアクセス権と環境を持ちます。「その他のユーザ」にログイン設定を設定したり、プリンタの割り当てを超えることを許可したりすることもできます。

「その他のユーザ」アカウントの設定方法について詳しくは、183 ページの「読み込まれていない Mac OS X Server のユーザにアクセス権を与える」を参照してください。

• ゲスト

ユーザが「ゲスト」としてログインするとき、パスワードは必要ありません。「Macintosh マネージャ」や Mac OS X Server のユーザアカウントを持っている人も、アカウントを持っていない人も、ゲストアカウントが利用可能になっているときはだれでも使用できます。

「ゲスト」としてログインしたすべてのユーザは、同じアクセス権と環境設定を持ちます。ゲストアカウントに対して選択した設定は、「ゲスト」としてログインするすべてのユーザに適用されます。ゲストユーザには、ログイン設定とユーザのディスク割り当てを設定できます。また、プリンタの割り当てを超えることを許可することもできます。

ゲストユーザアカウントの使用について詳しくは、184 ページの「ゲストユーザアカウントを設定する」を参照してください。

• その他のコンピュータ

「不明」のコンピュータ、つまり「Macintosh マネージャ」のコンピュータリストにないコンピュータは、「その他のコンピュータ」アカウントに対して選択されている設定を使用します。独自のポータブルコンピュータを使ってネットワークに接続するユーザを管理する場合は、「ゲスト」コンピュータを使用可能にすると便利です。

「その他のコンピュータ」アカウントの設定方法について詳しくは、206 ページの「「その他のコンピュータ」アカウントを設定する」を参照してください。

読み込まれていない Mac OS X Server のユーザにアクセス権を与える

「その他のユーザ」アカウントを有効にすると、「Macintosh マネージャ」が「その他のユーザ」アカウントを作成し、そのアカウントを「読み込まれたユーザ」リストで使用できるようになります。「その他のユーザ」アカウントはワークグループと設定を持つその他のユーザアカウントと同じように扱えますが、次のようないくつかの例外があります。

- コンピュータのチェックアウトは許可されていません。
- クライアントコンピュータでのオフライン作業は許可されていません。
- ディスク割り当ては必須ではありません。

「その他のユーザ」アカウントを使用すると、最も迅速かつ便利な方法で、認証済みアクセスを許可し、ユーザを「Macintosh マネージャ」に読み込まずに、そのユーザ用にカスタマイズされた環境を設定できます。たとえば、中央ユーザデータベースがある学校では、「その他のユーザ」アカウントを使って、コンピュータ室に「Macintosh マネージャ」を設定できます。Mac OS X Server のアカウントを持つ校内にいるユーザは、コンピュータ室に入ってログインし、管理されている環境にある自分のホームディレクトリにアクセスできます。

「その他のユーザ」アカウントを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「その他のユーザを許可する」を選択し、「保存」をクリックします。
- 3 「ユーザ」タブをクリックして、「読み込まれたユーザ」リストの「その他のユーザ」を選びます。
- 4 「基本設定」および「詳細設定」パネルで設定を選択してから、「保存」をクリックします。
- 5 「ワークグループ」をクリックし、ワークグループに「その他のユーザ」を追加してから、ワークグループに名前を付けます。
- 6 該当のワークグループ用の設定を選択してから、「保存」をクリックします。
- 7 「コンピュータ」をクリックし、コンピュータが今作成したワークグループを使用できるようにします。

「その他のユーザ」アカウントでは、コンピュータのチェックアウトの設定、オフライン作業、およびディスク割り当ては許可されていません。

ゲストユーザアカウントを設定する

「ゲスト」アカウントは各ユーザ用の個別のユーザ名やパスワードを必要としないため、ユーザが自分のホームディレクトリにアクセスする必要がある共有コンピュータやkioskを設定する際に便利です。

「ゲスト」アカウントを有効にすると、「Macintosh マネージャ」が「ゲスト」アカウントを作成し、そのアカウントを「読み込まれたユーザ」リストで使用できるようにします。コンピュータのチェックアウトおよびクライアントコンピュータでのオフライン作業は許可されていません。

「ゲスト」アカウントでは、ほかのユーザアカウントと同様に、ワークグループに追加して「Macintosh マネージャ」の設定を適用することができますが、次のようないくつかの例外があります。

- コンピュータのチェックアウトは許可されていません。
- クライアントコンピュータでのオフライン作業は許可されていません。

ゲストアカウントを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開き、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「ゲストアクセスを許可する」を選択します。
- 3 「ユーザ」をクリックし、「読み込まれたユーザ」リストから「ゲスト」を選択します。「基本設定」および「詳細設定」パネルで、使用する設定を選択します。
- 4 「ワークグループ」をクリックします。「ゲスト」アカウント用のワークグループを作成するか、既存のワークグループを選択して「メンバー」パネルの「ワークグループメンバー」リストに「ゲスト」を追加します。

- 5 これらのワークグループにコンピュータの 1 つまたは複数のリストを使用できるようにして、コンピュータにアクセス権を与えます。
- 6 「保存」をクリックします。

管理者を指定する

ユーザアカウントを読み込んだら、一部のユーザに管理者のアクセス権を与える必要があります。「Macintosh マネージャ」のアクセス権の階層は「ワークグループマネージャ」の階層と同じですが、「Macintosh マネージャ」は 2 種類の管理アカウントしか使用しません。「Macintosh マネージャ」のワークグループ管理者は「ワークグループマネージャ」のディレクトリドメイン管理者と同じですが、そのアクセス権は「Macintosh マネージャ」で作成したワークグループにしか適用されません。

Macintosh マネージャ管理者について

「Macintosh マネージャ」の管理者は、ユーザアカウントの読み込み、編集、および削除を行うことができ、ワークグループ管理者とその他の「Macintosh マネージャ」の管理者を作成できます。「Macintosh マネージャ」の管理者は、すべての「Macintosh マネージャ」設定を変更できます。また、許可されている場合はその管理者のパスワードを使ってユーザ（ほかの「Macintosh マネージャ」の管理者を除きます）としてログインできます。

「Macintosh マネージャ」の管理者のアクセス権は、Mac OS X の「ワークグループマネージャ」ツールでは適用されません。たとえば、「Macintosh マネージャ」の管理者は、Mac OS X Server の管理者アカウントを持っていない限り、「ワークグループマネージャ」にユーザアカウントを作成することはできません。

Mac OS X Server の管理者に Macintosh マネージャのアカウントの使用を許可する

「Macintosh マネージャ」は「ワークグループマネージャ」が使用するデータ（ユーザ ID 以外）とは切り離されているため、Mac OS X Server の管理者アカウントは「Macintosh マネージャ」に正規のユーザとして読み込まれます。このようなユーザはクライアントコンピュータにログインするときに自分のホームディレクトリにアクセスできないことがあり、「Macintosh マネージャ」で自動的に管理者のアクセス権を持つことはありません。また、「Macintosh マネージャ」の共有ポイントにアクセスしたり、管理されている環境設定を設定したりすることはできません。

「Macintosh マネージャ」に含めるすべてのサーバ管理者に個別の Mac OS X Server のユーザアカウントを作成する必要があります。作成したら、それらのアカウントを「Macintosh マネージャ」に読み込みます。「Macintosh マネージャ」を使って管理者のアクセス権をユーザに設定したい場合は、「ユーザ」パネルの「基本」パネルで、ユーザの種類を「Macintosh マネージャ管理者」に設定します。これらのユーザに、「Macintosh マネージャ」内で完全な管理者アクセス権を与える場合は、186 ページの「Macintosh マネージャの管理者を作成する」の手順に従ってください。

ワークグループ管理者について

ワークグループ管理者は、割り当てられているアクセス権に従って、ユーザアカウントとワークグループを追加または編集できます。アクセス権と無関係に、ユーザの種類の変更やアクセス設定の変更は行えず、「Finder」ワークグループを作成できません。

また、ワークグループ管理者には、提出フォルダのような共有フォルダへのアクセス権があります。このフォルダは、書類をユーザから集める際に使用できます。たとえば、学校では、ワークグループ管理者である教師が、ネットワークを介して課題を配布したり回収したりできます。教師は、授業に役立つさまざまなネットワークリソース、アプリケーション、およびCDを利用可能にすることもできます。

Macintosh マネージャの管理者を作成する

少なくとも1人の「Macintosh マネージャ」の管理者を作成し、ユーザがセキュリティを無視して別の「Macintosh マネージャ」サーバに変更しないようにする必要があります。

サーバ管理者のアクセス権を持つユーザは、通常のユーザとして読み込まれます。これらのユーザには、「Macintosh マネージャ」の管理者アクセス権は自動的に割り当てられませんが、手動で割り当てることができます。

Macintosh マネージャの管理者を指定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ユーザ」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストで1人または複数のユーザを選択します。
- 3 ユーザの種類を「Macintosh マネージャ管理者」に変更し、「保存」をクリックします。

すべての「Macintosh マネージャ」管理者が自分のパスワードを使ってほかの「Macintosh マネージャ」管理者以外のユーザとしてログインできるようにする場合は、「グローバル」パネルの「セキュリティ」で「ユーザはサーバ管理者のパスワードを使ってログインできる」を選択します。

ワークグループ管理者を作成する

特定のユーザアカウントやワークグループを追加したり変更したりする必要がある人（教師や技術コーディネータなど）に対して、ワークグループ管理者のアカウントを設定できます。

ワークグループ管理者を指定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ユーザ」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストで1人または複数のユーザを選択します。
- 3 ユーザの種類を「ワークグループ管理者」に変更して、「保存」をクリックします。

Macintosh マネージャの管理者のパスワードを変更する

「Macintosh マネージャ」の管理者は、必要に応じていつでも自分のパスワードを変更できます。

管理者のパスワードを変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」にログインします。
- 2 「設定」メニューから「パスワードを変更」を選びます。
- 3 表示されるテキストフィールドに現在のパスワードを入力し、次に新しいパスワードを入力します。その後、確認のためもう一度新しいパスワードを入力します。

ユーザ設定を操作する

このセクションでは、ユーザの基本設定と詳細設定、およびその使いかたについて説明します。「詳細設定」パネルで使用できる設定は、ユーザの種類によって異なります。ユーザの種類とは無関係に、すべてのユーザが基本設定用に使用できる同じオプションがあります。

ユーザの基本設定を変更する

名前、ショートネーム、およびID情報は、各ユーザと一緒に読み込まれます。この情報は「Macintosh マネージャ」では変更できません。この情報の変更方法について詳しくは、第4章「ユーザアカウントを設定する」を参照してください。

一度に複数のユーザの「基本設定」を変更できます。複数のユーザを選択した場合は、名前、ショートネーム、およびIDが「複数選択」に変わります。

ユーザの基本設定を変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「基本設定」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストで1人または複数のユーザを選択します。
- 3 「ユーザの種類」ポップアップメニューから種類を選択します。
- 4 ログイン設定を選択します。

「ユーザにログインを許可する」がすでに選択されています。ユーザのログインをすぐに停止したい場合は、この選択を解除します。

ユーザが特定の日の後（たとえば、学校の期末日以降など）はログインできないようにする場合は、「ログインの失効日」を選択し、日付を入力します。

- 5 「コメント」フィールドにコメント（最大63文字）を追加します。

このフィールドには、ユーザ固有の情報（生徒の学年や従業員のオフィス所在地など）またはユーザを検索する際に役立つキーワードを入力しておくくと便利です。

- 6 「保存」をクリックします。

ユーザに複数のログインを許可する

通常、ユーザは、別のコンピュータにログインする前に、現在ログインしているコンピュータからログアウトする必要があります。ただし、技術サポートのスタッフや管理者などの特定のユーザには、保守作業などのために複数のコンピュータに同時にログインできるようにする場合があります。

同時ログインを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「詳細設定」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストでユーザを選択します。
- 3 「ユーザが一度にログインできるコンピュータは 1 台」の選択を解除します。
- 4 「保存」をクリックします。

ユーザにシステムアクセスを許可する

システムへのアクセス権を持つユーザは、「Finder」や「システムフォルダ」を含むクライアントコンピュータのすべての項目にアクセスできます。システムアクセスは、ワークグループ管理者や技術サポートスタッフなどの特定のユーザに、必要な場合のみ許可してください。「Macintosh マネージャ」の管理者は、常にシステムアクセスが可能です。

ユーザにシステムアクセスを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「詳細設定」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストで正規のユーザまたはワークグループ管理者を選択します。
- 3 「ユーザにシステムアクセスを許可する」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

詳細設定を変更する

ユーザの種類によって、使用できる詳細設定と使用できない詳細設定があります。また、ワークグループ管理者は、アクセス設定、メール設定、またはユーザの種類を変更することはできません。

ユーザの詳細設定を変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「詳細設定」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リスト内の変更するユーザを選択します。
複数のユーザを選択できますが、同じ種類のユーザである必要があります。種類が異なるユーザを選択すると、それらのユーザに共通する「詳細設定」しか変更できなくなります。
- 3 アクセス設定を選択し、「割り当て」を設定します。
最初は、すべての種類のユーザが一度に 1 台のコンピュータだけにログインできます。ほかの設定は選択されていません。
- 4 ユーザがワークグループ管理者である場合は、「このワークグループ管理者に次のことを許可する」の下にあるユーザに与えるアクセス権を選択します。最初は、アクセス権は何も選択されていません。
- 5 「保存」をクリックします。

ユーザのディスク容量を制限する

ディスク容量の割り当ては、ユーザのホームディレクトリで使用できる容量を制限します。容量の制限を超えると、ユーザは、そのホームディレクトリには制限以上のファイルを保存できなくなります。ディスク容量が不足してくると、ユーザに警告メッセージが表示されます。

ユーザのディスク割り当てを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「詳細設定」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストでユーザを選択します。
- 3 「ユーザのディスク割り当てを __K に設定する」を選択し、許可する最大ディスク容量をキロバイト単位（1024 キロバイト=1 メガバイト）で入力します。
ディスク割り当てを設定する際は、使用可能なディスク容量とそれを共有するユーザの数に注意してください。
- 4 設定した割り当てを超えた場合でもユーザがファイルを保存できるようにするには、「この制限を超えた場合にのみユーザに警告する」を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

ユーザの情報を Mac OS X Server から更新する

「ワークグループマネージャ」内のユーザ情報を変更したり、ユーザアカウントを削除する場合は、「Macintosh マネージャ」を Mac OS X Server データベースと同期させて、その両方でユーザのデータが同じになるようにする必要があります。

Macintosh マネージャのユーザデータを更新するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ユーザ」をクリックします。
- 2 「ファイル」メニューから「ユーザとワークグループを検証」を選びます。

ユーザのアカウントがサーバデータベースに存在すると、「Macintosh マネージャ」は、サーバのデータベース内の情報と一致するようにそのユーザの情報を更新します。ユーザの数が多いと、この処理には時間がかかることがあります。

参考：アカウントが見つからない場合、そのユーザは「Macintosh マネージャ」から削除されます。

ワークグループを設定する

「ワークグループ」パネルの「メンバー」パネルでは、新しいワークグループを作成したり、既存のワークグループの名前または種類を変更したり、ワークグループメンバーを追加または取り除いたりすることができます。

重要：ワークグループメンバーでないユーザは、「Macintosh マネージャ」ネットワークにログインできません。グループのアカウントは「ワークグループマネージャ」からは読み込まれないため、作成する必要があります。管理されているすべてのユーザは、少なくとも 1 つのワークグループに属する必要があります。ユーザは複数のワークグループに所属できますが、ログインするときは 1 つのワークグループしか選択できません。

このセクションでは、さまざまなワークグループ環境と、ワークグループを複製したり、ひな形を使用したりして手動でワークグループ設定を適用する方法を説明します。

ワークグループ環境の種類

ワークグループは、3種類のデスクトップ環境のうちの1つを持つことができます。3つの種類のすべてに、いくつかの共通するオプション設定があります。重要な違いを以下に説明します。

- 「Finder」ワークグループには標準の Mac OS のデスクトップがあります。
「システムフォルダ」と「アプリケーション」フォルダは、自動的に保護されませんが、選択して保護することはできません。「Finder」ワークグループのメンバーには、「ファイル」メニュー、アップルメニュー、または「特別」メニューに関する制限はありません。また、リムーバブルメディアや CD に関する制限もありません。
- 「制限付き Finder」ワークグループには標準の Mac OS のデスクトップがありますが、制限が付けられています。
「システムフォルダ」と「アプリケーション」フォルダは保護されています。つまり、ユーザはその内容を見ることはできますが、内容を変更したり新しい項目を追加したりすることはできません。ユーザは「ファイル」メニューと「特別」メニューの項目にアクセスできますが、アップルメニューの場合は使用可能な項目を選ぶことができます。また、ユーザがスクリーンショットを撮影できるかどうかを制御したり、CD、リムーバブルメディア、および共有フォルダへのアクセス権を選択したりできます。
- 「パネル」ワークグループには、初心者（特に子供たち）がコンピュータを容易に利用できるように、大きなアイコンを使用したシンプルなインターフェースがあります。
「パネル」ワークグループのオプションは、「制限付き Finder」のオプションと同じものですが、いくつかの追加オプションがあります。「ファイル」メニューと「特別」メニューに加えアップルメニューへのアクセスも制御でき、マウントされたボリュームをパネルとして表示するかどうかを選択できます。「パネル」ワークグループのメンバーは、ローカルハードディスク上の項目を見ることはできません。

ワークグループを作成する

ワークグループメンバーはどの種類のユーザからでも構成でき、ワークグループは最大 1500 のメンバーを持つことができます。ワークグループ管理者は、許可されている場合は「制限付き Finder」および「パネル」ワークグループを作成できますが、「Finder」ワークグループは作成できません。

ワークグループを作成するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ワークグループ」をクリックします。
- 2 「新規」をクリックし、ワークグループの名前を入力します。
- 3 「環境」ポップアップメニューから環境の種類を選びます。
- 4 「使用可能なユーザ」リストから 1 人以上のユーザを選択し、「追加」をクリックします。
ワークグループメンバーを取り除くには、「ワークグループメンバー」リスト内の取り除きたいユーザを選択してから「取り除く」をクリックします。
- 5 もう 1 つのパネルでこのワークグループの設定を選び、「保存」をクリックします。

ワークグループを複製するか、新しいワークグループに設定を適用するひな形を使用できます。

ひな形を使ってワークグループ設定を適用する

ひな形を使って、同じ設定を持つ複数のワークグループをすばやく作成できます。いったんひな形を変更すると、新しく作成するワークグループのそれぞれがそのひな形の設定を持つこととなります。ワークグループに対する追加の変更は、作成後に行うことができます。

参考：ひな形をいったん設定すると、元の状態に戻せなくなります。ただし、ひな形の設定は、いつでも変更することができます。

ひな形を設定または変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ワークグループ」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「ひな形」を選択します。

ひな形が表示されない場合は、「Macintosh マネージャ環境設定」を開き、「ひな形」を表示する」が選択されていることを確認します。

Mac OS X で「Macintosh マネージャ環境設定」を開くには「Macintosh マネージャ」メニューから「環境設定」を選びます。Mac OS 9 では、「編集」メニューから「初期設定」を選びます。

- 3 「ワークグループ」パネルのそれぞれに、ひな形で使用したいオプションを設定してから、「保存」をクリックします。

ワークグループを既存のワークグループから作成する

既存のワークグループを複製すれば、すでに目的の設定やメンバーを含んでいるもう 1 つの「Macintosh マネージャ」ワークグループを、すばやく作成できます。

ワークグループを複製するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「ワークグループ」をクリックします。次に、「ワークグループ」リストでワークグループを選択します。
- 2 「複製」をクリックし、ワークグループの新しい名前を入力します。
- 3 必要に応じてメンバーを追加または取り除き、設定を変更してから、「保存」をクリックします。

ひな形を使って、あらかじめ選択した設定を新しいワークグループに適用することもできます。

既存のワークグループを変更する

ワークグループを作成した後は、その名前や環境の種類を変更したり、メンバーを追加または取り除いたりすることができます。ワークグループ管理者は、ワークグループのメンバーでもある場合のみ、ワークグループの設定を変更できます。

メンバー設定を変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「メンバー」をクリックします。
- 2 テキストフィールドのワークグループ名を変更します。
- 3 ポップアップメニューで新しい環境を選択します。

ワークグループ管理者は、「Finder」をワークグループ環境として選択することはできません。

- 4 新しいメンバーを追加したい場合は、「使用可能なユーザ」リストで1人以上のユーザを選択し、「追加」をクリックします。メンバーを取り除くには、「ワークグループメンバー」リストでメンバーを選び、「取り除く」をクリックします。
- 5 「保存」をクリックします。

項目設定を使用する

項目設定により、クライアントコンピュータ上のファイルとアプリケーションをワークグループメンバーが使用できるようにします。

Finder ワークグループの項目にショートカットを設定する

「項目」パネルの設定を使用して、ワークグループがアクセスできるアプリケーション、フォルダ、およびファイルのリストを作成できます。ローカル項目へのアクセスを許可することを選ぶと、項目は「ショートカット項目」リストに表示されます。「Macintosh マネージャ」ではリスト内の各項目のエイリアスが作成されます。

「ショートカット項目」のエイリアスは、ユーザのデスクトップ上に表示されます。ユーザのログイン時に、コンピュータは「選択した項目の検索方法」の場所でオリジナルファイルを検索し、次にファイルのエイリアスを作成します。

重要：オリジナルの項目をローカルボリュームのみで検索する場合以外は、先に進む前に必ず個人用ファイルの共有をオフにし、ほかの AFP (Apple Filing Protocol) サービスが起動していないことを確認してください。あるいは、「Macintosh マネージャ」(ファイルサービスではありません) がインストールされているコンピュータを使用してください。

ローカルボリューム上の項目をワークグループで使用可能にするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「項目」をクリックします。
- 2 ユーザがログインしているコンピュータ上に保存されている項目へのアクセスを許可したい場合は、「メンバーはローカルボリュームのすべての項目を開くことができる」を選択します。

このオプションを選ぶと、アクセスは制限されますが、「ショートカット項目」を使ってアプリケーション、フォルダ、およびファイルの特定のリストにすばやくアクセスできます。

- 3 「ボリューム」ポップアップメニューでボリュームを選択します。
- 4 「ショートカット項目」リストに追加したい「ボリューム」リスト内の項目を選択し、「追加」をクリックします。

「ショートカット項目」リストから項目を取り除くときは、項目を選び、「取り除く」をクリックします。ファイルやフォルダなどの追加項目を検索するには、「検索」を使用します。

- 5 「選択した項目の検索方法」ポップアップメニューから場所を選択します。

ユーザのコンピュータはその場所でオリジナルファイルを検索してから、エイリアスをダウンロードします。

- 6 「保存」をクリックします。

パネルまたは制限付き Finder ワークグループが項目を利用できるようにする

「項目」パネルの設定を使用して、ワークグループがアクセスできるアプリケーション、フォルダ、およびファイルのリストを作成できます。特定の項目のみへのアクセスを許可することを選ぶと、その項目が「許可された項目」リストに表示されます。「Macintosh マネージャ」ではリスト内の各項目のエイリアスが作成されます。

「許可された項目」のエイリアスは、「パネル」ワークグループのパネル上、または「制限付き Finder」ワークグループのデスクトップ上のフォルダ内のいずれかに表示されます。ユーザのログイン時に、コンピュータは「選択した項目の検索方法」の場所でオリジナルファイルを検索し、次にファイルのエイリアスを作成します。

重要：オリジナルの項目をローカルボリュームのみで検索する場合以外は、先に進む前に必ず個人用ファイルの共有を使用停止にし、ほかの AFP サービスが起動していないことを確認してください。あるいは、「Macintosh マネージャ」（ファイルサービスではありません）がインストールされているコンピュータを使用してください。

アプリケーションおよびその他の項目にアクセスできるようにするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「項目」をクリックします。
- 2 アプリケーションのアクセス設定を選択します。

ユーザがログインしているコンピュータ上に保存されている項目へのアクセスを許可したい場合は、「メンバーはローカルボリュームのすべての項目を開くことができる」を選択します。このオプションを選ぶと、アクセスは制限されますが、「ショートカット項目」を使ってアプリケーション、フォルダ、およびファイルの特定のリストにすばやくアクセスできます。

特定の許可されたアプリケーション、フォルダ、またはファイルのみへのアクセスを許可する場合は、「次の項目のみを開くことをメンバーに許可する」を選択します。

- 3 「ボリューム」ポップアップメニューでボリュームを選択します。
- 4 「許可された項目」または「ショートカット項目」リストに追加したい「ボリューム」リスト内の項目を選択し、「追加」をクリックします。項目をリストに直接ドラッグすることもできます。

リストから項目を取り除くときは、項目を選び、「取り除く」をクリックします。ファイルやフォルダなどの追加項目を検索するには、「検索」を使用します。

- 5 「選択した項目の検索方法」ポップアップメニューから場所を選択します。

ユーザが「ショートカット項目」または「許可された項目」のエイリアスを開こうとすると、コンピュータは「選択した項目の検索方法」の場所でオリジナルファイルを検索します。

コンピュータでは、ローカルボリュームとマウントされたサーバボリュームを検索できます。オリジナルの項目がマウントされていないサーバボリューム上にある場合、コンピュータはその項目を検索できません。

NetBoot クライアントコンピュータの場合、ローカルボリュームは、コンピュータ内のハードディスク、またはコンピュータに直接接続されたすべての外部ハードディスクです。NetBoot クライアントコンピュータの起動ボリュームはリモートボリュームですが、ローカルボリュームのように扱われます。

- 6 「保存」をクリックします。

個々のユーザが項目を利用できるようにする

特定の書類やアプリケーションを個々のユーザが利用できるようにしたい場合があります。たとえば、特別なビデオプロジェクトに取り組んでいるユーザは、ほかのワークグループメンバーには必要がないビデオ編集アプリケーションが必要になることがあります。

項目を特定のユーザが使用できるようにするには：

- ユーザのホームディレクトリ内に項目を入れます。

アクセス権の設定を使用する

「アクセス権」パネルの設定により、特定のセキュリティレベルの強化、ワークグループフォルダに対するアクセス権の制御、スクリーンショットの撮影、オーディオ CD の再生、リムーバブルメディア上の項目を開くことなどをユーザに許可するオプションの設定を行うことができます。使用できるアクセス権の設定は、「ワークグループ」リストで選択されているワークグループの種類によって異なります。変更を行うときに複数種類のワークグループを選択した場合は、ワークグループに共通した設定しか変更できません。

システムフォルダとアプリケーションフォルダを保護する

「パネル」および「制限付き Finder」ワークグループの場合、「システムフォルダ」と「アプリケーション」フォルダは常にロックされています。ユーザは内容を見ることはできますが、変更はできません。「Finder」ワークグループでは、これらのフォルダを自動的に保護するようにすることはできませんが、フォルダに制限を設定することはできます。

システムフォルダとアプリケーションフォルダを保護するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「Finder」ワークグループを選択します。
- 3 保護する「システムフォルダ」と「アプリケーション」フォルダそれぞれの横にあるチェックボックスをクリックします。
- 4 「保存」をクリックします。

ユーザのデスクトップを保護する

ユーザがデスクトップ上のファイルやフォルダを保存したり、デスクトップパターンやアイコンの配置などのデスクトップ設定を変更できないようにしたりすることができます。

デスクトップを保護するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストでワークグループを選択します。
- 3 「起動ボリューム上のユーザのデスクトップをロックする」を選択するチェックボックスをクリックします。
- 4 「保存」をクリックします。

アプリケーションによってファイルが変更されないようにする

ファイルレベルのセキュリティを適用すると、保護されたフォルダとファイルはアプリケーションによる書き込みができなくなります。ただし、一部の古いアプリケーションでは、ディスクのエラーを記録したり、起動するときに問題が発生したりすることがあります。ファイルレベルのセキュリティを設定しない場合、アプリケーションは任意の場所に情報（一時データや環境設定など）を書き込むことができます。

ファイルレベルのセキュリティは Mac OS 9 クライアントの場合のみ使用でき、アプリケーションだけに適用されます。これは、フォルダとファイルへのユーザアクセスには影響しません。

ファイルレベルのセキュリティを適用するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストでワークグループを選択します。
- 3 「Mac OS 9 ワークステーションのファイルレベルのセキュリティを強化する」を選択してから、「保存」をクリックします。

FireWire ディスクにアクセスできないようにする

ファイルレベルのセキュリティを有効にして、起動時にマウントされる FireWire ハードディスクに「パネル」ワークグループのユーザがアクセスできないようにすることができます。これは Mac OS 9 クライアントのみに適用され、「Finder」または「制限付き Finder」ワークグループには影響しません。

FireWire ディスクへのアクセスを防ぐためにファイルレベルのセキュリティを使用可能にするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「パネル」ワークグループを選択します。
- 3 「Mac OS 9 ワークステーションのファイルレベルのセキュリティを強化する」を選択してから、「保存」をクリックします。

ユーザにオーディオ CD の使用を許可する

「Finder」ワークグループ内のユーザはオーディオ CD をいつでも再生できます。「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループは自動的にこの権限を持つわけではなく、管理者が個別に権限を与えることができます。

ユーザにオーディオ CD の使用を許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 3 「オーディオ CD を使用」を選択してから、「保存」をクリックします。

CD によっては、オーディオ以外のトラックを含むものもあります。CD の最初のトラックがオーディオトラックの場合、その CD はオーディオ CD です。

ユーザにスクリーンショットの撮影を許可する

ユーザは特殊キーの組み合わせを使用して、コンピュータ画面の写真（「スクリーンショット」といいます）を撮り、その写真をユーザの「書類」フォルダにファイルとして保存できます。「Finder」ワークグループのユーザは、常にスクリーンショットの撮影が許可されています。「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループは自動的にこの権限を持つわけではなく、管理者が個別に権限を与えることができます。

ユーザにスクリーンショットの撮影を許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 3 「スクリーンショットを撮る」を選択してから、「保存」をクリックします。

ディスク容量が心配な場合は、この機能を有効にしないことをお勧めします。

スクリーンショットを撮りかたについて詳しくは、「Mac ヘルプ」を参照してください。

ユーザにディスクからアプリケーションを開くことを許可する

ユーザがアクセスできる「許可された項目」（アプリケーションまたはスクリプト）のリストを使用している場合、「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループ内のユーザは、許可されない限りリムーバブルメディア（フロッピーディスクなど）上のアプリケーションを開くことはできません。

「Finder」ワークグループにはこの制限はありません。

リムーバブルメディア上のアプリケーションを開くことをユーザに許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 3 「リムーバブルメディア上の許可された項目を開く」を選択してから、「保存」をクリックします。

リムーバブルメディアには、フロッピーディスク、Zip ディスク、およびその他すべてのリムーバブルメディアが含まれます（CD と DVD は除きます）。

「ワークグループ」パネルの「項目」パネルで、許可された項目のリストを設定できます。

リムーバブルメディアのアクセス権を設定する

「パネル」および「制限付き Finder」ワークグループの場合、リムーバブルメディアへのアクセス権を設定できます。リムーバブルメディアには、フロッピーディスク、Zip ディスク、およびその他すべてのリムーバブルメディアが含まれます（CD は除きます）。

リムーバブルメディア（CD 以外）へのアクセス権を設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 3 「リムーバブルメディア（CD は除く）」の右のポップアップメニューからアクセス権の設定を選択し、「保存」をクリックします。

メニュー項目のアクセス権を設定する

「Finder」の特定のメニューについて、ユーザが見ることができるメニュー項目を決定することができます。「パネル」ワークグループの場合、アップルメニュー、「ファイル」メニュー、および「特別」メニューの項目を制御できます。「制限付き Finder」ワークグループの場合は、アップルメニューと「特別」メニューの項目しか制御できません。「Finder」ワークグループにはこれらの制限はありません。

メニュー項目のアクセス権を設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」リストで「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 3 ワークグループメンバーが使用できるようにしたいメニュー項目を選択してから、「保存」をクリックします。

Macintosh マネージャで情報を共有する

「Macintosh マネージャ」には、さまざまな種類の共有フォルダを使うことでユーザやワークグループ間で情報を共有する多くの方法があります。大半の共有フォルダは、「グループの書類」ボリュームの中に作成されます。自動的に作成されるフォルダもありますが、管理者が作成する必要があるフォルダもあります。

共有フォルダの種類

- **ワークグループ共有フォルダ**: このフォルダを使用できるのは、1 つのワークグループのメンバーだけです。ワークグループ共有フォルダは、「グループの書類」ボリュームを設定すると自動的に作成されます。
- **グローバル共有フォルダ**: このフォルダには、ワークグループフォルダが同じボリューム上にあるすべてのワークグループのメンバーがアクセスでき、ワークグループ間で書類を共有できます。グローバル共有フォルダは、「グループの書類」ボリュームを選択すると自動的に作成されます。
- **グローバル提出フォルダ**: 提出フォルダは手動で設定する必要があり、「パネル」および「制限付き Finder」ワークグループだけが使用できます。提出フォルダは「グループの書類」ボリュームに保存されています。提出フォルダ内の項目は管理者しか見ることができないため、少なくとも 1 人のワークグループ管理者または「Macintosh マネージャ」の管理者がこの機能を使用するワークグループのメンバーでなければなりません。

ワークグループメンバーは、「ファイル」メニューから「提出」を選ぶ（「パネル」環境の場合）か、提出フォルダに項目をドラッグする（「制限付き Finder」環境の場合）ことによって、このフォルダに項目を入れます。

- **起動ディスクにある __ という名前のフォルダ**: 「Macintosh マネージャ」の管理者は、起動ディスクの最上位レベルにフォルダを作成し、その後でユーザにそのフォルダに保存されている項目を開くことを許可することができます。この種のフォルダは、ワークグループメンバーが簡単に、あるいは頻繁にアクセスする必要のある、クリップアートのような項目を保存する際に便利です。

フォルダへのアクセス権

「Macintosh マネージャ」では、ワークグループフォルダに次の 4 つのレベルのアクセス権を許可できます。

アクセス設定	意味
読み出し専用	ユーザはこのフォルダ内の項目を表示したり開いたりすることができますが、項目を変更することはできず、フォルダに「書き込む」ことはできません。たとえば、このフォルダにファイルを保存することはできません。
書き込み専用	ユーザはこのフォルダ内の項目を表示したり開いたりすることはできませんが、フォルダに情報を書き込むことはできます。たとえば、このフォルダに書類をコピーすることができます。
読み出し／書き込み	ユーザはフォルダに対する制限付きアクセス権を持ちます。フォルダの情報の表示、開く、変更、または書き込みが可能です。
不可	ユーザは、このフォルダに対し何もできません。

ワークグループフォルダのアクセス権を選択する

「グループの書類」ボリュームを作成した後、さまざまなワークグループフォルダへのユーザのアクセス権（読み出し専用、書き込み専用、読み出し／書き込み、または不可）を設定できます。

ワークグループフォルダへのアクセス権を設定するには：

- 1 次に進む前に、「グループの書類」ボリュームがすでに設定されていることを確認します。
- 2 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「オプション」をクリックします。
- 3 「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 4 ワークグループが使用できるフォルダの種類のあるポップアップメニューから、アクセス権の設定を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

ワークグループの共有フォルダを設定する

ワークグループ共有フォルダは、ファイルとフォルダに設定されているアクセス権に従って、ワークグループメンバーがあらゆる種類の情報を保存し共有できる便利な場所です。たとえば、共有の「グループの書類」ボリュームに読み出し／書き込みアクセス権が設定されている場合は、複数のユーザが共同プロジェクト用の HTML ファイルやイメージを共有できます。

「グループの書類」フォルダを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開きます。
次に進む前に、「オプション」の「グループの書類」設定が正しいことを確認します。この設定が正しくない場合は、正しい「グループの書類」の場所とログイン設定を選んでから、「保存」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 3 「ワークグループ」リストで1つ以上のワークグループを選択します。
- 4 「アクセス権」で「ワークグループ共有フォルダ」を「読み出し／書き込み」に設定してから、「保存」をクリックします。

ワークグループ共有フォルダ内の書類をユーザが変更できないようにしたいときは、書類をロックすることができます。書類をロックする方法については、「Mac ヘルプ」を参照してください。

提出フォルダを設定する

提出フォルダは、ドロップボックスのように機能します。ユーザはこのフォルダ内に項目を保存できますが、フォルダ内の項目を見ることはできません。提出フォルダは、機密書類の回収やその保護の際に非常に便利です。たとえば教室では、生徒が提出フォルダ内にファイルをコピーすることで宿題を提出できます。職場では、自分の上司だけがアクセスできる提出フォルダに従業員が現状報告書や勤務評定を入れておくこともできます。

提出フォルダは、「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループの場合のみ使用できます。

提出フォルダを作成するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開き、「ワークグループ」をクリックしてから、「オプション」をクリックします。
次に進む前に、「オプション」の「グループの書類」設定が正しいことを確認します。この設定が正しくない場合は、正しい「グループの書類」の場所とログイン設定を選んでから、「保存」をクリックします。
- 2 「ワークグループ」をクリックしてから、「アクセス権」をクリックします。
- 3 「ワークグループ」リストで1つ以上の「パネル」または「制限付き Finder」ワークグループを選択します。
- 4 「アクセス権」で「ワークグループ提出フォルダ」を「書き込み専用」に設定してから、「保存」をクリックします。

提出フォルダは「パネル」ワークグループの「ファイル」メニューの項目として表示されます。「制限付き Finder」ワークグループとワークグループ管理者には、このフォルダはデスクトップ上にフォルダとして表示されます。

ボリューム設定を使用する

「ワークグループ」用の「ボリューム」設定を使って、ユーザがログインしたときにマウントされるボリュームを選択し、ボリュームごとにログインオプションを制御することができます。ボリュームはファイルサーバ上の共有フォルダです。

AFP サーバに接続する

Mac OS X Server は、「Macintosh マネージャ」サーバなど、AFP (Apple Filing Protocol) サーバへの TCP/IP ネットワーク接続に対応しています。AppleTalk 接続を使って AFP サーバに接続することはできません。

サーバボリュームへのアクセスを提供する

ワークグループのメンバーが「Macintosh マネージャ」サーバに保存されていないファイルとアプリケーションを使う必要がある場合、ユーザのログイン時にボリュームを自動的にマウントできます。

サーバのボリュームを自動的にマウントするよう設定されていない場合でも、ネットワークへのアクセス権があり、そのサーバ上のアカウントまたはそのボリュームへのゲストのアクセス権があれば、ユーザはそのボリュームに接続できます。

自動的にボリュームに接続するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「ボリューム」をクリックします。
- 2 1つ以上のワークグループを選択します。
- 3 「ボリューム」リストでボリュームを選択してから、「追加」をクリックします。
目的のボリュームが見つからない場合は、「検索」をクリックしてボリュームを探します。
ボリュームのマウント時に、ログイン名およびパスワードが要求されます。
- 4 「ログイン時にマウント」リストにあるボリュームを選択し、ログイン設定を選択します。ログイン設定については次のステップで説明します。

- 5 ポリリュームが「Macintosh マネージャ」で使用するものと同じユーザ名とパスワードを使用しない場合、「ユーザにログインを促す」を選択します。ユーザには、有効な名前とパスワードの入力が求められます。
- 6 すべてのユーザがポリリュームに簡単にアクセスできるようにする場合は、「この AFP ユーザとして自動的にログイン」を選択し、有効なユーザ名とパスワードを入力します。

この場合、アクセス権を個別に制御したり、サーバにログインしたユーザを追跡したりできないため、各ユーザにユーザ自身の情報の入力を求める場合と同じセキュリティを確保することはできません。

「常にユーザの名前およびパスワードを使用した自動ログインを最初に試みる」はほかのログイン設定と共に選択できます。

この試みがログイン時に失敗すると、「マウント時」で選択したログイン方法が使われます。
- 7 特定のポリリュームのアクセス権を決定するときは、「AFP のアクセス権を使用する」を選択して AFP (Apple Filing Protocol) の読み出し／書き込みアクセス権の設定を使用します。通常、「Macintosh マネージャ」では、ポリリュームへの読み出しのみのアクセスが許可されています。

この設定は「Finder」ワークグループには適用されません。
- 8 「マウントを解除するのに管理者のパスワードを要求する」を選択した場合、ユーザは、正しいパスワードを持っていないとポリリュームに接続できません。

この設定は「Finder」ワークグループには適用されません。
- 9 「パネル」ワークグループに関してのみ、ユーザにポリリュームアイコンを表示する場合は「パネルにポリリュームを表示する」を選択します。

このオプションを選択しない場合、ポリリュームはアプリケーションパネルだけに表示されます。
- 10 「保存」をクリックします。

プリンタ設定を使用する

プリンタ設定を使用して、ワークグループプリンタへのアクセスを制御したり、プリントするページの数を制限したりします。一部の設定は、「次のデスクトッププリンタの使用だけをメンバーに許可する」を選択した場合にだけ使用可能です。

ワークグループでプリンタを使用できるようにする

ワークグループでプリンタを使用できるようにするには、そのプリンタが「使用可能なプリンタ」リスト内になければなりません。「ワークグループ」パネルの「プリンタ」パネルにある「新規作成」を使用してプリンタを追加するか、または「Macintosh マネージャ」のサーバ上にある「プリンタ設定ユーティリティ」アプリケーション (Mac OS X の場合) でプリンタを追加することができます。

参考：Mac OS X バージョンの「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションは、LaserWriter のデスクトップ・プリンタだけを作成します。LaserWriter 以外のプリンタにアクセスするときは、クライアントを管理する際に Mac OS 9 バージョンの「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションを使う必要があります。Mac OS 9 でプリンタを追加するには、アップルメニューの「セレクト」を使用します。

プリンタへのアクセスを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「次のデスクトッププリンタの使用だけをメンバーに許可する」が選択されていることを確認します。
- 3 「使用可能なプリンタ」リストの1つまたは複数のプリンタを選択し、「追加」をクリックします。
- 4 プリンタの追加が終わったら、「保存」をクリックします。

システムアクセスプリンタとデスクトップ・プリンタの両方へのアクセスを許可することはできません。ワークグループでシステムアクセスプリンタを使用したい場合は、「システムアクセス」ワークグループに管理者としてログインし、「セレクト」を使ってプリンタを選択します。その後で上記の手順を実行してください。

デフォルトプリンタを設定する

ユーザが書類をプリントするとき、アプリケーションは優先的にデフォルトプリンタに書類を送信します。使用できるプリンタが複数ある場合は、ユーザが別のプリンタを選択できます。

プリンタを「使用可能なプリンタ」リストに追加した後、アプリケーションが最初に使用するプリンタを認識する方法を決定できます。

デフォルトプリンタを選択するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「次のデスクトッププリンタの使用だけをメンバーに許可する」が選択されていることを確認します。
- 3 「選択されたプリンタ」リストでプリンタを選択し、「デフォルトプリンタに設定」をクリックします。

使用できるプリンタが複数あるときに「最後に使用したプリンタを記憶する」を選択すると、アプリケーションは、最後に使用したプリンタがデフォルトプリンタでない場合でも、優先的に最後に使用したプリンタにプリントジョブを送信します。ユーザが別のプリンタを選択することもできます。

プリンタへのアクセスを制限する

「選択されたプリンタ」リストから取り除くか、使用する際にパスワードの入力を求めることによって、プリンタへのアクセスを制限することができます。

プリンタへのアクセスを制限するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「次のデスクトッププリンタの使用だけをメンバーに許可する」が選択されていることを確認します。
- 3 「選択されたプリンタ」リストでプリンタを選択します。リストからプリンタを取り除きたい場合は、「取り除く」をクリックします。
- 4 選択したプリンタだけを保護するときは、「このプリンタを使用するのに管理者のパスワードを要求する」を選択します。リスト内のすべてのプリンタをパスワードで保護するには、「このプリンタを使用するのに管理者のパスワードを要求する」を選択します。

プリント割り当てを設定する

プリント割り当ては、ユーザが一定期間にプリントできるページ数を制限します。プリントできるページ数とは、書類のページ数のことであり、用紙の枚数のことではありません。たとえば、各ページに4枚分の書類ページを表示するレイアウトを使用して16ページの書類を印刷する場合は、1つの書類ページの対して用紙を4枚使用します。ただし、プリント割り当てから16ページが差し引かれます。紙詰まりなどでプリントジョブが完了していない場合でも、ページはプリント可能な最大数と照らしてカウントされます。

プリント割り当てによりユーザは、プリントするリソースを幅広く使用でき、浪費を減らすことができます。「選択されたプリンタ」リストで各プリンタの割り当てを設定できます。

ユーザのプリント割り当てを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「プリンタ」をクリックします。
- 2 「次のデスクトッププリンタの使用だけをメンバーに許可する」が選択されていることを確認します。
- 3 「選択されたプリンタ」リストでプリンタを選択します。
- 4 「プリント可能な総ページを __ 日につき __ ページに制限する」を選択し、指定した日数にプリントできる最大ページ数を入力します。
- 5 「保存」をクリックします。

ユーザがプリントの割り当てを超えることを許可する

プリントの割り当てを設定すると、その制限は選択したワークグループ内のすべてのユーザに適用されます。ただし、特定のユーザがすべてのプリントの割り当てを無視できるようにすることができます。

ユーザにすべてのプリント割り当てを超えることを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「詳細設定」をクリックします。
- 2 「読み込まれたユーザ」リストからユーザを選択してから、「ユーザがプリンタの割り当て数を超えることを許可する」を選択します。
- 3 「保存」をクリックします。

システムアクセスプリンタを設定する

使用したいプリンタがデスクトッププリントソフトウェアに対応していない場合は、そのプリンタをシステムアクセスプリンタとして利用することができます。システムアクセスプリンタは、選択されたワークグループのデフォルトプリンタになります。

「セレクトラ」を表示できるユーザは、表示されるプリンタから任意のプリンタを選択できます。ユーザがクライアントコンピュータからログアウトすると、最初に管理者によってシステムアクセスプリンタとして選択されていたプリンタが、再びデフォルトのプリンタになります。

参考：標準のデスクトッププリンタとシステムアクセスプリンタを両方とも使用することはできません。

システムアクセスプリンタを設定するには：

- 1 システムアクセスプリンタを使う予定のクライアントコンピュータを含む、1 つまたは複数のコンピュータリストを作成します。

- 2 システムアクセスプリンタを使いたいワークグループごとに、ワークグループに作成したリスト内のコンピュータへのアクセス権があることを確認します。
- 3 「システムアクセス」ワークグループを使って、クライアントコンピュータにログインします。
「システムアクセス」ワークグループを表示できるのは、「Macintosh マネージャ」の管理者か、アカウントに対して「ユーザにシステムアクセスを許可する」が有効になっている場合のみです。
- 4 アップルメニューから「セレクト」を選択します。
- 5 プリンタを選択し設定してから、「ファイル」メニューから「終了」を選んで、ログアウトします。
- 6 ユーザがシステムアクセスプリンタにアクセスする必要があるクライアントコンピュータごとに、手順3～5を繰り返します。
- 7 サーバまたは管理用コンピュータから、「Macintosh マネージャ」を開きます。
- 8 「ワークグループ」をクリックしてから、「プリンタ」をクリックします。
- 9 前の手順で設定したコンピュータへのアクセス権を持つワークグループを選択します。
- 10 「メンバーはシステムアクセスで選択されたプリンタを使用する」を選択します。
- 11 「保存」をクリックします。

ワークグループがシステムアクセスプリンタを使用するように指定し、クライアントコンピュータからプリンタを選択しなかった場合、そのコンピュータにログインするユーザは、「セレクト」へのアクセス権を持っていない限り、プリントすることはできません。

オプション設定を使用する

オプション設定を使用して、「グループの書類」フォルダの設定、ワークグループ用のログインメッセージの作成、起動およびログインイベントの設定を行います。また、「パネル」あるいは「制限付き Finder」ワークグループ内のユーザに CD の取り出しを許可します。

グループの書類を保存する場所を選ぶ

「グループの書類」の場所にフォルダやファイルを保存して、それらをワークグループ内のすべてのユーザが使用できるようにすることができます。「グループの書類」ボリュームの場所とログイン設定を選んだ後、「アクセス権」パネルで共有フォルダへのアクセス権を設定できます。

「グループの書類」ボリュームを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「オプション」をクリックします。
- 2 「保存するボリューム」ポップアップメニューからグループの書類を保存する場所を選択します。
- 3 ボリュームが「Macintosh マネージャ」で使用するものと同じユーザ名とパスワードを使用しない場合、「ユーザにログインを促す」を選択します。
ユーザには、有効な名前とパスワードの入力が求められます。
- 4 すべてのユーザに「グループの書類」ボリュームに簡単にアクセスすることを許可する場合は、「この AFP ユーザとして自動的にログイン」を選択し、有効なユーザ名とパスワードを入力します。

この場合、アクセス権を個別に制御したり、サーバにログインしたユーザを追跡したりできないため、各ユーザにユーザ自身の情報の入力を求める場合と同じセキュリティを確保することはできません。

- 5 「グループの書類」が「指定された Macintosh Management Server」の場合は、「デフォルトの名前とパスワードを使って自動的にログイン」を選ぶことができます。

デフォルトの名前とパスワードは「Macintosh マネージャ」の内部にあります。この設定を選んだ場合、ユーザのログインを追跡することはできません。

「常にユーザの名前およびパスワードを使用した自動ログインを最初に試みる」はほかの設定と共に選択できます。この試みがログイン時に失敗すると、「マウント時」で選択したログイン方法が使われます。

- 6 「保存」をクリックします。

目的の場所がメニューに表示されていない場合は、「保存するボリューム」ポップアップメニューから「その他」を選びます。選択できるのは、サーバ上にマウントされたボリュームだけです。目的のボリュームがまだ見つからない場合は、「検索」をクリックしてボリュームをマウントします。

起動時に項目を開く

コンピュータの起動時にユーザのアプリケーションやフォルダが開くようにすれば、そのユーザは作業をすぐに開始することができます。Mac OS 9 コンピュータの MMLocalPrefs 機能拡張を使って、次の手順に従って起動項目を設定および使用可能にしてください。

起動時に項目を開くには：

- 1 「Macintosh マネージャ」クライアントの「起動項目」オプションを使用可能にする前に、起動時に開きたい項目が適切な場所にあることを確認します。

Mac OS 9 コンピュータの場合は、サーバにあるユーザ別の「起動項目」フォルダ（ユーザのホームディレクトリの「/ ライブラリ /Classic/Startup Items」にあります）に開きたい項目を置きます。ローカルコンピュータの Mac OS 9 システムフォルダには置かないでください。

- 2 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「オプション」をクリックします。
- 3 「ワークグループ」リストで 1 つ以上のワークグループを選択します。
- 4 「“起動項目” フォルダにある項目を開く」を選択し、「保存」をクリックします。

NetBoot を使って起動するコンピュータの場合、起動ディスクイメージ上の「起動項目」フォルダに項目をコピーする際は特別な手順が必要です。詳しくは、システムイメージ管理ガイドを参照してください。

ユーザのログイン時にメールを確認する

ユーザに POP (Post Office Protocol) メールアカウントがある場合は、ユーザのログイン時に、メールサーバにメッセージがあるかどうかを「Macintosh マネージャ」に確認させることができます。

自動的にメールを確認するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開きます。

次に進む前に、「コンピュータ」をクリックしてから「コントロール」をクリックします。受信メールサーバの情報が正しいことを確認します。ログイン時にメールを確認するためには、受信メールサーバが POP サーバでなければなりません。

- 2 「ワークグループ」をクリックしてから、「オプション」をクリックします。
- 3 「メンバーのログイン時にメールを確認する」を選択してから、「保存」をクリックします。

ワークグループ用のログインメッセージを作成する

ユーザのログイン時に、メッセージまたは通知を表示できます。

ワークグループのログインメッセージを作成するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ワークグループ」をクリックしてから、「オプション」をクリックします。
- 2 「グループへのメッセージ」ボックスにメッセージを入力してから、「保存」をクリックします。

コンピュータリストを設定する

「Macintosh マネージャ」を使用して、複数のコンピュータをグループ化し、まとめて設定を選ぶことによって、コンピュータを管理できます。管理するコンピュータのリストを作成したら、リストにあるコンピュータの使用を許可されたワークグループを選択し、各リストのコントロール設定、セキュリティ設定、およびログイン設定を変更できます。iBook のようなポータブルコンピュータを管理する場合は、チェックアウト機能を使用します。

このセクションでは、コンピュータリストを個別に設定する方法、複製によって設定する方法、ひな形を使って設定する方法について説明します。

コンピュータリストを作成する

コンピュータリストとは単にコンピュータのグループであり、ワークグループがユーザのグループであることと同じです。これらのリストは、「コンピュータ」パネルの左側の「コンピュータリスト」の下に表示されます。使用させたいコンピュータに特定のワークグループを割り当てることによって、コンピュータへのアクセスを制限できます。コンピュータリストは、特定のコンピュータに異なる設定をしたいときにも便利です。

複数のリストに 1 台のコンピュータを所属させることはできません。

コンピュータリストを設定するときは、次のように設定します：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「リスト」をクリックします。
- 2 「追加」をクリックし、新しいリストに名前を付けます。

名前は最大で 31 文字（ピリオド、アンダースコア、ハイフン、またはスペースを含みます）にすることができます。名前にコロン (:) を入れることはできません。

- 3 「検索」をクリックし、ワークステーション選択ウィンドウからコンピュータを選択または接続します。リストに表示したいコンピュータごとに、この手順を繰り返します。リストからコンピュータを取り除くには、そのコンピュータを選び、「取り除く」をクリックします。
- 4 ログインオプションが「利用可能」に設定されていることを確認します。その他の「コンピュータ」パネルのコンピュータリスト用に追加の設定を選んでから、「保存」をクリックします。

参考：「Macintosh マネージャ」を使ってコンピュータを管理しているときに、コンピュータ名に日本語の文字が使われている場合は、「Macintosh マネージャ」の「コンピュータ」タブと「リスト」タブのリストにそのコンピュータ名が正しく表示されません。

「その他のコンピュータ」アカウントを設定する

「その他のコンピュータ」に対して選択した設定は、管理されたネットワークに接続するコンピュータに適用されますが、コンピュータリストには表示されません。このようなコンピュータは、「ゲストコンピュータ」とも呼ばれます。

「その他のコンピュータ」アカウントを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「その他のコンピュータ」アカウントを選択します。
- 3 それぞれの「コンピュータ」パネルで使用したい設定を選んでから、「保存」をクリックします。

コンピュータリストを複製する

すでに作成されているものと同じ設定を持つコンピュータリストを、簡単に作成できます。1 台のコンピュータを複数のリストに入れることはできないため、複製されるリストにはコンピュータは含まれませんが、設定はオリジナルと同じです。

コンピュータリストを複製するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「リスト」をクリックします。
- 2 既存のコンピュータリストを選択し、「複製」をクリックします。
- 3 リストの新しい名前を入力してから、「追加」をクリックしてリストにコンピュータを追加します。
- 4 「保存」をクリックします。

コンピュータリストのひな形を作成する

ひな形を使って、新しいコンピュータリストに最初の同じ設定を適用することができます。ひな形を設定した後、新しく追加するコンピュータリストのそれぞれがひな形の設定を持つこととなります。コンピュータリストの設定またはひな形の設定は、いつでも変更できます。

コンピュータは複数のリストに所属できないため、ひな形にコンピュータを追加することはできません。

参考：ひな形をいったん設定すると、元の状態に戻せなくなります。ただし、ひな形の設定は、いつでも変更することができます。

コンピュータリストのひな形を作成するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、コンピュータリストのリストの「ひな形」を選択します。

ひな形が表示されない場合は、「Macintosh マネージャ環境設定」を開き、「ひな形」を表示する」が選択されていることを確認します。

Mac OS X で「Macintosh マネージャ環境設定」を開くには「Macintosh マネージャ」メニューから「環境設定」を選びます。Mac OS 9 では、「編集」メニューから「初期設定」を選びます。

- 2 それぞれの「コンピュータ」パネルで、ひな形に使用したいオプションを設定してから、「保存」をクリックします。

コンピュータへのログインを使用不可にする

コンピュータのメンテナンス作業（アプリケーションのインストールやアップデート、ハードディスク整備用ソフトウェアの実行など）を行う場合、特定のコンピュータにユーザがアクセスできないようにすることが必要な場合があります。ログインを使用不可にすることによって、ユーザがコンピュータにアクセスできないようにすることができます。

ユーザが特定のコンピュータにログインできないようにするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「リスト」をクリックします。
- 2 コンピュータリストを選んでから、以下の手順のログインオプションのいずれかを設定します。
- 3 「利用不可 -- ユーザが選択」を選ぶと、ユーザは、コンピュータの電源を切るか、「Finder」に戻る（管理者のパスワードを持っている場合）か、別の「Macintosh マネージャ」サーバにログインするかを選択できます。
- 4 「利用不可 -- Finder に切り替える」を選ぶと、自動的に「Finder」に戻ります。
- 5 「利用不可 -- 別のサーバを選択」を選ぶと、ユーザはローカルネットワークサーバから別の「Macintosh マネージャ」サーバを選択するよう促されます。
- 6 「保存」をクリックします。

ユーザがもう一度ログインできるようになるときは、ログインポップアップメニューから「利用可能」を選んでから、「保存」をクリックします。

コンピュータのワークグループ設定を使用する

「コンピュータ」パネルの「ワークグループ」パネルにある設定を使用して、コンピュータへのアクセスを制御できます。

コンピュータへのアクセスを制御する

コンピュータをだれでも使用できるようにすることも、特定のコンピュータへのアクセスを制限することもできます。特定のワークグループに特定のコンピュータの使用だけを許可する場合は、最初に、ワークグループがすでに設定されていることを確認します。次に、使用できるようにしたいコンピュータのリストを作成してから、以下の手順に従います。

同じワークグループは複数のコンピュータリストに追加できます。

ワークグループがコンピュータを使用できるようにするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「ワークグループ」をクリックします。
- 2 すべてのユーザがコンピュータを使用できるようにする場合は、「すべてのワークグループにコンピュータの使用を許可する」を選択します。アクセスを特定のリストだけに制限するには、「次のワークグループだけにコンピュータの使用を許可する」を選択します。
- 3 「使用可能なワークグループ」リストでワークグループを選択し、「追加」をクリックしてそれらを「許可されたワークグループ」リストに追加します。許可したワークグループを取り除く場合は、そのグループを選んで「取り除く」をクリックします。
- 4 「保存」をクリックします。

特定のコンピュータにアクセスできないようにする場合は、「コンピュータ」パネルの「リスト」パネルにある、「利用不可」ログイン設定のいずれかを使用します。

コントロール設定を使用する

コントロール設定は、メール設定のほか、時計、ハードディスク名、自動切断に影響するオプションの設定に使用します。

ネットワークのトラフィックを最小限に抑えるよう、自動的にコンピュータを切断する

コンピュータは、ネットワークに接続している間、ログインしているユーザがいなくても、サーバ上のデータベースの更新を定期的を確認します。大規模なネットワークの場合は、クライアントの応答が遅くなる場合があります。このようなネットワークの負荷は、コンピュータが使用されていないときに自動切断するようスケジューリングすることで軽減できます。

自動切断を有効にするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「コントロール」をクリックします。
- 2 コンピュータリストを選択してから、「ログインしているユーザがいない場合、サーバとの接続を__分後に切断」を選択します。
- 3 コンピュータの切断までの時間（分）を入力します。
- 4 「保存」をクリックします。

コンピュータがサーバから切断されても、コンピュータにログイン画面は表示されますが、メニューバーのサーバアイコンに×が表示されます。次にユーザがログインするまで、自動更新は行われません。

クライアントに再接続するときは、ユーザを選択し「ログイン」をクリックします。次に、「パスワード」ダイアログで「キャンセル」をクリックします。

コンピュータの時計をサーバに合わせる

ネットワークがネットワークタイムプロトコルサーバにアクセスできない場合は、管理されているコンピュータの時計をサーバの時計に同期させることができます。

コンピュータの時計を同期させるには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「コントロール」をクリックします。
- 2 コンピュータリストを選択してから、「コンピュータの時計をサーバに合わせる」を選択します。
- 3 「保存」をクリックします。

特定のハードディスク名を使用する

アプリケーションによっては、コンピュータのハードディスクに特定の名前を指定することで、環境設定などの情報の検索が簡単になります。特定のハードディスク名の使用は、NetBoot を使用する場合は特に便利です。NetBoot クライアントでは、デフォルトの起動ボリューム名は「NetBoot HD」です。リスト内のコンピュータが NetBoot を使用する場合は、ハードディスク名が NetBoot および NetBoot 以外のコンピュータと同じかどうかを確認する必要があります。これにより、これらのクライアント上で使用するすべてのアプリケーションへのパス名を同じものにすることができます。

特定のハードディスク名を使用するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「コントロール」をクリックします。
- 2 コンピュータリストを選択してから「ハードディスク名を次のように設定する：__」を選択し、使用したい名前（「Macintosh HD」など）を入力します。
- 3 「保存」をクリックします。

「Macintosh マネージャ」を使用してコンピュータのハードディスク名を指定するのが難しい場合は、クライアントコンピュータでファイル共有が切になっていることを確認します。

ファイル共有を切にするときは、「ファイル共有」コントロールパネルを使用します。

管理されているユーザのメールアドレスを作成する

「Macintosh マネージャ」では、メールアドレスを持たないユーザのメールアドレスを作成できます。ユーザのログイン時に、「Macintosh マネージャ」が指定したデフォルトのドメイン名にユーザ名（ショートネーム）を追加し、メールアドレスを作成します。

ユーザがほかのメール設定を読み込んでいる場合は、ユーザが「Macintosh マネージャ」のネットワークに接続すると、その設定で「Macintosh マネージャ」の設定が上書きされます。

ユーザのメールアドレスを作成するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「コントロール」をクリックします。
- 2 コンピュータリストを選択します。
- 3 「ユーザのメールアドレス」で、デフォルトのドメイン名、POP（受信メール）サーバおよび SMTP（送信メール）サーバのアドレスを入力します。
- 4 「保存」をクリックします。

ユーザのログイン時にメッセージをチェックするには、「ワークグループ」タブの「オプション」パネルで、「メンバーのログイン時にメールを確認する」を選びます。

コンピュータのセキュリティ設定を使用する

コンピュータのセキュリティ設定では、ユーザ、コンピュータ、およびアプリケーションのセキュリティ設定を選びます。

ユーザがログアウトを忘れた場合でもコンピュータを安全な状態に保つ

ユーザがコンピュータの使用後にログアウトしないしていると、ほかのユーザはログインしなくてもそのコンピュータを使用できてしまいます。つまり、ユーザのホームディレクトリや書類などに対し、前に使用していたユーザと同じアクセス権を持つこととなります。このような認証されていないアクセスは、アイドル状態のログアウト機能を使って防ぐことができます。

アイドル状態のログアウトは、一定時間ユーザの動作（入力やマウスの使用など）がなかったときに行われます。たとえば、アイドル状態のログアウトが 15 分後に有効になるよう設定するとします。ユーザが、ログインの後しばらくの間作業し、その後休憩のために、ログアウトせずにコンピュータから離れるとします。15 分経過して戻ると、再度アクセスするためにユーザ名とパスワードの入力が必要になります。

アイドル状態のログアウトを有効にするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「コントロール」をクリックします。
- 2 コンピュータリストを選択してから、「アイドル状態のログアウトを有効にする」を選択し、コンピュータの待機時間（分）を入力します。
- 3 ログアウトオプションを選びます。

「ユーザをログアウトする」を選択すると、アイドル状態のログアウト後に、未保存の書類を保存するためのダイアログがユーザに表示され、その後でログイン画面に戻ります。

「画面をロックする」を選択すると、画面が黒くなり、ダイアログが表示されます。ここでユーザは未保存の書類を保存でき、次に、パスワードを入力して作業を続けるか、ログアウトすることができます。

- 4 「保存」をクリックします。

この機能が有効になっていて、コンピュータがネットワークに接続している場合は、ログインするときに Mac OS X Server の管理者パスワードを使用できます。

すべての CD および DVD へのアクセスを許可する

コンピュータのセキュリティ設定を使って、ユーザが制限なしで CD および DVD にアクセスすることを許可できます。

すべての CD または DVD へのアクセスを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。

- 3 「すべての CD-ROM にアクセスする」を選択し、「保存」をクリックします。
- 4 「パネル」ワークグループで挿入された CD を簡単に検索できるようにするには、「挿入された CD-ROM のパネルを表示する」を選択します。

特定の CD または DVD へのアクセスを許可する

許可されたディスクのリストを使用して、CD および DVD へのユーザアクセスを制限できます。また、ユーザが CD または DVD 上の特定のファイルだけにアクセスできるようにすることもできます。

最初に、許可されたディスクおよび項目のリストを作成してから、ディスクへのユーザアクセスを許可します。

特定の CD または DVD のみへのアクセスを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」の「グローバル」パネルにある「CD-ROM」パネルで、許可されたディスクと項目のリストがすでに設定されているかどうかを確認します。
詳しくは、218 ページの「グローバル CD-ROM 設定を使用する」を参照してください。
- 2 「コンピュータ」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 「許可された CD-ROM のみアクセスする」を選択します。
- 4 「パネル」ワークグループで挿入された CD を簡単に検索できるようにするには、「挿入された CD-ROM のパネルを表示する」を選択します。

アプリケーション用のコンピュータのセキュリティ設定を選ぶ

アプリケーションによっては、そのアプリケーションでは実行できないジョブを実行するために「ヘルパーアプリケーション」を使用することがあります。たとえば、ユーザがメールメッセージ内の Web リンクをクリックしたときに、メールアプリケーションが Web ブラウザを開くといったことがあります。インストーラのようなほかのアプリケーションでは、ジョブを終了するために「Finder」の終了と再起動が必要になることもあります。

重要：「Macintosh マネージャ」ではこれらのオプションを自動的に許可しませんが、その実行を選択することができます。これらのオプションを許可すると、コンピュータのセキュリティが低下することがあります。

アプリケーションにほかのアプリケーションの起動や Finder の終了を許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 2 アプリケーションにこれらのオプションを許可するには、「ヘルパーアプリケーションのようなほかのアプリケーションを開く」または「Finder の終了」を選択します。
- 3 「保存」をクリックします。

特定のアプリケーションをほかのアプリケーションから開けるようにする

特定のアプリケーションを、それを必要としているほかのアプリケーション用のヘルパーアプリケーションとして使用することができます。ヘルパーとして指定するアプリケーションは、1 つ以上のワークグループの許可された項目のリストにすでに追加されている必要があります。

ヘルパーアプリケーションを指定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開きます。
- 2 「設定」メニューから「アプリケーション設定」を選びます。
- 3 リストでアプリケーションを選択します。

リストには、ワークグループに現在割り当てられているアプリケーションのみが表示されます。使用するアプリケーションがリストにない場合は、「アプリケーションの追加」をクリックしてアプリケーションを参照します。または「カスタム」をクリックして、追加するアプリケーション名と 4 文字のコードを入力することもできます。

- 4 アプリケーションを有効なヘルパーとして指定するときは、「このアプリケーションをほかのアプリケーションから開けるようにする」を選びます。

ユーザにオフラインでの作業を許可する

「Macintosh マネージャ」サーバやユーザのホームディレクトリが使用可能ではない場合でも、オフラインでコンピュータを使用できます。ユーザはログインする必要がありますが、「Macintosh マネージャ」サーバは使用できません。ホームディレクトリが使用可能でない場合、ユーザは自分の書類を保存できないことがあります。

ユーザにオフラインでの作業を許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 ユーザにこのオプションを許可するときは、「Macintosh Management Server が使用できないときはオフラインで作業する」を選択します。必要に応じて、「オフラインで作業するのに管理者のパスワードを要求する」も選択できます。
- 4 ユーザにこのオプションを許可するには、「ユーザのホームディレクトリが使用できない場合、オフラインで作業する」を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

別の Macintosh マネージャサーバに切り替える

「Macintosh マネージャ」管理用アプリケーションを使ってサーバを変更するときは、「ファイル」メニューから「サーバを変更」を選択します。管理者以外のユーザの場合は、「Macintosh マネージャ」にログインダイアログで「サーバを変更」をクリックし、管理者のパスワードを使って別の「Macintosh マネージャ」サーバに切り替えることもできます。どちらの方法を利用する場合でも、「Macintosh Management Server を選択」ダイアログで「ローカル」または「ローカルネットワーク」を選択してから、使用したいサーバを選択してください。

参考：お使いのネットワークが AppleTalk を使用していない場合、「ローカル」または「ローカルネットワーク」セクションが表示されないことがあります。その場合は、利用可能なサーバのリストから使用したいサーバを選択してください。

必要に応じて、管理者のパスワードを使わずに別のサーバに切り替えることもできます。次の手順に従ってください。

重要: このオプションを有効にすると、サーバのセキュリティが低下する場合があります。また、古いバージョンの「Macintosh マネージャ」を使用しているサーバがあると、クライアントコンピュータをそのサーバに切り替えることで、サーバがクライアントコンピュータに古いソフトウェアをインストールすることがあります。

ユーザがパスワードを使わないでサーバを切り替えられるようにするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 ユーザにこのオプションを許可するには、「認証なしで別のサーバに切り替える」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

NetBoot クライアントコンピュータで別の「Macintosh マネージャ」サーバを選択できるようにするには、NetBoot イメージから DNSPlugin 機能拡張を削除します。

ユーザにアプリケーションの強制終了を許可する

ユーザに「アプリケーションを強制終了する」を有効にした場合、コマンド +option+esc キーを押してアプリケーションを強制終了できるようになります。

参考: このオプションを有効にすると、セキュリティ上の危険があります。

ユーザに強制終了の実行を許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 ユーザにこのオプションを許可するには、「アプリケーションを強制終了する」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

ユーザが機能拡張を無効にできるようにする

ユーザにコンピュータの再起動が許可されている場合、ユーザは起動中に shift キーを押すことで機能拡張を無効にすることができます。「Macintosh マネージャ」機能拡張や必要なシステム機能拡張は無効になりません。

参考: このオプションを有効にすると、セキュリティ上の危険があります。

機能拡張を無効にした起動をユーザに許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「セキュリティ」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 ユーザにこのオプションを許可するには、「機能拡張の読み込みを無効にして起動する」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

コンピュータのログイン設定を使用する

コンピュータのログイン設定を使用して、ユーザのログイン方法、ユーザに表示されるメッセージ、表示されるパネル名を選ぶことができます。

ユーザのログイン方法を選ぶ

コンピュータにログインするとき、ユーザは名前を入力するか、リストから名前を選びます。ログインの際にリストを使用する場合、このリストには最大 2000 のユーザを入れることができます。このリストに管理者を表示しないことも選択できます。

ログインオプションを設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「ログイン」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 「ユーザはリストから名前を選択する（1-2000 ユーザ）」を選択して、リストオプションを使用します。リストに管理者名を表示したくない場合は、「リストにはユーザだけを表示する（管理者は表示しない）」を選択します。
- 4 リストを使用したくない場合は、「ユーザは自分の名前を入力する」を選択します。
- 5 「保存」をクリックします。

コンピュータ用のログインメッセージを作成する

コンピュータ用に、次の 2 種類のメッセージを作成できます。それぞれ、最大 127 文字まで含めることができます。

- バナーメッセージは、ログインダイアログに表示されます。
- サーバメッセージは、ユーザがログインした後に別のパネルに表示されます。このメッセージの前に、「差出人：グローバル管理者」が表示されます。

ログインメッセージを設定するときは、次のように設定します：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「ログイン」をクリックし、コンピュータリストを選択します。
- 3 該当のメッセージテキストボックスにバナーメッセージまたはサーバメッセージを入力します。
メッセージを使用したくない場合は、テキストボックスを空白のままにします。
- 4 「保存」をクリックします。

パネル名を変更する

「パネル」ワークグループに表示されるワークグループおよびユーザ書類パネルの名前を変更できます。

パネル名を変更するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「ログイン」をクリックし、コンピュータリストを選択します。

- 3 ワークグループ書類パネルにワークグループの名前を表示したい場合は、「ワークグループ名を表示する」を選択するか、テキストボックスの右のボタンをクリックし、別の名前を入力します。
- 4 ユーザ書類パネルにユーザの名前を表示したい場合は、「ユーザの名前を表示する」を選択するか、テキストボックスの右のボタンをクリックし、別の名前を入力します。
- 5 「保存」をクリックします。

ポータブルコンピュータを管理する

ネットワークにアクセスできるポータブルコンピュータを管理する方法を計画することは重要です。このセクションでは、ポータブルコンピュータの管理に役立つ情報を示し、「Macintosh マネージャ」のチェックアウト機能の使用方法について説明します。

ネットワークユーザのポータブルコンピュータ

ユーザに、特定のポータブルコンピュータを共有させることができます。たとえば、iBook Wireless Mobile Lab にあるポータブルコンピュータなどです。iBook Wireless Mobile Lab では、10 台または 15 台の生徒用の iBook (さらにインストラクタ用の iBook が 1 台)、1 台の AirMac ベースステーション、および 1 台のプリンタがすべてモバイルカートに収納されています。このカートを使って、コンピュータを運ぶことができます (たとえば、別の教室へ移動できます)。

Mobile Lab を管理するときは、最初に、すべての iBook を含むコンピュータリストを作成します。ユーザがネットワークアカウントとホームディレクトリを持っていることを確認してから、iBook を使用するワークグループにユーザの集まりを割り当てます。歴史のクラス用に 1 つ、生物のクラス用に 1 つというように、目的別にさまざまなワークグループを作成することもできます。チェックアウト機能を使って、これらのワークグループに iBook の使用を許可できます。

「その他のコンピュータ」アカウントを使用して、自分のポータブルコンピュータを持っているネットワークユーザを管理することができます。詳しくは、182 ページの「読み込まれていないユーザに簡単にアクセスを提供する」を参照してください。

ローカルユーザのポータブルコンピュータ

ローカルユーザアカウントを「Macintosh マネージャ」を使って管理することはできません。ただし、「マルチユーザ」コントロールパネルを使用して、特定のコンピュータ上のローカルユーザアカウントを次の 2 つの方法のいずれかで設定できます。

- ユーザに管理者のアクセス権は与えず、ローカルアカウントを与えます。
- ユーザをコンピュータの管理者にします。

ユーザがローカル管理者の場合、そのユーザは、「システムフォルダ」を含むコンピュータ上のすべてのフォルダとアプリケーションに対する完全なアクセス権を持ちます。

ユーザにコンピュータをチェックアウトさせる

たとえば、ユーザはポータブルコンピュータをチェックアウトして自宅に持ち帰り、放課後にも作業を継続できるようにすることができます。コンピュータがチェックアウトされた後でも、「Macintosh マネージャ」の設定とセキュリティ機能は引き続き有効です。

コンピュータをチェックアウトするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で「コンピュータ」をクリックします。
- 2 「チェックアウト」をクリックしてから、コンピュータリストを選びます。
- 3 「コンピュータからチェックアウトできる」を選んでから、以下の手順のチェックアウトオプションのいずれかを選びます。
- 4 「コンピュータからのチェックアウトをすべてのユーザに許可する」を選択して、このオプションを有効にします。
- 5 「コンピュータのチェックアウトを次のユーザだけに許可する」を選ぶと、チェックアウトの実行が、特定のユーザのリストだけに制限されます。次に、「使用可能なユーザ」リストでユーザを選択し、「追加」をクリックしてそのユーザを「許可されたユーザ」にします。
「許可されたユーザ」リストからユーザを取り除く場合は、1人または複数のユーザを選択し、「取り除く」をクリックします。
- 6 「保存」をクリックします。

ワイヤレスサービスを使用する

AirMac を使うなど、管理されているクライアントにワイヤレスネットワークサービスを提供することができます。「Macintosh マネージャ」サーバがワイヤレスサービスの通信圏内にあることを確認します。ポータブルコンピュータのユーザが通信圏外にいる場合、そのユーザは「Macintosh マネージャ」にはログインできません。ただし、ユーザにオフライン作業を許可することができます。詳しくは、212 ページの「ユーザにオフラインでの作業を許可する」を参照してください。

ワイヤレス接続は、Ethernet ケーブルなどを使って直接接続した場合に比べて、データの転送速度が遅いことがあります。AirMac の使いかたについて詳しくは、AirMac のマニュアルを参照するか、次の Web サイトにアクセスしてください：

www.apple.co.jp/airmac

グローバルなセキュリティ設定を使用する

「Macintosh マネージャ」では、「グローバル」セキュリティ設定が「Macintosh マネージャ」ネットワーク全体（すべてのユーザ、グループ、およびコンピュータ）に適用されます。これらの設定には、レポート、ゲストアクセス、パスワード、環境設定のコピー方法に影響するさまざまなオプションが含まれています。

Macintosh マネージャのレポートを使用する

「Macintosh マネージャ」では、ユーザやネットワークの利用状況を追跡するために役立つさまざまなレポートを提供しています。

レポートを表示するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」を開きます。
- 2 「レポート」メニューから、表示したいレポートを選択します。

選択したレポートをすぐに表示し、その後、ファイルに書き出したり、必要に応じて印刷したりできます。

結果を見る前に、「利用状況」レポートや「コンピュータ」レポートに追加の条件を設定できます。

レポートの項目数を設定する

「Macintosh マネージャ」のレポートに示すログの最大件数を設定できます。

参考：「接続中のユーザ」のレポートには、最大ログ件数を 300 より多く設定しても、300 件しか表示されません。

記録するログエントリの数を設定するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「ログの最大記録件数」の右のテキストボックスに数を入力します。

レポートを表示するには、「レポート」メニューに移動し、表示したいレポートを選択します。

管理プログラムを安全に保つ

管理者が「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションの終了を忘れると、別のユーザがアプリケーションに変更を行ったり保存したりする恐れがあります。このような認証されていないアクセスを防ぐため、指定した時間ユーザの動作がなかったときに、管理アプリケーションを終了することができます。

警告：管理アプリケーションが自動的に終了するとき、保存されていない変更は失われます。

管理プログラムの自動終了を有効にするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「次の時間アイドル状態が続いたら管理プログラムを終了する：__分」を選択し、自動的に終了するまでのアプリケーションの待機時間（分）を入力します。
- 3 「保存」をクリックします。

Kerberos を使ってログイン情報を検証する

すべてのユーザが Kerberos を使って認証する必要があるときは、次のように操作します。Kerberos の使いかたについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

Kerberos 検証を使用するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「クライアントは Kerberos を使って認証する必要がある」を選択し、「保存」をクリックします。

ユーザのパスワードを管理する

通常、すべてのユーザは自分に割り当てられているパスワードを変更できます。ユーザにそのパスワードを変更させたくない場合は、この権限を取り除くことができます。

ユーザが自分のパスワードを変更できないようにするには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「ユーザはパスワードを変更できる」が選択されている場合は、その選択を解除します。
- 3 「保存」をクリックします。

参考：「Macintosh マネージャ」でパスワードサーバを使用するには、パスワードの変更をユーザに許可する必要があります。パスワードサーバを使用する場合は、「ユーザはパスワードを変更できる」が選択されていることを確認してください。パスワードサーバについて詳しくは、オープンディレクトリ管理ガイドを参照してください。

管理者にユーザアカウントへのアクセスを許可する

システム管理者に任意のユーザとしてログインすることを許可することができます。ユーザは、アクセスしたいアカウント用にユーザ名を入力し、適切な管理者パスワードを使用することができます。

管理者のその他のユーザとしてのログインを許可するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「ユーザはサーバ管理者のパスワードを使ってログインできる」を選択します。
- 3 「保存」をクリックします。

グローバル CD-ROM 設定を使用する

「グローバル CD-ROM」設定を使用して、すべての CD および DVD へのアクセスを許可したり、特定のディスクのリストのみへのアクセスを許可したりできます。「Macintosh マネージャ」でディスクを使用できるようにすると、その内容を表示でき、ユーザがディスク上のすべての項目にアクセスできるようにしたり、選択した項目だけにアクセスできるようにしたりできます。

参考：これらの設定はオーディオ CD には適用されません。オーディオ CD の設定は、「ワークグループ」パネル内の「アクセス権」パネルにあります。

使用可能なディスクとディスク項目のリストを作成するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「グローバル」をクリックしてから、「CD-ROM」をクリックします。
- 2 CD または DVD を挿入します。
- 3 ディスク名を選択し、「追加」をクリックしてそのディスク名を「Macintosh マネージャ」で使用できるようにします。使用可能な項目を取り除くには、項目を選んで「取り除く」をクリックします。
- 4 ディスク上の特定の項目をユーザが使用できるようにするときには、「Macintosh マネージャで使用可能」リストで CD または DVD を選びます。

「__」で許可されている項目」リストで、ユーザが使用できるようにする項目を選択します。デスク上のすべての項目を選択し許可するときは、「すべて許可」をクリックします。すべての項目の選択を解除するには、「すべて不許可」をクリックします。

- 5 選択が終わったら、「保存」をクリックします。

許可された項目のリストにあるものだけをユーザが使用できるようにするときは、「コンピュータ」パネルの「セキュリティ」パネルで必ず「許可された CD-ROM のみアクセスする」を選んでください。「パネル」ワークグループで挿入された CD を簡単に検索できるようにするときは、「挿入された CD-ROM のパネルを表示する」を選びます。

環境設定を管理する

「Managed Preference」フォルダを使用して、特定のニーズと目的に合うようにアプリケーション設定とシステムの設定を処理する方法をカスタマイズできます。たとえば、ユーザが特定の初期設定のセットを常に最初に使用するようしたり、ユーザが設定した一部の初期設定が上書きされないようしたりすることができます。

「Managed Preferences」フォルダは、ワークグループのメンバーが初めてログインするときに、ワークグループデータボリューム上に作成されます。「Managed Preferences」フォルダには、「Initial Preferences」フォルダと「Forced Preferences」フォルダという環境設定フォルダが追加されます（最初は空です）。

Initial Preferences を使用する

「Initial Preferences」フォルダ内の設定は、ログイン時に一度設定されます。最初にログインしたとき、ユーザは「Initial Preferences」フォルダに含まれているすべての初期設定の新しいコピーを取得します。ユーザはこれらの初期設定を変更することができ、その変更はログアウト時に保存されます。

たとえば、授業を例とすると、教師は、特定の Web ブラウザ用に初期設定とブックマークリストを設定できます。そして、「Initial Preferences」フォルダ内のこれらの初期設定のコピーを保存します。生徒は、授業の最初の日にログインしたときに、全員が同じブラウザ設定と同じブックマークリストを使って授業を始められます。

ユーザが最初にログインした後、「Macintosh マネージャ」はユーザの「初期設定」フォルダを確認し、「Initial Preference」フォルダの内容と比較します。ユーザがこのフォルダにすでに初期設定を保持している場合、「Macintosh マネージャ」はその初期設定を置き換えることはしません。ユーザのフォルダに 1 つ以上の「Initial Preferences」が含まれていない場合、「Macintosh マネージャ」は不足しているファイルをユーザのフォルダにコピーします。

ユーザがログインするたびにこの処理が繰り返されるため、「Initial Preferences」フォルダに初期設定ファイルを追加することもできます。たとえば、新しいソフトウェアをインストールし、「Initial Preferences」フォルダ内にソフトウェアの初期設定ファイルを入れた場合、「Macintosh マネージャ」は、ユーザが新しいソフトウェアを初めて開いたときにユーザの「初期設定」フォルダに新しいファイルをコピーします。

Initial Preferences フォルダを使用するには：

- 1 「ワークグループ」パネル内の「オプション」パネルで、ワークグループデータボリューム（「グループの書類」）を設定します。
- 2 クライアントコンピュータから、グループの書類ボリュームにアクセスします。
- 3 「Initial Preference」フォルダに保存したい初期設定を作成します。
- 4 該当するグループの書類ボリューム上の「Initial Preferences」フォルダに、作成した初期設定をコピーします。
- 5 「Finder」で「Initial Preferences」フォルダを選択し、コマンドキーを押しながら I キーを押して、「情報を見る」ウインドウを開きます。
- 6 「表示」ポップアップメニューから「共有」を選択します。
- 7 「この項目と内容を共有する」を選択し、アクセス権が正しいことを確認します。
- 8 「コピー」をクリックして、中のフォルダにアクセス権を適用します。
- 9 グループの書類ボリュームごとに、手順 1～4 を繰り返します。

「Initial Preference」フォルダにコピーする必要がない環境設定もあります。詳しくは、管理者ガイドを参照してください。

Initial Preferences の例外

ユーザが最初にログインすると、「Initial Preferences」フォルダを使用しているかどうかに関係なく、自動的にいくつかの初期設定が作成されます。「Initial Preferences」フォルダ内の次の項目はユーザのフォルダにはコピーされないため、必要ありません。

- Apple Menu Options Prefs
- AppSwitcher 初期設定
- Internet Preferences
- キーボード初期設定
- キーチェーン
- 作業環境マネージャ初期設定
- Mac OS 初期設定
- TSM Preferences
- ユーザの初期設定

Forced Preferences を使用する

「Forced Preferences」フォルダを使用することにより、ユーザは、ログインするたびに特定の初期設定のセットで作業に取りかかれます。ユーザが自分の初期設定を変更すると、ユーザの次のログイン時に、これらの初期設定が「Forced Preferences」フォルダの初期設定と置き換わります。

ユーザが Mac OS 9 コンピュータにログインすると、「Macintosh マネージャ」はユーザのホームディレクトリの「/ライブラリ/Classic」フォルダにある初期設定フォルダおよびファイルを「Forced Preference」フォルダ内の項目と比較します。「Macintosh マネージャ」はユーザのフォルダから一致する項目を削除し、それらを「Forced Preference」フォルダの初期設定と置き換えます。ユーザのフォルダに「Forced Preference」がない場合、「Macintosh マネージャ」はこれらの項目を新たにコピーして、ユーザの「初期設定」フォルダに入れます。

ユーザの「初期設定」フォルダ内に「Forced Preferences」フォルダ内の項目と一致しない項目がある場合、「Macintosh マネージャ」による更新は行われません。これらの項目が蓄積されていたりディスク容量を消費している疑いがある場合は、ユーザの「初期設定」フォルダを時々空にしてください。

Forced Preferences を使用するには：

- 1 「ワークグループ」パネル内の「オプション」パネルで、ワークグループデータボリューム（「グループの書類」）を設定します。
- 2 クライアントコンピュータから、グループの書類ボリュームにアクセスします。
- 3 「Forced Preferences」フォルダに保存したい初期設定を作成します。
- 4 該当するグループの書類ボリューム上の「Forced Preferences」フォルダに、作成した初期設定をコピーします。
- 5 「Finder」で「Forced Preferences」フォルダを選択し、コマンドキーを押しながらIキーを押して、「情報を見る」ウインドウを開きます。
- 6 「表示」ポップアップメニューから「共有」を選択します。
- 7 「この項目と内容を共有する」を選択し、アクセス権が正しいことを確認します。
- 8 「コピー」をクリックして、中のフォルダにアクセス権を適用します。
- 9 グループの書類ボリュームごとに、手順1～4を繰り返します。

Mac OS 9 アプリケーションの環境設定を Classic 環境で共有する

「ワークグループマネージャ」を使用すると、Mac OS X の Classic 環境を使って Mac OS 9 アプリケーションを開いたときにも、アプリケーションの環境設定をそのまま利用できます。つまり、ネットワークホームディレクトリを使って別のコンピュータにログインすれば、今まで使っていた Mac OS 9 アプリケーションの環境設定を変更しないで使うことができます。また、管理されたユーザがクライアントコンピュータを「Macintosh マネージャ」コンピュータ（Mac OS 9 を使用しています）から「ワークグループマネージャ」コンピュータ（Mac OS X を使用しています）に切り替えるときに、Mac OS 9 アプリケーションの環境設定が保管されます。

環境設定を Classic 環境と共有するには：

- 1 管理用コンピュータから「ワークグループマネージャ」を開きます。
- 2 ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックし、変更したいユーザ、グループ、またはコンピュータリストのアカウントが含まれるディレクトリドメインを開きます。
- 3 カギをクリックし、ユーザ名とパスワードを入力します。

- 4 アカウントを選択し、「環境設定」をクリックします。
- 5 「Classic」をクリックし、「詳細設定」をクリックします。
- 6 環境設定の管理を「常に確認する」に設定します。
- 7 「ホームフォルダから環境設定を使用する」を選択します。
- 8 「今すぐ適用」をクリックします。

Mac OS X クライアントごとに、次の操作を行うこともできます。「システム環境設定」を開いて、「Classic」をクリックします。次に、「詳細設定」をクリックして、「ホームフォルダから環境設定を使用する」を選択します。

その他の情報

AppleCare の Web サイトには、TIL（製品の使用、実装、問題の解決に関する技術文書を含むデータベース）などのさまざまな資料があります。次の Web サイトで詳しく調べてください。

www.apple.co.jp/support

Mac OS X Server および「Macintosh マネージャ」のディスカッションリストを利用して、意見やヒントをほかのサーバ管理者とやり取りすることができます。ディスカッションリストには、次のサイトでサインアップできます。

www.lists.apple.com

「ワークグループマネージャ」または「Macintosh マネージャ」の操作中に問題が起きた場合は、この章を読めば解決できることがあります。

オンラインヘルプと Tech Info Library

この章を読んでも問題が解決しない場合は、Mac OS X Server のオンラインヘルプで新しいトピックを探してみてください。また、Tech Info Library から情報や解決策を探すこともできます。
www.apple.co.jp/support

アカウントの問題を解決する

ユーザとグループのアカウント管理の際に問題が発生した場合は、このセクションの指示に従ってください。

ワークグループマネージャを使ってアカウントを変更できない

「ワークグループマネージャ」を使ってアカウントを変更するときは、次の要件に準拠してください。

- アカウントを保管しているAppleディレクトリドメインのドメイン管理者であること。アップル以外のオープンディレクトリまたは Active Directory のドメインが読み出し／書き込みに設定されている場合は、そのディレクトリドメインを変更できません。
- ディレクトリドメインは、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリ、NetInfo ドメイン、またはその他の読み出し／書き込みディレクトリドメインでなければなりません。「ワークグループマネージャ」を使用して更新できるのは、これらのドメインだけです。

パスワードサーバユーザのパスワードを変更できない

オープンディレクトリを使って検証されるパスワードを変更するには、オープンディレクトリの管理者でなければなりません。オープンディレクトリの管理者は、次の 2 つの方法を使って指定できます。

- 特定のオープンディレクトリのマスターを設定するときに指定したユーザ（「サーバ管理」の「オープンディレクトリ」モジュールを使用します）は、そのオープンディレクトリのマスターの管理者になります。

- オープンディレクトリの マスターを設定した後、ほかのユーザオープンディレクトリの管理者にすることができます。オープンディレクトリのマスターと関連付けられたディレクトリドメインにユーザがアカウントを保持していることを確認してください。オープンディレクトリの管理者に指定したユーザは、そのディレクトリドメインのドメイン管理者に指定してください。また、それらのユーザのパスワードは、オープンディレクトリを使って検証する必要があります。

ユーザのパスワードの検証方法をオープンディレクトリを使った検証方法に変更できない

パスワードの検証方法をオープンディレクトリを使った検証方法に変更するには、パスワードサーバの管理者である必要があります。オープンディレクトリの管理者は、次の 2 つの方法を使って指定できます。

- 特定のオープンディレクトリのマスターを設定するときに指定したユーザ（「サーバ管理」の「オープンディレクトリ」モジュールを使用します）は、そのオープンディレクトリのマスターの管理者になります。
- オープンディレクトリのマスターを設定した後、ほかのユーザをオープンディレクトリの管理者にすることができます。オープンディレクトリのマスターと関連付けられたディレクトリドメインにユーザがアカウントを保持していることを確認してください。オープンディレクトリの管理者に指定したユーザは、そのディレクトリドメインのドメイン管理者に指定してください。また、それらのユーザのパスワードは、オープンディレクトリを使って検証する必要があります。

パスワードサーバユーザを Netinfo マネージャで認証できない

「NetInfo マネージャ」を使って変更を行うには、暗号化パスワードを持つユーザアカウントを使って認証される必要があります。パスワードタイプの設定は、「ワークグループマネージャ」を使って、ユーザアカウントの「詳細」パネルで行います。

ユーザがログインまたは認証されない

認証の問題の発生原因が設定にあるのか、パスワードにあるのかを判断するために、次の点を確認してください。

- パスワードを既知の値に再設定しても、問題が引き続き発生するかどうかを確認します。ほとんどのクライアントが対応している 7 ビット ASCII 文字のパスワードを使って試してください。
- ユーザのパスワードサーバは有効になっているが、そのユーザのクライアントに必要な認証プロトコルに対応していない場合は、追加のパスワードサーバプロトコルを有効にすることができます。パスワードサーバの設定を変更した後で、ユーザのパスワードの再設定が必要な場合があります。
- 「基本」認証は、多くの認証プロトコルに対応していません。より多くのクライアントアプリケーションに対応するには、パスワードサーバを使用するか、別のアプリケーションを使用してください。
- Kerberos の問題を解決するヒントについては、225 ページの「Kerberos ユーザがログインまたは認証できない」を参照してください。
- パスワードの検証に使用するパスワードサーバまたはアップル以外のディレクトリサーバが有効でない場合は、ユーザのパスワードを再設定して使用可能なサーバを使用してください。
- パスワードは、認証プロトコルが対応している文字で構成してください。一部のプロトコルでは、空白と特殊文字（option+8 など）を先頭、文字列中、または末尾で使用することができません。たとえば、先頭の空白は、POP または AFP では使用できますが、IMAP では使用できません。
- ユーザが使用しているキーボードが認証に必要な文字に対応していることを確認してください。

- クライアントソフトウェアが正しく認識される方式でパスワードをエンコードしていることを確認してください。たとえば、パスワードサーバは UTF-8 でエンコードした文字列を認識しますが、一部のクライアントは UTF-8 文字列を送信しないことがあります。
- ユーザが使用しているクライアントが設定したパスワードの長さをサポートしていることを確認してください。たとえば、「LAN Manager」は、14 文字のパスワードにしか対応していません。このため、パスワードが 14 文字を超えている場合、Mac OS X Server の Windows サービスが長いパスワードをサポートしていても、認証に失敗することがあります。
- バージョン 3.8.3 より前の AFP クライアントが認証に失敗した場合は、Authentication Manager を使ってこれらの古いクライアントを認証してください。

サーバ管理者のアクセス権を割り当てることができない

特定のサーバのユーザにサーバ管理者のアクセス権を割り当てるときは、最初に「ワークグループ マネージャ」からサーバにログインしてください。

パスワードサーバを使ってパスワードが検証されるユーザがログインできない

パスワードサーバのコンピュータをネットワークから切断するときに、ネットワークインタフェースカード (NIC) からケーブルを外す方法を使った場合、パスワードサーバを使ってパスワードが検証されるユーザは、IP アドレスにアクセスできなくなるためにログインできなくなります。

パスワードサーバのコンピュータをカスケード接続されていないハブに接続して、NIC を元の状態に戻すと、そのユーザは Mac OS X Server にログインできます。パスワード検証方式が「基本」のユーザとしてログインすることもできます。

ユーザが自分のホームディレクトリにアクセスできない

ホームディレクトリが配置されている共有ポイントへのアクセス権とホームディレクトリへのアクセス権が、ユーザに与えられていることを確認してください。共有ポイントへの読み出しアクセス権、およびホームディレクトリへの読み出し/書き込みアクセス権をユーザに割り当てる必要があります。

共有 NetInfo ドメイン内の Mac OS X ユーザがログインできない

この問題は、ユーザが共有 NetInfo ドメイン内のアカウントを使って Mac OS X コンピュータにログインしようとしたが、そのドメインを管理するサーバにアクセスできないときに発生します。ユーザが Mac OS X コンピュータにログインするには、NetInfo アカウントを使用するを設定をしたときに自動作成されたローカルユーザアカウントを使用する必要があります。ユーザ名は「administrator」（ショートネームは「admin」です）、パスワードは NetInfo パスワードです。

Kerberos ユーザがログインまたは認証できない

Kerberos を使用するユーザまたはサービスが認証に失敗したときは、次を試してください。

- Kerberos の動作は、暗号化されたタイムスタンプが基準になっています。KDC、クライアント、およびサービスコンピュータの間で 5 分以上の誤差があると、認証が失敗することがあります。ネットワークタイムサーバを使用して、すべてのコンピュータの時計を同期させてください。
- Kerberos を使用している場合は、問題が発生しているサービスの Kerberos 認証が有効になっていることを確認してください。

- パスワード検証に使用する Kerberos サーバが有効でない場合は、ユーザのパスワードを再設定して使用可能なサーバを使用してください。
- Kerberos に対応したサービスを提供するサーバには、Kerberos を使って認証されるユーザアカウントを含むディレクトリドメインへのアクセス権が必要です。たとえば、すべてのユーザプリンシパルに対応するユーザレコードを管理する KDC サーバで、共有ディレクトリドメインを使用します。
- 問題の解決に役立つ情報については、KDC のログ (kdc.log) を参照してください。設定ファイル名が間違っているなど、設定情報が正しくない場合は、このログで見つけることができます。
- 必要な設定ファイルがすべて存在し、正しく設定されていることを確認してください。たとえば、サーバの keytab ファイルに、対応するプリンシパルがあることを確認してください。

環境設定の管理の問題を解決する

ここでは、「ワークグループマネージャ」を使ってコンピュータアカウントを設定するときまたは Mac OS X クライアントを管理するときに発生する問題について説明します。また、トラブルシューティングのヒントと対策も紹介します。問題がここに記載されていない場合は、「ワークグループマネージャヘルプ」を確認するか、オンラインのサポート情報を参照してください。

デフォルトの Web 設定を適用できない

「ワークグループマネージャ」を使って「インターネット」環境設定を管理しているときに、デフォルトの Web ブラウザ、デフォルトのホームページまたは検索ページ、あるいはダウンロードしたファイルの保管場所を設定しても、一部のアプリケーションにこれらの設定が適用されないことがあります。このような場合、アプリケーション固有の環境設定を使って、デフォルトのホームページを設定しなければならないことがあります。

デフォルトのメール設定を適用できない

「ワークグループマネージャ」を使って「インターネット」環境設定を管理しているときに、デフォルトメールソフト、メールアドレス、またはメールサーバを設定しても、一部のアプリケーションにこれらの設定が適用されないことがあります。このような場合、クライアントコンピュータのメールアプリケーション固有の環境設定を使用しなければならないことがあります。

ユーザがログインしたときにワークグループのリストが表示されない

ネットワークアカウントを持つユーザがログインしたときに、ワークグループのリストが表示されない場合は、次の原因が考えられます。

- そのユーザがグループに割り当てられないか、1つのグループだけに割り当てられている場合。shift キーを押しながらログインすると、ワークグループのリストが表示されます。
- そのユーザのコンピュータがコンピュータリストに登録されていない場合。コンピュータリストにコンピュータを追加するか、「ゲストコンピュータ」リストにコンピュータを追加してください。

ローカルアカウントを持つユーザがログインしたときに、ワークグループのリストが表示されない場合は、次の原因が考えられます。

- そのユーザのコンピュータがワークグループに割り当てられていない場合。そのコンピュータが登録されているコンピュータリストまたは「ゲストコンピュータ」リストに 1 つ以上のグループを割り当ててください。
- そのユーザのコンピュータがコンピュータリストに登録されていない場合。コンピュータリストにコンピュータを追加するか、「ゲストコンピュータ」リストにコンピュータを追加してください。

ユーザがファイルを開けない

ユーザが「Finder」でファイルをダブルクリックするか、ファイルを選択して「Finder」の「ファイル」メニューから「開く」を選択すると、通常は、適切なデフォルトアプリケーションによってそのファイルが開きます。そのユーザが管理された環境を操作している場合には、この方法が機能しないことがあります。

たとえば、PDF ファイルを表示するデフォルトアプリケーションが「プレビュー」であるとします。あるユーザがログインして、デスクトップ上の PDF ファイルをダブルクリックします。そのユーザに適用される管理設定が「プレビュー」にアクセスするように設定されていない場合、そのファイルは開きません。そのユーザが PDF ファイルに対応している別のアプリケーションにアクセス権を持っている場合は、そのアプリケーションを開いてファイルを開くことができます。

よく使用されるアプリケーションをユーザ、グループ、またはコンピュータリストが利用できるようにするには、「ワークグループマネージャ」を使って、「アプリケーション」環境設定の「項目」パネルのリストにそれらのアプリケーションを追加します。

ユーザがプリンタリストにプリンタを追加できない

「プリンタ」環境設定の管理設定から「常に確認する」を選択し、「プリンタリストにプリンタを追加することをユーザに許可する」を選択すると、ユーザが「プリンタ設定ユーティリティ」のプリンタリストにプリンタを追加できます。ただし、ユーザがアプリケーションから書類を印刷するときに追加したプリンタは、利用できるプリンタのリストに表示されません。

管理者は、「ワークグループマネージャ」の「プリンタ」環境設定の「プリンタリスト」パネルを使って、追加されたプリンタの使用を特定のユーザ、グループ、またはコンピュータリストに許可できます。

参考:「プリンタリストにプリンタを追加することをユーザに許可する」が選択されていない場合は、「プリンタ設定ユーティリティ」を使ってプリンタを追加または削除するときに管理者のパスワードが必要になります。

ユーザが追加したログイン項目が開かない

「ワークグループマネージャ」の「ログイン項目」設定を使って、ユーザがログインしたときに自動的に開く項目を指定できます。ログインしたときに開く項目は、そのユーザ、使用しているコンピュータ、およびログイン時に選択したグループに指定されている項目の組み合わせで構成されます。

ログイン項目の追加を許可されているユーザは、ログイン項目を追加できます。ただし、「ログイン項目」の管理設定として「1度」を選択した場合には、ユーザが追加した項目は次回ログインしたときにすべて削除されます。項目が削除されても、ログイン項目の追加を許可されているユーザは、ログイン項目をもう一度追加できます。

ユーザが Dock に配置した項目が表示されない

「ワークグループマネージャ」の「Dockの項目」設定を使って、ユーザの「Dock」に表示する項目を指定できます。ユーザの「Dock」の項目は、そのユーザ、使用しているコンピュータ、およびログイン時に選択したグループに指定されている項目の組み合わせで構成されます。

「Dock」の項目の追加を許可されているユーザは、「Dock」の項目を追加できます。ただし、「Dockの項目」の管理設定として「1度」を選択した場合には、ユーザが追加した項目は初めてログインしたときにすべて削除されます。項目が削除されても、「Dock」の項目の追加を許可されているユーザは、もう一度「Dock」に項目を追加できます。

Dock に ? マークが表示される

「ワークグループマネージャ」を使って、ユーザの「Dock」に表示する項目を制御できます。「Dock」内の項目は、コンピュータのハードディスクやリモートサーバなどの場所に保管されている項目のエイリアスで、実際の項目ではありません。元の項目がリモートサーバ上にあるときに、ユーザがそのサーバに接続されていない場合は、対応する「Dock」の項目が ? マークのアイコンとして表示されます。

ユーザは、? マークのアイコンをクリックすると、サーバに再接続できます（パスワードが必要な場合は、パスワードの入力が求められます）。元の項目が保管されているサーバへの接続が確立すると、そのユーザの「Dock」のアイコンは通常の表示に戻り、クリックすると対応する項目が開きます。

予期しないエラーに関するメッセージが表示される

「Classic」環境設定が管理されている環境では、「機能拡張マネージャ」コントロールパネル、「ファイル共有」コントロールパネル、および「ソフトウェアアップデート」コントロールパネルを使うと、「操作は完了できませんでした。予期しないエラーが発生しました (エラーコード 1016)」というメッセージが表示される場合があります。このメッセージは、ユーザが使おうとした項目へのアクセス権を管理者が制限している（そのユーザが開くことを許可されていないアプリケーションの場合など）ことを示します。

「Classic」環境設定が管理されている環境では、ユーザは上記のコントロールパネルにアクセスできません。「セレクトとネットワークブラウザを隠す」を選択している環境でユーザが「セレクト」を使おうとした場合にも、このメッセージが表示されることがあります。

また、「Classic」環境または Mac OS X で承認されていない（「ワークグループマネージャ」の「アプリケーション」環境設定の「項目」パネルに登録されていない）アプリケーションをユーザが開こうとした場合にも、このメッセージが表示されます。

Macintosh マネージャの問題を解決する

このセクションでは、「Macintosh マネージャ」の使用中に発生する可能性のある問題について説明し、トラブルシューティングのヒントと対策を示します。問題がここに記載されていない場合は、「Macintosh マネージャヘルプ」を確認するか、オンラインのサポート情報を参照してください。

管理者パスワードを忘れてしまった

パスワードを忘れた場合は、Mac OS X Server の管理者に問い合わせてください。必要な場合は、サーバ管理者は「ワークグループマネージャ」アプリケーションを使用して、パスワードを変更することができます。

管理者が、ログイン後に Finder に移動できない

システムアクセス権を持っている場合は、ログインしたときに「システムアクセス」ワークグループを選ぶことができます。システムアクセス権を持っていないと、「Finder」に頻繁に移動する場合は、「Macintosh マネージャ」の管理者に、お使いのアカウント用のシステムアクセス権を設定してもらってください。

「Macintosh マネージャ」へのログインを回避する場合は、「ようこそ」ダイアログが表示されたときに、コマンド +shift+esc キーを押します。その後、そのコンピュータのオーナーのパスワードまたはローカル管理者の名前とパスワードを入力します。

項目パネルに白紙のアイコンが表示される

「Macintosh マネージャ」の「ワークグループ」パネル内の「項目」パネルに白紙のアイコンが表示される場合は、コンピュータを Mac OS 9 で再起動し、デスクトップファイルの再構築を行ってください。

マルチユーザコントロールパネル内のローカルユーザが選択できない

「Macintosh マネージャ」と「マルチユーザ」コントロールパネルを同じコンピュータ上で使用することはできません。

ローカルユーザを設定したい場合は、コンピュータに「Macintosh マネージャ」クライアントソフトウェアをインストールしないでください。その代わりに、「Multi-User Startup」機能拡張をインストールし、「マルチユーザ」コントロールパネルのバージョン 1.4.1 を使用してください。

一部のプリンタが使用可能なプリンタのリストに表示されない

プリンタをクライアントコンピュータで使用できるようにすると、「Macintosh マネージャ」が Mac OS 9 クライアント用のデスクトップ・プリンタを作成します。「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションの Mac OS X バージョンでは、LaserWriter デスクトッププリンタのみ作成します。LaserWriter 以外のプリンタにアクセスする必要がある場合は、クライアントを管理する際に Mac OS 9 バージョンの「Macintosh マネージャ」の管理アプリケーションを使う必要があります。

ユーザが Macintosh マネージャサーバにログインできない

まず、サーバに十分な空き容量があることを確認します。ユーザのパスワードが変更されていないとアカウントも削除されていない場合は、そのユーザの「Macintosh マネージャ」のログインのアクセス権を確認します。

ログインが有効になっていることを確認するには：

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「ユーザ」をクリックしてから、「基本設定」をクリックします。
- 2 「ユーザにログインを許可する」が選択されていることを確認します。「ログインの失効日」が選択されている場合は、日付が過ぎていないことを確認します。

ユーザが日本語のコンピュータにゲストとしてログインできない

ユーザが「ゲスト」アカウントを使用して、日本語のクライアントコンピュータにログインする必要がある場合、「システム環境設定」の「言語環境」パネルでコンピュータの言語スクリプトを「欧米」に変更する必要があります。

クライアントコンピュータがサーバに接続できない

次のことを試してください。

- サーバが稼動中であることを確認してください。サーバを起動したばかりのときは、サーバが表示されるまでに数分かかることがあります。
- DNS 情報を含むネットワーク情報が正しく入力されていることを確認します。
- クライアントコンピュータがメモリ不足でないこと、およびネットワークに接続されていることを確認します。
- 多数のコンピュータを一度に起動したときは、ネットワークに読み込まれるまで非常に時間がかかる場合があります。一度に起動するコンピュータの数を減らして試してください。

AppleTalk リストにサーバが表示されない

Mac OS X Server は、「Macintosh マネージャ」サーバのような、AFP (Apple Filing Protocol) サーバへの AppleTalk ネットワーク接続に対応していません。AFP サーバに接続するときは、クライアントコンピュータを TCP/IP 経由で接続するように設定してください。

ただし、「Macintosh マネージャ」は AppleTalk をサービスの検索に使用できます。ネットワークに AppleTalk ゾーンがある場合、Mac OS 8 コンピュータのユーザはサーバのあるゾーンを選択する必要があります。Mac OS 9 コンピュータの場合は、「ネットワークブラウザ」を使って、サーバに接続していることを確認します。

ユーザのコンピュータが操作不能になる

コンピュータのシステムソフトウェアが Mac OS 9 より前の場合は、ファイル共有が中止になっていることを確認してください。

ユーザが自分のホームディレクトリにアクセスできない

ログイン時にユーザのホームディレクトリが見つからないと、ユーザにメッセージが表示されることがあります。

「ワークグループマネージャ」で、ユーザのホームディレクトリが存在していて、アクセス権が正しく設定されていることを確認してください。次に、ユーザのホームディレクトリが含まれているサーバに接続していることを確認してください。

ユーザが共有ファイルにアクセスできない

ワークグループ共有フォルダは、通常は同じサーバボリューム上にあります。ただし、ワークグループ書類を複数のボリュームに保存すると、ユーザによっては、ワークグループを変更しないと共有書類のすべてにはアクセスできない場合があります。

ユーザが複数のワークグループに属していて、ワークグループ書類が複数のサーバに保存されている場合は、ユーザの AppleShare のバージョンが最新のものかどうかを確認してください。

「Macintosh マネージャ」クライアントコンピュータが Mac OS X バージョン 10.2 を使用するサーバに接続されている場合、ユーザはサーバ上に存在する共有フォルダ（グループフォルダ、「Shared Documents」フォルダなど）にアクセスすることはできません。

一部のユーザがこれらの共有フォルダにアクセスする場合は、これらのフォルダを別のサーバに格納してください。

共有ワークグループ書類がパネル環境に表示されない

ワークグループデータのボリュームを作成したのに「パネル」ワークグループのユーザが表示できない場合は、ワークグループデータのボリュームに共有書類フォルダが含まれていることを確認してください。

また、「ユーザ」フォルダの場所が変わっていないか確認してください。「ユーザ」フォルダは、通常はサーバのボリュームまたはワークグループデータのボリュームのいずれかの最上位レベルにあります。

アプリケーションが正しく動作しない、または開かない

アプリケーションによっては、「システムフォルダ」の中の「初期設定」フォルダ以外の場所に、特殊なファイルを書き込んだり作成したりするものがあります。ワークグループに対してファイルレベルのセキュリティを適用すると、古いアプリケーションでは、適切に機能しない場合やエラーを報告する場合があります。詳しくは、194 ページの「アプリケーションによってファイルが変更されないようにする」を参照してください。

「Other Applications」というフォルダを作成し、その中に「アプリケーション」フォルダ（およびその内容すべて）を入れることができます。「Other Applications」フォルダは、常にクライアントコンピュータの「アプリケーション」フォルダの中になければなりません。クライアントコンピュータで Mac OS 9.1 以降が動作している場合、「アプリケーション」フォルダは「Applications (Mac OS 9)」と呼ばれます。

ユーザがアプリケーション間でドラッグ & ドロップできない

ほとんどの場合、「Macintosh マネージャ」ではドラッグ&ドロップ機能は使用できません。「コピー」コマンドおよび「ペースト」コマンドを使用してください。

ユーザが Web ページからファイルを開くことができない

Web ブラウザは、ブラウザ自体で処理できないファイル（メディアファイルや PDF ファイルなど）を開く際に、ヘルパーアプリケーションを使用することがあります。

- 1 「Macintosh マネージャ」で、「コンピュータ」をクリックしてから、「セキュリティ」をクリックします。
- 2 「ヘルパーアプリケーションのようなほかのアプリケーションを開く」を選択します。

ユーザによっては正しいアプリケーションが開かないことがある

ユーザが書類を開こうとしたときに間違ったアプリケーションが開く場合は、クライアントコンピュータのデスクトップを再構築してください。

アカウント情報を読み込む／書き出す

この付録では、アカウント情報の読み込みと書き出しのガイドラインを示します。

「ワークグループマネージャ」や「dsimport」などのツールを使用すると、アカウントの書き出しおよび読み込みを簡単に行うことができます。

読み込み可能なものについて

アカウント情報は、「ワークグループマネージャ」を使って、データファイルから読み込んだりデータファイルに書き込んだりできます。また、「dsimport」ツール（「/ アプリケーション /Server/ワークグループマネージャ.app/Contents/Resources」にあります）を使ってアカウント情報を読み込むこともできます。

参考：パスワードサーバを使用するユーザアカウントの場合は、パスワードを再設定する必要があります。

読み込み可能なユーザおよびグループのアカウント属性は、読み込みファイルの種類によって異なります。

- Mac OS X Server 10.1 以前で作成された XML ファイル
- AppleShare IP 6.3 で作成した XML
- 文字区切りファイル

読み込みファイルは、次の定義済みのユーザを変更する際には使用できません：daemon、root、nobody、unknown、および www。また、次の定義済みのグループの変更にも使用できません：admin、bin、daemon、dialer、mail、network、nobody、nogroup、operator、staff、sys、tty unknown、utmp、uucp、wheel、および www。ただし、ユーザを wheel および admin グループに変更することはできます。

Macintosh マネージャの情報を読み込む／書き出す

Mac OS 9 クライアントのユーザ情報とグループ情報の読み込みおよび書き出しについては、第 10 章「Macintosh マネージャを使って Mac OS 9 を管理する」を参照してください。

ワークグループマネージャを使用してユーザとグループを読み込む

「ワークグループマネージャ」を使用して、ユーザおよびグループアカウントを、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインを読み込むことができます。ファイルが読み込まれると、「ワークグループマネージャ」はレコードフォーマットを自動的に識別します。

ワークグループマネージャを使用してアカウントを読み込むには：

- 1 読み込み対象のアカウントを含む文字区切りまたは XML ファイルを作成し、「ワークグループマネージャ」を使用するサーバからアクセスできる場所にそのファイルを置きます。オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリは、最大 100,000 レコードに対応します。ローカル NetInfo データベースの場合は、ファイルに 10,000 レコード以上が含まれないようにしてください。

読み込みファイルの作成について詳しくは、236 ページの「Mac OS X Server 10.1 以前で作成された XML ファイルを使用する」、237 ページの「AppleShare IP 6.3 で作成した XML を使用する」、および 238 ページの「文字区切りファイルを使用する」を参照してください。

- 2 「ワークグループマネージャ」の「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、アカウントの読み込み先のディレクトリドメインを開きます。
- 3 ドメイン管理者として認証されるために、カギをクリックします。
- 4 「サーバ」メニューから「読み込み」を選び、読み込みファイルを選択します。
- 5 読み込んだアカウントのユーザ名（ショートネーム）が既存のアカウントのユーザ名（ショートネーム）と一致したときの動作を、任意の「重複の処理方法」オプションから選択します。

「既存のレコードを上書きする」を選択すると、ディレクトリドメイン内の既存のレコードが上書きされます。

「新しいレコードを無視する」を選択すると、読み込みファイル内のアカウントが無視されます。

「未指定のフィールドに追加する」を選択すると、読み込みファイルのデータに対応する属性に値が現在設定されていないときに、読み込みファイルのデータを既存のアカウントにマージします。

「既存のレコードに追加する」を選択すると、既存のアカウントの属性が複数値属性の場合、読み込みファイルのデータが既存のデータに追加されます。重複は作成されません。このオプションは、新規メンバーを既存のグループに読み込むときなどに使用します。

- 6 必要に応じて、読み込み中に使用するプリセットを選択します。

アカウントの設定がプリセットと読み込みファイルの両方に指定されている場合は、読み込みファイルの値が使用されます。アカウントの設定がプリセットだけに指定され、読み込みファイルに指定されていない場合は、プリセットの値が使用されます。

- 7 「最初のユーザ ID」フィールドには、読み込みファイルに UID が含まれない場合のために、新規ユーザアカウントに割り当てる UID の開始値を入力します。
- 8 「プライマリグループ ID」フィールドには、読み込みファイルにプライマリグループ ID が含まれない場合のために、新規ユーザアカウントに割り当てるグループ ID を入力します。
- 9 「読み込み」をクリックして読み込みを開始します。
- 10 必要に応じて、「createhomedir」コマンドラインツールを使って、読み込んだユーザのホームディレクトリを作成します。詳しくは、コマンドライン管理ガイドを参照してください。

ワークグループマネージャを使用してユーザとグループを書き出す

「ワークグループマネージャ」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインからユーザとグループのアカウントを文字区切りファイルに書き出し、そのファイルを別の NetInfo または LDAP ドメインに読み込むことができます。

ワークグループマネージャを使用してアカウントを書き出すには：

- 1 「ワークグループマネージャ」の「アカウント」ボタンをクリックし、ツールバーの下にある地球のアイコンをクリックして、アカウントの書き込み元のディレクトリドメインを開きます。
- 2 ドメイン管理者として認証されるために、カギをクリックします。
- 3 ユーザを書き出す場合は、ユーザリストのタブを選択します。グループを書き出す場合は、グループリストのタブを選択します。
- 4 表示されたアカウントをすべて書き出す場合は、すべてのアカウントを選択します。特定のアカウントを書き出す場合は、そのアカウントを選択します。複数のアカウントを書き出す場合は、コマンドキーまたは shift キーを押しながらアカウントを選択します。
- 5 「サーバ」メニューから「書き出し」を選びます。
- 6 書き出しファイルに割り当てる名前と作成先を指定します。
- 7 「書き出し」をクリックします。

dsimport を使用してユーザとグループを読み込む

「dsimport」を使用して、ユーザおよびグループアカウントを、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに読み込むことができます。

ユーザとグループのアカウントを読み込むときに「dsimport」が受け入れるパラメータを次に示します。必須のパラメータは山形かっこ (< >) で囲まれ、省略可能なパラメータは角形かっこ ([]) で囲まれています。

```
dsimport <-g or -s or -p> <file> <directoryDomain>  
<userName> <password> <O or M or I or A> <-s startingUID>  
[-r primaryGroupID] [-k keyIndex ...] [-n recNameIndex] [-v]  
[-T standardRecordType] [-yrnm userName] [-yrpwd password]  
[-y ipAddress] [-V] [-h] [-err]
```

dsimport を使用してユーザとグループを読み込むには：

- 1 読み込むアカウントを含む文字区切りまたは XML ファイルを作成し、ツールを使用するサーバからアクセスできる場所にそのファイルを置きます。オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリは、最大 100,000 レコードに対応します。ローカル NetInfo データベースの場合は、ファイルに 10,000 レコード以上が含まれないようにしてください。

読み込みファイルの作成について詳しくは、236 ページの「Mac OS X Server 10.1 以前で作成された XML ファイルを使用する」、237 ページの「AppleShare IP 6.3 で作成した XML を使用する」、および 238 ページの「文字区切りファイルを使用する」を参照してください。

- 2 アカウントの読み込み先にしたいディレクトリドメインへのアクセス権を持つサーバに、ドメイン管理者としてログインします。

- 3 「ターミナル」アプリケーションを開き、「dsimport」コマンドを入力します。「dsimport」ツールは、「/アプリケーション/Server/ワークグループマネージャ.app/Contents/Resources」にあります。パス名に空白が含まれるため、入力するときは引用符で囲みます。たとえば、次のようになります。

```
`/Applications/Server/Workgroup Manager.app/Contents/Resources/'  
dsimport -h
```
- 4 必要に応じて、「createhomedir」コマンドラインツールを使用して、読み込んだユーザのホームディレクトリを作成します。詳しくは、コマンドライン管理ガイドを参照してください。

Mac OS X Server 10.1 以前で作成された XML ファイルを使用する

「サーバ管理」を使用して Mac OS X Server バージョン 10.1 以前からの書き出しファイルを作成し、「ワークグループマネージャ」や「dsimport」を使用して、そのファイルをオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに読み込むことができます。

これらの XML ファイルに書き出されるユーザアカウント属性を、次に示します。山形かっこ (<>) で囲まれた属性は必須で、ファイルを読み込みファイルとして使用するときにこの属性がないと、エラーが発生します。

- ユーザがログインできるかどうかを示すもの
- ユーザがサーバ管理者かどうかを示すもの
- <UID>
- <プライマリグループ ID>
- shell
- comment
- <ショートネーム>
- <フルネーム>
- <パスワード形式> および <パスワードテキスト>
- Apple メールデータ
- ara (Apple Remote Access。このデータは無視されます)

これらの XML ファイルには、次のグループアカウント属性が含まれている場合があります。

- <グループ名>
- <グループ ID>
- <あるメンバーのショートネーム>
- 別のメンバーのショートネーム

AppleShare IP 6.3 で作成した XML を使用する

Web やファイルの管理アプリケーションを使用して、AppleShare IP 6.3 サーバに書き出しファイルを作成し、「ワークグループマネージャ」や「dsimport」を使用してそのファイルをオープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインに読み込むことができます。

これらの XML ファイルに書き出されるユーザアカウント属性を、次に示します。山形かっこ (<>) で囲まれた属性は必須で、ファイルを読み込みファイルとして使用するときこの属性がないと、エラーが発生します。

- <名前> (フルネームにマップされたもの)
- inetAlias (ショートネームにマップされたもの)
- comment
- ユーザがログインできるかどうかを示すもの
- <パスワード形式> および <パスワードテキスト>
- Apple メールデータ
- ユーザがサーバ管理者かどうかを示す属性、パスワード変更データ、およびパスワードを強制的に変更することを示す属性 (このデータは無視されます)

「dsimport」ツールは、この XML ファイルを読み込むときに UID を生成します。このとき、`-s` パラメータを使用して、1 で始まり、以降に読み込まれるアカウントの UID ごとに 1 ずつ増分する UID を判別します。`-r` パラメータを使用すると、プライマリグループ ID が生成されます。「ワークグループマネージャ」を使用して読み込むと、読み込みダイアログに指定した UID およびプライマリグループ ID が生成されます。

これらの XML ファイルには、次のグループアカウント属性が含まれている場合があります。

- <グループ名>
- <あるメンバーのショートネーム>
- 別のメンバーのショートネーム

「dsimport」は、この XML ファイルを読み込むときにグループ UID を生成します。このとき、`-r` パラメータを使用して、1 で始まり、以降に読み込まれるアカウントのグループ UID ごとに 1 ずつ増分する UID を判別します。「ワークグループマネージャ」を使用して読み込むと、読み込みダイアログに指定したプライマリグループ ID を使用して、グループ ID が生成されます。

文字区切りファイルを使用する

文字区切りファイルを作成するときは、「ワークグループマネージャ」または「dsimport」を使用して、オープンディレクトリのマスターの LDAP ディレクトリまたは NetInfo ドメインにあるアカウントをファイルに書き出します。また、文字区切りファイルは、手作業で作成したり、データベースや表計算アプリケーションを使って作成したりすることができます。

ファイル内の最初のレコードは、ファイル内の各アカウントの形式の特性を示すものでなければなりません。これには、次の3つのオプションがあります。

- 詳細なレコード記述を書きます。
- 省略形の「StandardUserRecord」を使用します。
- 省略形の「StandardGroupRecord」を使用します。

ファイル内のその他のレコードは、最初のレコードに記述された形式でエンコードされた、ユーザまたはグループのアカウントを記述します。

レコード記述を書く

レコード記述は、文字区切りファイルから読み込みたい各レコード内のフィールドを識別します。また、レコード、フィールド、および値を区切る方法を示し、レコード内の特殊な文字の前に付くエスケープ文字を記述します。レコード記述は、次の要素を指定した順番で使用してエンコードします。これらを区切るときはスペースを使用します。

- レコードの末尾標識（16 進表記）
- エスケープ文字（16 進表記）
- フィールドセパレータ（16 進表記）
- 値セパレータ（16 進表記）
- ファイル内のアカウントのタイプ（DSRecTypeStandard:Users または DSRecTypeStandard:Groups）
- アカウント当たりの属性の数
- 属性のリスト

ユーザアカウントには以下の属性が必要です。ただし、ファイルを読み込むときに開始 UID とデフォルトのプライマリグループ ID を指定した場合は、UID と PrimaryGroupID を省略できます。

- RecordName（ユーザのショートネーム）
- Password
- UniqueID（UID）
- PrimaryGroupID
- RealName（ユーザのフルネーム）

この用語集では、Mac OS X Server のオンラインヘルプまたはさまざまな参照マニュアルで使用されている用語の定義と略語の意味を説明します。用語集に定義されている語句は太字で記載されています。

AFP (Apple Filing Protocol) Macintosh互換のコンピュータの Apple ファイルサービスがファイルおよびネットワークサービスの共有に使用するクライアント/サーバ型のプロトコル。AFP は、TCP/IP とその他のプロトコルを使って、ネットワークのコンピュータ間で通信します。

BIND (Berkeley Internet Name Domain) Mac OS X Server に付属の、DNS を実装するためのプログラム。実行中のプログラムは、ネームデーモンまたは「named」とも呼ばれます。

BSD (Berkeley System Distribution) Mac OS XソフトウェアのベースとなっているUNIXのバージョン。

CGI (Common Gateway Interface) Web サイトに動的な機能を追加するスクリプトまたはプログラム。CGI は、Web サイトにサービスを提供するアプリケーションと Web サイトとの間で情報をやり取りします。たとえば、ユーザがサイトのフォームに必要な事項を記入すると、CGI はそのデータを処理するアプリケーションにメッセージを送信し、ユーザに応答を送り返すことができます。

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) クライアントコンピュータに IP アドレスを割り当てるためのプロトコル。クライアントコンピュータが起動するたびに、DHCP は DHCP サーバを検索し、見つかった DHCP サーバに IP アドレスを要求します。DHCP サーバは、使用可能な IP アドレスを調べ、これをリース期間に合わせてクライアントコンピュータに送ります。リース期間とは、クライアントコンピュータがアドレスを使用できる期間のことです。

DNS (Domain Name System) IP アドレスをドメイン名にマップする分散型のデータベース。DNS サーバは、ネームサーバとも呼ばれ、名前および名前に関連付けられた IP アドレスのリストを保持します。

FTP (File Transfer Protocol) コンピュータがネットワーク経由でファイルを転送する際に使用するプロトコル。FTP をサポートするオペレーティングシステムを使っている FTP クライアントは、各自のアクセス権に応じて、ファイルサーバに接続し、ファイルをダウンロードできます。ほとんどのインターネットブラウザおよび多数のフリーウェアアプリケーションを使って、FTP サーバにアクセスできます。

HTML (Hypertext Markup Language) World Wide Web ブラウザのページに表示されるファイルに挿入される記号やコードのセット。マークアップによって、Web ページの文字列や画像をユーザの Web ブラウザでどのように表示するかを指定します。

HTTP (Hypertext Transfer Protocol) World Wide Web 用のクライアント/サーバ型のプロトコル。HTTP プロトコルは、Web ブラウザが Web サーバにアクセスし、HTML を使って作成されたハイパーメディア書類を要求するときに使用します。

IANA (Internet Assigned Numbers Authority) IPアドレスやプロトコルパラメータの割り当て、ドメイン名の管理を行う組織。

ICMP (Internet Control Message Protocol) ホストサーバとゲートウェイとの間で使用される、メッセージ制御およびエラーレポートプロトコル。たとえば、インターネットソフトウェアアプリケーションの中には、ICMP を使用して、2 つのホスト間でパケットを往復させ、往復にかかる時間を計測してネットワークの問題を発見するものがあります。

IGMP (Internet Group Management Protocol) マルチキャストと呼ばれる処理の中で、ホストおよびルータが参加を希望するホストのリストにパケットを送信するために使用するインターネットプロトコル。「QuickTime Streaming Server」(QTSS) では、SLP (Service Location Protocol) と同様に、マルチキャストアドレス方式が使用されます。

IMAP (Internet Message Access Protocol) クライアント/サーバ型のメールプロトコルの 1 つで、メールをローカルコンピュータにダウンロードせずに、メールサーバに保管しておくことができます。メールは、ユーザが削除するまでサーバに保管されます。

IP (Internet Protocol) IPv4 とも呼ばれます。ローカルネットワークまたはインターネットを経由してコンピュータ間でデータを送受信するために、TCP (Transmission Control Protocol) と共に使用される方式。IP がデータパケットを実際に配送するのに対し、TCP はデータパケットを管理します。

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) ディレクトリドメインにアクセスするための標準規格のクライアント/サーバ型のプロトコル。

LPR (Line Printer Remote) TCP/IP を介してプリントするときに使用する標準規格のプロトコル。

MBONE (Multicast Backbone) IP マルチキャストをサポートする仮想ネットワーク。MBONE ネットワークは、インターネットと同じ物理メディアを使用しますが、マルチキャストのデータパケットを、ユニキャストのデータパケットとして表示されるように再パッケージする設計になっています。

MIBS (Management Information Bases) SNMP アプリケーションを使用してさまざまな装置を監視するための仮想データベース。

MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) Web ブラウザが特定の特性を持つファイルを要求したときに、どのように動作するかを指定するためのインターネットの規格。ファイルの拡張子はファイルのタイプを示します。特定の拡張子を持つファイルを受信したときに、サーバがどのように応答するかを指定できます。拡張子とそれに関連付けられた応答は、MIME タイプマッピングと呼ばれます。

MX レコード (Mail Exchange レコード) インターネットドメイン宛のメールを管理するコンピュータを指定する、DNS テーブル内のエントリ。メールサーバは、インターネットドメインに配信するメールを受け取ると、そのドメインの MX レコードを要求します。その後で、MX レコードに指定されたコンピュータにメールを送信します。

NetBIOS (Network Basic Input/Output System) 異なるコンピュータのアプリケーションが、ローカルエリアネットワーク内で通信するときに使用するプログラム。

NetBoot サーバ NetBootソフトウェアがインストールされ、クライアントが起動時に使用するディスクイメージが置かれた Mac OS X サーバ。

NetInfo ディレクトリドメインにアクセスするための Apple プロトコル。

nfsd デーモン バックグラウンドで常に実行され、クライアントからの読み出しおよび書き込み要求を処理する NFS サーバプロセス。利用可能なデーモンの数が増えるほど、同時に処理できるクライアントの数が増えます。

NFS (Network File System) ユーザが遠隔地のファイルに、ローカルファイルであるかのようにアクセスできるようにする、TCP/IP を使ったクライアント/サーバ型のプロトコル。NFS では、ユーザ名とパスワードではなく、IP アドレスに基づいて、共有ボリュームがコンピュータにエクスポートされます。

NSL (Network Service Locator) TCP/IP ベースのネットワークリソースを簡単に検索するためのアップルのテクノロジー。

ORBS (Open Relay Behavior-modification System) 迷惑メールの送信者がオープンリレーとして利用している、または利用している疑いのあるメールサーバのブラックリストを提供するインターネットサービス。ORBS サーバは、「ブラックホール」サーバとも呼ばれます。

PHP (PHP: Hypertext Preprocessor) 動的な Web ページを作成するために HTML に埋め込むスクリプト言語。

POP (Post Office Protocol) 受信メールを取得するためのプロトコル。ユーザが POP メールを受信すると、そのメールはユーザのコンピュータに保存され、通常はメールサーバから自動的に削除されます。

QTSS (QuickTime Streaming Server) インターネットを経由してリアルタイムでメディアを配送するためのテクノロジー。

Rendezvous IP ネットワーク上のコンピュータ、装置、およびサービスを自動的に検出するための、アップルが開発したプロトコル。標準化が検討されているこのインターネット標準プロトコルは、「ZeroConf」または「マルチキャスト DNS」と呼ばれることもあります。詳しくは、www.apple.co.jp または www.zeroconf.org を参照してください。

RTP (Real-Time Transport Protocol) リアルタイムデータ (音声、映像、シミュレーションデータなど) を、マルチキャストネットワークサービスまたはユニキャストネットワークサービスを介して送信するアプリケーションに適した、終端間のネットワーク転送プロトコル。

RTSP (Real Time Streaming Protocol) リアルタイムプロパティを持つデータの配送を制御するアプリケーションレベルのプロトコル。音声や映像などのリアルタイムデータを制御しながらオンデマンド配送するための、拡張可能なフレームワークを提供します。データソースには、供給されるライブデータや保存されているクリップが含まれます。

SDP (Session Description Protocol) QuickTime Streaming Server で使用されるテキストファイル。ライブストリーミング・ブロードキャストのフォーマット、タイミング、著作者などの情報や、ユーザのコンピュータを調整するための命令が格納されています。

SLP (Service Location Protocol) DA (Directory Agent) ネットワーク上で使用可能なサービスを登録し、ユーザがこれに簡単にアクセスできるようにするためのプロトコル。ネットワークにサービスを追加すると、SLP を使ってネットワーク上にそのサービスが自動的に登録されます。SLP DA では、登録されたネットワークサービスを格納するために中央リポジトリが使用されます。

SMB (Server Message Block) クライアントコンピュータがファイルやネットワークサービスにアクセスするときに使用するプロトコル。TCP/IP、インターネット、およびその他のネットワークプロトコルで使用できます。Windows サービスでは、SMB を使って、サーバ、プリンタ、およびその他のネットワークリソースへのアクセスを提供します。

SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) メールの送信および転送に使用されるプロトコル。受信メッセージをキューに保存する能力に限界があるため、通常はメールを送信するときだけ使用され、メールを受信するときには POP または IMAP が使用されます。

SNMP (Simple Network Management Protocol) マルチプラットフォームに対応したコンピュータネットワーク装置を管理および監視するための標準規格のプロトコルのセット。

SPAM 迷惑メールやジャンクメール。

SSL (Secure Sockets Layer) 暗号化された認証済みの情報をインターネットで送信するためのインターネットプロトコル。

TCP (Transmission Control Protocol) インターネットを経由してコンピュータ間でメッセージ単位の形式のデータを送信するときに、IP (Internet Protocol) と共に使用される方式。IP がデータを実際に配送する処理を行うのに対して、TCP は個々のデータの単位 (パケット) を追跡します。インターネットでは、メッセージを効率的にルーティングするために、メッセージがパケットに分割されます。

Tomcat Java Community Process で開発された、相互に補足的な 2 つのテクノロジー (Java Servlet 2.2 および JavaServer Pages 1.1) の公式なりファレンスインプリメンテーション。

TTL (Time-to-Live) DNS 情報をキャッシュに保管する時間の長さ。ドメイン名と IP アドレスのペアがキャッシュに保管されている時間が TTL 値を超えると、ネームサーバのキャッシュからエントリが削除されます (ただし、プライマリ DNS サーバからは削除されません)。

UDP (User Datagram Protocol) IP (Internet Protocol) を使って、ネットワーク内のあるコンピュータから別のコンピュータにデータ単位 (データグラムと呼ばれます) を送信する通信方法。交換するデータ単位がきわめて小さいネットワークアプリケーションの場合は、TCP ではなく UDP を使用できます。

UID (ユーザ ID) ユーザを一意に識別する番号。Mac OS X コンピュータは、UID を使用してユーザのディレクトリおよびファイルの所有権を追跡します。

Unicode 言語や、言語を表示するために使用されるオペレーティングシステムにかかわらず、各文字に一意な数値を割り当てる規格。

URL (Uniform Resource Locator) ローカルネットワークまたはインターネット上にある、アクセス可能なコンピュータ、ファイル、またはリソースのアドレス。URL は、リソースにアクセスするために必要なプロトコルの名前、インターネット上の特定のコンピュータを識別するドメイン名、およびコンピュータ上でのファイル位置を表す階層で構成されます。

USB (Universal Serial Bus) 安価な直接接続ケーブルを使って、コンピュータと周辺機器の間で通信するための規格。

VPN (Virtual Private Network) インターネットなどのパブリックネットワークでセキュリティ保護された通信を提供するための、暗号化およびその他の技術を使ったネットワーク。一般に、VPN は、専用回線を使用する実際のプライベートネットワークよりも安価ですが、両方の端末で同じ暗号化システムを使用する必要があります。暗号化は、ファイアウォールソフトウェアまたはルータによって行われます。

WebDAV (Web-based Distributed Authoring and Versioning) サイトが稼働中でもクライアントユーザが Web ページをチェックアウトし、変更を加え、チェックインして戻ることができるライブオーサリング環境。

WebDAV 保護領域 WebDAV ユーザおよびグループがアクセスできるように定義された、Web サイト内の領域。通常は、フォルダまたはディレクトリです。

WINS (Windows Internet Naming Service) Windows コンピュータが、クライアント名と IP アドレスを照合するときに使用する名前解決サービス。WINS サーバは、ローカルネットワークに設置することも、外部のインターネットに設置することもできます。

アイドル状態のユーザ サーバに接続してはいるが、一定期間サーバボリュームを使用していないユーザ。

アクセス権 共有項目に対するユーザアクセスの種類を定義する設定。共有ポイント、フォルダ、またはファイルに対して、「読み出し/書き込み」、「読み出し専用」、「書き込み専用」、「不可」(アクセス権なし) の 4 つのタイプのアクセス権を割り当てることができます。

インターネットサービスプロバイダ (ISP) インターネットへのアクセスを販売し、場合によってはメールサービスや電子商取引用アプリケーションの Web ホストとしての機能を提供するビジネス。

エクスポート 共有を意味する、NFS（Network File System）の用語。

オーナー ファイルまたはフォルダを作成し、ほかのユーザにそのアクセス権を割り当てる権限を持つユーザ。項目のオーナーには、その項目に対する読み出し／書き込みのアクセス権が自動的に割り当てられます。また、オーナーは、項目の所有権をほかのユーザに譲ることもできます。

オープンディレクトリ LDAP、NetInfo、または Active Directory プロトコルを使用するディレクトリドメイン内のユーザおよびネットワークリソースのアクセス権情報、BSD 設定ファイル、およびネットワークサービスにアクセスするための、Apple ディレクトリサービスのアーキテクチャ。

オープンリレー 受信したメールを別のサーバに自動的に転送するサーバ。迷惑メールの送信者はオープンリレーサーバを悪用して、自分のメールサーバが SPAM の送信元としてブラックリストに載らないようにします。

下位層 上位層の共有ディレクトリドメインから設定情報を取得するコンピュータ。

仮想ユーザ ユーザの代替メールアドレス（ショートネーム）。エイリアスに似ていますが、ほかのユーザアカウントを作成する必要があります。

環境設定のキャッシュ コンピュータの環境設定、およびそのコンピュータに関連付けられたグループの環境設定が保存される場所。環境設定のキャッシュは、ポータブルコンピュータでのローカルユーザアカウントの管理に役立ちます。

管理された環境設定 管理者によって制御されるシステム環境設定またはアプリケーション環境設定。管理者は、「ワークグループマネージャ」を使用して、Mac OS X の管理されたクライアントの特定のシステム環境設定を制御できます。また、「Macintosh マネージャ」を使用すると、Mac OS 9 および Mac OS 8 の管理されたクライアントのシステムの初期設定とアプリケーションの初期設定の両方を制御できます。

管理されたクライアント アクセス権や環境設定が管理者によって制御されているユーザ、グループ、またはコンピュータ。

管理者 サーバまたはディレクトリドメインの管理者のアクセス権を持つユーザ。管理者は常に、あらかじめ定義されている「admin」グループのメンバーです。

管理用コンピュータ 「Mac OS X Server Admin」CD からサーバ管理アプリケーションをインストールした Mac OS X コンピュータ。

起動 ROM コンピュータが起動の初期段階に使用する低水準命令。

共有ポイント ネットワークを介してアクセスできるフォルダ、ハードディスク（またはハードディスクのパーティション）、または CD。共有ポイントは、共有項目のグループの最上位レベルのアクセスポイントになります。AFP、Windows SMB、NFS（「エクスポート」）、または FTP プロトコルを使用して共有できます。

グループ 類似する必要条件を持つユーザの集まり。グループを使用すると、共有リソースの管理を簡素化できます。

グループディレクトリ グループメンバーに特に関係のある書類やアプリケーションをまとめ、メンバー間で情報の受け渡しをするためのディレクトリ。

ゲストコンピュータ サーバのコンピュータアカウントに含まれていない、未登録のコンピュータ。

ゲストユーザ ユーザ名またはパスワードを入力せずにサーバにログインできるユーザ。

検索パス 「検索方式」を参照。

検索方式 Mac OS X コンピュータで設定情報が必要なときに検索するディレクトリドメインのリスト、およびドメインの検索順序。検索パスとも呼ばれます。

コンピュータアカウント 同じ環境設定を持ち、同じユーザおよびグループから利用できるコンピュータのリスト。

サブネット 同じネットワーク内で、場所（建物のフロアなど）や用途（中学 2 年生の生徒全員など）によって分類されたクライアントコンピュータのグループ。サブネットを使用することによって、管理が簡単になります。

システムレスクライアント ローカルハードディスクにオペレーティングシステムがインストールされていないコンピュータ。システムレスコンピュータは、NetBoot サーバのディスクイメージから起動できます。

シャドウイメージ クライアントコンピュータがサーバベースのシステムディスクイメージから稼働している間、NetBoot がシステム関連の情報を書き込むために使用するファイル。このファイルは、通常のシステムおよびアプリケーションソフトウェアからは見えません。

上位層 共有ディレクトリドメインで、ほかのコンピュータに設定情報を提供するコンピュータ。

ショートネーム ユーザの簡略名。Mac OS X では、ショートネームは、ホームディレクトリ、認証、およびメールアドレスに使用されます。

シンプル Finder 初心者に分かりやすいインタフェースを提供するために、パネルや大きいアイコンを使用するユーザ環境。ユーザがアクセスできるマウントされたボリュームまたはメディアは、標準のデスクトップではなく、パネルに表示されます。

スコープ サービスのグループ。スコープとして、コンピュータの論理的なグループ（製造部門で使用するすべてのコンピュータなど）、または物理的なグループ（1 階にあるすべてのコンピュータなど）を設定できます。スコープは、ネットワークの一部または全体として定義できます。

正規の名前 「ニックネーム」またはエイリアスを指定している場合の、サーバの「実際の」名前。たとえば、mail.apple.com の正規の名前が MailSrv473.apple.com などとなります。

静的 IP アドレス コンピュータまたは装置に一度だけ割り当てられ、変更されることのない IP アドレス。

全員 ファイルサーバにログインできるすべてのユーザ。登録ユーザまたはゲスト、anonymous (匿名) FTP ユーザ、Web サイト利用者が含まれます。

定義済みのアカウント Mac OS X のインストール時に自動的に作成されるユーザアカウント。グループアカウントの一部もあらかじめ定義されています。

ディスクイメージ 「Disk Copy」を使用して開いたときに、Mac OS のデスクトップ上に、実際のディスクまたはボリュームのような外観と動作を持つアイコンを作成するファイル。NetBoot を使用すると、システムソフトウェアが含まれるサーバベースのディスクイメージから、ネットワーク経由でクライアントコンピュータを起動できます。

ディレクトリサービス ディレクトリドメインや、ユーザやリソースに関するその他の情報ソースへのアクセスを、システムソフトウェアおよびアプリケーションに統合的に提供するサービス。

ディレクトリドメイン ユーザおよびネットワークリソースのアクセス権情報を保存する特殊なデータベース。この情報は、システムソフトウェアやアプリケーションで使用されます。このデータベースは、多数の要求を処理し、情報をすばやく検索および取得できるように最適化されています。ディレクトリノードまたは単にディレクトリとも呼ばれます。

ディレクトリドメインの階層 ローカルディレクトリドメインおよび共有ディレクトリドメインの構成方法。階層は、逆ツリー構造になります。つまり、最上位にルートドメインがあり、最下位にローカルドメインがあります。

ディレクトリノード 「ディレクトリドメイン」を参照。

動的 IP アドレス 特定の期間、またはクライアントコンピュータで IP アドレスが不要になるまでの期間にのみ割り当てられる IP アドレス。

ドロップボックス ほかのユーザに対して内容の書き込みだけを許可し、読み出しを禁止するアクセス権が割り当てられた共有フォルダ。オーナーだけが、このフォルダへのすべてのアクセス権を持ちます。ドロップボックスを作成するときは、AFP を使用する必要があります。AFP を使用してフォルダを共有すると、フォルダに書き込まれた項目の所有権が、フォルダのオーナーに自動的に移行します。これによって、その項目に対するすべてのアクセス権および制御権が、ドロップボックスのオーナーに与えられます。

認証機関属性 ユーザに指定されたパスワード検証方式を識別し、必要に応じて追加情報を提供する値。

ネームサーバ 「DNS (Domain Name System)」を参照。

ネットワークインストール Mac OS X クライアントコンピュータに、ネットワーク経由でシステムおよびソフトウェアをインストールする処理。ソフトウェアのインストールは、管理者の操作によって行うことも、自動で行うこともできます。

ファイアウォール サーバで実行するネットワークアプリケーションを保護するためのソフトウェア。Mac OS X Server ソフトウェアの一部である IP ファイアウォールサービスは、受信 IP パケットを調べ、管理者が作成したフィルタのセットに基づいてパケットを拒否するか、受け付けます。

フィルタ サーバへのアクセスを制御するための、アクセスの選別方法。フィルタは、IP アドレスとサブネットマスクで構成されます。ポート番号とアクセスの種類が含まれることもあります。IP アドレスとサブネットマスクによって、フィルタが適用される IP アドレスの範囲が決まります。

負荷分散 使用可能なすべてのサーバの能力を最大限に活用してパフォーマンスを最適化するために、クライアントコンピュータからのネットワークサービスの要求を複数のサーバに分散する処理。

プライマリグループ ユーザのデフォルトグループ。ユーザが自分が所有していないファイルにアクセスするとき、ファイルシステムはプライマリグループの ID を使用します。

プライマリグループ ID プライマリグループを識別する一意の番号。

プリセット 「ワークグループマネージャ」で作成する新しいアカウント用に指定する初期デフォルト属性。プリセットは、アカウントの作成時のみに使用できます。

プロキシサーバ Web ブラウザなどのクライアントアプリケーションと実際のサーバとの間に設置するサーバ。プロキシサーバは、実際のサーバに対するすべての要求を捕捉し、プロキシサーバ自体で要求を処理できるかどうかを調べます。処理できない場合は、要求を実際のサーバに転送します。

ホームディレクトリ ユーザが個人的に使用するためのフォルダ。Mac OS X ユーザのシステム環境設定や管理されたユーザ設定を保管するためなどに Mac OS X がホームディレクトリを使用することもあります。

保護領域 「WebDAV 保護領域」を参照。

マルチホーミング 複数のネットワーク接続をサポートする機能。複数の接続が利用可能な場合、Mac OS X では、「ネットワーク」環境設定で指定された順序に従って最適な接続が選択されます。

メール転送エージェント (MTA) ローカルユーザに送信メールを送り、ローカルユーザから受信メールを受け取り、ローカル以外のユーザ宛の受信メールをほかの MTA に転送するメールサービス。

メールホスト メールサービスを提供するコンピュータ。

ユーザ名 ユーザのロングネーム。ユーザの「実際の」名前とも呼ばれます。「ショートネーム」も参照。

リース期間 IP アドレスが割り当てられる期間。リース期間を短くすると、ネットワークで利用可能な IP アドレスよりもコンピュータ数が多い場合でも、DHCP によって IP アドレスを効率的に再割り当てできます。

リレーポイント 「オープンリレー」を参照。

ローカルドメイン 所属するコンピュータだけがアクセスできるディレクトリドメイン。

ローカルホームディレクトリ ホームディレクトリの1つで、ユーザがログインしているコンピュータのディスクにあります。ローカルホームディレクトリにアクセスするには、ローカルホームディレクトリがあるコンピュータにSSHを使わないで直接ログインする必要があります。

ロングネーム 「ユーザ名」を参照。

ワイルドカード IPアドレスのセグメントの可能な値の範囲。

ワークグループ 1つのグループとして環境設定およびアクセス権を定義するユーザのセット。グループに対して定義する環境設定はグループのアカウントに保管されています。

A

- AFP (Apple Filing Protocol)
 - Macintosh マネージャ 199
 - ～を使用して共有ポイントを設定する 106
- Apache Web サーバ
 - 参考資料 18
- Apple ファイルサービス
 - 言語を変更する 171

D

- dsimportexport
 - パラメータを読み込む 235
 - ユーザとグループを読み込む 235

F

- Finder ワークグループ 190

K

- Kerberos
 - Macintosh マネージャ 217
 - 問題を解決する 225

M

- Macintosh マネージャ
 - Kerberos 検証 217
 - ～の共有ポイント 172
 - Mac OS X ユーザアクセス 182
 - MMLocalPrefs 機能拡張 176
 - Multi-User 項目フォルダ 173, 174
 - Netboot と～ 176
 - アイドル状態のログアウトを設定する 210
 - アクセス権 196
 - アクセス権の設定 194
 - アップデートパッケージ 171
 - アプリケーションを強制終了する 213
 - オプション設定 203
 - 環境設定を指定する 179
 - 管理者アカウントを作成する 186
 - 管理者アカウントを設定する 186
 - 管理者としてログインする 178
 - 管理者のパスワードを変更する 187
 - 管理用ソフトウェアをインストールする 169

- 起動時に項目を開く 204
- 機能拡張を無効にする 213
- 共有フォルダ 197
- 許可された項目 196
- クライアントリスト 205
- グループの書類 198
- グローバルCD-ROM 設定 218
- グローバル設定 216
- 言語スクリプトを変更する 171
- 言語を選ぶ 171
- 項目設定 192
- コンピュータのセキュリティ設定 210
- コンピュータのチェックアウト 176, 215
- コンピュータへのアクセス 207
- コンピュータへのログインを使用不可にする 207
- サーバ管理者のアカウントを使用する 185
- システムアクセスプリンタ 202
- システムアクセスを許可する 188
- 自動的に管理者プログラムを終了する 217
- 自動的にコンピュータを切断する 208
- 自動的にボリュームをマウントする 199
- 自動的にメールを確認する 205
- 詳細情報 222
- ショートカットを作成する 192
- 情報 165
- 初期設定の保存 176
- 初期設定を管理する 175
- スクリーンショットを許可する 195
- セキュリティ 172, 216, 217
- 設定する 177
- その他のコンピュータアカウント 206
- その他のユーザを設定する 183
- 提出フォルダ 198
- ディスク割り当てを設定する 188
- ディレクトリサービスデータベース 174
- テキストファイルからユーザ情報を読み込む 182
- デスクトップ環境 190
- デスクトップを保護する 194
- 時計を同期させる 209
- ハードディスクに名前を付ける 209
- パスワードサーバを使用する 218
- ファイアレベルのセキュリティを設定する 194
- フォルダのアクセス権 197, 198

- フォルダを保護する 194
- 複数のログインを許可する 187
- プリンタへのアクセスを制御する 201
- プリントする 173
- プリント割り当て 202
- ヘルパーアプリケーション 211
- ホームディレクトリ 167, 175
- メールアドレスを作成する 209
- メディアへのアクセス 211, 218
- メディアへのアクセスを許可する 196
- メディアへのアクセスを設定する 195
- メニューへのアクセスを変更する 196
- 問題を解決する 229-231
- ユーザアカウントのひな形 180
- ユーザアカウントへの管理者のアクセス 218
- ユーザアカウントを読み込む 179
- ユーザがオフラインで作業する 212
- ユーザ情報の保存 175
- ユーザ設定、基本 187
- ユーザ設定、詳細 188
- ユーザデータベースを同期させる 189, 218
- ユーザのパスワードを変更できないようにする 218
- ユーザを検索する 182
- レポートをカスタマイズする 217
- レポートを表示する 216
- ローカルユーザと～ 215
- ログイン設定 214
- ログインメッセージ 205, 214
- ワークグループ設定 207
- ワークグループのひな形 191
- ワークグループのプリンタ 200
- ワークグループパネルを変更する 214
- ワークグループを設定する 189, 190
- ワークグループを複製する 191
- ワークグループを変更する 191
- ワイヤレスサービス 216
- Macintosh マネージャ管理者
 - アカウントを作成する 186
 - 概要 185
 - パスワードを変更する 187
- Mac OS X Server
 - 参考資料 18
 - その他の情報 17
- Managed Preferences フォルダ 219
- Forced Preferences フォルダ 220
- Initial Preferences フォルダ 219
- Initial Preferences フォルダ、例外 220
- MMLocalPrefs 機能拡張 176

N

- NetBoot
 - ～でのハードディスク名 209
- NFS (Network File System)
 - ～を使用して共有ポイントを設定する 107

- NFS 共有ポイントをエクスポートする 107

W

- Web サーバ
 - Apache Web サーバ 18
- Web サイト
 - Apache Web サーバ 18

あ

- アカウント
 - 環境設定を管理する、Mac OS X 118

お

- オンラインヘルプ 16

か

- 環境設定の管理、Mac OS 9 および 8 219
- 環境設定の管理、Mac OS X
 - Classic 環境設定 125
 - Classic 設定 126
 - Classic の詳細な環境設定 125
 - Dock 環境設定 130
 - Dock 項目の設定 130
 - Dock 表示の設定 130
 - Finder 環境設定 137
 - Finder コマンドの設定 137
 - Finder 表示の設定 137
 - アイコンインジケータ 118
 - アプリケーション環境設定 123
 - インターネット Web の設定 145
 - インターネット環境設定 144
 - インターネットメールの設定 145
 - オプション 114
 - グループ環境設定 120
 - コンピュータ環境設定 121
 - 省エネルギー環境設定 133
 - 情報 113
 - 停止する 122
 - 複数のレコードを編集する 122
 - プリンタリストの設定 155
 - プリント環境設定 155
 - メディアアクセス環境設定 152
 - メディアアクセスのその他のメディアの設定 152
 - メディアアクセスのディスクメディア設定 152
 - ユーザ環境設定 120
 - ユニバーサルアクセス環境設定 159
 - ログインオプションの設定 146
 - ログイン環境設定 146
 - ログイン項目の設定 146
- 環境設定のキャッシュ
 - 空にする方法 119
 - 更新する 119
- 管理された環境設定
 - 「環境設定の管理」を参照

く

- クライアント管理、Mac OS 9 および 8
 - 「Macintosh マネージャ」も参照
 - Mac OS 9 クライアントコンピュータを設定する 170
 - Managed Preferences フォルダ 219
 - NetBoot を使用する 176
 - アクセス権 194
 - アクセス権を設定する 195
 - アップグレードする 166
 - アップデートパッケージを使用する 171
 - アプリケーション設定 211
 - 移行方法 166
 - 管理用コンピュータの要件 169
 - 管理用コンピュータを設定する 170
 - クライアントコンピュータの要件 168
 - クライアントリストを設定する 205
 - ゲストアクセス 182
 - 詳細情報 222
 - 情報 165
 - 情報を共有する 197, 198
 - 設定する前に 168
 - 設定の概要 177
 - プリントする 202
 - プリントを設定する 200
 - ポータブルコンピュータを管理する 215
 - ボリュームをマウントする 199
 - メディアへのアクセス 218
 - 問題を解決する 229-231
 - ユーザに項目を使用可能にする 192, 194
 - ユーザの環境 166
 - 利点 168
 - ログインオプションを設定する 214
 - ワークグループを設定する 189, 190, 192
 - クライアント管理、Mac OS X
 - 環境設定を管理する 118
 - 問題を解決する 226-228
 - 「ワークグループマネージャ」も参照
 - グループ環境設定
 - 管理する、Mac OS X 120
 - グループフォルダ
 - 新しい共有ポイント内の～ 84
 - 既存の共有ポイント内の～ 82
 - 共有ポイントサブフォルダ内の～ 85
 - グループフォルダなしと指定する 82
- ## け
- ゲストユーザアカウント、Mac OS 9 および 8 183
- ## こ
- コンピュータ環境設定
 - 管理する、Mac OS X 121
 - コンピュータリスト、Mac OS 9 および 8 178
 - 「Macintosh マネージャ」も参照

さ

- サーバ
 - Apache Web サーバ 18
- サーバ管理
 - その他の情報 18
- サーバ管理者
 - Macintosh マネージャのアカウントを使用する 185
- 参考資料
 - Apache Web サーバ 18
 - Mac OS X Server 18
 - ネットワーク管理 18

し

- システムアクセスプリンタ 202

す

- スクリーンショット 195

せ

- 制限付き Finder ワークグループ 190
- セキュリティ
 - Macintosh マネージャ 172

そ

- その他のコンピュータアカウント 183, 206
- その他のユーザアカウント 183

と

- トラブルシューティング
 - ユーザとグループ 223

に

- 認証
 - 問題を解決する 224

ね

- ネットワーク
 - 管理に関する参考資料 18

は

- パスワードサーバ
 - Macintosh マネージャで使用する 218
 - 問題を解決する 223, 224
- パネルワークグループ 190

ふ

- フォルダのアクセス権 197
- プリント割り当て
 - Mac OS 9 および 8 クライアント用に設定する 202

へ

- ヘルプ 16

ほ

- ポータブルコンピュータ、Mac OS 9 および 8 215
 - ワイヤレスサービス 216
- ホームディレクトリ
 - AFP 共有ポイントに作成する 106
 - Macintosh マネージャと〜 175
 - NFS 共有ポイントに作成する 107
 - Windows 100
 - 移動する 109
 - カスタム 104
 - 削除する 109
 - 設定する 99
 - ネットワーク 103
 - 複数のサーバに分散 100
 - 〜のディスク割り当てを設定する 109
 - ホームディレクトリを指定しない 101
 - 問題を解決する 225

ゆ

- ユーザアカウント
 - Macintosh マネージャに読み込む 179
 - Mac OS 9 および 8 174
- ユーザ環境
 - Mac OS 9 および 8 デスクトップ 190
- ユーザ環境設定
 - 管理する、Mac OS X 120
- ユーザとグループ
 - 問題を解決する 223

よ

- 読み込み／書き出し
 - AppleShare IP を使用して XML ファイルを作成する 237
 - サーバ管理を使用して XML ファイルを作成する 236
 - サポートされるファイル形式 233
 - 文字区切りファイルを作成する 238
 - ワークグループマネージャから〜 235
 - ワークグループマネージャで〜 234

れ

- レポート
 - Macintosh マネージャ 216

ろ

- ログイン
 - 問題を解決する 224, 225

わ

- ワークグループ
 - 「Macintosh マネージャ」も参照
 - Mac OS 9 および 8 189
- ワークグループ管理者 186
- ワークグループマネージャ
 - AFP 共有ポイントを設定する 106

- CD および DVD へのアクセスを許可する 152
- CD および DVD を作成できるようにする 153
- Classic システムフォルダを指定する 127
- Classic のスリープを管理する 129
- Dock 項目を追加する 131, 151
- Dock の外観を設定する 130
- Finder ウィンドウの表示を設定する 138
- iDisk へ移動コマンドを隠す 140
- NFS 共有ポイントを設定する 107
- Web 環境設定を管理する 145
- アプリケーションを許可する 123
- 環境設定の管理を停止する 122
- 管理された環境設定のキャッシュを更新する 119
- グループ環境設定を管理する 121
- グループフォルダを作成する 82
- ゴミ箱の警告メッセージを隠す 140
- コントロールパネルにアクセスできないようにする 128
- コンピュータ環境設定を管理する 121
- サーバへ接続コマンドを隠す 140
- 再起動およびシステム終了コマンドを隠す 142
- 再起動時に特別な操作を許可する 127
- システム環境設定と〜 117
- システム環境設定へのアクセスを許可する 158
- スリープ設定を使用する 133, 134
- 直接接続プリントを制限する 157
- ディスクおよびサーバのアイコンを隠す 137
- ディスクを作成コマンドを隠す 142
- デスクトップ表示を設定する 143
- デフォルトおよびコンピュータ表示を設定する 143
- デフォルトのプリンタを設定する 157
- 取り出しコマンドを隠す 141
- ハードディスクへのアクセスを制限する 154
- パスワードのヒントを表示する 148, 149
- バッテリーの状況を表示する 135, 136
- ファイル拡張子を表示する 138
- フォルダへ移動コマンドを隠す 141
- プリンタへのアクセスを制限する 158
- プリンタリストへの変更を制限する 156
- プリンタリストを作成する 155
- ヘルパーアプリケーションを許可する 124, 125
- メール環境設定を管理する 145
- 問題を解決する 223
- ユーザが Dock を制御できるようにする 132
- ユーザ環境設定を管理する 120
- ローカルアプリケーションへのアクセスを許可する 124
- ログアウト時にメディアを取り出す 154
- ログインウィンドウを設定する 147
- ログイン時に Classic を起動する 126
- ログイン時にアプリケーションを開く 150
- ログイン時に再起動およびシステム終了ボタンを隠す 149
- 〜にユーザとグループを書き出す 235
- 〜にユーザとグループを読み込む 234